

<p>三六 ◎三者より自身心故に至る二十三字、論文を脱す。 ◎菩薩より諸樂故に至る四十六字、論文を脱す。 三七 ◎順菩提門、寂本、「菩提ニ順スル門ナリ」と點す。高本は前者を、退本は後者を、「菩提ニ順スル門ナリ」となす。 ◎二者より衆生苦故に至る十四字、論文を脱す。 ◎三より國土故に至る二十七字、論文を脱す。 ◎乘、永保二本、義に作る。山本亦然り。阪本は乘に作り、格上に、「或本作義字」と註す。 三八 ◎向説より應知に至る二十三字、論文を脱す。説の字、諸本、攝取方便より回讀せしむ。但澁本、寂退二本、藝本、論註に従ふ。ここの如し。 ◎省、四本、阪本、山本、「ハアク」と訓するもの、穩かならず。次下の一處亦同じ。 ◎省機の二字、四本之を脱す。阪本、山本、亦然り。 ◎廢、曆文二本、癡に作るもの、形誤。</p>	<p>三九</p>
<p>四〇 ◎則、諸本、上の、法の字と熟して讀ましむ。今私に之を改む。 ◎向説より應知に至る三十八字、論文を脱す。 ◎遠離無安衆生心の七字、永本之を脱す。 ◎惡、永前本、黒に作るもの、形誤。 ◎此中三種等、四本、高本、阪本、山本、「此ノ中ノ三種ハ菩提ヲ障フル心ヲ遠離セズ」と點す。今澁縮二本の點に従ふ。寂退二本の點、亦今の意なり。 ◎向説より應知に至る三十一字、論文を脱す。 ◎安清淨心の四字、永本之を脱す。 ◎略一處、諸本、「略シテ一處ニシテ」と點す。今澁本に従ふ。 ◎勝、永本之を脱す。 ◎樂、永前本、證に作るもの、形誤。 ◎法樂樂、延本、法樂の二字に作り、音註なし。下の樂の音註、魯各反、永前本、保本、魚略反に作るもの形</p>	<p>四一 ◎是三種等、諸本は、「是ノ三種ノ心、清淨ニ増進シテ」と點す。今澁本及寂退二本に従ふ。 ◎如是より應知に至る二十五字、論文を脱す。 ◎是名より法門故に至る四十二字、論文を脱す。 ◎言、諸本、自在業成就より回りて、「ノタマヘリ」と點す。但澁本、寂退二本、藝本、今の如し。 ◎復有より遊戯地門に至る四十五字、論文を脱す。 ◎會、永前本、智に作るもの、形誤。 ◎者、永保二本になし。 ◎地、永本之を脱す。 ◎尤舉反の三字、永本及延本になし。 ◎此五種より出功德に至る廿一字、論文を脱す。 ◎言、四本、阪本、山本、下の句に屬して點するは、穩かならず。釋言の二字は論註主の語にして、入第一門以下が論の文なり。</p>

<p>四一 ◎是三種等、諸本は、「是ノ三種ノ心、清淨ニ増進シテ」と點す。今澁本及寂退二本に従ふ。 ◎如是より應知に至る二十五字、論文を脱す。 ◎是名より法門故に至る四十二字、論文を脱す。 ◎言、諸本、自在業成就より回りて、「ノタマヘリ」と點す。但澁本、寂退二本、藝本、今の如し。 ◎復有より遊戯地門に至る四十五字、論文を脱す。 ◎會、永前本、智に作るもの、形誤。 ◎者、永保二本になし。 ◎地、永本之を脱す。 ◎尤舉反の三字、永本及延本になし。 ◎此五種より出功德に至る廿一字、論文を脱す。 ◎言、四本、阪本、山本、下の句に屬して點するは、穩かならず。釋言の二字は論註主の語にして、入第一門以下が論の文なり。</p>	<p>◎入第一者より入第一門に至る二十九字、論文を脱す。 ◎入、四本、之を脱す。阪本、山本、亦然り。 ◎入第二門者より入第二門に至る四十二字、論文を脱す。 ◎入第三門者より入第三門に至る三十七字、論文を脱す。 ◎以一心專念等、此文、諸本の點、左の如し。 一心ニ專念シ、作願シテ彼ニ生シテ、奢摩他寂靜三昧ノ行ヲ修スルヲ以テノ故ニ、蓮華藏世界ニ入ルコトヲ得シム。 これ奢摩他を彼土の所修せなすの意にして、論註鎮西義山本の點じて此土の所修せなすものと、元より異なり。今祖意を一層明白ならしめんが爲に、點を改む。或は單に上の「修スルヲ」を、「修セントスルヲ」に改むるも可なるべし。奢摩他を此土の所修せなす他流に於ては、下の爲修寂靜止故の句を、「寂靜止ヲ修スルニヨルガ故ニ」と讀むなり。この文、寂退二本は鎮西の點に同す。</p>
--	---

四五  
 ①入第四門者より入第四門に至る三十七字、論文を標す。  
 ②修、諸本、「修セシムルヲ」と點じ、高本、「修セシテ」に作る。今澁本及寂蓮二本に従ふ。

四六  
 ①如、四本、法華經より回讀す。  
 ②師、論註の文、獅に作る。

四七

①搏、曆文二本、搏に作るもの、形誤。此句、諸本「師子ノ鹿ヲ搏ツニ、所爲難カラザルガ如シ」と點す。今寂蓮二本及藝本に従ふ。  
 ②無所有、四本、「有ユル所ナシ」と點す。阪本、山本、亦然り。  
 ③實の上、論註の文、而の字あり。寂蓮二本、之を補ふ。  
 ④示度衆生、諸本、「衆生ヲ度セント示スコト」と點す。寂蓮二本は、「衆生ヲ度スルコトヲ示スコト」(寂本、示スハ)と點す、今澁本に従ふ。  
 ⑤示大菩薩等、此文は淨土の聖衆に約するが故に、行卷(八六頁の⑤)所引の文と讀法同じからず。寂蓮二本は、「大菩薩……種々ノ說法ヲ現ス、皆本願力ヲ以テ起スヲ示ス」と點す。藝本は今の如く、但示の字、譬如已下の句に流至し、「音曲自然ナルガ如キコトヲ示ス」と點す。  
 ⑥以本願力等、論註の文相と點を異にす。行卷八六頁の

四八  
 ①參照。還相の利益は二十二願力より起るの意なり。  
 ②鼓、曆文二本、縮本、鼓に作る。行卷八六頁の參照。  
 ③藉、永保二本今の如く、餘本みな籍に作る。  
 ④他、永本、自に作る。  
 ⑤矣、永保二本、小書す。  
 ⑥四、永本になし。

眞佛土卷

一  
 ①釋、四本及藝本、之を缺く。此撰號、阪本、山本、題號の直下に在り。  
 ②標舉、高本、表紙の裏に二行に書す。阪本、山本、存本、

二  
 ①設我等の右、山本、「十二光明無量之願」の八字を細書す。  
 ②設我等の右、山本、「十三壽命無量之願」の八字を細書す。  
 ③願成就文言の左、山本、「光明無量願成就文土」の九字を細書す。  
 ④乃至、此處六十九字を乃至す。  
 ⑤無量光佛、已下十二光に冠する數字は、私に之を加ふ。  
 ⑥焉、阪本、山本、右に「エン」の音、左に「ヨ、ニ」の訓を附す。下の莫不開焉の焉、亦然り。但し音を左にし訓を右にす。此處の焉、文本、上に回りに「焉ニ生ズ」と點す。  
 ⑦勤、永保曆三本、阪本、山本、勤に作る。

四

① 覺、曆文二本、學に作るもの、形誤。  
 ② 無の上、經の宋明二本、又の字あり。寂本之を補ふ。  
 ③ 寧、四本、阪本、山本、「ムシロ」と讀ましむ。寂退二本亦然り。澁高二本、藝本、轉聲を附せず。知の字、寂本「知レリヤ」と點す。

五

① 智、曆文二本、知に作るもの、形誤。  
 ② 筭、曆本、阪本、山本、竿に作り、文本、竿に作るもの、共に竿の形誤。正字通に、竿は筭に同じといふ。  
 ③ 之、永保二本になし。  
 ④ 無量壽等、以下の引文の初に、山本、成就士の三字を左傍に細書す。  
 ⑤ 無量光、已下の十五光に冠する數字は、私に之を加ふ。  
 ⑥ 無著光の三字、永本に脱す。  
 ⑦ 光照王端嚴光、縮本一名となす。  
 ⑧ 可、經本になし。高本、寂本、之を削る。澁本、縮

六

本、冠註に校異をなす。  
 ① 光、諸本之を缺き、無等不可稱量光を一名とす。但、高本、寂退二本、經文に依りて之を補ふこと、今の如し。澁本、縮本、冠註に校異をなす。  
 ② 映、經文、映に作る。字書に、映は映に同じといふ。  
 ③ 歡、永本、欣に作る。  
 ④ 帛延譯の三字、阪本、山本、格上に在り。高本には之なし。

七

① 速疾等、六言四句の偈頌なり。  
 ② 耶、永保二本、那に作り、曆文二本、澁本、那に作るもの、共に形誤。行卷四頁の參照。  
 ③ 經、永本之を脱す。  
 ④ 支、保曆文三本、友に作るもの、形誤。阪本、山本、友に作り、「ウ」の假名を附す。  
 ⑤ 有佛等、寂退二本、藝本、「有佛ノ頂中ノ光明、七丈ヲ照ス」と點す。次下の二處亦然り。

八

① 乃至、此處四百八十字を乃至す。  
 ② 炎、高本、焔に作ること、經の麗本の如し。宋元明三本、此字なし。  
 ③ 時、四本、照に作り、「所願ノ功德ヲ照スニ」と點するもの、解し難し。  
 ④ 阪本、山本、亦然り。餘本、經の文に従ふこと今の如し。  
 ⑤ 各自、四本、阪本、山本、「各オノツカラ」と點じ、下の各自は、「各ミツカラ」と點じ、澁本、藝本、二者共に無點、直讀するの意なるべし。高本、前者無點、後者「各ミツカラ」と點す。  
 ⑥ 耳、經の麗本、爾に作る。宋元明三本、今の如し。  
 ⑦ 自在意等、諸本、「自在意ノ所欲作爲シテ豫メ計ラズ」と點す。今寂退二本に従ふ。澁本は、作爲に「シテ」の轉聲なく、藝本は、「自ら意ノ所欲ニ在リテ」と點す。  
 ⑧ 阿彌陀等、已下各句の頭に、私に數字を置く。  
 ⑨ 甚、四本、阪本、山本、其に作るもの、形誤。

九

① 潔、經の宋元明三本、淨に作る。  
 ② 殊好、經文、姝好に作る。姝は美の義なり。此句漢譯には、「無量清淨佛光明殊好、勝於日月之明百億萬倍也」に作る。  
 ③ 千、永保二本になし。  
 ④ 中、永本になし。  
 ⑤ 中、永保二本になし。  
 ⑥ 炎、經本、焔に作る。  
 ⑦ 洗、經の宋本、映に作る。  
 ⑧ 諸、諸本單に「諸ノ」に作る。今「モノ」の點を加へて讀み易からしむ。  
 ⑨ 梨、經の麗明二本、犁に作り、宋元二本、黎に作る。澁高二本、犁に作ること、麗明二本の如し。泥梨の左訓、曆本、阪本、山本、「カクキナリ」とあるは評かし。須らく薛荔の左に移すべし。  
 ⑩ 禽獸、諸本、禽狩に作る。但、高本經に従ふこと、今

<p>の如し。縮本冠註に校異をなす。      詩、諸本、群に作る。但、高本經に従ふこ今の如し。縮本冠註に校異をなす。蘇嘉の左訓、阪本、山本に、「チクシヤウナリ」とあるもの、禽獸の左に移すべし。      考、經の宋元明三本、携に作る。曆本、「カンガヘ」の左訓あるもの、訝し。      至、諸本下の句に屬す。但、高本經に従ふこ今の如し。遯本、藝本、至の字下に屬し、「皆休止シテ復治スルコトヲ得ザルニ至ル」と點す。      得、本經になし。高本、寂本、之を削る。      光明名、今典相違釋にて點す。本經の意は、「光明ノ名」の依主釋なり。      光明好、明の字、諸本になし。但、高本及寂遯二本、經に従ふて之を補ふこ今の如し。好の字、寂遯二本、藝本、下の句に屬して「好ク」と點す。</p>	<p>一〇</p>
<p>索、曆本、素に作るもの形誤。      非作所作、諸本、「非作ノ所作ナリ」と點す。今遯本及寂遯二本に従ふ。徵決に、非作の所作なりとば、全性(性は是れ非作)修起(所作)を示すの祖意ならん乎といふ。      乃至、此處四十五字を乃至す。      入大涅槃の四字、本經に在りては下の句に屬し、「入大涅槃不老不死、有何等議、老者名爲遷變」等と續くなり。      乃至、此處二千九百九十九字を乃至す。      乃至、此處二十字を乃至す。      乃至、此處二千九百一十一字を乃至す。      乃至、此處百五十字を乃至す。      者、四本、阪本、山本、名に作り、「是レ一義ノ名ナラバ」と點す。餘本、經に従ふこ今、今の如し。      佛常等、四本、阪本、山本、「佛ト常法ト常比丘僧ト</p>	<p>一一</p>
<p>一三</p>	<p>一二</p>

<p>ハ常ナリ」と點するもの、穩かならず。      者、永保二本になし。      者、文本になし。      常の下、文本、也の字あるもの、轉聲の濫入せるものなり。      即の下、永保二本、是の字あり。      乃至、此處四千六百十字を乃至す。      蘇、北麗には、蘇に作り、北三本並に南本には、蘇に作る。次下の三所又同じ。蘇を蘇又は蘇に作るもの、音通に依る乎。保曆文三本、「ヨミガヘル」の左訓あるもの、訝かし。阪本、山本、亦然り。      出、南北の麗本には、出生に作り、北三本は、出於に作る。南三本、今の如し。      以、四本、如に作るもの、恐くは形誤。阪本、山本、亦然り。遯縮高三本、經に従ふこ今今の如し。      無量等の八字、諸本直讀す。今遯本及寂遯二本の點に</p>	<p>一四</p>
<p>從ふ。      提、四本、阪本、山本、蘇に作るもの、形誤      者、諸本之なし。但、高本、寂本、經によりて之を補ふこ今今の如し。縮本冠註に校異をなす。      故、高本、遯本、藝本、經によりて之を補ふこ今今の如く、餘本此字なし。縮本は冠註に校異をなす。四本此文を讀んで、「戒定慧ヲ修スルヲ見ント欲スルガ爲ニ」といふもの、穩かならず。阪本、山本の點、亦然り。      涅槃、南麗及北本、及涅槃也の四字に作る。      滅の上、永保二本、不の字あり。      捉、四本、阪本、山本、投に作るもの、形誤。      乃至、此處、善男子の三字を乃至す。      雖無色像等、四本、阪本、山本、「色像ナシト雖モ見ツベシ(永保二本、見ツベキコト)稱量シテ知ンヌベシ」と點す。餘本の點、今の如し。</p>	<p>一六</p>
<p>一五</p>	<p>一七</p>

<p>一八 〇 非是、北三本、是非色に作る。      〇 是、諸本になし。但、高本、寂本、藝本、經によりて之を補ふ。こま今の如し。縮本冠註に校異をなす。      〇 法、四本、阪本、山本、下の句に屬し、「法トシテ亦是レ有ナリ」と點す。餘本、經に従ふて上に屬する。こま今の如し。      〇 無、文本、苦に作るもの、形誤。      〇 易、本經、異に作る。      〇 故、南元明二本、靜に作る。      〇 〇 知、四本、縮本、阪本、山本、智に作るもの、形誤。      〇 〇 知、永保文三本、縮本、阪本、山本、智に作るもの、形誤。      〇 〇 云何の上、北三本、善男子の三字あり。      〇 〇 而是涅槃の四字、四本、阪本、山本、上の句に屬して「有ニシテ是レ涅槃ト名クルヲナ得」と點するもの、穩かならず。</p>	<p>二〇 〇 有、大涅槃、四本、阪本、山本、「有ニシテ大涅槃ナリ」と點するもの、亦穩かならず。      〇 〇 一切凡夫等、諸本「一切凡夫ノ業ハ不清淨ノ故ニ」と點す。今誼本、寂本、藝本に従ふ。      〇 〇 故、永保二本になし。      〇 〇 人の下、本經、修行如是大涅槃經具足成就初分功德の十六字ありて、是名善男子善女人の八字と共に一句をなし、以て上來の文を總結す。光融錄に、此十六字を切捨てたるもの、意を體して之を略せるものにて、上の大我・大樂・大淨の三徳を知る者を善男子善女人と名くるの意なりといふ。寂本、この十六字を補ふ。      〇 〇 土、文本誤つて、劫に作る。      〇 〇 不畢竟涅槃、諸本、「畢竟涅槃ニアラズ」と點す。今、誼本、寂本に従ふ。      〇 〇 薩の下、本經、修大涅槃微妙經典具足成就第七功德の十六字あり。今之を略する。こま前頁の例の如し。寂本</p>
<p>二二 〇 我、四本、阪本、山本、或に作るもの、形誤。      〇 〇 名、南麗及北本、爲に作る。南三本は今の如し。      〇 〇 如佛所說等、四本、阪本、山本、「佛ノ所說ノ義ノ如シ、是ノ如キモノ」と點す。      〇 〇 如虛空等、四本、阪本、山本、「虛空ノ如シ、性ハ無ナリト雖モ、現在ニ無ト言フヲナ得ズ」と點す。餘本の點、今の如し。      〇 〇 說衆生等、四本、阪本、山本、左の如く點するもの、穩かならず。      〇 〇 衆生ノ佛性ハ非内非外ニシテ猶虛空ノ如シト說キタマフ、非内非外ニシテ其レ虛空ノ如クニシテ有ナリ、内外ハ虛空ナレドモ、名テ一ト爲シ、常ト爲サズ。      〇 〇 一聞提置より何以故に至る十五字、諸本に脱す。但、高本及寂迦二本、經によりて之を補ふ。こま今の如し。      〇 〇 施業、永保二本、阪本、山本、後業に作るもの、形誤。曆文二本及誼本、この二字を脱す。</p>	<p>二四 〇 我、四本、阪本、山本、或に作るもの、形誤。      〇 〇 名、南麗及北本、爲に作る。南三本は今の如し。      〇 〇 如佛所說等、四本、阪本、山本、「佛ノ所說ノ義ノ如シ、是ノ如キモノ」と點す。      〇 〇 如虛空等、四本、阪本、山本、「虛空ノ如シ、性ハ無ナリト雖モ、現在ニ無ト言フヲナ得ズ」と點す。餘本の點、今の如し。      〇 〇 說衆生等、四本、阪本、山本、左の如く點するもの、穩かならず。      〇 〇 衆生ノ佛性ハ非内非外ニシテ猶虛空ノ如シト說キタマフ、非内非外ニシテ其レ虛空ノ如クニシテ有ナリ、内外ハ虛空ナレドモ、名テ一ト爲シ、常ト爲サズ。      〇 〇 一聞提置より何以故に至る十五字、諸本に脱す。但、高本及寂迦二本、經によりて之を補ふ。こま今の如し。      〇 〇 施業、永保二本、阪本、山本、後業に作るもの、形誤。曆文二本及誼本、この二字を脱す。</p>

<p>二二 〇 此十六字を補ふ。      〇 〇 者の下、永保二本、一聞提置無善法者の八字、重複す。      〇 〇 如、文本、若に作る。      〇 〇 生の上、寂本、不の字を加ふ。案するに、若し一聞提の輩が其同學等に於て愛念の心をせば、是れ一聞提に善法あるの證ならずやの意とせば、上の句「當不生愛念心耶」の不の字は、過剰とせずべし。若し此句を正しとせば、愛念を生ずるが惡にして、生ぜざるが善法なれば、「如其生者」の句は、寂本の如く不の字を加へずんば、意通じ難し。原經は今の文の如し、姑く疑を存す。      〇 〇 莊嚴の二字、諸本、清淨之身と熟用す。今下(六三)の私釋の文點に従ふて之を改む。      〇 〇 而得見佛性、南麗本、及北本は、得見佛性に作り、南三本は、而得佛性の四字に作る。今文は二者の異を合す。</p>	<p>二五 〇 我、四本、阪本、山本、或に作るもの、形誤。      〇 〇 名、南麗及北本、爲に作る。南三本は今の如し。      〇 〇 如佛所說等、四本、阪本、山本、「佛ノ所說ノ義ノ如シ、是ノ如キモノ」と點す。      〇 〇 如虛空等、四本、阪本、山本、「虛空ノ如シ、性ハ無ナリト雖モ、現在ニ無ト言フヲナ得ズ」と點す。餘本の點、今の如し。      〇 〇 說衆生等、四本、阪本、山本、左の如く點するもの、穩かならず。      〇 〇 衆生ノ佛性ハ非内非外ニシテ猶虛空ノ如シト說キタマフ、非内非外ニシテ其レ虛空ノ如クニシテ有ナリ、内外ハ虛空ナレドモ、名テ一ト爲シ、常ト爲サズ。      〇 〇 一聞提置より何以故に至る十五字、諸本に脱す。但、高本及寂迦二本、經によりて之を補ふ。こま今の如し。      〇 〇 施業、永保二本、阪本、山本、後業に作るもの、形誤。曆文二本及誼本、この二字を脱す。</p>
--	--

<p>二六</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○訶梨、南本、訶梨に作る。</li> <li>○已上及び又言の四字、縮本、寂本、之を削りて前後の文を連続せしむ。も是れ一連の文なればなり。今一連の文を、特に又隔を置きて別引せざるもの、祖意必ず寓する所あるべし。</li> <li>○能、四本、阪本、山本、解に作るもの、形誤。</li> <li>○能知是人等、蓋高二本、寂暹二本、藝本、能ク此人、下ヲ轉ジテ中ト作スヲ知ル」と點す、已下の三句亦然り。</li> <li>○能知是人轉上作中の八字、永保二本に脱す。</li> <li>○我於往昔等、四本、高本、阪本、山本、「我レ往昔ノソノカミニ於テ」と點す。</li> <li>○從弟阿難等、曆文二本、阪本、山本、「弟阿難・提婆達多・子羅睺羅ニ從フテ」と點するもの、穩かならず。</li> <li>○提、南麗及北本、調に作る。</li> <li>○出家修道我の五字、永保二本に脱す。</li> </ul>	<p>二七</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○能、文本及澁本になし。</li> <li>○長宿、保曆文三本、「長宿シテ」と點するもの、穩かならず。</li> <li>○習、北宋、集に作る。下の二處亦同じ。</li> <li>○乃至、此處四百十六字を乃至す。</li> <li>○白、文本、自に作るもの、形誤。</li> <li>○乃至の二字、諸本になし。今之を補ふこと、縮本、寂本の如し。次の隨人より知諸根力に至る十四字は、此引文の終(三三)、爲第一義諦の下、百三十七字を隔越して存するを、今茲に斷取し來りて上を結ぶの文となせるなり。</li> <li>○乃至、上の利鈍差別と、下の或者說言の間、三百二十六字を乃至す。</li> <li>○犯四重禁、作五逆罪の二句、永本及澁本の外、凡て直讀す。</li> <li>○乃至、此處百四十九字を乃至す。</li> </ul>
--	---

<p>三〇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人の上、北麗には諸の字、北三本には度の字あり。南本は今の如し。</li> <li>○諍、四本、阪本、山本、諍に作るもの、形誤。</li> <li>○乃至、此處五十九字を乃至す。</li> <li>○名、四本、阪本、山本、上に屬して「佛如來ノ名ノ如シ」と點す。名爲の二字、北本亦名に作る。</li> <li>○呵、北本、訶に作る。阪本、山本は、可に作る。</li> <li>○大、永本になし。</li> </ul> <p>三一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○解、經の文になし。縮本、寂暹二本、之を削る。</li> <li>○大分、南三本、芬の一字に作る。</li> <li>○智の下、本經畫の字あり。寂本之を補ふ。</li> <li>○善男子の三字、南三本になし。</li> <li>○爲、南麗及北本になし。</li> <li>○爲、經の文になし。寂本之を削る。</li> <li>○佛、南麗及北本になし。蓋高二本之を除く。四本之を下に屬して「佛ヲ亦地獄餓鬼畜生人天ト名ク」と點す。</li> </ul>	<p>三三</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○るもの、穩かならず。阪本、山本の點亦然り。</li> <li>○略出、文本、澁本、略抄に作り、高本、抄出に作る。</li> <li>○又、永保二本、亦に作る。</li> <li>○於、四本、阪本、山本、以に作るもの、形誤。</li> <li>○法、曆本之を脱す。</li> <li>○離、諸本の點、下の非無學に流至せしめ、非白非黑等の十七字、諸本直讀す。今寂暹二本及藝本に従ふ。</li> <li>○非、北三本になし。</li> <li>○住、四本、阪本、山本、之を脱す。</li> <li>○無爲の下、永保二本、有無の二字あるもの、過剩。</li> <li>○又、永保二本、亦に作る。</li> <li>○乃至、此處七百五十字を乃至す。</li> <li>○以、本經になし。</li> </ul> <p>三五</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○了了、四本、阪本、山本、聲聞に作る。これ聲聞を略して耳耳と書するより、了了を耳耳の草體と誤り、之を本字に改めたるものならん。餘本之を訂す。此文、</li> </ul>
--	---

<p>四本、阪本、山本の點、左の如し。      聲聞自ラ知テ、當ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲ得ベシ      (或ハ、得ベクトモ)。      分、北本になし。      我、阪本、山本、存本になし。      自、文本、目に作るもの、形誤。自の下、文本他の字      あるもの、過剩。      菓、本經、果に作る。北宋及南本、此字なし。高本こ      の字を除く。      聞見佛性等、諸本、「佛性ヲ聞見スレドモ、コトサラ      了ナラズ」と點す。今澁本、遼本、藝本に從ふ。      唯、南明、雖に作る。澁高二本之に從ふ。      如來、四本、阪本、山本、「如來ナリ」と讀み切るもの      程かならず。      乃至、此處三十一字を乃至す。阪本、乃至の二字なし。      世尊、保曆文三本、上に屬して點す。</p>	<p>一切衆生より善男子に至る二十三字、永本脱落す。      者、南三本になし。後の者の字、永保二本なし。      爲の字、南麗になし。      爲利養說等、諸本、「利養ノ爲ニ説キ、衆生ノ爲ニ説カ      ム」と點す。今私に點を改む。      國の下、四句を越隔す。      勝過、文本、過勝に作るもの、倒置。      云、高本、言に作りて、出世善根生より回讀す。澁本      云に作りて、讀點高本の如し。此文は論註別所の引文      なるが故に、此點程かならず。      正道大慈悲等、此二句の點、正道大慈悲を所生となし、      出世善根を能生とすが如きも、下の釋によれば、正      道大慈悲(持業釋)が能生にして、淨土が所生      なれば、此點は、正道の大慈悲は即ち是れ出世の善根      なり、この出世の善根より安樂淨土を生ずとの意なる      べし。集成記は、この句に四點ありとし、今の點は正</p>
<p>三六      三六      三六</p>	<p>三八      三九      四〇</p>
<p>三七      三七      三七</p>	<p>四二      四三      四四</p>

<p>道大慈悲を所生の果とし、出世善根を能生の因とし、      安樂淨土は因願の所成なることを示して、以て眞土の      性徳を明すの意なりといふ。澁高二本、此二句を直讀      す。      乃至、此處七十五字を乃至す。      華、四本、花に作る。      又言、永本、寂遼二本、今の如く、餘本、「又言フコ、      ロハ」と點す。      指、諸本の點、法藏菩薩より廻る。今寂遼二本、藝本      に從ふ。      成、永本、感に作るもの、形誤。      是、永本になし。      忍の上、論註の文、法の字あり。      者、論註の文になし。此句寂本、「又言ク性ハ」と讀み      て、上の又言に應ず。      正道の下、阪本、山本、大道の二字なり。曆本傍に校</p>	<p>異をなす。此二句、澁高二本、寂遼二本、藝本、直讀      すること今の如し。      是、論註の文になし。      願の下、諸本力の字あり。但、縮本、寂遼二本、註の      文に從ふて之を除くこと、今の如し。法藏菩薩の本願と      は、第十四聲聞無數願を指すなり。      計、文本、討に作るもの、形誤。      復、永前本、彼に作るもの、形誤。      牛、永本、角に作る。      說、現流の論註、統に作る。寂遼二本、之を改む。      法藏菩薩等、四本、阪本、山本、「法藏菩薩ノ出世ノ善      根ト、大願業力ノ所成ナリ」と點す。集成記に、出世      善根と大願業力の二とすもの、總別の異に就くが故      なりといふ。      善住力等、四本、阪本、山本、「善住持力ヲシテ攝シタ      マフ所ナリ」と點す。「ヲシテ」は「ヲモテ」の意なり。</p>
--	--

四五

①略説より成就に至る四十字、論の文を撰す。  
 ②須彌之等、諸本の點左の如し。今私に之を改む。  
 須彌ヲ芥子ニ入レ、毛孔ニ大海ヲ納ム、豈山海ノ神  
 ナランヤ、毛芥ノカナランヤ、能神ノ者ノ神ナラク  
 ノミ。

③神の下、文本、之の字あり。

④何者より寶海故に至る三十六字、論文を撰す。

四六

⑤乃至、此處六十九字を乃至す。

⑥就類、四本、阪本、山本、「願ニ就ク」と點す。行卷九  
 九頁の⑥参照。

⑦符、四本、阪本、山本、府に作るもの、形誤。

⑧差、文本、差に作るもの、形誤。

⑨曇鸞和尚造、山本に在りては一行に書す。阪本は前後  
 一行半を缺く。

⑩釋名等、此註、永本、濫本、無點。傍の字、永本佛に  
 作るもの形誤。讀、曆文二本、阪本、山本、贊に作る

もの形略なり。

六要鈔に此註を釋して、「釋名無量壽、傍經奉  
 讀、亦曰安養」の三句をなす。按ずるに讀傷、初に  
 名號を標して、其下に此子註を安するもの、甚だ解し  
 難し。光融錄に一説を擧げて云く、釋名無量壽は阿彌  
 陀の傍註なり、傍經奉讀は偈の字の傍註なり、亦曰安  
 養は初偈十萬億刹安樂土の安樂の傍註なり、然るに後  
 人集めて一聚をなし、之を名號の下に置けるものなり  
 と云々。今の點、七字と六字の二句に讀むもの、無量  
 壽傍經とは、集主本偈を尊崇すること經の如くなるを  
 示し、奉讀亦曰安養とは、讀阿彌陀佛偈を讀安養偈と  
 も曰ふまなすの意なり。淨土和讃卷首に此文を擧げ、  
 同じく七字六字の二句をなす。存本、退本、三句に讀  
 むこと、六要鈔の如し。文本、高本、山本、延本、寂  
 本、藝本、二句に讀むこと今の如く、阪本は此處缺損  
 するが故に知る能はず。保曆二本、讀方明かならず。

四八

⑪成佛等、此句の前、初頌四句を略す。

⑫退、曆文二本、造に作る。

⑬光、永本之を脱す。

⑭聞光力故、寂蓮二本、「光力ヲ聞クガ故ニ」と點す。

⑮測、永保曆三本、側に作るもの、形誤。阪本、山本、  
 亦然り。

四九

⑯成佛、諸本、「シタマヘル」の轉聲を附す。今寂本に従  
 ふ。

⑰乃至、此處三十二頌を乃至す。

⑱誕形像始等、四本、阪本、山本「形像ヲ誕シテ始メテ  
 類綱ヲコトハル」と點す。存本、寂本、亦然り。理の  
 字、濫高二本點なし。讀傷の意は、龍樹菩薩の出誕は  
 佛滅五百三十年にして像法の始なるが故に「形像始  
 ニ誕ス」といふなり。徵決に「形像ヲ誕シテ」とは、大  
 心海化現の義を現はし、「始メテ類綱ヲ理ム」とは、相  
 承の本を示すなりといふ。

五〇

⑲類、四本、阪本、山本、類に作る。字彙に類は類の語  
 字なりといふ。類の字註、永本、縮高二本、山本、存  
 本、延本になし。阪本には格上に此註を横書す。但し  
 徒回反の三字なし。註の中、破の字、保曆文三本、波  
 に作るもの形誤。類の字、濫本、壞に作る。  
 ⑳轍、永保二本、徹に作るもの、形誤。此字註、永本、  
 縮高二本、山本、存本、延本になきこと上の如し。阪  
 本には此註格上に横書す。車也の也の字、濫本、之に  
 作る。以上の二註、六要鈔に釋なし。  
 ㉑語、六要鈔に、本偈の一本、悟に作るといふ。悟の本  
 によらば、「尊ニ伏承シテ歡喜地ヲ悟ル」の意なり。  
 ㉒安樂の下、一頌を乃至す。  
 ㉓簡、曆文二本、簡に作るもの、形誤。  
 ㉔足、光融錄は満足の義をなし、「六道ニ繋カリ三塗ニ滯  
 ルニ足ル」と讀ましむ。  
 ㉕我説佛慧等、諸本「我レ佛慧功德ノ音ヲ説ス」と點す。



<p>五二</p> <p>今・澁本、遼本、藝本に従ふ。</p> <p>◎<b>號正覺</b>、諸本、「正覺ト號ス」ト點す。今寂暹二本に従ふ。</p> <p>◎<b>故若干</b>、四本、阪本、山本、「マコトニ若干ナラン」ト點す。故の字、曆本、阪本、山本には、「コトサラニ」の左訓をも附す。寂暹二本、今の如し。干の字、曆本于に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>證</b>、曆文二本、贊に作るもの、形略。</p> <p>◎<b>云</b>、文本、曰に作る。</p> <p>◎<b>爲</b>、四本、阪本、山本、下より回讀し、「ハタ是レ報ナリヤ、是レ化ナリトヤ爲ン」ト點す。</p> <p>◎<b>及與化佛</b>、諸本、「及ビ化佛トトモニ」ト點す。</p> <p>◎<b>前翻報等</b>、澁本、遼本、「前翻ニハ報ヲ應ト作シ、後翻ニハ應ヲ報ト作ス」ト點す。寂本、藝本の點、亦此意なり。</p> <p>◎<b>以果應因</b>、諸本、「果ヲ以テ因ニ應ス」ト點す、今寂本</p>	<p>五三</p> <p>に從ふ。</p> <p>◎<b>僧</b>、曆本、像に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>乃</b>、曆本、及に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>辨</b>、阪本、山本、辯に作る。</p> <p>◎<b>化</b>、永前本、他に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>說</b>、諸本、「何が故ゾ、觀音授記經ニ說カク」ト點す。今寂本に従ふ。</p> <p>◎<b>闕</b>、曆文二本、門に从ひ視に从ふもの、形誤。阪本、山本、亦然り。</p> <p>◎<b>作</b>、永前本、非に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>是化類等</b>、諸本「是レ化類ル實事アリヤ不ヤ、空シキモノナリヤ不ヤ」ト點するもの、釋かならず。但し、澁本、疏に従ふこと今の如し。寂暹二本、藝本、亦此意にて點す。</p> <p>◎<b>想</b>、文本、相に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>若世間法等</b>、諸本、「若シ世間ノ法是レ化ナリヤ、出</p>
<p>五八</p> <p>世間ノ法亦是レ化ナリヤ」ト點じ、遼本は、「若シ世間ノ法是レ化ナラハ、出世間ノ法モ亦是レ化ナリヤ」ト點す。藝本は遼本の意に同じきが如し。今寂本に従ふ。</p> <p>◎<b>勤</b>、曆文二本、勤に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>法</b>、永本之を脱す。</p> <p>◎<b>耶</b>、所據の小品般若經には此字なし。疏に此字ある爲に、此文を解すること頗る難からしむ。或は疏の傳來する間に、濫入せるもの乎。此字、阪本、山本、邪に作る。</p> <p>◎<b>者</b>、曆本になし。</p> <p>◎<b>正由託佛願等</b>、諸本「正シク佛願ニ託スルニ由テ以テ強縁ト作シ、五乘齊シク入ラシムルコトヲ致ス」ト點す。今藝本に従ふ。</p> <p>◎<b>明</b>、延文延本、藝本、下の致使如來の句より回讀す。而して彌陀本國四十八願の八字、藝本、延本「彌陀ノ本國ハ四十八願ナリ」ト讀む。澁本、明彌陀本國等の</p>	<p>五九</p> <p>九字、無點。他流の疏、明の字、致使如來の句より迴り、「彌陀本國ハ四十八願ヨリス」ト點す。</p> <p>◎<b>悲</b>、永保二本、非に作るもの、形誤。</p> <p>◎<b>彌</b>、保曆文三本、弘に作るもの、形誤。永本は彌に作りて、「ヒロク」の訓を附す。</p> <p>◎<b>云</b>、永保二本、曰に作る。</p> <p>◎<b>樂</b>、今典「ミヤコ」ト訓するもの、祖讀疏文に拘泥せざる例なり。證卷九頁の◎参照。</p> <p>◎<b>薰</b>、諸本、薰に作る。今疏文に従ふ。行卷七三頁の◎参照。</p> <p>◎<b>無殊の下</b>、七言四句及び又證云の三十一字を乃至す。</p> <p>◎<b>六道</b>、四本、阪本、山本、流轉に回讀す。</p> <p>◎<b>愁嘆</b>、山本、生死に作り、阪本格上に、「或本生死也」の五字を書す。</p> <p>◎<b>無量光佛等</b>、以下愷與述文贊の引文は、諸本、十二光佛の名を標して釋を細註さなす。今註を本行に大書す</p>

るこゝ、縮本の例に従ふ。試みに述文贊の文例を示せば左の如し。

佛光非算數故無量、無緣不照故無邊、

◎所、永保二本、可に作る。

◎光炎王佛、永保二本、炎王光佛に作る。

◎無貪濁等の九字、述文贊になし。集主の加ふる所。

六一 ◎盛、現流の述文贊、感に作る。

◎測、永保曆三本、阪本、山本、側に作るもの、形誤。

◎所堪説故、四本、澁本、「堪エ説ク所ニ非ルカ故ニ」ニ

點す。寂蓮二本亦之に従ふ。餘本、今の如し。

◎日夜恒照等、四本、阪本、山本、形誤多く、夜、應に

作り、同、周に作り、二、一に作り、「日恒ニ照ヌコト

周子カラズ、娑婆一耀ノ光ニ應スルカ故ニ」ニ點する

もの、意通じ難し。耀、述文贊の文、嚙に作る。縮本

之を改む。光、同じく輝に作る。

◎身、述文贊、體に作る。

◎輓、永本、濡に作り、阪本、山本、存本、延本、濡に作り、保曆文三本、輓に作る。

◎也、永保二本になし。

◎起信論曰、此文、飛錫の念佛三昧寶王論の所引に依る、

所謂従末引本の例なり。得入者以下は、寶王論の釋文

なり。

◎若知難説等、寶王論の讀法は左の如し。

若シ説クト雖モ能説可説アルコトナク、念ズト雖モ

能念可念ナキヲ知ルヲ、隨順ト名ク。

これ能所を混亡するの意なり。徵決に、今の點論文に拘

泥せず、能説能念を忘るゝとを示すは、他方に順する

とを顯はすなりと云ふ。寂蓮二本は原文の點に従ふ。

◎難念、諸本之を脱す。但し高本、退本、論に従ふて之

を補ふこと今の如し。縮本冠註に校異をなす。

◎蓋以了心等、諸本、「蓋シ以テ了心ハ初生ノ相ナリ」ニ

點す。但し藝本、論の點に従ふこと、今の如し。

六三

◎地、永本、住に作る。

◎不依、四本、阪本、山本、馬鳴大士より回讀す。

◎説、文本、記に作るもの、形誤。

◎假、文本、扁を手に作るもの、形誤。

◎佛の下、永保二本、土の字あるもの、過剩。

◎華、四本、花に作る。

◎特、曆本、持に作るもの、形誤。

~~~~~

天文延本、左の奥書あり。

寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆祕本加書

寫校合訖文義字訓等

重委註畢

隱倫 尊蓮六十六

今年聖人七十五歲也

本延寫于和字授與之 願主 乘智

化土卷本

一 ◎本、永保二本、小書。高本、阪本、山本、延本、この

字なし。高本、山本、卷を分たす。

◎撰號、阪本には題號の直下に在り。

◎標舉、高本には表紙の裏に在り。而して二個の願名、

共に之の字なく、無量壽佛觀經之意也の九字、及び阿彌

陀經之意也の七字、各願名の右傍に在り。而して願名

の下、挾註を二行とす。阪本また之に同じ、但し無量

壽佛觀經之意也の字なし。山本、この文なきは、

表紙の缺逸せる爲なるべし。延本また表紙の裏に在り

て、願名の左、別行に、「無量壽觀經ノコッロナリ」

「阿彌陀經ノコ、ロナリ」とあり。

二 ◎萌、諸本、萌に作る。但縮本、高本、今の如し。總序

一頁の◎参照。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>三</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 滋、永前本及保本、旁を慈に作るもの、形誤。</li> <li>② 大經言の右、山本、「十九修諸功德之類、至心發願之類、現前導生之願」の二十字あり。</li> <li>③ 假令、諸本「タトヒ」と訓す。今私に之を改む。</li> <li>④ 興、大衆圍繞の句、「大衆ノ興ニ圍繞セラレテ」と讀むを、文に親しとす。即ち佛が大衆に圍繞せられて其人の前に現するの意なり。現點は、佛が大衆と興に行者を圍繞するの意となすに似たり。寂本之を改む。</li> <li>⑤ 華、四本、花に作る。</li> <li>⑥ 悲華經の文、卷三諸菩薩本授記品第四之一に在り。行卷一〇頁の參照。</li> <li>⑦ 我の下、本經、時の字あり。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>⑧ 前、本經、所に作る。寂本之を改む。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>⑨ 闌、曆本、窓に作り、文本、門に从ひ窓に从ふもの、形誤。本經、礙に作る。</li> </ul> | <p>四</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 寶の字に、私に「ノゴトキノ」の轉聲を附す。月光、蜜尼、持海輪寶は、何れも衆寶の王たるものなればなり。</li> <li>② 乃至、此處百三十六字を乃至す。</li> <li>③ 故、永前本及保本、放に作るもの、形誤。</li> <li>④ 乃至、此處九十八字を乃至す。</li> <li>⑤ 或、諸本この字なし、但寂蓮二本、經に依りて補ふこと今の如し。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>⑥ 一等の二字、保曆二本、下に屬して、「二等ノ八功德水」といふもの、穩かならず。</li> <li>⑦ 彼の上、經に、於の字あり。寂蓮二本、之を補ふ。</li> <li>⑧ 乃至、此處百十字を乃至す。</li> <li>⑨ 如、諸本、轉輪聖王より回讀す。今澁高二本に從ふ。延本は有七寶牢獄より、寂本は懸諸刹幡より回讀す。</li> <li>⑩ 有七寶牢獄等の九字、本宗所依の經は、別有七寶室種種莊嚴の十字に作り、麗本には、別有宮室七寶莊飾</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>八</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>の八字に作る。今の文は宋元明三本の如し。寂本、本宗所依の經に從ふ。</li> <li>① 牀、曆本、牀に作るもの、形誤。延本は床に作る。</li> <li>② 若の下、經に有の字あり。</li> <li>③ 内、永保二本、町に作り、曆文二本、因に作り、何れも、「トラハレテ」の點あり。</li> <li>④ 賦、經の麗本、宮に作る。寂本、麗本に從ふ。</li> <li>⑤ 鎖、永保二本、澁高二本、延本、鎖に作る。</li> <li>⑥ 乃至、此處五十字を乃至す。</li> <li>⑦ 智、曆本、知に作るもの、形誤。</li> <li>⑧ 胎宮、經に宮殿に作る。高本及寂本、經に從ふて之を改む。</li> <li>⑨ 乃至、此處四十一字を乃至す。</li> <li>⑩ 乃至、此處三十一字を乃至す。</li> <li>⑪ 墮、諸本、隨に作るもの、形誤。寂蓮二本經に從ふこと、今の如し。縮本冠註に校異をなす。</li> </ul> | <p>九</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 乃至、此處九十八字を乃至す。</li> <li>② 蓮、四本、山本、阪本、尊に作るもの、形誤。此句の點、諸本異あり。四本、山本、阪本は、「彼ノ蓮華ノ中ニ化生スルコトヲ受ケテ、結跏趺坐セン」と點じ、高本は、「彼ノ化生ヲ蓮華ノ中ニ受ケテ、結跏趺坐セン」と點す。澁本、寂蓮二本、藝本、今の如し。</li> <li>③ 乃至、この處二十七字を乃至す。</li> <li>④ 無因奉事等、四本、山本、阪本、「因ナクシテ無量壽佛ニ奉事セン」と點するもの、穩かならず。澁高二本、藝本の點、今の如し。但し因の字、音讀するに似たり。此句は魏譯の、無由供養於佛の句に相當すべければ、今因の字、私に由の訓を附す。寂蓮二本、「因ンテ無量壽佛に奉事スルコトナシ」と點す。</li> <li>⑤ 皆、文本、此に作るもの、形誤。此句の點異あり。四本、山本、阪本、藝本は、「昔ノ緣疑悔ヲ爲シテ致ス所ナレバナリ」と點じ、澁高二本は、「昔疑悔ニ緣テ致</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一〇</p> <p>●言、永前本及保本、講に作るもの、形誤。</p> <p>●墮、曆本、隨に作るもの、形誤。</p> <p>●由の下、述文贊の文、此の字あり。</p> <p>●雖、四本、高本、阪本、山本、邊地に流至せしむ。蓋本、遼本、藝本、三經往生文類の點に従ふこと、今の</p> | <p>一</p> <p>●如し。</p> <p>●聖化事、諸本、「聖化ノ事」と點す。今蓋高二本に従ふ。藝本は、事の字を下の句に屬す。</p> <p>●應、諸本、重に作り、「宜シク之ヲ重ク拾ツベシ」と點す。今述文贊の原文に従ふ。</p> <p>●乃至、此處要集の文、四十字あり。</p> <p>●云々、要集には、已上の二字を細書す。寂本原文に従ふ。</p> <p>●以此經准難等の八字、要集の意、「此經ヲ以テ准スルニ、生ヲ得ルコト難シ」と讀むに在り。寂遼二本、藝本、原文の點に改む。</p> <p>●言、四本、蓋縮二本、云に作る。高本、阪本、山本、言に作ること、原文の如し。</p> <p>●乃至の二字は、要集の文なり。</p> <p>●已上の二字、また要集の文なり。</p> <p>●密、阪本、室に作る。</p> <p>●章、文本、違に作るもの、形誤。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一四</p> <p>●言、四本、淨業成より回讀す。遼本、藝本、亦然り。蓋本、高本、阪本、山本、延本、寂本、今の如し。八字共に經の文なり。</p> <p>●爲、永本、方便之教の下にあるもの、錯置</p> <p>●彼、永前本及保本、得に作るもの、形誤。</p> <p>●二種往生、文本、三種往生に作る。餘本今の如し。二種往生と三種往生の異に就きて、諸註異説あり。述聞に、二種往生の本に依らば、次下に云へる如く即往生と便往生の二種にして、三種往生の本に依らば、難思と雙樹林下と難思の三往生なるべく、要するに開合の違に過ぎずといひ、略讀は、三種往生に作るを正とし、三輩各三心あるが故に三種三心といひ、三輩各上中下の往生あるが故に三種往生といふべく、共に化土往生にして、即往生と便往生と其義異なりといふ。</p> <p>●因に、次上の三種三心に就きて、述聞に、二種往生に准するに、三種三心は二種三心の寫誤なるべしといふ。</p> | <p>一六</p> <p>●密、阪本、室に作る。</p> <p>●應、曆本、處に作るもの、形誤。</p> <p>●廢、永曆文三本、阪本、山本、發に作り、縮本、發に作るもの、形誤。</p> <p>一七</p> <p>●此、序分義の一本、この字なし。龍谷山藏版の小本七祖聖教には、この字あること、今の如し。</p> <p>●是即定辭、此句諸本、「是レ定ムル辭ナリ」と點す。今疏の文に従ふこと、蓋本の如し。</p> <p>一八</p> <p>●欲明、寂本、下の歷々了然の句より回讀す。</p> <p>●法の上、疏文、諸の字あり。寂本之を補ふ。</p> <p>●彼、永前本、得に作るもの、形誤。</p> <p>●實、曆本、實に作るもの、形誤。</p> <p>●捨、永保文三本、阪本、山本、延本、作に作る。</p> <p>●坐、阪本、座に作る。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>二〇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●勦、四本、阪本、山本、勉に作る。</li> <li>●掌、曆本、常に作るもの、形誤。</li> <li>●乃至、此處至誠心釋の殘餘四十字と、深心釋の第一第二の深信の文八十一字とを乃至す。</li> <li>●證、文本、澁高二本、稱に作る。疏文、證に作ることを今如し。證、四本、阪本、山本、贊に作るもの、形略。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>二二</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●乃至、此處深信釋の第四、第五、第六の三深信の文を乃至す。</li> <li>●深心深信者、高本、阪本、山本、寂本、「深心ノ深信トハ」を點す。延本は、「深心ハ深信ナリトイフハ」に作る。</li> <li>●乃至、此處四重破人の文を乃至す。</li> <li>●專依等の句、他流には、「專ラ往生經ニ依テ行チ行ズル者」を讀み、或は、「行行スル者」を讀む。</li> <li>●憶、永前本及保本、憶に作るもの、形誤。</li> </ul> |
| <p>二四</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●坐、阪本、座に作る。</li> <li>●此引文、疏文に在りては、夫々觀經發起序の第六、第五の兩段に名くる所なり。略證に、現點は之を轉用して、上來所說の定散二善は弘願の智慧觀念念佛行を顯はす方便由縁なりとすの意なりといふ。</li> <li>●先、禮讚、者に作る。縮本冠註に校異をなす。儀儀今の如し。</li> <li>●揚、永保二本、揚に作るもの、形誤。</li> <li>●乃至、此處深心釋の文六十九字を乃至す。</li> <li>●若少一心、保曆文三本、澁本、藝本、「一心モカケヌレバ」を點す。永本、高本、阪本、山本、延本、「モ」の字なきこと今の如し。銘文に此句を釋して、「一心カクルトイフハ信心ノカクルナリ、信心カクルトイフハ、本願眞實ノ三信心ノカクルナリ」と云へり。</li> <li>●乃至、此處五念門及四修を明すの文を乃至す。</li> <li>●免、阪本、山本、勉に作る。行卷四〇頁の參照。</li> </ul> | <p>二五</p>                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <p>二六</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●乃由等已下、各句の初に、私に數字を置く。禮讚の原文にては、下の眞門の下(六)に引く所の四失を合せて、十三失を成すなり。</li> <li>●憶想間斷故より但能眞心に至る十一行半、阪本に脱落す。</li> <li>●乃至、此處禮讚の前序より、日中禮の懺悔の文に至る廣文を越隔す。</li> <li>●血流、諸本「血ヲ流シ」を點す。今寂本に従ふ。下の一處亦然り、但文本は下の血流、「血流ルナハ」に作る。</li> <li>●是の上、原文、即の字あり。</li> <li>●髓の上、原文更に髓の字あり。高本、寂本、之を補ふ。寂本、徹心徹髓より上の致使に回讀す。</li> <li>●皆頓、原文、頓皆に作る。</li> <li>●終、禮讚、衆に作る。儀儀今の如し。</li> <li>●若、保曆文三本、差に作り、「タガヒテ」の訓あるもの錯本に従ふか。山本亦然り。延本、「ナサルモノニ</li> </ul>       | <p>二七</p> |
| <p>二九</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●タガハンヤに作る。</li> <li>●坐、阪本、座に作る。</li> <li>●萬劫等、此文七言の偏頗。</li> <li>●期の下、四十八句を乃至す。</li> <li>●將、永前本及保本、時に作るもの、形誤。將の字、四本、「イテマス」を訓し、高本、阪本、山本、「キテマシマス」を訓す。今の點、澁本、寂本の如し。</li> <li>●相、論註の原文になし。行卷三三所引の此文、相の字なきこと、原文の如し。</li> <li>●云、剩字なるに似たり。延本になし。</li> <li>●の上、樂集の文、現の字あり。寂蓮二本之を補ふ。</li> <li>●免、阪本、山本、勉に作る。</li> <li>●名、諸本、各に作る。但、澁高二本、寂蓮二本、樂集の文に従ふこと今の如し。</li> <li>●彰、曆本、鄣に作るもの、形誤。</li> <li>●難、永前本及保本、雜に作るもの、形誤。</li> </ul> | <p>三〇</p> |
| <p>三一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●若、保曆文三本、差に作り、「タガヒテ」の訓あるもの錯本に従ふか。山本亦然り。延本、「ナサルモノニ</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>三二</p> |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三五 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●廢、曆文二本、縮本、癡に作るもの、形誤。</li> <li>●密、阪本、蜜に作る。</li> <li>●四、阪本、五に作る。延本亦然り。山本は、五に作りて、傍に四の字を墨書す。</li> </ul>                                                                                                                                                                   |
| 三六 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●心の下、四本、澁本、「專修者、唯稱念佛名、離自力之心」の十三字あり。高本、阪本、山本、延本、この十三字なく、縮本、寂本、亦之を削る。蓋し此十三字、展轉書寫の際挿入したるもの乎。</li> </ul>                                                                                                                                                                   |
| 三七 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●古來此文、此十三字の挿入あるが爲め、甚だ解し易からずとなし、諸註多く錯簡あるべきを疑へり。述開に引く所の僧録の説は、離自力心專修者の八字は恐く過剰なるべしとて、</li> </ul>                                                                                                                                                                           |
| 三九 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●横超者、憶念本願、唯稱念佛名、離自力之心、是名横超他力也。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                              |
| 四〇 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●さして解するに在るが、述開の自説は、上文先づ行の義を釋して後に教の攝を示すに准すれば、「憶念本願、</li> </ul>                                                                                                                                                                                                          |
| 三六 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●離自力之心、唯稱念佛名」の三句は專修の義を釋したるものなるべく、又、「是名横超他力也」の一句は專修の教攝を示したるものなるべければ、此文は</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |
| 三七 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●專修者、憶念本願、離自力之心、唯稱念佛名、是名横超他力也。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                              |
| 三九 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●さして解すべしといふに在り。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                             |
| 四〇 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●也の下、永本、五字空白。</li> <li>●斯、永本になし。保本、斯の下、四字空白。</li> <li>●種、阪本、山本、天文延本になし。</li> <li>●名、山本、名の字を朱にて消し、傍に、稱の字を朱書す。阪本は、稱に作りて之を消し、格上に名の字を書す。縮高二本、寂本、稱に作る。</li> <li>●宮、永前本及保本、空に作るもの、形誤。</li> <li>●二十願也の註、縮高二本になし。阪本は格上に、山本は此處と格上とに、この註あり。</li> <li>●密、曆文二本、阪本、蜜に作る。</li> </ul> |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 四一 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●直、諸本、「タマチニ」と訓するに似たり。此句、高本、山本、「直ニ彌陀弘誓ノ重ナレルヲ爲テ」と點す。爲の字、阪本、「ヨテ」と點すること、今の如し。事證の本文は「タマ彌陀弘誓ノ重キガ爲ニ」と讀むの意なり。寂本、「重キガ爲ニ」と點じ、還本、「重キニ爲テ」と點す。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 四二 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●名無二之言也、四本、「無二ノ言ニ名クルナリ」といふは、穩かならず。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 四三 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●藉、諸本、籍に作る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 四四 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●名、永本、號に作る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 四五 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●二十願也の註、縮高二本になし。阪本は格上に、「此果遂之願者廿也」の九字あり。山本には也の字なく、餘の八字あり。延本この註、「果遂ノ願トイフハ二十ノ願ナリ」に作る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 四六 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●若人等、五言の偈頌。</li> <li>●以己善根、寂還二本、「己が善根ヲ以テ」と點すること、本經の如し。今の點、集主特殊の讀法なり。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 四七 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●非有是等、六言の偈頌。初の句、諸本、「是ノ功德アルニ非ル人ハ」と點す。今寂還二本に従ふ。</li> <li>●有清淨者、阪本、山本、「清淨ニ戒ヲ有テル者」と點すること、行卷を所引の場合に同じ。</li> <li>●述、四本、還に作る。阪本、山本、亦然り。澁高二本、經に従ふこと今の如し。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>●斯、經本、此に作る。</li> <li>●法の下、四句を乃至す。</li> <li>●教の下、二十句を乃至す。</li> <li>●佛在世等、寂還二本、藝本、「佛ノ在世ハ甚ダ値ヒ難シ」と點すること、本經の如し。今の點、集主特殊の讀法なり。</li> <li>●慧、永前本、保曆二本、專に作るもの、形誤。</li> <li>●國の下、舍利弗等の十一字を略す。</li> <li>●一日七日以下、文を盡すまで、阪本に脱落す。</li> <li>●標、四本、山本、澁本、扇を手に作るもの、形誤。</li> </ul> |
| 四八 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●非有是等、六言の偈頌。初の句、諸本、「是ノ功德アルニ非ル人ハ」と點す。今寂還二本に従ふ。</li> <li>●有清淨者、阪本、山本、「清淨ニ戒ヲ有テル者」と點すること、行卷を所引の場合に同じ。</li> <li>●述、四本、還に作る。阪本、山本、亦然り。澁高二本、經に従ふこと今の如し。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>●斯、經本、此に作る。</li> <li>●法の下、四句を乃至す。</li> <li>●教の下、二十句を乃至す。</li> <li>●佛在世等、寂還二本、藝本、「佛ノ在世ハ甚ダ値ヒ難シ」と點すること、本經の如し。今の點、集主特殊の讀法なり。</li> <li>●慧、永前本、保曆二本、專に作るもの、形誤。</li> <li>●國の下、舍利弗等の十一字を略す。</li> <li>●一日七日以下、文を盡すまで、阪本に脱落す。</li> <li>●標、四本、山本、澁本、扇を手に作るもの、形誤。</li> </ul> |

四九

- ◎ 竟、保曆二本、意に作るもの、形誤。
- ◎ 證勸、諸本、一切凡夫より回讀す。但、寂蓮二本、藝本、今の如し。
- ◎ 乃至、此處第五深信以下、及四重破人の文の大半を乃至す。
- ◎ 縱令、諸本、「タトヒ」と點す。今私に之を改む。
- ◎ 指勸等、諸本、「指シテ一切凡夫ヲ勸メテ」と點す。藝本、指勸の二字、生彼國より回讀するこゝ、今の如し。
- ◎ 證、四本、阪本、山本、贊に作るもの、形略。次下の二處、之に准す。
- ◎ 乃至、此處、「釋迦讚嘆極樂種種莊嚴」の十字を乃至す。
- ◎ 勸、諸本、一切凡夫より回讀す。但、藝本今の如し。
- ◎ 凡夫以下、惡業生に至る約三行、阪本に脱落す。
- ◎ 釋迦、曆本上に屬し、「釋迦ヲ證シタマハク」と點す。

五〇

- ◎ 惡業生の下、疏文、惡見の三字あり。縮本、寂蓮二本、之を補ふ。
- ◎ 勸勵、諸本、衆生より回讀す。但、藝本今の如し。
- ◎ 一切の上、疏文、即の字あり。蓮本之を補ふ。
- ◎ 誠、永保二本、阪本、山本、成に作る。
- ◎ 抄要、文本、抄略に作る。
- ◎ 望佛願意者、四本、阪本、山本、「佛願ノ意ヲ望ムニ」と點す。延本は、「佛ノ願意ニノゾムレバ」に作る。
- ◎ 勸正念稱名、諸本、「正念ヲ勸メテ名ヲ稱セシム」と點す。但、澁本、藝本、今の如く、延本、「ミナヲ稱セシムルコトヲス、メタリ」に作る。寂蓮二本、「唯勸メテ正念ニ名ヲ稱セシム」と點す。
- ◎ 部、永前本及保本、郭に作るもの、形誤。
- ◎ 將爲要益也、諸本、「將ニ要益ト爲サントス」と點す。今寂蓮二本に従ふ。藝本今の點に似て、爲要益より、上の如の字に回讀す。

五二

- ◎ 喝、永保二本、属に作る。
- ◎ 退、高本、段に作るもの、誤植。
- ◎ 望佛本願意、四本、阪本、山本、「佛ノ本願ノ意ヲ望ムニハ」と點す。意の字、延本下に屬して讀む。今の點、次上の引文の、「望佛願意者」に准するの意か。
- ◎ 專專指授等、此句、諸本の點異あり。
- ◎ 四本、「專ラニシテ專ラナレバ、指授シテ西路ニ歸センニ」
- ◎ 阪本、山本、「專ニシテ專ナレト指授シテ、西路ニ歸セシメンニ」
- ◎ 澁本、寂蓮二本、「專ラニシテ專ラナレト指授シテ、西路ニ歸セシムレドモ」
- ◎ 高本、「專ラニシテ專ラナレト指授シテ、西路ニ歸セントシテ」

今第三の點に従ふ。專專の二字、藝本音讀す。「專ニシテ專ナレト」と讀むは、專專を指授の言語となすも

五三

のにして、「專專指授シテ」と讀むは、專專を指授の方  
 法となすものなり。

- ◎ 直爲等、直の字諸本、「タマハチニ」と點す。此句、延本、「チモキチモテ」に作り、寂蓮二本、「重キガ爲ニ」と點す。餘本みな今の點に一致す。上(白)の引文参照。
- ◎ 一切等、此文七言の偏頭、
- ◎ 乃至、此處十七句を乃至す。
- ◎ 行、永保二本、門に作るもの、形誤。
- ◎ 爾、禮讚、余に作る。儀儀今の如し。延本、縮本、蓮本、證に従ふ。
- ◎ 日、儀儀になし、禮讚に在り。
- ◎ 雜、阪本、修に作る。山本、修の字の傍に雜の字を書す。曆本、「修イ」の校異あり。
- ◎ 修雜等、此句、保曆二本、「雜ヲ修スレバ。至心ナラザレバ」と點じ、澁本は、「雜ヲ修スル。不至心ノ者ハ」と點

じ、寂通二本は、「雜ヲ修シテ至心ナラザル者ハ」ミ  
點ず。藝本は濫本に近し。永文二本、高本、兩筆本、  
今の如し。

①一、儀儀の宋元明三本、十に作る。麗本及禮證は今の  
如し。

②已上、高本になし。智昇以下の註、縮高二本、延本に  
なし。阪本、山本には、格上に在るこゝの如し。然  
るに、也の字、諸本皆、云に作るもの、讀み難し。阪  
本には之を、云に作る。然らば云の字は形誤なるが如  
し。依て之を改む。この註、四本、次の「元照律師彌  
陀經義疏云」の下にあるもの、錯置。

③昔作等、此句諸本、「昔シ此ノ解ヲ作シ、人、尙遲疑  
シキ」と點す。今濫本、寂本に従ふ。

④文、四本、上の句に屬す。阪本、山本、亦然り。  
⑤稱、疏の原文、持に作る。

⑥住、疏の原文、任に作る。

⑦蜜、文本、密に作る。  
⑧斯、阪本、山本、經に従ふこゝ今の如く、餘本、此に  
作る。

⑨爲因の二字、諸本になし、恐くは誤脱。高本、寂通二  
本、經によりて之を補ふこゝ今の如し。縮本冠註に校  
異をなす。

⑩種、北の元明麗三本及南本、この字なし。  
⑪是の下、經本、故の字あり、縮高二本、寂通二本、之  
を補ふ。

⑫言無因果等、四本、高本、阪本、山本、「因果三寶ノ  
性異ナシト言ヒテ」と點するもの、穩かならず。濫本、  
寂通二本、藝本、今の如し。

⑬蘭、諸本、關に作る。今經本に従ふ。  
⑭善男子已下の一節、本經に在りては、次上の文の前に  
出づ。

⑮他、縮本、地に作るは、誤植。

⑯爲の下、本經、於の字あり。高本之を補ふ。  
⑰智、北宋及南本、集に作る。

⑱没の下、四本、阪本、山本、更に没の字あるもの、重  
複。

⑲施定、永前本及保本、定施に作るもの、倒置。  
⑳還の下、四本、阪本、山本、出の字あるは、過剩、

㉑迷、南麗本、遂に作る。  
㉒暫、阪本、山本、豊に作る。

㉓雜、南麗本、離に作る。「解脫ヲ得テ煩惱ヲ離ルト雖  
モ」を續むの意か。

㉔乃至の二字、諸本になし。但、縮本、寂本、之を補ふ  
こゝ、今の如し。此處百二十六字を乃至す。

㉕有爲涅槃等、四本、阪本、山本、誤脱あり、從つて文  
を讀むこゝ甚だ穩かならず。即左の如し。  
有爲涅槃無常、常樂我淨無爲涅槃、有常人……  
但し、常樂我淨の常、阪本になし。餘本、經文に依りて

之を訂すこゝ今の如し。  
㉖乃至の二字、縮本、寂本に在りて、餘本になし。此處  
二十四字を隔て、前節の初に續く。

㉗是、四本、阪本、山本になし。餘本、經に依りて之を  
補ふこゝ、今の如し。已下の文、前々節の成就不具足  
信の下、二百三十一字を隔て、存す。

㉘善、四本、阪本、山本、因に作るもの、形誤。  
㉙戒、四本、阪本、山本、誤つて重複す。

㉚修、四本、阪本、山本、樂に作るもの、形誤。  
㉛未、本經、不に作る。

㉜不能讀誦等、此句の點につきては、信卷末二頁の參  
照。

㉝持讀誦說、本經の諸本異同あり、信卷末三頁の參照。  
㉞故、阪本になし。  
㉟以三種等、四本、阪本、山本、「三種ノ善調御ヲ以テ  
ノ故ニ」と點す。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>六二</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○譬如良醫等、四本、阪本、山本、「譬へハ良醫ノ善キ八種ノ術ノ如シ」を點す。濫高二本、還本、如の字、下の故名良醫より回讀せしむ。</li> <li>○先、永保二本に重複す。</li> <li>○之、永前本、病に作る。即ち、「風病ノ病人」をなす。此句、南麗本には、有風病者に作る。</li> <li>○蘇、北三本及南本、酥に作る。濫高二本、之に従ふ。</li> <li>○蜜、文本、密に作る。</li> <li>○人、北三本、者に作る。</li> <li>○知諸等、四本、阪本、山本、「諸ノ凡夫ノ病ヲ知ルニ三種アリ」を點す。餘本、今の如し。</li> <li>○縁の上、南北の三本、因の字あり。濫縮高三本、寂本、此字を補ふ。</li> <li>○度、南北の麗本、渡に作る。</li> <li>○如醫等、此句、延本、寂還二本、醫本の點、今の如く、餘本、「衆疾ヲ醫療スル如シ」を點す。</li> </ul> | <p>六四</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○唯恨等、此文、七言の偈頌。</li> <li>○迴の下、百五十二句を乃至す。</li> <li>○導、曆文二本、導に作るもの、形誤。般舟證の本文は、道に作る。</li> <li>○婆の下、四句を乃至す。</li> <li>○慈、般舟證の文、師に作る。</li> <li>○佛世等、此文、五言の偈頌。</li> <li>○慧、機儀の宋元明三本、心に作る。麗本及禮讚、今の如し。</li> <li>○弘、機儀の宋元明三本、傳に作るこゝ、禮讚の如し。この下の註、縮高二本、延本になし。阪本、山本には格上にあり。</li> <li>○歸、○本、共に法事證の文になし。七言句を成せばなり。</li> <li>○成の下、約一紙を隔越す。次の文は七言の偈頌なり。</li> <li>○度、法事證の文、慶に作る。今錯本に従ふか。縮本、寂還</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>六五</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二本は、讀に従ふ。</li> <li>○聞、永前本及保本、聞に作るもの、形誤。</li> <li>○際、永前本及保本、除に作るもの、形誤。</li> <li>○無念報等、此文、禮讚の本文と、文字の出沒あり。各句の初に、私に數字を置く。禮讚にては、上の要門章(二〇)に引く所の九失を合して、十三失を成すなり。</li> <li>○乖、諸本、「乖ケルナリ」を點す。今濫本に従ふ。</li> <li>○辨、阪本、辯に作る。</li> <li>○義、曆本、儀に作るもの、形誤。</li> <li>○不、大論の文、未に作る。</li> <li>○已、大論の文、以に作る。濫高二本、寂本、論文に従ふ。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>○示惑者等、諸本、「示教我、看視指」に作る。寂還二本、論文に依りて之を改むるこゝ、今の如し。縮本冠註に校異をなす。</li> <li>○語の下、論文、之の字あり。寂本之を補ふ。</li> </ul> | <p>七〇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○視、永保二本、視に作る。</li> <li>○以此、論文、是以に作る。寂本之を改む。</li> <li>○衆の下、論の宋麗二本、生の字あり。</li> <li>○乃至、諸本になし。但、縮本、寂還二本、之を加ふ。此處長文を略すればなり。</li> <li>○無佛世等、以下取意の文なり。論文、不了義經を明す中に、<br/>又言、九十一劫三劫有佛、餘劫皆空無佛、甚可憐愍、佛爲之重罪不種見佛善根人、説言、佛世難值、如優曇波羅華時一有。<br/>の一節あり。今此中の語を斷取し、且つ無佛の下に世衆生の三字を加へて茲に引き、論文の意を轉じて、佛の生後に在る今時の機を擧ぐるの意をなすなり。諸本、「佛此ヲ重罪ト爲シタマヘリ、見佛ノ善根ヲ種エザル人ナリ」を點す。今私に之を改む。<br/>○旨際、一説に、此二字解し難し、階降の寫誤ならん</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

いふ。述開には、旨の字は時の古字皆の形誤にして、時  
 際。の意なりといふ。案するに、旨際。の語は下に引く末  
 法燈明記の文より来る。然るに現流の燈明記には、旨  
 際。の字階降。に作る。階降は優劣の義なり。集主所覽の  
 本、或は旨際。に作るか。山本には、「ム子、キヲ」の左  
 訓あり。

- 具辨等、縮本、寂退二本、「具サニ入道ヲ辨セリ、行  
 位法爾ナルガ故ニ難行道ト名ク」と點す。今の點、行  
 位の二字再讀するの意か。辨の字、阪本、辯。に作る。
- 明の上、四本、阪本、山本、有の字あるもの、過剩。
- 者。の下、若。教。赴。時。機。易。修。易。悟。の九字を略す。寂退二本、  
 之を補ふ。
- 正の上、原文、是。故。の二字あり。寂退二本之を補ふ。
- 如の字、四本、阪本、山本、下の無智より回讀す。寂  
 本、藝本、亦然り。澁本、高本、如の字、火不可得の  
 句より回讀す。退本、如の字、「モシ」と訓し、澁本、

七二

若の字、「オトシ」と訓じて、水不可得の句より回讀  
 す。

- 二箇の水の字、安樂集の一本、火に作る。所引の經  
 (此文正法念經になく、坐禪三昧法門經にあり)に火に  
 作るを以て、集の一本之を改むるものか。
- 大の上、集、是。故。の二字あり。寂退二本、之を補ふ。
- 得堅固、諸本、「堅固ヲ得ン」と點す。今の點、延本、  
 寂本の如し。
- 五、曆文二本、之を脱す。
- 固の下、百三十一字を乃至す。
- 一念の上、集、若の字あり。寂本、之を補ふ。
- 辨、阪本、辯。に作る。
- 減、四本、「コトトク」と訓するに似たり。阪本、山  
 本、減。に作り、延本また、減ツッキに作る。澁縮高三  
 本、寂退二本、亦然り。集の一本、咸。に作るを見る。
- 特、永前本及保本、時に作るもの、形誤。

七三

七四

- 集の下、集に、月。藏。の二字あり。
- 末、曆本、未。に作るもの、形誤。末の上、集に、現。の  
 字あり。寂本之を補ふ。
- 三、四本、阪本、山本、一。に作る。案するに、此佛滅年  
 代は、下に引く末法燈明記に擧ぐる二説の中の前説に  
 依るものなるが、燈明記には五十三年に作るを、今典  
 の引文には五十一年に作り、今の文亦五十一年とす  
 もの、年表に合せず。恐くは錯本に従へるものなるべ  
 し。澁縮高三本、退本、之を訂すこと、今の如し。下  
 の八〇頁の●参照。
- 後堀川院等、此註、縮高二本、延本になし。阪本、山  
 本には、格上に在り。
- 七、諸本、八。に作る。六要鈔に、佛滅より延暦二十年  
 に至るまで一千七百五十歳なりとの燈明記の説より推  
 算して、佛滅より元仁元年に至るまで正に二千一百七  
 十三年なれば、八の字は七の寫誤なるべしといふ。或

七五

- は集主の誤算に出づるものか。退本、之を訂すこと今  
 の如し。縮本冠註に、「八疑七誤」といへり。
- 七、諸本、八。に作る。佛滅二千一百七十三年より正法  
 五百年像法一千年を控除せば、正に六百七十三歳な  
 り。退本、之を訂すこと、今の如し。
  - 末法等、已下所引の末法燈明記の文、誤脱頗る多し。澁  
 縮高三本、力めて之を訂す。案するに、集主所覽の本も  
 多錯謬多かりしなるべく、又書寫の誤も多かるべし。今  
 一傳教大師全集に收むる所の本  
 二僧錄の末法燈明記箋述  
 三佛敎大學所藏の存覺師書寫本(跋に曰く、延文三  
 歳戊戌七月五日以圓福寺本書寫之)  
 によりて校異をなす。便宜を以て序の如く全集、箋  
 述、圓福寺本と稱す。然るに全集と箋述とは、相一致す  
 る點多きが故に、以下二本といふ時は此二書を指すこ  
 と、知るべし。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①製、諸本、制に作る。縮高二本、延文延本、今の如し。</p> <p>②垂、四本、阪本、山本、乘に作る。記の三本、今の如し。箋述に、一本に乘に作るさいひ、若し垂風に從へば、風教を垂るゝの意なり、若し乘風に從へば風俗に乘じて德澤を行ふの意なりといふ。</p> <p>③盈の下、記の二本、子の字あり、圓福寺本、子の字あり。</p> <p>④猷、保曆文三本、阪本、山本、猶に作るもの、形誤。</p> <p>⑤溢の下、記の三本、手の字あり。</p> <p>⑥率容等、全集及圓福寺本、「天綱ニ率容シ、殿科ニ俯仰ス」と點す。寂蓮二本、藝本、この點に從ふ。率、四本、阪本、山本、字形正しからず。この字、「ヒキヒテ」と訓すべきか。綱、四本、綱に作るもの、形誤。</p> <p>⑦亦の下、圓福寺本、有の字あり。</p> <p>⑧替、四本、阪本、山本、證に作るもの、形誤。</p> <p>⑨逐、四本、阪本、山本、遂に作るもの、形誤。</p> | <p>⑩古、四本、阪本、山本、石に作るもの、形誤。</p> <p>⑪盛、四本、阪本、山本、減に作るもの、形誤。</p> <p>⑫濟、箋述に註して成也といひ、圓福寺本、齊に作りて「ト、ノヘンヤ」と訓す。濫高二本は讀方明かならず。</p> <p>⑬復、諸本になし。但、濫高二本、寂蓮二本、記の文によりて補ふこと今の如し。</p> <p>⑭旨際、記の三本、階降に作る。今文定んで階降の形誤ならんと思はるゝも、先きの私釋に旨際の語あれば、姑く之を存す。寂蓮二本、原文に從ふ。</p> <p>⑮試、永保二本、誠に作るもの、形誤。全集、或に作り、圓福寺本、式は作る。式は或の形誤か。</p> <p>⑯行、四本、阪本、山本になし。濫縮高三本、通本、記によりて之を補ふこと、今の如し。</p> <p>⑰僧の下、記の三本、之の字あり。</p> <p>⑱者、諸本、出に作り、「諸説ヲ出スコト、同シカラズ」と點す。但縮本、寂蓮二本、之を改むること、今の如し。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①千の上、記の二本、一の字あり。縮本、寂本、此字を補ふ。</p> <p>②所、箋述、處に作る。この句、諸本、「餘ノ所説ニ准ズルニ」と點す。濫本、記に從ふこと、今の如し。</p> <p>③修、四本、阪本、山本、順に作るもの、形誤。</p> <p>④用、諸本、同に作る。但寂蓮二本、記に從ふこと、今の如し。六要鈔に、同き用と各義ありて、「若依同字」是云菩薩凡夫不同、若依用字不被凡夫、言凡愚輩更不慣彼上位菩薩持法意也といへり。</p> <p>⑤日、圓福寺本になし。濫縮高三本、阪本、山本、之なきこと、圓福寺本の如し。</p> <p>⑥云、記の三本、如に作る。</p> <p>⑦依、記の三本、按に作る。寂本、之を改む。</p> <p>⑧僧、記の二本になし。寂蓮二本、之を削る。</p> <p>⑨住、諸本になし。但濫高二本、記によりて之を補ふ。</p> | <p>持若くは住持、諸本、正法より回る。濫本、縮本、正法不滅を一句とすること、今の如し。</p> <p>⑩年の下、四本、阪本、山本、後の字あるもの、寫剩。</p> <p>⑪逸の下、圓福寺本、會欲の二字あり。</p> <p>⑫二の下、記の三本、人の字あり。寂蓮二本、之を補ふ。</p> <p>⑬婢の下、記の三本、亦の字あり。</p> <p>⑭開、四本、開に作るもの、形誤。阪本、山本、亦然り。六要鈔に、「開與開、有異其本、開據能化教此觀」意、開演義也、開約所化、聽聞意也といふ。</p> <p>⑮娶、永保曆三本、聚に作るもの、形誤。</p> <p>⑯思の上、四本、阪本、山本、僧の字あるは、過剩。</p> <p>⑰千の上、四本、阪本、山本、爰日の二字あるもの、過剩。</p> <p>⑱拘、永保二本、濫高二本、圓福寺本、拘に作り、全集俱に作る。談、曆文二本、山本、全集、臆に作る。阪</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

七九

- 本は今の如し。
- 相、四本、阪本、山本になし。澁縮高三本、寂蓮二本、記によりて之を補ふこと、今の如し。
- 准、阪本、山本、準に作る。
- 箇、保曆文三本、阪本、山本、分に作るもの、形誤。
- 年、記の三本になし。縮本、寂蓮二本、之を削る。
- 般若等、四本、阪本、山本、「般若會ノ釋ニ云ク」といふもの、釋かならず。
- 之後、永保曆三本、阪本、山本、後之に作るもの、倒置。全集及圓福寺本は、「千五百年後行之正法滅盡」に作る。後行之の三字、讀み難し。
- 造塔の二字、四本、阪本、山本になし。澁縮高三本、記によりて之を補ふこと、今の如し。
- 是、記の三本、並に作る。縮本、寂本、記に従ふ。
- 問の下、記の二本、云の字あり。
- 記、四本、阪本、山本、説に作るもの、形誤。

八〇

- 三、圓福寺本は、一に作る。四本、阪本、山本、一に作ること、圓福寺本に同じ。年表を検するに、壬申の年は正に穆王の五十三年に當るか以て、三に作るを正す。澁縮高三本、運本、之を正す。
- 一、四本、阪本、山本になし。圓福寺本、また一の字なし。年表を検するに、匡王班は第二十一主なれば、記の二本、一の字あるを正す。餘本之を正すこと、今の如し。
- 知、諸本、如に作る。縮本、寂蓮二本、記に従ふこと、今の如し。
- 像法の二字、諸本になし。縮本、寂蓮二本、記によりて之を補ふこと、今の如し。諸本之なきは、恐くは寫脱。
- 有、箋述、依に作る。
- 問の下、記の二本、云の字あり。
- 重論等、諸本、「重子テ末法ヲ論ズルニ戒ナシ」と點

八一

す。但、寂本、今の如し。

- 豈の下、圓福寺本、非の字あり。「豈ニ瘡ナキニ自ラ以テ傷ムニ非ズヤ」といふも、「豈ニ瘡ナクシテ自ラ以テ傷マンヤ」といふも、共に瘡なきに自ら傷むことの無用なるを云ふなり。六要鈔に、非の字ある方、意得易しといへり。
- 答の下、圓福寺本、曰の字あり。
- 身の下、記の二本、之の字あり。
- 末、縮本、未に作るもの、誤植。
- 寶、永前本及保本、實に作るもの、形誤。
- 更、四本、阪本、山本になし。而してこの句、「福田ナカラシヤ」と點するもの、釋かならず。
- 信、永前本及保本、言に作るもの、形誤。
- 問の下、記の二本、云の字あり。
- 末、縮本、未に作るもの、誤植。
- 寶、永前本及保本、澁高二本、實に作るもの、形誤。

八二

八三

- 何、四本、阪本、山本になし。澁縮高三本、寂本、記によりて之を補ふこと、今の如し。
- 如、諸本、眞金爲無價寶より圓讀す。澁高二本の點、今の如し。
- 眞、圓福寺本になし。
- 石、箋述に、一本、拓に作る、石と銘、相通すといふ。
- 寶、諸本になし、今記によりて之を補ふ。
- 偽、永前本及保本、價に作るもの、形誤。
- 鐵、四本、阪本、山本、銘に作るもの、形誤。
- 錫、永保曆三本、阪本、山本、之を脱す。
- 寶、四本、阪本、山本になし。澁縮高三本、記によりて補ふこと、今の如し。
- 佛寶の二字、四本、阪本、山本、誤つて、寶佛法の三字に作る。寂本、佛法の二字に作る。
- 爲、四本、阪本、山本、之を脱す。
- 覽、全集、鐵に作る。澁高二本、全集の如し。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>八四</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●福田の上、四本、阪本、山本、初の字あるもの、過剩。田の字、永前本及保本、由に作るもの、形誤。</li> <li>●能示衆生等の八字、諸本、「破ニ能身衆生所ニ怖畏」の九字に作る。全集及圓福寺本、亦然り。箋述は今の如く、濫高二本また之に従ふ。縮本冠註に校異を掲ぐ。本據たる大集經の文、亦今の如し。寂本、亦之を改む。但可の字を、所に作る。</li> <li>●若、濫高二本、還本、記によりて之を補ふこと、今の如し。</li> <li>●是人の二字、諸本、上の句に屬するもの、釋かならず。濫高二本、寂本、今の如し。</li> <li>●得の下、全集、住の字あるもの、大集經の文に應ず。縮本冠註にこの事を掲ぐ。</li> <li>●來の下、四本、阪本、山本、像の字あるもの、過剩。</li> <li>●次の下、全集、圓福寺本、第の字あり。濫縮高三本、寂本、藝本、此字を補ふ。名の字、全集、圓福寺本、</li> </ul> | <p>八五</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各に作る。縮本、寂還二本、之に従ふ。</li> <li>●末の下、圓福寺本、法の字あり。</li> <li>●等、縮本、記によりて之を補ふこと、今の如し。</li> <li>●而今、諸本、而余に作る。記の二本は、但に余の一字に作り、圓福寺本は、而今に作る。今後者に従ふ。還本、余の一字に作る。</li> <li>●説、記の二本、文に作る。</li> <li>●制の下、圓福寺本、止の字あり。</li> <li>●世、四本、阪本、山本になし。世の字、記の二本には之の下に在り、還本これに従ふ。圓福寺本は、之の上に在り。濫縮高三本、藝本、後者に従ふこと、今の如し。</li> <li>●故、四本、阪本、山本、破に作るもの、形誤。</li> <li>●問の下、記の二本、云の字あり。</li> <li>●以、記の二本になし。</li> <li>●寶、四本、阪本、山本になし、還本亦然り。餘本、記によりて之を補ふこと、今の如し。</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>八六</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●然者の二字、箋述には、者何に作る。</li> <li>●乃至、此處四十三字を乃至す。</li> <li>●有、記の二本になし。</li> <li>●部の下、記の二本、之の字あり。</li> <li>●乃至、此處三十三字を乃至す。</li> <li>●也の下、記の二本、當知是人の四字あり。寂本、藝本、之を補ふ。</li> <li>●乃至、此處百二十一字を乃至す。</li> <li>●是の下、箋述、等の字あり。</li> <li>●文の下、四本、阪本、山本、法の字あるもの、過剩。</li> <li>●衆、記の二本、數に作る。衆の下、圓福寺本、法の字あり。</li> <li>●所明の二字、全集、時の一字に作り、圓福寺本、所の字なし。</li> <li>●然者、箋述、者何に作る。</li> <li>●破、箋述、毀に作る。</li> </ul> | <p>八七</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●失於、四本、阪本、山本、於失に作るもの、倒置。此句、記の二本、及失施戒慧に作り、圓福寺本、及於戒定慧に作る。</li> <li>●時、四本、阪本、山本になし。濫縮高三本、寂本、藝本、記によりて之を補ふこと、今の如し。</li> <li>●彼明、箋述、明被に作る。四本、阪本、山本、また然り。濫縮高三本、全集及圓福寺本に従ふこと、今の如し。「彼ニ護ヲニ聖ニ聽スコトヲ明スヤ」は、前に引く大集經に、羅漢及須陀洹の二聖に、國王を守ることを聽すの文あるを指すなり。此文、今典乃至して引かず。</li> <li>●滅、永保二本、滅に作るもの、形誤。</li> <li>●涅槃の下、圓福寺本、經の字あり。</li> <li>●逐、保曆文三本、遂に作るもの、形誤。</li> <li>●當、全集になし。沮の字、四本、阪本、山本、類に作る。縮本、還本、記に従ふこと、今の如し。濫高二本、藝本、沮に作る。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

八八

① 像、圓福寺本になし。  
 ② 化、四本、阪本、山本、如是に作りて以下を乃至するもの、意通じ難し。澁縮高三本、寂本、記の如く、化作に改む。今更に乃至せる、須陀洹身の三字を補ふて、義意を通暢し易からしむるこゝ、寂本の如し。  
 ③ 乃至、此處四十九字を乃至す。  
 ④ 畜、永前本及保本、文に作るもの、形誤。  
 ⑤ 婢、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ⑥ 使、記の二本、從に作る。  
 ⑦ 鏡、保曆文三本、阪本、山本、鏡に作るもの、形誤。永本、鏡に作り、縮本、寂選二本、藝本、鏡に作る。澁本、延本は、鏡に作るこゝ、箋述の如し。  
 ⑧ 植、四本、阪本、山本、之を脱す。圓福寺本、殖に作る。  
 ⑨ 販、四本、阪本、山本、敗に作るもの、形誤。  
 ⑩ 積、諸本になし、縮本、寂選二本、藝本、記の二本によりて之を補ふこゝ、今の如し。

八九

① 悲、記の三本、慈に作る。  
 ② 畜、圓福寺本、蓄に作る。高本之に従ふ。畜の下、四本、阪本、山本、之の字を脱す。  
 ③ 畜、高本、蓄に作る。  
 ④ 流、全集、圓福寺本、説に作る。  
 ⑤ 中、圓福寺本、文に作る。  
 ⑥ 且、四本、阪本、山本、其に作るもの、形誤。  
 ⑦ 准、阪本、山本、準に作る。記にまた準に作る本あり。  
 ⑧ 乃至、此處二百三十字を乃至す。  
 ⑨ 輪、永前本及保本、論に作るもの、形誤。輪の下、縮本、寂選二本、藝本、記の二本に從ふて、經の字を補ふ。言の字、記の二本、云に作る。  
 ⑩ 我、永保二本、或に作るもの、形誤。  
 ⑪ 又の下、圓福寺本、等の字あり。  
 ⑫ 鑽、永保二本、鑽に作る。

九〇

① 著、曆本、箸に作るもの、形誤。  
 ② 才、全集、勢に作り、箋述は、財に作り、十輪經の文は、力に作る。還本、力に改む。  
 ③ 牛、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ④ 死、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ⑤ 滿、四本、阪本、山本、濁に作るもの、形誤。  
 ⑥ 鬚、箋述、鬢に作る。永保二本亦然り。  
 ⑦ 施、四本、阪本、山本、於に作りて、「供養ヲ捨テン」といふもの、錯誤。縮本、於に作り、冠註に校異をなす。捨、記の二本、信に作る。寂選二本、藝本、信施に作る。  
 ⑧ 無量の下、記の三本、阿僧祇の三字あり。寂選二本之を補ふ。  
 ⑨ 有、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ⑩ 將來末世の四字、圓福寺本、將未來世に作る。  
 ⑪ 垂、四本、阪本、山本、乘に作るもの、形誤。

九一

① 正使の二字、四本、阪本、山本、「正シク……セシメン」と點するもの、釋かならず。正使の下、全集、比丘の二字あり。  
 ② 禮敬、記の三本、研視に作る。  
 ③ 大集、諸本になし。今全集に從ふて之を補ふ。蓋し此文、賢愚經の後に在りて又云「いふが故に、同經を指すが如きも、實は大集經月藏分忍辱品の文なれば、大集の二字あるの本を優れり」とす。  
 ④ 戒、四本、阪本、山本、知に作り、「身ニ袈裟ヲ著タルヲ知ルヲナカラン」といひ、澁高三本、同じく知に作り、「破戒無知ナルモ身ニ袈裟ヲ著タルヲ打罵セバ」と點す。縮本、寂選二本、藝本、記に從ふこゝ、今の如し。  
 ⑤ 法の下、澁縮高三本、故の字あるこゝ、記の二本の如し。  
 ⑥ 鑽、箋述、鬢に作る。永保二本また然り。

九二

①爲、四本、阪本、山本、涅槃の下に在るもの、錯置。  
 ②乃至、此處六十七字を乃至す。  
 ③將來、記の二本、後末に作り、圓福寺本、當來に作る。  
 ④盡、記の三本になし。  
 ⑤當、諸本、再讀せず。寂本、若に作る。  
 ⑥已、四本、阪本、山本、己の字に作り、下の句に屬して、「己が手ニ兒ノ臂ヲ牽キ」と點す。  
 ⑦從、四本、阪本、山本、彼に作るもの、形誤。  
 ⑧雖の下、圓福寺本、以の字あり。  
 ⑨一切皆當得般、槃斯賢劫の十一字、四本、阪本、山本に脱す。滋高三本、寂通二本、皆之を補ふ。但し斯の字、滋高二本、此に作る。  
 ⑩第四、四本、阪本、山本、弟子に作るもの、形誤。  
 ⑪至、全集、遮に作る。後の一處亦然り。  
 ⑫但使、四本、阪本、山本、「タ、……シム」と點するもの、標かならず。

九三

⑬汗沙門の三字、四本、阪本、山本に脱す。  
 ⑭形、永前本及保本、戒に作るもの、形誤。  
 ⑮當、四本、阪本、山本、尙に作るもの、圓福寺本に應ず。當の字を優れりせずべし。  
 ⑯賢劫の下、記の二本、中の字あり。  
 ⑰是、四本、阪本、山本、來に作るもの、形誤。  
 ⑱測、永保曆三本、阪本、山本、例に作るもの、形誤。  
 ⑲乃至、此處二十二字を乃至す。文本、乃至の二字なく、一字空白。  
 ⑳將來末世の四字、圓福寺本、將來末世に作り、「未來世名字ノ比丘ヲ將テ」と點す。  
 ㉑制非制等、諸本の點異あり。  
 ㉒四本、縮本、阪本、山本、「非制ヲ制スル者ハ、是レ則チ三明ヲ斷ズ、記說スル所、是レ罪アリ。」永前本及保本、記說を說說に作る。  
 ㉓滋高二本、「非制ヲ制スル者、是レ制三明ノ記スル所

九四

チ斷ズ、說是罪アリ。」  
 寂通二本、「律ニ非制ヲ制スト云ヘルハ是ナリ、則チ三明ヲ斷ズ、記說スル所是レ罪アリ」  
 全集、「制ニ非制者、是制斷ニ三明所記、豈有罪。」  
 圓福寺本、「制ニ非制者、是即斷ニ三明所說、說豈有罪。」  
 箋述、「制ニ非制者、是則斷ニ三明所記、說是有罪」  
 ①當の下、圓福寺本、以の字あり。  
 ②乃至、以下五所の乃至、皆經文を略す。  
 ③題號、高本、山本、卷を分たざるが故に、この題號なし。阪本、卷を分つと雖も此題なし。延本亦然り。  
 ④本、永保二本、小書す。題號の後、永保二本、愚禿釋親鸞集の六字、曆本、兩筆本、愚禿親鸞の四字あり。

化土卷末

⑤題號及撰號、高本、山本、卷を分たざるが故に之を安ざること、信卷末の如し。延本亦なし。阪本、紙の左面に始まりて、初行に題號及撰號を安す。  
 ⑥末、永保二本、小書す。阪本になし。  
 ⑦歸依等、此文五言の偏頤。  
 ⑧者の下、經に、「眞名優婆塞」の一句あり、今之を略して前後を連接す。寂本、還本、此一句を補ふ。  
 ⑨乃至、此處廿四字を乃至す。  
 ⑩乃至、此處二句十四字を乃至す。  
 ⑪不得拜天等、此句、寂本、還本、「天祠祀神ヲ拜スルコトヲ得サレ」と點す。これ本經の意に従ふものなり。現點は、上の不得拜於天の句に照應せんが爲なるべし。  
 ⑫大乘大方等等、以下廣く大集經の文を引く。此經第三

十四卷より第四十五卷に至る日藏分十二卷は、宋元明三本にては、別行して十卷を爲し、題して大乘大方等日藏經といふ。第四十六卷より第五十五卷に至る十卷は同じく別行して、大方等大集月藏經と題す。今本經と對校するに、集主所覽の本は宋本なるが如し。

已下轉聲の通し難きもの少からず。文意を案じて之を改む。著しきもの、外は、一々校異を掲げず。

爾時等、此文、光味仙人、佉羅城山に於て佛勅を受けて、諸龍の爲に佉羅城吒仙人の事縁を説く語にして、爾時とは往昔賢劫の初を指すなり。

儻、四本、誼本、儻に作る。高本、阪本、山本、備に作る。こと經の如し。縮本冠註に校異をなす。延本には主儻の二字に、「メシトモガラ」の左訓を附するを以て、主儻は猶主伴といふが如し。今主儻に作るは、正しく相當するの義なり。

濟、永前本及保本、齊に作るもの、形誤。

上<sup>○</sup>の下、永本更に上の字あるもの、重複。  
斯<sup>○</sup>、曆本、期に作るもの、形誤。文本は、是に作る。

喧<sup>○</sup>暖、永保二本、瞶瞶に作り、曆文二本、山本、瞶瞶に作り、阪本、寂本、喧暖に作る。餘本、經に従ふこと今の如し。

大、永保二本、太に作る。

我所置法等、已下、四本、阪本、山本「我が置ク所ノ法、其事是レ二十八宿及ビ八大星ノ所行諸業ニアラズ、汝ガ喜樂ハ是ノ爲メ非ノ爲メニセズ、宜シク各宣説スベシ」と點するもの、釋かならず。喜樂の樂、寂本「ゲフ」の音を附す。

如今の二字、諸本「今大仙ノ如キハ」と點す。今寂本、還本に従ふ。

忘、永保二本、忌に作るもの、形誤。不忘の二字、諸本皆上の句に屬す。今縮本、藝本に従ふ。

天人之間の四字、四本、阪本、山本、上の句に屬して

六

讀むもの、釋かならず。  
我等の二字、四本、阪本、山本、下の句に屬するもの、釋かならず。

領、經の元明二本、饒に作る。寂本、眼に作り、「ニギハス」の訓を附す。

俱、四本、阪本、山本、下に屬して「俱ニ」と讀むもの、釋かならず。毘留茶俱の四字、一名をなす。

梨、永保二本、般に作る。

隸、四本、阪本、山本、隸に作るもの、形誤。

多の下、永保二本、有の字あり。

維、永保二本、惟に作るもの、形誤。

皆、文本、此に作る。

擁護、諸本、下の及諸城邑の語に流至せしむ。今縮本、藝本に従ふ。

爲於等の句、經の諸本異あり。  
宋本、「爲於諸天龍……」

八

元明二本「爲於衆生演說法已、時諸天龍……」  
曆本、「說法已、諸天龍……」

今典の四本、阪本、山本、宋本に順す。然るに、宋本、爲於の二字讀み難し、定んで誤脱あるべし。高本、寂

還二本、元明二本に依りて、爲於の下、衆生等の七字を補ふこと、今の如し。但し高本無點。縮本、冠註に元明二本の文を掲ぐ。

抵、永保二本、埤に作る。曆文二本、埤に作るもの、形誤。

爾時等、此文の前、覺王波旬、諸龍の光味仙人の言を信受して三寶に歸依するを見聞し、驚怖して七言八句の偈を以て、佛及び法を誇りて自法を稱讚すること、説く。而して後に此文あり。

名稱福德、四本、阪本、山本「名ケテ福德ト稱ス」といふもの、釋かならず。

乃至、この處七十八字を越却す。



九

●乃至、此處七言四句の頌を乃至す。已下の偈、佛徳を讚嘆するなり。

●父、永前本、又を作るもの、形誤。

●乃至、此處二百二十一字を乃至す。

●若有衆生等、此偈、阪本句間を離し、二句一行に書す。

●持の字、諸本、散の字と熟して點す。此所の讀法、寂本、還本に従ふ。

●乃至、此處七言十六句を乃至す。

●乃至、此處九百四十四字を乃至す。已下は、佛光味菩薩の爲に念佛の方軌を説くの文なり。

●應、永前本及保本、覺に作るもの、形誤。應の字、寂本、還本、下の無使亂心より回る。

●齋、曆文、本、齊に作るもの、形誤。

●見佛等、此句、諸本、佛ノ色身無量無邊ヲ見タテマツルと點す。今寂本、還本に従ふ。

●日藏經の上、阪本、大乘大方等の五字を記し、後之を

塗抹す。

●乃至、此處七言八句を乃至す。以下の偈、阪本、句間を離して書す。

●受我等、此句、四本、阪本、山本、「我が禮ヲ受ケタマヘ、一切ノ殃ヲ懺セシム」と點す。

一二

●願我等、此句、四本、「願クハ我レ今日世ノ導師ヲ供養シ恭敬シ尊重シタマヘル所ナリ」と點じ、阪本、山本、「……尊重シタテマツル所ナリ」と點す。濫高二本の點は、今の意なり。

●平等、此句、四本、阪本、山本、「平等無二ノ心ニシテ」と點じ、濫高二本、「平等ニシテ一心ナシ」と點す。寂本、寂本の點、今の如し。

●含忍、濫高二本、「含忍シタマヘ」と點す。還本は「シタマフ」に作る。

一三

●諸仁者等、以下、佛諸惡鬼神に告ぐるの文なり。此品の文、麗本大に餘本と異なり。所引の文、麗本にては左

如し。

休息邪見、獲十種功德。何等爲十。一者、心性柔善、朋侶賢良。二者、信有業報、乃至壽命不起諸惡。三者、敬信三寶、設爲活命、不信天神。四者、得於正見、不惟異事、亦不簡擇良日吉時。五者、常生人天、離諸惡道。六者、常樂福德、明人讚譽。七者、棄俗禮儀、常求聖道。八者、離斷常見、入因緣法。九者、常與正趣正發信人、共相會遇。十者、身壞命終得生善道。諸仁者、是名休息邪見、得十種功德。若能以此休息邪見善根、迴向阿耨多羅三藐三菩提、是人速滿六波羅蜜、於善淨佛土、而成正覺。得菩提已、於彼佛土、功德智慧一切善根、莊嚴衆生、來生其國、不信天神、離惡道畏、於彼命終還生善道。

●柔の右、阪本、山本、頌の字を書す。  
●侶、永前本及保本、呂に作るもの、形誤。

一四

●信有等、此句、四本、阪本、山本、「業報乃至壽命アルヲ信シテ」と點す。  
●見、永前本及保本、覺に作るもの、形誤。  
●得賢善等、此句、四本、阪本、山本、「賢善ノ心明カナルコトヲ得テ人讚譽セシム」と點す。今の點、明人は明智の人の義なり。  
●功德智慧等、此所、四本、阪本、山本、「功德智慧一切ノ善根、衆生ヲ莊嚴セム。其國ニ來生シテ天神ヲ信セズ」と點す。寂本、還本は、「功德智慧一切ノ善根莊嚴セル衆生、其國ニ來生シテ」と點す。今の點、濫高二本の如し。

●佛出世等、已下十二句、五言の偈頌。此偈、阪本句間を離す。

●知足、永前本及保本、知是に作り、以下の句を「知是(知ル是レの意か)第一ニ正法ヲ聞クコトヲ得難シ、能ク修スルヲ難シ、第二ニ離ヲ知ルコトヲ得難シ」と點

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一五 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●一、永前本及保本、二に作るもの、形誤。</li> <li>●乃至、此處五言百二十四句を乃至す。</li> <li>●訖、諸本之を脱す。但、縮本、藝本、經によりて之を補ふこと、今の如し。寂本は、己の字を補ふ。</li> <li>●示世間故等、古本に「世間ニ示サントシテ、コトサラニ娑婆世界ノ主大梵天王ニ問フテ言マハク」と點す。寂本、退本、亦然り。</li> </ul>                                                                                                                                                                   |
| 一六 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●率、四本、山本、字形正しからず。阪本、率に作ること、餘本の如し。已下所々之に同じ。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 一七 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●又、曆本、阪本、山本になし。この字、經の宋元明三本にあり、麗本にはなし。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 一八 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●囉、曆本、扇を目に作る。已下所々又同じ。</li> <li>●婆、曆本、波に从ひ木に从ふもの、形誤。</li> <li>●女、永本、子に作るもの、形誤。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 一九 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●角、曆文二本、甬に作るもの、形誤。以下の一處亦然</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 二〇 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●氏、四本、山本、互に作り、阪本は、互に作る。以下の一所亦然り。</li> <li>●線、四本「シヤク」の音を附し、「星黒反、須陵反」の音註あり。兩筆本亦然り。縮高二本、阪本、山本、この註なし。此字、經の音釋に想里切とあり。今の音註、錯誤あるに似たり、依て之を省く。延本、緯に作り、音註なし。</li> <li>●者、曆文二本に脱す。</li> <li>●二、永本に脱す。</li> <li>●佛、四本、阪本、山本、上に屬して「佛ニ相應ス」と點するもの、釋かならず。</li> <li>●此圓淨提の四字、諸本上に屬して點す。寂退二本、今の如し。</li> <li>●齋、曆文二本、齋に作るもの、形誤。</li> <li>●與夜叉衆等、此句、寂本「夜叉衆ノタメニ圍繞セラレ</li> </ul> |
| 二二 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 二二 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●藏菩薩を呼んで了知清淨土といふなり。今典土の字に作るもの、錯本に従ふか。信卷本、心如来會の文を引きて諸智士を諸智土とす同例なり。諸註多く、人壽二萬歳以上は世に五濁なきが故に清淨土と云ふと解す。下の一處亦同じ。</li> <li>●迴生死輪等、此句、四本、阪本、山本「生死ニ迴シテ正法輪ヲ輪轉セシム」と點じ、延本は、「生死ニ輪轉シテ正法輪ヲ轉セシム」に作る。</li> <li>●果の字、諸本、「チ」の點を附す。濫本、寂本、退本、今の如し。</li> <li>●怒、諸本、他に作る。縮本、寂本、經に従ふこと、今の如し。</li> <li>●囉、曆文二本、属に作る。</li> <li>●囉、曆文二本、属に作る。</li> <li>●付の下、永保二本、囉の字あり。</li> <li>●了知清淨土、諸本、「清淨土ヲ了知スルニ」に作り、寂</li> </ul> |
| 二六 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 二七 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 二八 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 二四 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●是、阪本、山本、此に作る。</li> <li>●還於彼、此句、永保二本、「彼ニ還テ」と點じ、其他の諸本、「還テ彼ニ於テ」と點す。今還の字「マタ」と讀むもの、寂本、退本に従ふ。</li> <li>●了知清淨土、諸本、土を土に作り、「清淨土ヲ了知スルニ」と點す。但寂本今の如し。案するに本經は、佛月</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                            |
| 二五 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 二三 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●賊、永保曆三本、波に作るもの、形誤。濫、四本、縮本、阪本、山本、泊に作る。濫高二本、寂退二本、經に従ふこと、今の如し。字彙に、「濫音薄、波濫也」といふ。</li> <li>●卵、曆本、卵に作るもの、形誤。</li> <li>●住、保曆文二本、往に作るもの、形誤。諸本、「還往シ」と點す。寂本、退本、今の如し。</li> <li>●是、阪本、山本、此に作る。</li> <li>●還於彼、此句、永保二本、「彼ニ還テ」と點じ、其他の諸本、「還テ彼ニ於テ」と點す。今還の字「マタ」と讀むもの、寂本、退本に従ふ。</li> <li>●了知清淨土、諸本、土を土に作り、「清淨土ヲ了知スルニ」と點す。但寂本今の如し。案するに本經は、佛月</li> </ul>                                                       |
| 二四 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 二五 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>本今の如きこと、先の二五頁の⑤に同じ。此清淨土を解するにつき、一の困難あり。そは人壽二萬歳已上にして五濁なきを以て清淨土と稱すせば、過去の三佛の出世は清淨土なるべきも、釋迦佛出世の時は五濁盡なるを以て、清淨土と稱すべからざるの理なり。故に報恩記は、了知清淨土の五字を上文に屬して科し、如是次第已下を、今佛付囑の一段とす。又集成記には、諸佛出世し佛法流布するの地なるが故に、清淨土と稱すといふ。指授鈔も亦この意にして、却て本經の清淨土に作るを寫誤とす。</p> <p>⑤世間の二字、四本、高本、阪本、山本、下に屬し、「一切諸惡鬪鬪ナラン、世間ハ譬ヘバ海水ノ一味ニシテ大鹹ナルガ如シ」と點す。</p> <p>⑥大、永本になし。</p> <p>⑦菩提樹下の四字、保曆文三本、阪本、山本、上に屬し、「菩提樹下ニ出世シテ」と點す。</p> | <p>⑧受提謂等、此句、曆文二本、山本「受提、波利ニ謂ハク、諸ノ商人食セン」と點するもの、穩かならず。保本、正しき點と並びて、この點を施せるに似たり。阪本及び餘本の點今の如し。</p> <p>⑨集、誰高二本、下の摩訶薩等より回讀せしむ。寂蓮二本亦然り。</p> <p>⑩於の字、寂蓮二本、下の非想非非想處より回讀す。</p> <p>⑪略數、諸本、「數ヲ略セリ」と點す。今寂本に従ふ。</p> <p>⑫於、四本、阪本、山本、下の富單那等より回讀す。</p> <p>⑬利、曆本、利に作るもの、形誤。</p> <p>⑭而我有失等、此句、四本、阪本、山本「而シテ我ニ失アリヤ不ヤ、己ガ名及ビ帝釋ノ名ヲ彰ハス」と點するもの、穩かならず。不の字、永保二本、否に作る。</p> <p>⑮如小兒等、此句、誰本、寂本、蓮本「小兒ノ愚癡無智ナルガ如ク」と點す。</p> <p>⑯不自稱名、曆文二本、阪本、山本「自ラ稱名セザラン</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ヤ」と點するもの、穩かならず。</p> <p>⑰於境界等、此句、諸本「我レ境界ニ於テ、言說教令ス、自在ノ處ヲ得テ、護持養育スベシ」と點す。今誰本、寂蓮二本の點に従ふ。下の二處亦同じ。</p> <p>⑱勤、字書に勤に通ずといふ。寂蓮二本、「ツトメテ」の訓に改む。下の數所亦同じ。</p> <p>⑲如、誰本、寂蓮二本、下の頂受佛勅より回讀す。</p> <p>⑳向、永本になし。</p> <p>㉑害、永前本、容に作るもの、形誤。於他の二字、四本阪本、山本、下の句に屬す。</p> <p>㉒所有修行等、此句、四本、阪本、山本「檀波羅蜜ヲ修行スルコト有ラン所ノ者」と點す。</p> <p>㉓説、文本、脱に作るこゝ、經の躰本の如し。恐くは共に形誤なるべし。</p> <p>㉔汝等等、以下の諸句、四本、高本、阪本、山本の點、左の如し。</p> | <p>汝等當ニ、彼ノ諸ノ衆生ト、念持方便シテ、堅固力ヲ得ベシ、所聞ニ入テ忘レズ、諸法ノ相ヲ智信シテ、生死ヲ離レシメ、八聖道ヲ修シテ、三昧ノ根相應セシム。</p> <p>㉕勤、永保二本、勤に作る。</p> <p>㉖得利益安樂、諸本、「利益安樂ヲ得ン」と點す。今寂本に従ふ。</p> <p>㉗波、曆本、婆に作るもの、形誤。</p> <p>㉘害、永前本、容に作るもの、形誤。</p> <p>㉙與彼施主、四本、阪本、山本、「彼ノ施主ト」と點す。</p> <p>㉚我告等、已下の偈、高本、前の長行と區別し、三句を一行に書す。阪本亦然り。</p> <p>㉛留の下、四本、縮本、孫の字あるもの、過剩。五言一句をなせばなり。</p> <p>㉜後、永保二本、復に作るもの、形誤。</p> <p>㉝宿曜、縮本、寂本の外、皆、曜宿に作るもの、倒置。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>四〇</p> <p>●今我於大眾前等の四句、古來解し難しきなり。長行に之に應ずる文なし。高本、置の字に、「タモテ」の訓を附す。寂本は「今大眾ノ前ニ於テ、數數我ヲ憫亂ストモ、マサニ説法ヲ捨スベシ、我ニ置テ護持セシムレバナリ」と點す。延本は「イマ大眾ノマヘニシテシバ、ワレヲ憫亂セン、マサニスツベシ、法ヲトキテワレヲオイテ護持セシメヨ」に作る。姑く餘本の點に従ふ。</p> <p>●導、永前本及保本、道に作るもの、形誤。</p> <p>●王、經の元明二本、至に作る。寂暹二本、至に改む。</p> <p>●座、高本、坐に作るもの、恐くは誤植。</p> <p>●令、四本、阪本、山本、今に作るもの、形誤。</p> <p>●乃至、此處、八百九字を乃至す。以下文を盡すに至るまで、五言の偈頌。高本長行と區別し、三句を一行に書す。阪本亦然り。</p> <p>●四天、四本、濫本、四天王の意なきに似たり。寂暹二本、亦この意にて王の字を補ふ。今四天を四天下の</p> | <p>四二</p> <p>●乃至、此處八句を乃至す。</p> <p>●王、寂暹二本、改めて、至きなき。</p> <p>●整、曆文二本、惣に作るもの、形誤。</p> <p>●勤、四本、山本、勤に作る。</p> <p>●然、曆本、山本、燃に佐るもの、形誤。阪本、燃に作り格上に、然の字を書す。</p> <p>●乃至、此處、提頭賴吒天王護持品第十一の殘餘と、毘樓勒又天王品第十二、毘樓博又天王品第十三と、而して毘沙門天王品第十四の初文とを越隔して、前後を接続す。已下は毘沙門眷族の語なり。寂本、乃至の二字を改めて已上となし、次に、「毘沙門天王品言」の七字を挿入す。</p> <p>●闍浮提等、此句、寂暹二本、「闍浮提ノ北方ノ諸ノ佛法」と點す。濫本亦この意なるが如し。高本、延本、「闍浮提ノ北方ノ(延本、トノ)諸佛ノ法」と點す。</p>              |
| <p>四一</p> <p>●月藏經の上、阪本、大乘大方等の四字ありて之を塗抹す。</p> <p>●若有等、此句、四本、阪本、山本、「己ガ苦ヲ厭ヒ樂ヲ求ムルヲ愛スルコトアラバ」と點するもの、種かならず。</p> <p>●類、永保二本、變に作る。</p> <p>●有以非法等の數句、諸本の點左の如し。</p> <p>●非法ヲ以テ憫亂ヲ作シ、罵辱毀訾シ、手ヲ以テ刀杖打縛シ研截スルコト有ラン、若シ衣鉢ヲ奪ヒ及ビ種種ノ資生ノ具ヲ奪ハシ者、云々。</p> <p>●寂暹二本、藝本、今の如し。但寂暹二本、手の字を削る。</p> <p>●背、經に、嘗に作る。</p> <p>●挑、四本、排に作るもの形誤。四本、阪本、山本は、「ハラフ」と訓す。寂本、「クダラ」と點するこゝ、今の如し。</p> <p>●墮、曆文二本、隨に作るもの、形誤。此句、四本、阪</p>                                                         | <p>四五</p> <p>●本、山本、「諸ノ天人ヲシテ利益ヲ得ザラシメン、地獄ニ墮セン」と點す。</p> <p>●故、濫本二本、寂本、經によりて之を補ふこゝ、今の如し。餘本皆この字なし。</p> <p>●又言の二字、山本になし。寂本、亦之を削る。永保曆三本、又言の右傍に、「又月藏分云イ」の註あり。但月の字、保本日を作る。阪本今の如し。</p> <p>●有の下、於彼諸來の四字を略す。</p> <p>●有の下、百二十三字を略す。</p> <p>●著袈裟等、此句、四本、阪本、山本、「袈裟ヲカカニ著ン者」と點す。片を肩とするの意か。高本、片を、「カタク」と訓す。延本は、「袈裟ノカタハシチキンモノ」に作る。</p> <p>●少の下、百十二字を略す。</p> <p>●等の下、經に、於佛所有聲聞弟子の八字あり。</p> <p>●亂の下、八字を乃至す。</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>四四</p> <p>●月藏經の上、阪本、大乘大方等の四字ありて之を塗抹す。</p> <p>●若有等、此句、四本、阪本、山本、「己ガ苦ヲ厭ヒ樂ヲ求ムルヲ愛スルコトアラバ」と點するもの、種かならず。</p> <p>●類、永保二本、變に作る。</p> <p>●有以非法等の數句、諸本の點左の如し。</p> <p>●非法ヲ以テ憫亂ヲ作シ、罵辱毀訾シ、手ヲ以テ刀杖打縛シ研截スルコト有ラン、若シ衣鉢ヲ奪ヒ及ビ種種ノ資生ノ具ヲ奪ハシ者、云々。</p> <p>●寂暹二本、藝本、今の如し。但寂暹二本、手の字を削る。</p> <p>●背、經に、嘗に作る。</p> <p>●挑、四本、排に作るもの形誤。四本、阪本、山本は、「ハラフ」と訓す。寂本、「クダラ」と點するこゝ、今の如し。</p> <p>●墮、曆文二本、隨に作るもの、形誤。此句、四本、阪</p> | <p>四五</p> <p>●本、山本、「諸ノ天人ヲシテ利益ヲ得ザラシメン、地獄ニ墮セン」と點す。</p> <p>●故、濫本二本、寂本、經によりて之を補ふこゝ、今の如し。餘本皆この字なし。</p> <p>●又言の二字、山本になし。寂本、亦之を削る。永保曆三本、又言の右傍に、「又月藏分云イ」の註あり。但月の字、保本日を作る。阪本今の如し。</p> <p>●有の下、於彼諸來の四字を略す。</p> <p>●有の下、百二十三字を略す。</p> <p>●著袈裟等、此句、四本、阪本、山本、「袈裟ヲカカニ著ン者」と點す。片を肩とするの意か。高本、片を、「カタク」と訓す。延本は、「袈裟ノカタハシチキンモノ」に作る。</p> <p>●少の下、百十二字を略す。</p> <p>●等の下、經に、於佛所有聲聞弟子の八字あり。</p> <p>●亂の下、八字を乃至す。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

四六

①龍の下、經に、乃至迦吒の四字あり。  
 ②根、四本、阪本、山本、相に作るもの、形誤。  
 ③陋の下、百二十字を乃至す。  
 ④令彼等、此句、永保曆三本、阪本、山本「彼ヲシテ復我等共ニ住シ共ニ食ヲ與フルコトヲ得ザラシメン」ニ點するもの、釋かならず。  
 ⑤又言等、此文、又言と標し、前來の大集經忍辱品を指すが如きも、實は舊譯華嚴經第廿四、十地品の下、第二地を明す中に出づ。當に華嚴經言とあるべきなり。然るに阪本此文なし。而して上文と次の文との間に小圖を附す。阪本餘所の例に徴すれば、字間の小圖は脱落を示すものなれば、此華嚴經の文、阪本になきもの、恐くは誤脱なるべし。  
 ⑥修習、經に習行に作る。  
 ⑦首楞の右、保曆二本、二帖の二字を小書す。延本に於て此卷此處より第二册とされるが故にして、元より後

四七

人の所爲なり。異本解説の一八頁、參照。  
 ①群、曆本、郡に作るもの、形誤。  
 ②妖、曆文二本、阪本、山本、媛に作るもの、形誤。  
 ③坑、永保二本、坑に作るもの、形誤。  
 ④誑、永保二本、誑に作る。誑惑無識、諸本直讀す。但延本今の如し。  
 ⑤耗、四本、阪本、山本、耗に作るもの、形誤。  
 ⑥道の下、山本、已上の二字あり。  
 ⑦祭の上、經に、祠の字あり。濫縮高三本、之を補ふ。  
 ⑧乃至、此處七十六字を越却す。  
 ⑨生極重等、此句、濫本の外、皆「極重大罪惡業ヲ生ジ無間罪ニ近ヅク」ニ點す。  
 ⑩令、經の宋明麗三本、合に作る、元本今の如し。  
 ⑪師、諸本、即に作り、即便を熟して訓す。縮本冠註に校異をなす。師便得罪の語、經の前後の文に屢出づ。  
 ⑫乘、永前本及保本、葉に作るもの、形誤。

四八

①務、經に、敬に作る。高本、藝本、經文に従ふ。但し高本、敬に「ツカヘ」の訓を附す。縮本は冠註に校異をなす。  
 ②禮の下、經の宋元二本に、拜の字あり。  
 ③婆、經に、波に作る。已下の二處また附り。  
 ④闍那、闍多譯、この註、阪本、山本には、格上に在り。濫高二本之を除く。闍、曆本、闍に作り、文本、闍に作るもの、形誤。闍、永保二本、堀に作るもの、形誤。  
 ⑤髻、曆本影に从ひ、古に従ふもの、形誤。下の一處亦同じ。  
 ⑥乃至、此處、十二字を乃至す。  
 ⑦邊の下、八十二字を乃至す。  
 ⑧男等虛祀等、七言四句の偏頌。下の一處亦然り。  
 ⑨脫、經に脱に作る。脱は皮を脱くの意なり。  
 ⑩婆、阪本、波に作るこゝ經の如し。  
 ⑪實、曆本、實に作るもの、形誤。

四九

①善女人、善、永本になし。人、文本、子に、作る。  
 ②妖孽、妖の字、曆文二本、阪本、山本、媛に作るもの、形誤。孽、永保二本、孽に作り、曆文二本、山本、薩に从ひ、木に从ひ、草本、薩に从ひ女に从ふもの、共に形誤。此處、四本、阪本、山本の點、左の如し。  
 世間ノ邪覺外道妖孽ノ師ノ妄說ヲ信シテ、禍福便チ生ゼン、恐クハ動モスレバ心自ラ正シカラズ、云々。  
 ③禍、永前本及保本、福に作るもの、形誤。  
 ④題、曆文二本、鬼に从ひ、岡に从ふは、形誤。  
 ⑤祐、曆文二本、阪本、山本、菰に作るもの、形誤。  
 ⑥令、濫本、寂本、藝本、下の無有出期より回讀す。  
 ⑦乃至、以上は、九種の横死を説く中の初横の文なり。此處、二より七に至る横死の文を乃至す。  
 ⑧菩薩戒經、梵網經を指す。此文、經の四十八輕垢罪を説く中、第四十輕垢罪の下に在り。此經は、菩薩戒を説くが故に、此の稱あり。

五〇

①務、經に、敬に作る。高本、藝本、經文に従ふ。但し高本、敬に「ツカヘ」の訓を附す。縮本は冠註に校異をなす。  
 ②禮の下、經の宋元二本に、拜の字あり。  
 ③婆、經に、波に作る。已下の二處また附り。  
 ④闍那、闍多譯、この註、阪本、山本には、格上に在り。濫高二本之を除く。闍、曆本、闍に作り、文本、闍に作るもの、形誤。闍、永保二本、堀に作るもの、形誤。  
 ⑤髻、曆本影に从ひ、古に従ふもの、形誤。下の一處亦同じ。  
 ⑥乃至、此處、十二字を乃至す。  
 ⑦邊の下、八十二字を乃至す。  
 ⑧男等虛祀等、七言四句の偏頌。下の一處亦然り。  
 ⑨脫、經に脱に作る。脱は皮を脱くの意なり。  
 ⑩婆、阪本、波に作るこゝ經の如し。  
 ⑪實、曆本、實に作るもの、形誤。

五一

①實、曆本、實に作るもの、形誤。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>五二</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抄出、永保二本、出抄に作るもの、倒置。</li> <li>神の下、起信論の原文、之の字あり。</li> <li>証惑、論文、惑亂に作る。</li> <li>座、永前本及保本、虚に作るもの、形誤。</li> <li>端、曆文二本、端に作るもの、形誤。</li> <li>境界、四本、阪本、山本、上に屬して、「唯心ノ境界ヲ念ズメシ」に作る。</li> <li>若、論の宋元明三本、或に作る。</li> <li>令、四本、阪本、山本、高本、知宿命過去之事の句より回讀す。</li> <li>令、四本、阪本、山本、性無常准より回讀し、高本、數眼數喜より回讀す。餘本今の如し。</li> <li>性無常准、四本、阪本、山本、性無常ノ准(永保二本、ナゾラヒ、曆文二本、阪本、山本、ナラヒ)ナラシムと點するもの、釋かならず。</li> <li>多宿の二字、論文になく、論の義記にあり。</li> </ul> | <p>五三</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒、濫縮高三本、率に作る。餘本、率に作るに似て、字形正しがらず。</li> <li>廢、四本、廢に作るもの、形誤。</li> <li>綱、曆文二本、綱に作るもの、形誤。</li> <li>辯、四本、縮本、辨に作る。辯正論は、八卷十二篇より成る。今試に今典に引用する文の所在を示せば、左の如し。</li> </ul> <p>第五、十喻篇(卷六)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一、一異一喻</li> <li>四、四異四喻</li> <li>六、六異六喻</li> <li>七、七異七喻</li> </ul> <p>重れて十異十喻を明す章の中、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一、從生勝劣喻</li> <li>三、德位高卑喻</li> <li>十、法門頓漸喻</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第六、九箴篇(卷六)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一、周世無機指</li> <li>二、建造像塔指</li> <li>五、教爲治本指</li> <li>第七、氣爲道本篇(卷六)</li> <li>第十、出道偽謬篇(卷八)</li> <li>第十二、歸心有地篇(卷八)</li> </ul> <p>辯正論十二篇の中、第五十喻篇、第六九箴篇、第七氣爲道本篇の三篇は、道宣の廣弘明集卷十三に輯む。以下、論といふは辯正論を指し、集といふは廣弘明集に收むるものを指す。二者を併せ呼ぶ時は、二本といふ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>琳、永前本及保本、淋に作るもの、形誤。</li> <li>迷、諸本、述に作るもの、形誤。高本、寂本、原文によりて改むる。今今の如し。十喻九箴は、李道士の十異九迷を破するものなり。縮本註に校異をなす。</li> <li>上、四本、阪本、山本、子に作るもの、形誤。</li> </ul> | <p>五四</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>割、二本、割に作る。</li> <li>耶、阪本、山本、邪に作る。已下數所の耶の字、皆同じ。</li> <li>脇、曆本、腋に作るもの、形誤。</li> <li>出、集に、生に作る。此下、四本、阪本、山本、乃至の二字あるもの、過剩。但文本、乃至を乃出に作る。</li> <li>牧、曆本、扁を手に作るもの、形誤。</li> <li>出、論に生に作る。濫縮高三本、寂退二本、論に従ふ。</li> <li>裕、永保二本、祐に作るもの、形誤。</li> <li>説、保曆文三本、説に作るもの、形誤。</li> <li>集、四本、阪本、山本、之を脱す。</li> <li>考、四本、阪本、山本、老に作るもの、形誤。文本、傍に校異をなす。</li> <li>太上、永本に、大上に作る。已下永本、二者互に見はる。</li> </ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

五五

- ① 謂、阪本になし。
- ② 材、四本、旁ヲ戈に作るもの、形誤。
- ③ 輒、諸本、「タヤスク」と訓す、今、「スナハチ」と讀むこと、寂蓮二本の如し。
- ④ 台、四本、阪本、山本、胎に作るもの、形誤。文本傍に校異をなす。
- ⑤ 玉札、永保曆三本、阪本、山本、王禮に作るもの、形誤。論の宋元明三本には、札の字を、割に作る。
- ⑥ 李、集に、理に作る。
- ⑦ 玉、四本、阪本、山本、王に作るもの、形誤。
- ⑧ 尤、永保二本、寂に作る。此句、永保曆三本、阪本、山本、「假ノ謬談ナリ」と點じ、文本「謬談ヲ假ルナリ」と點す。
- ⑨ 錄、永保曆三本、阪本、山本、錄に作る。
- ⑩ 茲、永前本及保本、慈に作るもの、形誤。
- ⑪ 妄、永保曆三本、阪本、山本、言に作るもの、形誤。

五六

- 縮本冠註に校異をなす。
- ① 耳、論の宋元明三本及集、手に作る。文本、手に作り、縮本また手に作りて、冠註に論作耳さいふ。此句、諸本、「嬌妄者ノ言ヲ信ズルノミ」、又は「信センヤ」と點す。今の點、藝本の如し。
  - ② 云、文本、日に作る。
  - ③ 士、永保曆三本、阪本、山本、上に作るもの、形誤。
  - ④ 旋、曆本、施に作るもの、形誤。
  - ⑤ 闕、永保曆三本、阪本、山本、類に作るもの、形誤。
  - ⑥ 陽、永保曆三本、揚に作り、阪本、山本、楊に作るもの、形誤。
  - ⑦ 悉、曆文二本、恭に作るもの、形誤。充の字、永保曆三本、阪本、宛に作り、文本、克に作るもの、形誤。
  - ⑧ 在の下、四本、之の字あるは、過剩。
  - ⑨ 子、集に手に作る。
  - ⑩ 飯、永保二本、飲に作るもの、形誤。下の一所亦同じ。

五七

- ① 世、永前本、時に作る。
- ② 老聘、諸本、迦葉に作ること、論の如し。集の宋麗二本、また迦葉に作る。寂本、集の元明二本に依りて之を改むること、今の如し。傳説に、迦葉支那に在りては老子と爲すと云へるに依りて、老聘を迦葉に作るなるべし。
- ③ 午、曆本、牛に作るもの、形誤。
- ④ 出、論の麗本、生に作る。
- ⑤ 姬、保曆二本、旁を互に作るもの、形誤。
- ⑥ 胤、曆文二本、字形正しからず。
- ⑦ 出、集の麗本、生に作る。
- ⑧ 聘、四本、旁を冊に作り、阪本、山本、舟に从ひ冊に从ふもの、共に形誤。下の一所之に同じ。
- ⑨ 若在、永保曆三本、阪本、山本になし。文本には在の字を補ふ。縮高三本、論の文に從ふこと、今の如し。
- ⑩ 所、諸本、始に作る。但、寂蓮二本、原文に從ふこと

五八

- 今の如し。縮本校異をなす。
- ① 提、永保二本、提に作り、餘本、提に作るもの、形誤。藝本、原文に依りて之を改むること、今の如し。高本寂蓮二本、提に作る。
  - ② 鄉、四本、卿に作るもの、形誤。
  - ③ 乎、高本、平に作るもの、誤植。
  - ④ 茲、諸本、慈に作るもの、形誤。寂蓮二本、藝本、之を改む。鶴、論の宋元明三本、並に集には、鶴に作る寂蓮二本、藝本、之に從ふ。
  - ⑤ 焉、論の宋元明三本、及に作り、集に、之に作る。
  - ⑥ 號、曆本、旁を帝に作るもの、形誤。
  - ⑦ 免、永本、冤に作るもの、形誤。
  - ⑧ 隱、四本、阪本、山本、之を脱す。
  - ⑨ 韻、曆本、旁を韻に作り、曲、四本、阪本、山本、典に作るもの、形誤。
  - ⑩ 一の下、「外論曰……其優劣之異一也」の四十八字を

五九

略す。

①劣の下、論の麗本、「李氏之母則頼郷平氏、老子來而託質。摩耶夫人即羅衛王之王后、釋迦因而降神」の三十二字を二行に細書す。

②根の下、二本共に、者の字あり。

③命の下、二本共に、者の字あり、蓋高二本、寂本、之を補ふ。

④朔、曆文二本、山本、郷に作り、下の、卿、文本、郷に作り、蓋高二本、阪本、二者共に郷に作るもの、形誤。

⑤廉、四本、蓋本、藤に作り、阪本、山本、龜に作るもの、形誤。

⑥頗、四本、阪本、山本、之を脱す。

⑦首、永前本、在に作るもの、形誤。首の下、論の麗本相の字なし。

⑧韓、永保曆三本、緯に作るもの、形誤。阪本、山本、

亦然り。

①甫、永保曆三本、阪本、山本、哺に作るもの、形誤。

②于、永保曆三本、縮本になし。阪本、山本、亦なし。高本、干に作るもの形誤。渦、永保曆三本、阪本、山本、温に作るもの、形誤。

③剛、永保曆三本、阪本、山本、押に作るもの、形誤。

④縱、永保曆三本、阪本、山本、從に作るもの、形誤。

⑤李、二本になし。

⑥誓、曆本、阪本、山本、秋に从ひ山に从ふもの、形誤。

⑦耳、論の宋元明三本、聘に作る。

⑧消、永保二本、阪本、山本、旁を音に作るもの、形誤。

⑨檢太史等、此句、永保曆三本、阪本、山本、撥太史云等衆畫に作る、三字何れも形誤。但曆本、畫の字、盡に作る。檢の字、餘本、檢に作る、今原文に従ふ。

⑩割、二本共に、剖に作る。左腋の下、論の麗本、而の字あり。

①出の下、論の麗本、皆是謬辭の四字あり。

②五氣、保本、五無に作り、曆本、吾無に作るもの、形誤。氣の字、永後本、阪本、山本には、悉に作る。悉は氣に同じ。

③扶、永保曆三本、阪本、山本、快に作るもの、形誤。文本、符に作り、傍に「扶イ」の校異をなす。扶の字、集に符に作る。

④信逆天常、永保曆三本、阪本、山本、「逆天ノ常ニ信ズ」を點するもの、釋かならず。

⑤起、永前本、保曆二本、阪本、山本、超に作るもの、形誤。

⑥語其述也、此句は、已下本述二門を述ぶるにつきて、先づ述門を述ぶる冒頭の句なり。乃至せる文の中に、本門を述する冒頭に、「述其本也」の句ありて、之に對應す。今之を斷取して上文の結語となすもの、行卷五三に五會法事讚を引く中に、「其名號也」の語を斷取せる

と同例なり。

①夫釋氏等、此文は、内德位有高卑の標下、内喻の中に

出づ。

②天下、二本共に、地下に作る。寂通二本之を改む。縮本校異あり。

③外論曰の前、外設規逆順異十の標を略す。

④日、永保二本、云に作る。

⑤改、曆本、愍に作るもの、形誤。

⑥楷、永保二本、楷に作るもの、形誤。

⑦翻說無從、論には、聽得無意に作る。集の文、今の如し。髓、蓋高二本、意に作る。

⑧聞、永保曆三本、阪本、山本、誤て問に作り、無問ニ罪ヲ得と點するもの、釋かならず。

⑨内喻曰の前、内法門有漸頓の標を略す。

⑩瑣、永保曆三本、阪本、山本、環に作る。

⑪賈、永前本、保曆二本、遺に作る。論の麗本、集の宋



六二

本、遣に作り。餘本、既に作る。既に字優れたるに似たり。阪本、山本は、既に近し。

●原襲等、原の字、曆文二本、厚に作るもの、形誤。此挾註、永保曆三本、阪本、山本、文字錯亂して讀み難し。餘本之を訂すこと、今の如し。

●仁、永保曆三本、阪本、山本、下の句に屬するもの、穩かならず。

●形、論の明麗二本、刑に作る。濫縮二本、藝本、之に従ふ。寂本亦刑に作り、「ノツトルハ」と讀ましむ。

●巨、永保曆三本、阪本、山本、区に作るもの、形誤。

●執、縮本、執に作るもの、誤植。

●來、永保曆三本、阪本、山本、誤つて、未に作り、「未ダ死ノ中ニ往生セズ」と點す。

●多、四本、阪本、山本、之を脱す。

●親、論の宋元明三本及集、共に此字なし。次句の親の字、亦同じ。寂本之を除く。

六三

●合、永保二本、合に作るもの、形誤。

●行、普正等、此註、論の三本、本行となす。濫縮二本、之に従ふ。永本、高本、點なし。保曆文三本、阪本、山本の點、讀み難し。今の點、濫本に従ふ。延本は「アマチクダマシキ心ヲ行シテ、アマチクシタシキコ、ロザシチヒトシクス」に作る。普親の親、永保二本、觀に作るもの、形誤。普正の正、論の麗本、集の宋本、止に作る、志の字、二本共に、意に作る。濫縮高三本、之に従ふ。

●爾、四本、山本、「ソレハ」と訓す。高本亦然るに似たり。濫本、「シカルニ」と點す。下の一所亦然り。阪本は、右に「ソレハ」、左に「ナンザ」の訓あり。

●也、二本、焉に作る。

●須彌等、此註及下の空寂等の註、論には本行となす。註の中、須の字、曆本、源に作り、娟の字、永保二本、禍に作るもの、形誤。娟の下、諸本、也の字あるもの過

六四

剩。但縮本、之を削ること、今の如し。下の註の也の字、亦然り。

●淳、永保曆三本、阪本、山本、淳に作るもの、形誤。

●沖、四本、仲に作るもの、形誤。

●老、高本之を脱す。

●梯、永保二本、肩を手にするもの、形誤。

●冥、曆本、穴に从び具に从ひ、符、曆文二本、符に作るもの、形誤。

●之、諸本になし。高本、論の文によりて之を補ふこと、今の如し。

●訪、永保曆三本、阪本、山本、訪に作るもの、形誤。

●通、永前本、保本、途に作るもの、形誤。

●問津於苑馬、四本、阪本、山本、「問津於苑馬」に作る。二字共に形誤。

●威、論の麗本、盛に作る。

●懦、四本、山本、需に作るもの、形誤。阪本、今の如

六五

し。

●泛、永保曆三本、阪本、山本、浮に作る。

●變色の二字、論の元明二本、四變色の三字に作り、宋麗二本、四變の二字に作る。集の文、今の如し。

●於、四本、高本になし。阪本、山本、亦なし。縮本、論に従ふて之を補ふこと今の如く、濫本、集によりて、其の字を補ふ。

●周書等、論には本行に在り。此中、皆、卒、推の三字濫高二本、論の文によりて補ふこと、今の如し。陰、永保二本、隱に作るもの、形誤。也の字、集になく、論に在り。

●雪、保曆文三本、山本、雲に作るもの、形誤。文本傍に校異をなす。阪本は、今の如し。

●過、曆本、阪本、山本、過に作るもの、形誤。

●鑿、曆文二本、殿に从び金に从ひ、寮、永保二本、寮に作るもの、共に形誤。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>六六</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①吾、曆本、五に作るもの、形誤。</li> <li>②性、集に、情に作る。</li> <li>③内建造等の標の前、外論の文あり、今之を略す。又標の下、内蔵日等の三百一字を乃至す。然るに自漢明より有靈哉に至る七行餘は、論の元明二本に在りては、外論の文の末に在り。</li> <li>④目、永保曆三本、阪本、山本、國に作るもの、形誤。</li> <li>⑤燿、論は、暉に作り、集は、輝に作る。</li> <li>⑥清、論の三本、香に作る。</li> <li>⑦雅、保曆二本、阪本、山本、維に作るもの、形誤。</li> <li>⑧牙、論の三本、天に作る。</li> <li>⑨而、永保曆三本、阪本、山本になし。</li> <li>⑩宋、永保曆三本、阪本、山本、宗に作るもの、形誤。</li> <li>⑪摸、集は、模に作る。</li> <li>⑫衆、論の宋麗二本、多に作る。</li> <li>⑬斥、保曆二本、阪本、山本、行に作るもの、形誤。</li> </ul> | <p>六七</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭昭、四本、濫高二本、阪本、照に作るもの、恐くは、形誤。</li> <li>⑮云、四本、阪本、山本、公に作るもの、形誤。</li> <li>⑯註、二本、注に作る。下の一字亦同じ。註の下、云の字、集になし。</li> <li>⑰言患在等、此句、論の宋元明三本及集には、「言、患在懷者、皆未悟丘與附皆夢也」に作る。今文、論の麗本に應ず。寂運二本、皆夢也の上、不覺の二字を加ふ。</li> <li>⑱註の上、論の宋元麗三本、郭の字あり。論の明本、郭註の二字なし。濫本、註の字を削るもの、明本に従ふなり。</li> <li>⑲智知、曆文二本、知智に作るもの、倒置。永保二本、阪本、山本、知を智に作るもの、形誤。</li> <li>⑳則言語等、此句、論の麗本「則言語道斷而心行處滅」に作る。</li> <li>㉑之、論の麗本、名言の二字に作る。</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>六八</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①蕭、曆文二本、阪本、山本、蕭に作るもの、形誤。</li> <li>②於、諸本になし。今原文に依りて之を補ふ。縮本校異をなす。</li> <li>③劉、曆本、劉に作るもの、形誤。</li> <li>④經流、四本、阪本、山本、倒置し、「佛流中夏ヲ經テ」と點す。佛の字、論の麗本になし。</li> <li>⑤而、論に、則に作る。集は今の如し。濫高二本は、論に従ふ。</li> <li>⑥正法等、此文、内教爲治本指五の章中に出づ。集には、「人天滋潤正化隆、惡趣衰而災害殄」の文の挾註をなし、論には本文をなす。</li> <li>⑦投、集の宋元明三本、病に作る。文本及濫本は之に従ふ。</li> <li>⑧時、四本、阪本、山本になし。</li> <li>⑨百穀稔豐、四本、阪本、山本、稔豐豐の三字に作る。今の文、濫高二本とともに、論に従ふ。集には、穀</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩穀豐登に作る。</li> <li>⑪兵戈、集には、兵戎に作る。戦の字、四本、阪本、山本、戦に作るもの、形誤。</li> <li>⑫也、集になし。論は、者に作りて下に接す。</li> <li>⑬隱、永保二本、陰に作り、書、永前本及保本、盡に作るもの、形誤。</li> <li>⑭無、四本、阪本、山本、元に作るもの、形誤。但し上の無、永前本、保本、无に作るもの、正し。</li> <li>⑮玄、四本、阪本、山本、之を脱す。</li> <li>⑯在、永保曆三本、阪本、山本になし。</li> <li>⑰二、論に、三に作る。集は、今の如し。寂運二本、藥本、論に従ふ。</li> <li>⑱岳、濫高二本、嶽に作る。圖、四本、阪本、山本、圖に作るもの、形略。永前本、品に作るもの、形誤。下の一處亦同じ。</li> <li>⑳大、論に、太に作る。</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

七〇

①之、四本、阪本、山本になし。  
 ②觀、永保曆三本、阪本、山本、都に作り、文本、都に作るもの、形誤。  
 ③中之、四本、阪本、山本、倒置。之の字、論の麗本、上に作る。  
 ④鼓、曆文二本、濫縮二本、山本、鼓に作る。阪本、今の如し。論は、鼓に作り、集は、鼓に作る。行卷八六頁の參照。  
 ⑤宴、四本、阪本、山本、晏に作る。論の三本及集、亦然り。今論の麗本に従ふ。  
 ⑥案道士等、以下論の第八卷出道偽謬篇第十に、八謬を説く中、第八諸子爲道書謬の中に出づ。案の字、論の麗本になし。  
 ⑦修、曆文二本、阪本、山本、循に作るもの、形誤。下の二所、亦同じ。  
 ⑧所列、四本、高本、阪本、山本、而列に作る。濫縮二

七一

本、寂本、論に従ふこと、今の如し。所列の下、本文、「檢修靜日中、見有經書藥方符圖等、合有」の十六字あり。今之を略す。  
 ①乃至この處、二百十三字を乃至す。  
 ②朱の下、論の宋元明三本、公の字あり。即是の是、論の三本になし。  
 ③也范蠡の三字、諸本になし。退本、本文によりて之を補ふこと今の如し。寂本は、范蠡の二字を補ふ。  
 ④吳の下、論の麗本には、堂の字、餘本には、室の字あり。嘗の字、論に、食に作る。  
 ⑤何以等、此句論の三本、「何以不行交術變化而免之」に作る。免の字、永前本及保本、兎に作るもの、形誤。寂本、能の字を、行交術の三字に改む。  
 ⑥犬、高本、大に作るもの、誤植。  
 ⑦符、四本、阪本、山本、符に作るもの、形誤。  
 ⑧乃至、此處八十六字を乃至す。然るに、「指陸修靜目錄」

七二

七三

の前文「玄都館經目錄云、道經記符圖論、凡六千三百六十三卷、二千四十卷、已有本見行、其四千三百二十三卷」の四十一字を加へて讀ますれば、下の文、意通じ難し。  
 ①是、永本、其に作る。  
 ②矣、論になし。  
 ③大經等、辯正論の歸心有地篇第十二の文なり。この篇は、梁の武帝の捨道勅文、邵陵王の捨老子受菩薩戒文、撰者法琳の蔡國公に與ふる書の三文より成る。今はその初の文なり。  
 ④提、四本、阪本、山本、薩に作るもの、形誤。  
 ⑤雖是等、此句、濫本の點今の如し。餘本皆、「是レ如來ノ弟子トシテ化ヲ爲スト雖モ」に作る。  
 ⑥隔、論の宋元明三本、革に作る。  
 ⑦反、永保二本、變に作る。  
 ⑧故、論の麗本になし。

七四

①善の上、四本、阪本、山本、若の字あるは、過剩。而して善惡の二字、下の句に屬するもの、釋かならず。  
 ②心、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ③老、曆文二本、阪本、山本、孝に作るもの、形誤。  
 ④少、論の三本、弱に作る。濫縮高三本、之に従ふ。  
 ⑤信、四本、阪本、山本、之を脱す。  
 ⑥等、論の麗本には、諸善に作り、宋元明三本、諸信に作る。皆の下、論に是の字あり。文本、此の字を加ふ。  
 ⑦捨老子等の十二字は、邵陵王の捨老子受菩薩戒文の本文なり。老子の子の字、高本、孔に作るもの、誤植。  
 ⑧法流、四本、阪本、山本、倒置し「法ノ眞教ニ入流セヨ」と點す。  
 ⑨想、曆文二本、相に作るもの、形誤。  
 ⑩枕、永保曆三本、旁を尤に作るもの、形誤。  
 ⑪擊、曆本、擊に作るもの、形誤。  
 ⑫諸外、永保二本、外諸に作る。寂退二本、諸外道の三

七五

字に作る。天台法界次第の原文には、道の字なし。  
 ①又云の下、山本及高本、謂の字あり。阪本、諸の字を塗抹し、格上に謂の字を書す。  
 ②趣の下、諸本、云の字あり。一説に、云云の一字を脱するかといふ。但縮本之を除くこも、今の如し。  
 ③既未逃等、此句、四本、阪本、山本、一既ニ未ダ世ニ逃ガレズ、眞ヲ論ズレバ俗ヲ誘フル權方ナリ」と點するもの、釋かならず。  
 ④黎、永保二本、梨に作る。  
 ⑤廟、永保二本、曠に作り、曆文二本、阪本、山本、廣に作る。これ廟の古文字廣の形誤なり。  
 ⑥尸、曆文二本、阪本、山本、上に屬し、「尸ニ歸ス」といふもの、釋かならず。  
 ⑦人神、四本、阪本、山本、天神に作る。尸子には、人神地神天神の三種を擧ぐ、今初の二神を引くなり。  
 ⑧乃至、永本になし。

七六

福寺の學徒の太上天皇に奏達せるは、今上の聖曆、承元丁卯の歲仲春上旬の候なりとの意なるべし。今此意にて點を附す。即ち今上の語は聖曆の語に冠するものと見るべし。下の「皇帝ノ聖代」また同じ。存覺師の作と傳ふる錦織寺傳繪記に

皇帝土御門院ノ聖曆、承元元丁卯年中春上旬ノ候ニ、大祖源空聖人、ナラビニ門徒數輩、流刑ニツミセラ  
 ル、トキ、善信聖人マタオナシク、越後ノ國ニ配流セラレマシマス。カシコニイタリテ、五年ノ居諸ヲヘ  
 タマヘリ。皇帝佐渡院ノ聖代、建曆元辛未年、勅免アリトイヘドモ、カシコニ化チホドコサンガタメニ、ナチシバラク在國シタマヘリ。  
 ⑨云へるもの、今の文に依るなり。化土卷本(七四)、元仁元年の註に、「後堀川院諱茂仁聖代也」といふもの、参照すべし。  
 太上天皇及今上の二所、高本擡頭。阪本亦然り。

七七

⑩直、文本、眞に作るもの、形誤。  
 ⑪通の下、止觀の文、是の字あり。  
 ⑫健惕鬼、諸本、慢愷鬼に作る。諸註、慢愷鬼の名、本據を見ずといふ。寂蓮二本、本文によりて之を改むること、今の如し。  
 ⑬病惡、取意の文なるが故に、要集の本文にこの語なし。捷覽に、惡は、患の字の寫誤なりといふ。  
 ⑭云、文本、曰に作る。  
 ⑮人、四本及縮本、上の句に屬して點す。今高高二本、阪本、山本、下に屬するものに從ふ。これ人の鬼神に事ふべからざることの別義を顯はさんが爲なればなり。  
 ⑯抄出、永前本及保本、出抄に作る。  
 ⑰廢、四本、廢に作るもの、形誤。  
 ⑱昏、曆文二本、諱本、昏に作る。總序二頁の參照。  
 ⑲奏達等、諸本、此句の讀法、明かならず。案するに、與

七八

⑳號後鳥羽院の四字、縮本になく、高本、阪本、山本、太上天皇の右に小書す。諱尊成の三字、延本になし。  
 ㉑號土御門院の四字、亦右に同じ。諱尊仁の三字、延本になし。  
 ㉒主上の上、阪本二字空白。  
 ㉓儀、文本、義に作るもの、形誤。  
 ㉔諸、四本、緒に作るもの、形誤。諸の下、保曆二本、諱本、二字空白。  
 ㉕佐渡院、縮本になく、阪本、山本、格上に、「佐土院」と書す。高本、皇帝より行を改め、右に、「號佐渡院」と書す。諱守成の三字、延本になし。  
 ㉖勅の上、阪本一字空白。免の字、永前本及保本、宛に作るもの、形誤。  
 ㉗圖、四本、阪本、山本、圖に作るもの、形略。下の一所亦同じ。  
 ㉘月輪殿等の註の中、照の字、四本、諱縮二本、昭に作るもの、形誤。

八二  
 ①之、永保二本になし。  
 ②撰、文本、攝に作るもの、形誤。  
 ③攝、文本、稱に作るもの、形誤。在の字、永本になし。  
 ④論、永前本、論に作るもの、形誤。  
 ⑤爾、永前本及保本、今に作るもの、形誤。  
 ⑥念、永前本、修に作る。  
 ⑦悲、曆本、非に作るもの、形誤。  
 ⑧誓の下、四本、誼本、之の字あり。  
 ⑨思の下、誼本、之の字あり。  
 ⑩生、安樂集の文、去に作る。  
 ⑪末、文本、未に作るもの、形誤。

八三  
 ⑫題號、山本には「顯淨土方便化身土文類六」の別題を安ず。文本、誼本、六の字なく、末の字のみあり。一説に、總題なるが故に六の字なく、末は終末の義なりといふ。高本、阪本、末の字なく、永保二本、末の字を細書す。

八四  
 ⑬今此教行證者等、此跋文、何人の作なるや、未だ檢せず。光融錄に、六要鈔主の作ならんか云ふ。阪本、高本、誼本、縮本、延本、共になし。  
 山本、左の奥書あり。  
 和光同塵結縁之始 八相妙道以論其終シニ反ツイニ  
 弘長二歲壬戌十一月廿八日  
 未剋親鸞聖人御入滅也  
 初の一行は朱書にて紙の右面に在り。後の二行は墨書にて紙の左面に在り。未尅の右傍に「午歟」と朱書す。而してこの次奥書の一部を切り取りたる形跡あり。  
 阪本には左の奥書あり。  
 弘安陸未二月二日釋明性讀預之  
 沙門 性信 花押  
 延文延本には左の奥書あり。  
 延文五歲庚子正月二十二日書終之訖

書寫中無障礙終其功奉渡之  
 條冥慮之所致歟本望無極  
 者也耳 釋子  
 天文延本の奥書左の如し。  
 此書存覺上人ノ御筆ヲ以テ寫申候但四卷目二卷同五卷メ二卷合テ四卷ハ乘專ノ筆也此内四卷メノ本口ヨリ十丁メノ一面迄ハ存覺上人ノ御筆也  
 天文廿二年癸丑七月十二日相調候畢

補遺

一行四  
 ⑭所可滅苦の句、光融錄には、所可の二字連用して一意、所の字は可の字の如しといひ、講義(深勵)には、可はラレム所の義にして、滅せられたる所の苦の意なりといふ。  
 ⑮歸の字訓、行卷歸命釋講錄(鮮妙)には、文字の配置、左の如くなるべしといふ。  
 歸言至也又歸說也 說字又歸說也 稅音悅稅二音告也述也 宣述人意也  
 次の命の字訓も本行とすべしとなり。而して歸說也の左訓に「ヨリカ、ルナリ」とあるは、恐くば至也の左にあるべきものを、誤りたるならん。蓋し至は惡托の義にして、史記卷一、項羽の記の註に「抵至也、歸也、惡托也」と云へるが故なりといへり。  
 ⑯及の字、寂蓮二本「彌陀ノ本弘誓願、及ビ名號ヲ稱スルコト下十聲等ニ至ルマテ」と點するもの、他流の讀法に同じ。この場合「及ビ」の語、甚だ解し難く、西鎮に於ては頗る頭を悩まし、往生禮讚開書(義讀)には、

彼の家に立つる五種の説を擧げて、何れも閻天の瓦礫、文の正義に當らずをなし、今の點は、彌陀の本弘誓願は名號を稱へん者を助くるの本願なることを明にするものにして、集主卓拔の讀法なりと言へり。

本は、之に従ふ。

案するに、此文の及の字、もと接続詞として用ひられたるものなるべきも、必ずしも強き意味あるに非ず。

之が同例を求むれば、教卷(自)所引の如來會の文、「汝爲一切如來應正等覺、及安住大悲利益群生」の及の字これなり。兩者の場合、及の字を省きて讀む方、意義頗る通暢し易きを見るべし。

四眞一

十行、平等大道也の上、正道の二字あるの意なり。一説に、論註の原本、もこの二字を脱する乎といふ。

七化本

初行、範衛、箋述に一説を擧げて、衛は圖の形誤ならんといふ。縮本また冠註にこの疑を掲ぐ。燈明記の三本、衛に作ること、今の如し。

七化本

初行、愛の字、辯正論の宋元明三本、授に作る。寂暹二

# 引文體例

## 凡例

- 一 教行信證の引文は、集主己證の法門を立證せんが爲といふよりも、寧ろ之を開顯説述せんか爲に、經論釋の中より適當の文字を借り來れるものと見るべきが故に、一面より云へば引文と自釋の語との區別を立て難きに似たり。故に文を引くや必ずしも文の原意に順することなく、又その讀法、文字の加除、順序の前後等、悉も原文に拘泥することなし。今引文の體例を分ちて左の七種をなす。
- (一) 改點例 文點を改めて別義を顯はすもの。
  - (二) 省略例 一字、數字、若くは一句を省略するもの。
  - (三) 更改例 字句を更改せるもの。
  - (四) 添加例 文字を添加せるもの。
  - (五) 合糝例 原本の異を合糝せるもの。
  - (六) 顛倒例 文字を顛倒せるもの。
  - (七) 前後例 一連の文を引くに、順序を前後せるもの。

一 本文を校訂するに當りて成るべく對校本又は參考本の善なるものに依りしも、問々所引の原文に依りて改訂し、又は私見を以て文點を改め若くは字句を添加せるものあり。此等は校正例として後に附記す。

一 以上の諸例は、殆んど凡て上の校正標異の中に出でたるものなれば、彼此照合すれば互に説明を補ふ所あるべし。彼に出でずして此に掲ぐるものは、頁数の下に行數を示す。

### 第一 改點例

文點を改めて別義を顯はすの例なり。古來祖訓と稱して別途不共の義を發揮せるもの、皆この中に攝す。諸經及び他師の釋は、多く意義を轉用して引くと雖も、文點を改むるに及ばざるものは、之を擧げず。

【教四〇】「如是ノ義」

如來會の本文は、「是ノ如キノ義」を讀むの意なり。今の點は佛意に契如せるの義となすなり。

【教五五】「世間ニ佛マシマセドモ、甚ダ値フコトヲ得ルコト難シ。」

平等覺經の文は、「世間ニ佛アルコト、甚ダ値フコトヲ得難シ」の意にして、佛の在世に生るゝことの難きを言へるなり。今轉じて、佛の在世に生るゝも、親しく値遇開法するの難きを言ふとなす。この例他に在り、即ち左の如し。

【行九〇】【化本四〇】「佛世ニ在シマセドモ甚ダ値ヒ難シ。」

これまた原文は「佛ノ在世ハ甚ダ値ヒ難シ」を讀むの意なり。

【教六〇】「能ク衆覽・雄健天子制スルガ故ナリ。」

述文贊の文は、「能ク衆覽ヲ制ス、雄健ノ天ナルガ故ナリ」と讀みて、世雄の名を得る所以を述べたるなり。今の點、雄健天を所制となす。

【行二〇】「心或ハ常行ニ堪ヘザランモノニ施セン、廣ク貧窮ヲ濟フテ諸苦ヲ免ガレシメン、世間ヲ利益シテ安樂ナラシメン。」

如來會の文は「心或ハ常ニ施ヲ行スルニ堪ヘ、廣ク貧窮ヲ濟ヒ、諸苦ヲ免ガレシメ、世間ヲ利益シテ安樂ナラシメズンバ、救世ノ法王ト成ラジ」の意なり。今第四句を略し、初句は義を轉じて、常行に堪へざる劣惡の衆生に名號を施與するの意となす。

【行六二】「皆悉ク踊躍センモノ、我が國ニ來生セシメン。」

平等覺經の文は、「皆悉ク踊躍シテ、我が國ニ來生セン」と讀むの意なり。今の點は、次上所引の大阿彌陀經の「莫不慈心

歡喜踊躍者、皆令來生我國」といへるに順するなり。今典往生の語には常に「セシム」の轉聲を附して、他力の所作を表はす。この例枚舉に違あらず。其二三を示せば左の如し。

【行六】「彼ノ清淨ノ土ニ往生スルコトヲ得シム。」

【信本六】「願ニ隨テ皆生セシメ。」此句、【信本六】には、「願ニ隨テ皆生シ」に作る。

【行六】「前世ニ惡ノ爲ニ我カ名字ヲ聞キ、及ヒ正シク道ノ爲ニ我カ國ニ來生セント欲ハン。」

平等覺經の本文は「前世ニ惡ヲ爲セドモ我カ名字ヲ聞キ、及ビ正シク道ヲ爲シテ……」の意なり。講義(深勵)には「惡ノ爲ニ聞ク」とは、名號を訪らんが爲に聞くなり、「道ノ爲ニ聞ク」とは、信ぜんが爲に聞くなり、信訪共に果遂の益を得せしむるの謂なりといひ、微決には、有師の説を擧げて、前者は信罪福の機が滅罪の爲に、後者は生善の爲に、聞名念佛するなりといふ。

【行九】「唯清淨ニ戒ヲ有テル者」

平等覺經の文は、「清淨ノ戒ヲ有テル者」の意なり。今正依の大經の「清淨有戒者」の意によりて點す。

【行七】「一モヲ以テ百分ト爲シ、一分ノモヲ以テ大海ノ水ヲ分チ取ルガ如シ。二三滯ハ、苦ノ已ニ滅スルカ若シ、大海ノ水ハ餘ノ未ダ滅セザル者ノ如シ。二三滯ノ如キ心、大ニ歡喜ス。」

十住論の原文は、初果の聖者に約して、「一モヲ以テ百分ト爲シテ、一分ノモヲ以テ、大海ノ水ノ若シハ二三滯ヲ分チ取ルガ如シ。苦ノ已ニ滅スルハ、大海ノ水ノ如ク、餘ノ未ダ滅セザル者ハ二三滯ノ如シ。心大ニ歡喜ス」と讀むの意なり。今念佛行者に約するが故に、點を改めて別義を顯はす。樹心錄は、論の文點に従ひて解し、苦の已に滅したるは大海の水の如しとは、念佛行者が無始生死の苦を滅したるに譬へ、未だ滅せざる苦は二三滯の如しとは、現生の餘苦僅かに存するに譬ふとす。微決は、相傳の文點に従ひて解して曰く、この譬は初果の人の歡喜の相を述ぶるものにして、下の菩薩所有

の餘苦は二三滯の如く、所滅の苦は大海水の如しといふ一節

は、念佛行者の歡喜の相を述べたるなり。即ち所滅の苦は僅かに二三滯の如き初果の人すら、尙歡喜するこゝの如し、況んや無始生死の苦を滅するこゝ大海の如く、現生の餘苦僅かに二三滯の如き念佛行者、豈大に歡喜せざるべけんやと。講義には、論の文點に従へば法の益を示すものにして、三世の業障一時に消ゆるは大海水の如く、果縛の穢體の存するは、二三の水滯の如しといひ、又相傳の文點に従へば機の本分を示すものにして、生死罪濁の凡夫が臨終まで有ゆる生死の苦を具すること大海水の如く、信心歡喜の行者の法を喜ぶ手前では、四苦八苦を受け乍らも心安樂にして苦を苦と思はず日を送る、これを苦の滅する二三滯の如しと譬ふるなりといひ、而して下の文は、法の得益につきて解す。

【行五】「常ニ諸佛及ビ諸佛ノ大法ヲ念ズレバ、必定シテ希有ノ行ナリ。」

十住論の原文は、「常ニ諸佛及ビ諸佛ノ大法ト、必定ト、希

有ノ行トヲ念ズ」と讀みて、四種の所念の法を擧ぐるなり。微決には、諸佛及び大法は、其體を就すれば唯名體不二の名號なり、この名號を稱念するが希有の行にして、此行は必定成佛の因なれば、必定希有の行といふなりといへり。

【行六】「念必定ノ菩薩トイフハ」

前項の如く、原文は「必定ノ菩薩ヲ念ズトイフハ」の意なるも、今は念佛の行者を必定の菩薩と名くるが故に、念必定の三字、直讀す。下の一處亦然り。

【行三】「今當ニ具サニ無量壽佛ヲ説クベシ、……皆名ヲ稱シ、阿彌陀佛ノ本願ヲ憶念スルコト、是ノ如シ。」

易行品の原文は、「今當ニ具サニ説クベシ、無量壽佛……皆名ヲ稱シ憶念セヨ。阿彌陀佛ノ本願ハ、是ノ如シ」と讀みて無量壽佛以下一百七佛を所稱所念となし、後別して彌陀易行を説く爲に、本願を引釋して「若人念我稱名自歸」等と云へるなり。集主引用の意は、無量壽佛を所稱所念とし、餘の一百六佛を能稱能念とすが故に、文を讀むこゝ異なり。



【行三〇】「オノツカラ歸スレバ」

自の字、原文「ミツカラ」の意なり。今「オノツカラ」と讀むもの、他力の然らしむることを顯はす。之と同例の文、左の如し。

【行三〇】「觀音勢至オノツカラ來り迎へタマフ」

【行三〇】「是ノ故ニ我レ彼ノ本願力ヲ歸命ス」

易行品の原文、「是ノ故ニ我レ歸命ス」は前項の第四句にして、「彼ノ佛ノ本願力」は後項の初句なり。

【行三〇】「願傷總持ヲ説テ」

淨土論の原文は、「願傷ヲ説テ總持シテ」の意なり。總持とは論註の釋によれば、佛經を總持するなり。銘文にこの句を釋して、「本願ノコ、ロナアラハスコトバチ、傷トイフナリ。總持トイフハ智慧ナリ、無礙光ノ智ヲ總持トマフスナリ」といへり。

【行三〇】【行七〇】【行八七】「菩薩ハ四種ノ門ニ入りテ、自利ノ行成就シタマヘリ、知ルベシ。菩薩ハ第五門ニ出テ、

迴向利益他ノ行成就シタマヘリ、知ルベシ。菩薩ハ是ノ如ク五門ノ行ヲ修シテ、自利利他シテ、速ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲ成就スルコトヲ得タマヘルガ故ニト。」

淨土論は行者に約するが故に、「菩薩、入ノ四種ノ門ヲモテ自利ノ行成就ス、知ルベシ。菩薩、出ノ第五門ノ迴向ヲモテ、利益他ノ行ヲ成就ス、知ルベシ。……成就スルコトヲ得ルガ故ニ」と讀むの意なり。今法藏菩薩に約して引くが故に、三所の成就に、崇重の轉聲を附す。

【行三〇】「云何が迴向スル、一切苦惱ノ衆生ヲ捨テズシテ、心ニ常ニ作願スラク、迴向ヲ首トナシテ大悲心ヲ成就スルコトヲ得タマヘルガ故ニトノタマヘリ。……往相トハ、己ガ功德ヲ以テ一切衆生ニ迴施シテ、作願シテ共ニ彼ノ阿彌陀如來ノ安樂淨土ニ往生セシメタマフナリ。」

【信本表〇】「云何が迴向シタマヘル、……往相トハ、己ガ功德ヲ以テ一切衆生ニ迴施シタマヒテ、作願シテ共ニ彼ノ阿彌陀如來ノ安樂淨土ニ往生セシメタマフナリ。還相トハ……

共ニ佛道ニ向ハシメタマフナリ。若ハ往、若ハ還、皆衆生ヲ拔テ生死海ヲ渡センガ爲ニシタマヘリ。……」

淨土論及び論註は、行者に約するが故に自力迴向なるを、今法藏菩薩に約して他力迴向を顯すが故に、崇重の點を附すること、前項の如し。

【行四〇】 弟子の二字、禮讚の原文は、次下見佛の願文に屬す。今上に屬して一句となす。

【行四〇】「至心ヲ須キテ、往クコトヲ求メヨ。」

禮讚の原文は「須ラク至心ニ往クコトヲ求ムベシ」の意なり。今典須の字を「モチケル」と讀みて、他力の信を顯はす例多し。

【信本三〇】「眞實心ノ中ニ作シタマヘルヲ須キンコトナシ」(散善義の原文、「須ク眞實心ノ中ニ作スベシ」)

【信本二〇】【信本二一】「眞實心ノ中ニ捨テタマヘルヲ須キヨ……眞實心ノ中ニ作シタマヘルヲ須キヨ……皆眞實ヲ須キルカ故ニ」(同じく)「須ラク眞實心ノ中ニ捨ツベシ……須ラク眞實心ノ中ニ作スベシ……皆須ラク眞實ナルベキガ故ニ」

【信本三〇】【信本三〇】「決定シテ眞實心ノ中ニ迴向シタマヘル願ヲ須キテ得生ノ想ヲ作セ」(同じく)「須ラク決定シテ眞實心ノ中ニ迴向シ、願シテ得生ノ想ヲ作スベシ」

【信本二八】「要ズ發菩提心ヲ須キルヲ源ト爲スト」(安樂集の文)「要ズ須ラク菩提心ヲ發スヲ源ト爲スベシ」

【化本三二】「必ズ眞實ヲ須キルガ故ニ」(禮讚の文)「必ズ須ラク眞實ナルベキガ故ニ」

【行三〇】「覺ハザルニ眞如ノ門ニ轉入ス」  
般舟讚ノ原文「覺ラズシテ眞如ノ門ニ轉入ス」の意が。懷愧錄(僧觀)に、不覺に無作と自然との二義を擧げ、無作の義は覺觀の作意を離るゝの意にして、自然とは今の點の意なりとす。良忠の私記に、不覺とは起信論に所謂生滅門なりといひ、又別に、無明と任運との二説を擧ぐ。

【行三〇】「眞ノ無生ヲ得ン者ニハ、執力能ク此ヲ與ヘンヤ。」  
五會讚の原文は、「眞ノ無生ヲ得ル者ハ、執力能ク此ニ與カランヤ」と讀み、眞の無生を得る者は、所作は辨の故に、廣

略設化の關する所に非ざるの意なるべし。今の點、眞の無生を得る者には、廣略の教法を説き興ふるを要せずの意にて、義に於て大異なし。

【行三〇】 然ルニ彼ノ西方ハ殊妙ニシテ、其ノ國土ニ比シ難シ。マタ嚴ルニ百寶ノ蓮ヲ以テス。九品ニ數キテ以テ人ヲ收ムルコト、其レ佛ノ名號ナリ。」

五會證の原文は、「然ルニ彼ノ西方ハ、殊妙ニシテ比シ難シ。其ノ國土ヤ、嚴ルニ百寶ヲ以テシ、蓮九品ヲ數キテ、以テ人ヲ收ム。其ノ名號ヤ……」と讀むの意なり。今其名號也の四字に佛の字を加へ、之を上に屬して、名號の徳を説くの文となす。

【行三〇】 「禪律如何ゾ是レ正法ナラン。念佛三昧是レ眞宗ナリ。」

五會證の原文は、「禪律如何ゾ是レ正法ナル。念佛三昧是レ眞宗ナル」と二問を徵起するの意なり。今轉じて禪律を廢して念佛を立するの意となす。

【行三七】 「恒沙曠劫ヨリ總テ經カヘレリ。」

【行三七】 「正ニ無病ニシテ總テ能クカヘルニ値ヘリ」

【行三八】 「名ヲ聞テ我ヲ念セバ總テ迎ヘカヘラシム」

來の字を「カヘル」と訓するに、前の二句は苦惱の舊里に歸るを意味し、後の一句は法性の都に歸るを意味す。

【行三九】 「備サニ等シク衆生ノ行ヲ施シタマフ」

述文贊の原文は、「施等ノ衆ノ聖行ヲ備フ」と讀むの意なり。今聖を生に改め、讀法を更へて、他力廻施を顯はす。

【行四〇】 「善ニ因テ既ニ成シタマヘリ、ミヅカラ果ヲ獲ズ。」

同じく、「因善既ニ成ズ、オノヅカラ果ヲ獲ザランヤ」の意なり。今轉用して、淨土は佛所修の善に因て成するが故に、自力にて生ずるを得ずの意となす。山本「オノヅカラ果ヲ獲ザランヤ」と點するは、佛力自然の義を顯はすなり。

【行四一】 「即チ往クコト誓願ノ力ナリ」

同じく、「即チ往ノ誓願ノ力ナリ」の意なり。今轉じて往生の義となす。

【行三〇】「信本三〇」 「彌陀ノ本弘誓願ハ、名號ヲ稱スルコト、下至十聲聞等ニ及ブマテ、定ンテ往生ヲ得。」

この禮讚の文、他流にては、「彌陀ノ本弘誓願、及ビ名號ヲ稱スルコト、下十聲等ニ至ルマテ……」と讀む。此場合、及の字、甚だ解し難く、寧ろあらずがな之感あり。今の點は、彌陀の本弘誓願は名號を稱へん者を助くるの本願なることを明にす。校正標異の補遺、參照。

【行六〇】 「大菩薩法身ノ中ニ於テ、常ニ三昧ニ在テ、種種ノ身、種種ノ神通、種種ノ說法ヲ現シタマフコトヲ示ス。皆本願力ヨリ起ルヲ以テナリ。」

【證四〇】 「……種種ノ說法ヲ現ズルコトヲ示ス……」

この文、論註は淨土の菩薩に約するが故に、「……種種ノ說法ヲ現ズルコトヲ示ス、皆本願力ヲ以テ起セリ」と讀むの意なり。本願力とは各自の度生の本願なり。今の點、行卷は法藏菩薩に約し、本願力とは通じて四十八願を指す。證卷は還相の菩薩に約するが故に、本願力とは第二十二願を指す。

【行六〇】 「是レ早ク佛ト作ルコトヲ得タマヘルナリ」

論註は約末の故に「早ク佛ト作ルコトヲ得」と讀む。今は約本の故に崇重の轉聲を附す。

【行七〇】「證七〇」 「常倫ニ超出シ、諸地ノ行現前シ、普賢ノ徳ヲ修習セン。」

大經の二十二願文、論註は「常倫諸地ノ行ニ超出シ、現前ニ普賢ノ徳ヲ修習セン」と讀み、淨土に生ずる時は、諸地を超越して速に補處に至り普賢の徳を修するを、二十二願の願意とするの意なり。然るに集主は、この願を還相廻向の願と名け、淨土に生れて滅度の果を得たる者が、從果降因して補處の位に至るを以て利他教化地の初となし、又意樂によりて下地に在りて自在の化を行ふものも、共に還相の悲用となす。此故に安養界裡の菩薩は、階次漸進の常倫を超越し、何れ地に在るも、諸地の行自然に現はれて、一地即ち一切地、地々相入圓融無礙にして、能く普賢の徳を修するの利益あることを顯はさんが爲に、文を讀むこと通途に異なり。

【行九〇】「不逆ニ信順ス」

涅槃經は、「信順シテ逆ハズ」の意なり。微決に、不逆は其國不逆違の義にして、自然牽引の法たる名號に信順するの意なりといふ。

【行九七】「文殊ノ法ハ常ニ爾ナリ」

華嚴經にては、「文殊ヨ、法ハ常爾ナリ」と讀むの意なり。今「文殊ノ法」といふは、微決に、文殊所得の法たる念佛三昧を指すなりといふ。

【信本五〇】「我が名ヲ聞キ已ランニ、所有ノ善根心ニ迴向セシメ、」

如來會の文は、「我が名ヲ聞キ已リテ、所有ノ善根ヲ心ニ迴向シ」と讀みて、衆生の迴向を意味するを、今轉して佛の迴向とす。此場合「迴向セシム」は「迴向シタマフ」の意とすべし。尤も此文を、約佛約生の二意に解し得ること、校正標異に記するか如し。正依の大經の至心迴向の讀法に准すれば、約佛を親とす。

【信本六〇】【信本二〇】「至心ニ迴向セシメタマヘリ」

經西の大雲本は、前後の文を讀みて、「信心歡喜シテ、乃至一念至心ニ迴向シテ、彼ノ國ニ生レント願スレハ」といふ。至心迴向を衆生に屬すること、前後の句に同じ。然るに今の點は、前後の句は衆生に屬するに、この一句のみは佛に屬し、佛の名號所具の善を衆生に迴向したまふとすもの、他力の深意を發揮するものなり。この句【信本六〇】には「至心ニ迴向シタマヘリ」と點するもの、唯延促の異のみ。

【信本六〇】「能ク一念ノ淨信ヲ發シテ歡喜シ、所有ノ善根迴向シタマヘルヲ愛樂シテ、」

如來會の文は、「能ク一念ノ淨信ヲ發シテ歡喜愛樂シ、所有ノ善根迴向シテ」の意なり。【信本五〇】【信本二〇】には、歡喜愛樂の四字を能發一念淨信に屬して引くこと、如來會の如し。今の文、歡喜と愛樂とを分ちて上下に分屬せしめ、【信本六〇】には、歡喜愛樂の四字を下の句に屬して引くは、集主獨特の筆格なり。迴向に「シタマヘルヲ」の轉聲を附するもの、正

依の大經の「至心ニ迴向シタマヘリ」と同義なり。

【信本七〇】【信本一五〇】「能ク廣大佛法異門ニ生レント」

如來會の坊本、「能ク廣大佛法ノ異門ヲ生ス」と點す。樹心錄は、十力四無畏等の種々の法門を出生するの意とす。今の點、略讀には、生は往生にして、廣大佛法異門とは安樂淨土の別號なりといひ、微決には、名號奇特法中に出生す、所謂正定聚に入るの意なりといふ。

【信本二一三】信心歡喜シテ聞ク所ヲ慶バンコト、乃シ一念ニ暨ブマテセン、至心ノ者迴向シタマヘリ。」

藏彌陀偈の坊本、「信心歡喜シテ聞ク所ヲ慶ブ、乃チ一念至心ノ者ニ暨ブマテ、迴向シテ生セント願ズレバ皆生ヲ得」と點す。今の點、乃暨一念を上への句に屬し、至心者を佛となし下への句に屬し、以て他力迴向を顯はすなり。これ十八願成就の文の至心迴向の讀法に應ずるものなり。

【信本三〇】「外ニ賢善精進ノ相ヲ現ズルコトヲ得ザレ、内ニ虛假ヲ懷ケバナリ。」

散善義は、「外ニ賢善精進ノ相ヲ現シ、内ニ虛假ヲ懷ケヲ得サレ」と讀むの意なり。内外不調を誡むるは同じと雖も、彼は内の外と相應せざるを誡め、今は外の内と相應せざるを誡むるの左右あり。

【信本三三三】「急ニ走メ急ニ作シテ、頭燃チ灸フカ如クスル者モ、」

走を「モトメ」と讀ましむるもの、凡そ求むる所あるものは、走つて之を得んとするが故に、走の字に求の訓を附せるなり。灸は救と音通するが故に、散善義は「スクフ」の意に用うるなり。今「ハラフ」と讀むもの、和語燈卷二、七箇條起請文に、「日夜十二時ニカウベノ火ヲハラフガゴトクニスレドモ」と云へる、吉水大師の語に准せるならんといふ。

【信本四〇】【信本四一〇】「凡ソ施シタマフ所趣求ヲ爲ス、亦皆眞實ナリ。」

散善義は、「凡ソ施爲趣求スル所亦皆眞實ナリ」の意にして、施爲趣求は利他と自利とに當る通途の用語なり。今轉じて、

佛の施與したまふ行を以て衆生趣求の行となすの意となす。

【信本二六〇】「決定シテ行ニ依レ」

【信本二六〇】「此經ニ依テ行ヲ深信スル者ハ」

他流にては「依行セヨ」深信シテ行スル者ハ」と讀みて、行を衆生の能行となす。今の點は行を法體大行となすなり。

【信本二六〇】「別解別行惡見ノ人等、妄リニ見解ヲモテ造ニ相惑亂シ、及ヒ自ラ罪ヲ造テ退失スト説クニ喩フルナリ。」

法華問答に散善義の此文を引き、「……妄リニ見解ヲ説テ造ニ相惑亂シ、及ヒ自ラ罪ヲ造テ退失スルニ喩フルナリ」と讀むもの、他流の讀法に同し。今の點、造相惑亂と造罪退失を、別解別行人等か行者を誘惑する爲に説く所の事となす。

【信本二六〇】「此ノ法ヲ聞テ、信心ヲ歡喜シテ、疑ナキ者ハ、」

華嚴經の文は、「此ノ法ヲ聞テ歡喜シ、信心疑ナキ者ハ」の意なり。今「信心ヲ歡喜シテ」と點するもの、大經の聞其名號信心歡喜の文に順するなり。

【信本二六〇】「信ヲ彰ハシテ能入ト爲ス」

論註、如是を釋して、「信ヲ能入ト爲スコトヲ彰ハス」といふなり。

【信本二六〇】【證三〇】「因ナクシテ他ノ因ノ有ルニハ非サルナリ」

論註は、「無因ト他因ノ有トニハ非サルナリ」と讀みて、無因外道と他因外道の二者に簡ふの意なり。今の點、無因他因の五字を一意となし、如來迴向の行信を以て因とすることゝ讀仰するなり。

【信本二六〇】【證二〇】【證三〇】「本願力ノ迴向ヲ以テノ故ニ」

淨土論は行者に約して、「本願力ヲ以テ迴向スルカ故ニ」と讀むの意なり。今佛に約して他力の迴向を顯はすの文となす。

【信本二六〇】「各無上心ヲ發セトモ」

玄奘分は、「各無上心ヲ發セ」の意にして、二卷鈔(上)には、この點に従ふ。これ無上心を他方に約するなり。今の點は自力に約すと知るべし。

【信本二六〇】「正シク金剛心ヲ受ケテ、一念ニ相應シテ後、果ト

シテ涅槃ヲ得ル者ナリ。」

序分義は「……妙覺及ヒ等覺ノ正受金剛心ト、相應一念ノ後ノ果徳涅槃ノ者トニ、歸命ス」の意なり。相應一念後を「一念ニ相應シテ後」と點するもの、上の華嚴經の歡喜信心を、翻倒して點すると同例なり。詳しくは校正標異を見よ。

【信本二六三】「己ガ所集ノ一切ノ功德ヲ以テ、一切衆生ニ施與シタマヒテ、共ニ佛道ニ向ハシメタマフナリ。」

論註は行者の迴向を釋するが故に、「……一切衆生ニ施與シテ、共ニ佛道ニ向フナリ」と讀むの意なり。今他力迴向を顯はすが故に、崇重の點を附す。

【信本二六三】「法ノ難ヲ説ク中ニ」

小經義疏は、「説法ノ難ノ中ニ」と讀みて、能説の難を説くの意なり。今轉じて、所説の難となす。

【信本二六三】【化本二〇〇】「讀誦スル能ハズシテ他ノ爲ニ解説スルハ、利益スル所ナシ。」

涅槃經は、「讀誦シ、他ノ爲ニ解説スル能ハズバ、利益スル

所ナシ」と讀むの意なり。今の點、自行なくして化他するを嫌ふの意となす。

【信本二〇〇】「自然ノ奉ク隨ナリ」

大阿彌陀經は、「自然ノ奉クニ隨フ」と讀むを通例とす。今の訓、正依の自然之所奉の文に順して讀むなり。

【信本二〇〇】「善ク自ラ己ガ能ク思量セヨ」

禮讚は、己の心を已に作り、「善ク自ラ思量セヨ、已ニ能ク……」と讀むの意なり。

【信本二〇〇】「説法ノ者ニ於テハ、醫王ノ想ヲ作セ、拔苦ノ想ヲ作セ。……其ノ聽法ノ者ヲバ、增長勝解ノ想ヲ作セ、愈病ノ想ヲ作セ。」

安樂集は、「説法ニ於ケル者ハ……其レ聽法ノ者ハ」と讀みて序の如く、説者と聽者の思想を述べたるなり。今文點を改めて、序の如く聽者と説者の思想となす。

【信本二〇〇】「此世界ヨリ」

大經の文は、「此世界ニ於テ」の意なり。今の點に従へば、一

句を隔て、往生彼國の上に冠して讀むの意なり。

【信末元〇】「譬へハ病アリテ必ス死シテ治スルコトナカラニ、若シ瞻病隨意ノ醫藥アラシガ如シ。若シ瞻病隨意ノ醫藥ナクンバ、是ノ如キノ病、定ンテ治スベカラズ。當ニ知ルベシ、是ノ人必ズ死センコト疑ハズ。」

涅槃經は、「譬へハ病アリテ必ス死シテ治スルコトナカラニ、若ハ瞻病隨意ノ醫藥アルモ、若ハ瞻病隨意ノ醫藥ナキモ……必ス死センコト疑ハサルカ如シ」の意なり。今の點は、瞻病隨意の醫藥ある者は治し、之なき者は治せずと、二類を擧ぐる意となす。

【信末三〇】「而ルニ眷屬ノ爲ニ、現世ノ五欲ノ樂ニ貪著スルガ故ニ」

涅槃經にては、而爲眷屬の四字は、今典に於て乃至せる純爲惡人の四字と一句を爲すか故に、「純ラ惡人ヲ以テ而モ眷屬ト爲ス」と讀むなり。

【信末六〇】「諸佛ノ弟子、此語ヲ説キ已テ」

涅槃經にては、諸佛弟子の四字は、次上の乃至せる文に屬して、阿闍世が自ら呼ぶの語なり。今轉して下の句に屬し、經家が阿闍世を呼ぶの稱となす。

【信末七〇】「……悲智ノ心ヲ起シ、廣ク四十八願ヲ弘メタマヒシニ由テナリ。」

法華經は、「悲智ノ心、廣弘ノ四十八願ヲ起シタマフニ由テナリ」と讀むの意なり。今の點、廣く一切人天善惡衆生の爲に四十八願を弘通するの意となす。

【證四〇】「彼ノ因ヲ建立セルコトヲ了知スルコト能ハサルカ故ナリ」

如來會の坊本、「了知シテ彼ノ因ヲ建立スルコト能ハザルガ故ナリ」と點するもの、衆生に約す。今の點は、他力を顯はすか故に、建立彼因を佛に約し、邪定不定の機は、佛が衆生の爲に報土の眞因を建立したまへることなす了知せざるの義となす。

【證四〇】「冠念シテ願生センモノト、亦往生ヲ得ルモノトハ、

即チ正定聚ニ入ル。」

論註は、「冠念シテ生レント願スレバ、亦往生ヲ得、即チ正定聚ニ入ル」と讀むの意なり。今の點、二類を擧ぐるの意となし、現生正定の證となす。

【證六〇】「遠ク通スルニ、夫レ四海ノ内皆兄弟ト爲ルナリ。」

同じく坊本、「遠ク夫ノ四海ノ内ニ通シテ」と點するもの、文に親し。

【證九〇】「西方寂靜無爲ノ樂ニハ」

定善義は、穢土の有爲の苦に對して、淨土の無爲の樂を嘆す。

【眞三〇】「是ヲ善男子善女人ト名ク」

【眞三〇】「是ヲ菩薩ト名ク」

涅槃經は何れも後に十六字ありて、前者は「是ヲ善男子善女人、是ノ如キノ大涅槃經ヲ修行シ、初分功德ヲ具足成就スト名ク」と讀み、後者は「是ヲ菩薩、大涅槃經微妙經典ヲ修シ、第七功德ヲ具足成就スト名ク」と讀むの意なり。

【眞四〇】「正道ノ大慈悲ハ出世ノ善根ヨリ生ズ」

淨土論及論註は、正道大慈悲と出世善根は、能生所生の關係にあらずして、正道大慈悲即ち出世善根にして、之が能生となりて淨土を生ずるの意なり。詳しくは校正標異(二〇)を見よ

【眞六〇】「釋シテ無量壽佛經ト名ク、讚メ奉テ亦安養ト曰フ。」  
讚彌陀佛の意、「釋シテ無量壽ト名ク、經ニ傍フテ讚メ奉ル、亦安養ト曰フ」と讀むに在り。詳しくは校正標異(二二)を見よ。

【眞六〇】「若シ説クト雖モ、能説ノ説クベキアルコトナク、念ズト雖モ能念ノ念ズベキナキナルナ、名ケテ隨順ト爲ス。」

寶王論の文は、「若シ説クト雖モ、能説可説アルコトナク、念ズト雖モ能念可念ナキナルナ、隨順ト名ク」と讀みて、能所を混亡するの意なり。

【化本三〇】「大衆ト圍繞シテ」

大經の文は、佛が「大衆ノ與ニ圍繞セラレテ」の意なり。今佛大衆と與に行者を圍繞するの意となす。

【化末三〇】「毘沙門天王、夜叉衆ト圍遶シテ護持養育ス」大集經の文は、毘沙門天王が「夜叉衆ノ與ニ圍遶セラレテ」國王を護持養育するの意なり。今毘沙門天王が夜叉衆と共に國王を圍遶するの意となす。以下の三所亦然り。

【化本二〇】「此ノ經ヲ以テ准難スルニ、生ズルコトヲ得ヘキヤ」

要集の文は、「此ノ經ヲ以テ准ズルニ、生ヲ得ヘキコト難シ」の意なり。

【化本三〇】「往生經ノ行ニ依テ行ズレバ」

散善義の文、他流にては「往生經ニ依テ行ナ行ズレバ」、又は「往生經ニ依テ行スレバ」と讀む。前者は上を能行、下を所行とし、後者は二共に能行となす。今の點、上の行を三經所詮の行とし、下の行を能行とする意なり。

【化本四〇】「定善ハ觀ヲ示ス緣ナリ」

【化本五〇】「散善ハ行ヲ顯ハス緣ナリ」

序分義にては、觀經發起序の第六、第五の兩段に附する名稱

なり。緣は興起の由縁の義なれば、定善示觀即緣、散善顯行即緣の義なり。今轉じて、定散二善は弘願の智慧觀と念佛行を顯示する方便の意となす。

【化本二〇】「若シ一心カケヌレハ生ズルコトヲ得ズ」

禮讚は、三心を具すれば往生を得、一心にても缺くる所あれば往生を得ざるの意なり。故に「一心モカケヌレバ」と點す。集主の一心を三心即一の信心となし、一心の缺くるは本願の三信の缺くるの意となすが故に、「モ」の轉聲を附せず。

【化本四〇】「彌陀弘誓ノ重ナレルニ爲テ」

【化本五〇】「彌陀弘誓ノ重ナレルヲ爲テ」

法事讚は、「彌陀弘誓ノ重キガ爲ニ」の意なり。

【化本六〇】「我が名ヲ説クヲ聞テ、以テ己ガ善根トシテ」

如來會の坊本、「己ガ善根ヲ以テ」と點するもの、常途の讀法なり。今の點、本願の嘉號を以て己が善根となすの意を明にするの意なり。

【化本三〇】「專ニシテ專ナレト指授シテ、西方ニ歸セシムレ

ドモ」

法事讚は、「專專ニ指授シテ」と讀み、專專は指授の方法を示せるが如し。今專專ヲ指授の語となす。

【化末三〇】勤の字、「チムゴロニ」と訓するもの、勤に通ぜしむるの意なり。以下の數所亦同し。

【化末三〇】「此ノ圍浮提ト北方ト諸佛ノ法ヲ護持セン」

大集經は、「圍浮提ノ北方ノ諸ノ佛法」の意なるべし。徵決に、祖讀の意は、圍浮提は毘沙門の別護持處、北方はその本所領處なるが故に、「二所に」トの轉聲を施さずなりといふ。

【化末三〇】「其ノ迹ヲ語ルナリ」

辯正論は、「其ノ迹ヲ語ルヤ」と讀みて、下に屬する意なり。

## 第二省略例

文を略する時は、通常乃至の二字を置く例とすれども、間々乃至の二字を置かずして文を略するあり。此等はこゝに擧げ

す。唯一字、數字、若くは一句を略せるものを擧ぐ。之を略せるには、間々別意を存するものもあるも多くは偶然的省略なるに似たり。

【教三〇】告阿難曰の下、大經、云何阿難の四字あり。

【教五〇】乃の下、平等覺經、有の字あり。

【行五〇】我作佛時の上、平等覺經、十七の二字あり。次頁の我作佛時の上、十九の二字あり。

【行三〇】若已滅の下、十住論、者の字あり。今別義を顯はす爲に前後の文點を改むるを以て、故らに之を除ける歟。

【行四〇】辟支の下、同じく、佛の字あり。

【行三〇】名號の上、易行品、其の字ありて十方諸佛を指すの意なるも、集主の意、次上に引ける偈頌の執持稱名號を、彌陀の名號となすに在るを以て、この偈文に應ぜしめんが爲に故らに其の字を除けるか。

【行三〇】無佛時の上、論註、於の字あり。

【行元〇】云何讚嘆の下、同じく、門の字あり。

【行元〇】天親の下、同じく、菩薩の二字あり。  
 【行壹〇】名の下、同じく、爲の字あり。  
 【行壹〇】與佛教相應の下、同じく、相應の二字あり。與佛教相應の五字は、上の句に屬し、相應者は下の句に屬すればなり。今相應の二字を除きて、上の五字を下に屬せしむ。  
 【行貳〇】在の下、禮讚、世の字あり。法然上人が集主に與へられたる眞像の銘に、この字なきが故に、故らに之を略するか。  
 【行參〇】門の上、五會讚、禪の字あり。  
 【行肆〇】雙卷經の上、往生要集、二の字あり。  
 【行伍〇】觀經の下、同じく、云の字あり。  
 【行六〇】出の下、同じく、生の字あり。  
 【行七〇】阿彌陀の上、論註、是の字あり。  
 【行八〇】毘の下、安樂集、不用の二字あり。  
 【行九〇】五門、論註、五念門に作る。淨土論は、念の字なし。  
 【行〇〇】若不生者、同じく、若不得生者の五字に作る。

【行九〇】不住定聚、同じく、不住正定聚の五字に作る。前項と共に、大經の文に従ふて略するか。  
 【行〇〇】非佛說の下、涅槃經、者の字あり。  
 【信本六〇】【信本四〇】【信末三〇】能發の上、如來會、乃至の二字あり、正依の大經の乃至一念に相當す。  
 【信本二〇】二の下、定善義、者の字あり。  
 【信本三〇】五苦の下、序分義、八苦の二字あり。  
 【信本四〇】【化本七〇】是の下、涅槃經、故の字あり。  
 【信本六〇】【信本五〇】豪賤の上、小經義疏、不擇の二字、善惡の上、同じく不選の二字あり。  
 【信本七〇】世間の上、同じく、一切の二字あり。  
 【信本八〇】難也の上、同じく、一の字あり。  
 【信本九〇】勝解の下、如來會、之の字あり。  
 【信末二〇】廣大の下、同じく、佛法の二字あり。  
 【信末七〇】未能の下、安樂集、得の字あり。  
 【信末八〇】發心の二字、同じく、發此心の三字に作る。

【信末九〇】此等の上、同じく、當知の二字、人の下、也の字あり。

【信末三〇】歡喜の下、序分義、故の字あり。  
 【信末五〇】【信末四〇】無華の下、涅槃經、答の字あり。  
 【信末六〇】我諸弟子の上、同じく、善男子の三字あり。  
 【信末七〇】五逆の上、論註、作の字あり。  
 【信末八〇】往の下、法事讚、生の字あり。  
 【信末九〇】墮の下、往生十因、於の字あり。  
 【證一〇】法の下、論註、也の字あり。  
 【證二〇】作心の上、同じく、須の字ありて、「要ラズ作心ヲ須キテ三昧ニ入ル」を點す。  
 【證三〇】畢竟の上、同じく、言の字あり。  
 【證四〇】實の上、同じく、而の字あり。  
 【眞一〇】大智海、涅槃經、大智慧海に作る。  
 【眞二〇】無生忍、論註、無生法忍に作る。  
 【化本三〇】我の下、悲華經、時の字あり。

【化本七〇】彼國土の上、大經、於の字あり。  
 【化本七〇】若の下、同じく、有の字あり。  
 【化本二〇】由の下、述文贊、此の字あり。  
 【化本六〇】一切法、序分義、一切諸法に作る。  
 【化本三〇】是の上、禮讚、即の字あり。  
 【化本二〇】徹心體、禮讚、徹心徹體に作る。  
 【化本三〇】【化本三〇】是の上、安樂集、現の字あり。  
 【化本四〇】惡衆生の下、散善義、惡見の二字あり。  
 【化本五〇】一切の上、同じく、即の字あり。  
 【化本六〇】爲の下、涅槃經、於の字あり。今、この字を略せるもの、却て讀み易しす。  
 【化本九〇】人語言、大論、人語之言の四字に作る。  
 【化本七〇】勸歸淨土者の下、安樂集、若敬起時機易修易悟の九字あり。  
 【化本七〇】正法念經云の上、【化本三〇】大集月藏經云の上、同じく、是故の二字あり。

第三更改例

字句を更改せるもの。之には偶然の更改あり、また別意を存するあり。中には異本に依れるものもあるべし。

- 【化本三〇】 一念の上、同じく、若の字あり。
- 【化本三二】 大集經、同じく、大集月藏經に作る。
- 【化本三三】 盈の下、燈明記、手又は子の字あり。
- 【化本三五】 溢の下、同じく、手の字あり。
- 【化本三六】 破持僧の下、同じく、之の字あり。
- 【化本三七】 一、二の下、同じく、人の字あり。
- 【化本三八】 婢の下、同じく、亦の字あり。
- 【化本三九】 無量の下、同じく、阿僧祇の三字あり。
- 【化本四〇】 歸依於佛者の下、涅槃經、眞名優婆塞の一句あり。
- 【化本四一】 祭の上、十輪經、祠の字あり。
- 【化本四二】 鬼神の下、起信論、之の字あり。
- 【化本四三】 左衽及び右命の下、辯正論、者の字あり。
- 【化本四四】 通管屬、止觀、通是管屬の四字に作る。

- 【教五〇】 有情、如來會、衆生に作る。
  - 【教五一】 普等三昧、述文贊、諸佛平等三昧に作る。
  - 【教五二】 過上、同じく、過者に作る。
  - 【行五三】 大衆、大阿彌陀經、大坐に作る。
  - 【行五四】 悉、平等覺經、疾に作る。
  - 【行五五】 【化本四六】 斯、同じく、此に作る。
  - 【行五六】 蔽、同じく、弊に作る、異本あるか。
  - 【行五七】 【悲華經大施品二卷二言ハク】
  - 【化本三八】 【悲華經ノ大施品ニ言ハク】
- 所引の文は、悲華經の第三卷、諸菩薩品授記品第四之一に出づ。
- 【行三〇】 懶、十住論、懶に作る。

【行三〇】 如是、易行品、更有に作りて下の句に屬す。

【行三一】 人、同じく、者に作る。

【行三二】 將、安樂集、持に作る。

【行三三】 【行三二】 勉、所引の原本、免に作る。終南大師、免

の字を多く勉に作るに習ふか。

【行三四】 消、五會讚、滅に作る。

【行三五】 度、同じく、慶に作る。「此ノ人身ノ値遇シ難キコ

トヲ慶ブ」の意なり。

【化本四四】 「深ク自ら度ル」さいふもの、法華讚、「慶ブ」に

作る。

【行五七】 契、五會讚、契に作る。

【行五八】 總、同じく、備に作り、「正ニ病惱ノ能ク來ルナキ

ニ値ヘリ」と讀む。

【行五九】 大衆等、同じく、諸大衆に作る。

【行六〇】 導、同じく、道に作る。次下の三處亦然り。

【行六一】 依新無量壽觀經、同じく、新無量觀經に作る。

【行六一】 無異、悲華經、「無量種種莊嚴佛之世界等無差別」の

十四字に作れるを、改めて二字となす。

【行六二】 生、述文贊、聖に作る。

【行六三】 誰、同じく、誰に作り、「詎ゾカヲ盡シ、善ヲ作シ

テ生ヲ願セザランヤ」と點す。

【行六四】 來、同じく、求に作る。

【行六五】 彌陀、往生要集、念佛に作る。

【行六六】 波師迦華、同じく、婆師華に作る。

【行六七】 【眞義〇】 菓、所引の原文、果に作る。

【行六八】 即、安樂集、但に作る。

【行六九】 不、同じく、未に作る。

【行七〇】 愚哉、論註、測截に作る。測截は值遇を慶幸するの

辭なり。

【行七一】 此方、觀經疏、此土に作る。

【行七二】 屍骸、論註、死尸に作る。

【行七三】 「還丹一粒變鐵成金、眞理一言轉惡業成善業」



樂邦文類、「三點鐵成金」華凡成聖に作る。

【信本八〇】諸智士、如來會、諸智士に作り、「博聞諸智ノ士」の意なり。今「博ク諸智士ヲ聞キテ」ヲ讀むもの、或は錯本に依るか。

【信本八〇】令、同じく、念に作る。「常ニ諸佛ヲ念シテ喜ヲ生セン」の意なり。

【信本九〇】存、論註、在に作る。

【信本三〇】減、要集、減に作る。

【信本四〇】明即の明、涅槃經、光に作る。

【信本五〇】畢、同じく、必に作る。

【信本三三〇】能、華嚴經、得に作る。

【信本六一三】得、序分義、德に作る。

【信本六〇】中生、開持記、下生に作る。中生に作るもの、觀經の文に契ふ。

【信本六〇】二惑、同じく、三惑に作る。

【信本三〇】【化本六〇】未信、涅槃經、不信に作る。

【信本三〇】【信本六〇】輪、所引の原本、論に作る。

【信本三〇】【信本七〇】【信本八〇】【信本三二】選、所引の原本、經に作る。

【信本四〇】無邊、如來會、無數に作る。

【信本四〇】菩提、同じく、正覺に作る。

【信本六〇】作、安樂集、住に作り、「恒ニ此ノ人ト興ニ而モ住シテ施ヲ受ク」ヲ讀むの意なり。今點を改めて、「恒ニ此ノ人ノ興ニ受施ヲ作サン」ヲ讀む。

【信本七〇】王、安樂集並に本據の智度論、主に作る。

【信本七〇】波若、同じく、般若に作る。

【信本七〇】假門、法事讚、化門に作る。

【信本六〇】閑、同じく、間に作る。

【信本三〇】己、涅槃經、巳に作り、上の因書交の三字と共に一句をなす。

【信本三〇】末伽梨拘除梨子、同じく、末伽梨(北本、黎)拘舍離子に作る。

【信本四〇】蘇、同じく、數に作る。

【信本三〇】安穩、同じく、安隱に作る。「行々ハ」の安穩、平等覺經の四本また安隱に作るも、坊本は今の如し。

【信本四〇】治療、療の三字、同じく南本及北本、而治之に作り、南三本、治將療に作る。

【信本四〇】消滅、同じく、得滅に作る。

【信本四〇】采女、同じく、採女に作る。

【信本九〇】邊、同じく、繞に作る。

【信本六〇】市、同じく、販に作る。

【信本三〇】時、同じく、南本及北三本、所に作り、北本、諸に作る。

【信本二〇】生、論註、土に作る。

【證三〇】【證六〇】端政、大經及安樂集、端正に作る。

【證五〇】即、論註、則に作る。易行品の即入必定の文に順じて之を改むるか。

【證四〇】未證、同じく、未得に作る。證の字、牒文に應ず。

【證八〇】即日の二字、同じく、即日を作りて下に屬す。

【證七〇】智、同じく、知に作る。智に作るを正さず。

【證三〇】出家者の下、同じく、持戒破戒昔の五字あり、今之を略して、亦の字に代ゆ。

【證六〇】師子、同じく、獅子に作る。

【眞三〇】嘆、如來會、映に作る。

【眞七〇】【眞九〇】婁、大阿彌陀經、炤に作る。

【眞八〇】殊好、同じく、姝好に作る。

【眞九〇】梨、同じく、黎又は黎に作る。

【眞二〇】【化本二〇】蘇、涅槃經、酥又は酥に作る。

【眞一〇】變易、同じく、變異に作る。

【眞四〇】說言、論註、統言に作る。

【眞六〇】盛心、現流の述文贊、感心に作る。感は憂の義、痛の義にして、今の文に契れば、これ却て形誤ならんか。

【眞一〇】身、述文贊、體に作る。

【化本一〇】於我前、悲華經、於我所に作る。

【化本八〇】胎宮、大經、宮殿に作る。  
 【化本二〇】云云、要集、已上の二字を細書す。  
 【化本五五】專稱、小經義疏、專持に作る。  
 【化本五五】住持、小經疏、任持に作る。  
 【化本六四】慈恩、般舟讚、師恩に作る。  
 【化本六九】不了義、大論、未了義に作る。  
 【化本六九】已、大論、以に作る。  
 【化本六九】以此故、同じく、是以故に作る。  
 【化本七〇】「無佛世衆生、佛爲此重罪不種見佛善根一人」大論、不了義經を明す中に、「又言、九十一劫三劫有佛、餘劫皆空無佛、其可憐愍、佛爲之重罪不種見佛善根一人」説言、佛世難値、如優曇波羅華時一有「さいへる文の字句を斷取して引き、且つ論文の意を轉じて、佛の生後に在る今時の衆生を擧ぐるものとなす。  
 【化本七〇】旨際、燈明記、階降に作る、階降は優劣の義なり。  
 【化本七〇】云何、同じく、如何に作る。

【化本七〇】依、同じく、按に作る。  
 【化本七〇】是、同じく、並に作る。  
 【化本八〇】大悲、同じく、大慈に作る。  
 【化本九二】禮敬、同じく、敬禮に作る。  
 【化本三〇】衆、大集經、般に作る。  
 【化本四四】皆、同じく、嘗に作る。  
 【化本四四】修習、華嚴經、習行に作る。  
 【化本四六】務、梵網經、敬に作る。  
 【化本四六】婆、本行集經、波に作る。次下の二處亦然り。  
 【化本五〇】脱、同じく、蛻に作る。下の一所亦然り。  
 【化本五二】誑惑、起信論、惑亂に作る。  
 【化本六〇】割、辯正論、割に作る。  
 【化本六〇】天下、同じく、地下に作る。  
 【化本六三】也、同じく、焉に作る。  
 【化本六三】輝、同じく、輝又ば輝に作る。  
 【化本七〇】註、同じく、注に作る。

【化本二二】後生者、安樂集、後去者に作る。

### 第四添加例

文字を添加せるもの。添加するも意義に影響なく、唯讀み易く、解し易からしむるものも、また添加して別義を顯はすものもあり。

【行六六】一念之功力、安樂集、一念之力に作る。  
 【行五五】雖、五會讚になし。  
 【行五五】佛、同じく無し。  
 【行六〇】「悲華經諸菩薩本授記品ニ云ク……」  
 【行六一】「無量壽如來會ニ云ク……」  
 この二文、述文贊の文として之を引くも、贊の中卷（今九卷、三十五）に悲華經の名を擧ぐるのみにて、經の文を載せず。今如來淨土の因果を明す文證に、二經の文を加へ引くなり。  
 【行六九】如、往生要集になし。

【行三三】「以超出常倫諸地之行現前故」の句、論註、之を現前の三字なく、「常倫諸地ノ行ニ超出スルヲ以テノ故ニ」と讀むなり。この三字を加へて點を改むるもの、次上の二十二願文の「超出常倫、諸地之行現前、修習普賢之德」の句を讀むこと、常途に異なるが故なり。  
 【信本七〇】論曰の二字、論註になし。他力同向の根本を明す要文なるが故に、特に之を加ふるが。  
 【信本六五】【證三〇】是の字、同じくなし。  
 【信本七〇】爲難の爲、次行、爲二難也の爲、小經義疏になし。  
 【信本六〇】阿彌陀等の三十二字、聞持記の文になし。集主添加して引くもの、意知り難し。  
 【信本二八】云何の云、安樂集になし。  
 【信本三〇】此經より神方に至る十三字、龍舒淨土文になし。集主の註釋的に添加する所なるべし。  
 【信本三三】提婆達多、涅槃經、提(北本、調)婆達。に作り、多

- 【信末六〇】 耶、同じくなし。
- 【信末五九】 數數、同じく、數の一字に作る。
- 【信末五八】 慈悲念、同じく、慈念に作る。
- 【證六〇】 可の字、論註になし。
- 【證五九】 佛の字、同じくなし。この字ある方、次上の文と一致す。
- 【證五八】 應知の知、同じくなし。論註は前後の文「既ニ三業具足シテ天人天ノ大師ト爲ルベキコトヲ知ヌ」を讀むの意なり。
- 【證五七】 無前後、同じく。無前後の三字に作る。
- 【證五六】 入一法句の下、同じく、者の字なし。
- 【眞五九】 不可思議光の可、如來會になし。
- 【眞五八】 得、大阿彌陀經になし。
- 【眞五七】 得解脱、涅槃經、解の字なし。
- 【眞五六】 衆生の上の爲、同じくなし。

- 【眞五九】 何以故、同じく、何故の二字に作る。
- 【眞五八】 言性者の者、論註になし。
- 【眞五七】 即是の是、同じくなし。
- 【眞五六】 無貪濁之心故云清淨の九字、述文贅になし。註釋的に添加せる所なり。
- 【化本六〇】 功德相の相、論註になし。
- 【化本五九】 歸去來、法事讚、歸の字なし。
- 【化本五八】 歸本家、同じく、本の字なし。
- 【化本五七】 五百年、燈明記、年の字なし。
- 【化本五六】 滅盡、同じく、盡の字なし。
- 【化本五五】 李耳、辯正論、耳の一字に作る。
- 【化本五四】 也、同じく無し。

### 第五 合糅例

原本の異を合糅して字句を作れるもの。この例は、涅槃經

- の引文に於てのみ之を見る。中には明かに後人の手に成れりと思はるゝものもあり。
- 【信末五三】 「又無有良醫而見救療」の句、涅槃經の北本及南麗、有の字なく、南三本、却つて又の字なし。
- 【信末五二】 「及汗比丘尼」の句、同じく南三本、及の字なく、南麗及北本、却つて汗の字なし。
- 【信末五一】 「佛則生慈悲念」の句、同じく南三本、則生慈悲の四字に作り、南麗及北本、佛則慈悲の四字に作る。
- 【信末五〇】 射獵鹿の三字、同じく南三本、射獵の二字に作り、南麗及北本、獵鹿の二字に作る。
- 【信末四九】 於汝命の三字、同じく南三本、汝命の二字に作り、南麗及北本、於汝の二字に作る。
- 【信末四八】 於四衢道頭の五字、同じく南三本、於四衢道の四字に作り、南麗及北本、四衢道頭の四字に作る。
- 【信末四七】 梅檀樹者の四字、同じく南三本、梅檀者の三字に作り、南麗及北本、梅檀樹の三字に作る。

- 【信末六八】 復墮於地獄の五字、同じく南三本、復墮地獄の四字に作り、南麗及北本、墮於地獄の四字に作る。
- 【眞三〇】 而得見佛性の五字、同じく南麗及北本は、得見佛性の四字に作り、南三本は、而得佛性の四字に作る。

### 第六 顛倒例

文字の顛倒せるもの。集主初め原文より書寫する時、偶然顛倒せるもの多きに居るが如し。

- 【行三三】 穢淨、五會讚、淨穢に作る。
- 【行三二】 果遂、述文贊、遂果に作る。
- 【信本三三】 異變、要集、變異に作る。
- 【信本三二】 發音、論註、皆發に作る。
- 【信本三一】 周徧、安樂集、徧周に作る。
- 【信本三〇】 偶說、涅槃經、說偶に作る。
- 【信本二九】 相似、同じく、似相に作る。

【化本三〇】皆頓、禮讚、頓皆に作る。

### 第七 前後例

一連の文を引くに、順序を前後せるもの。別意の存するもの、否らざるものあり。

【行三三八】「如來常於三昧海中」より、「求手解脫」に至る一節は、五會讚の五會念佛の前文にして、次の「學大哉」より、「其佛名號也」に至る一節は、その前の莊嚴文より引く。

【信末三〇】「從佛菩薩得聞法已、即便能發阿耨多羅三藐三菩提心」の二十二字、涅槃經に在りては此處になく、此引文の終より三十四字を隔て、後に出づ。今後の文を斷取し來りて、此處に挿入せるは、上文の讀法、瞻病隨意の醫藥あるものは治し、之なきものは治せず、二類を擧ぐるさながら故に、之が合法も自ら二あるを要し、爲に前の一類を合法せん

が爲に、後の文を斷章し來れるなり。

【眞六〇】「隨人隨意隨時故、名如來知諸根力」の十四字は、涅槃經に在りては、此引文の終(三三)爲第一義諦の後、百三十七字を隔て、存するを、今茲に斷取し來りて、上を結ぶの文となす。

【化本六〇】「善男子有四善事」より、「有常樂我淨」に至る一節は、次上の「善男子信有二種」の文の前に在り。

附

### 校正例

本文を校訂するに當りて、成るべく對校本又は參考本の善なるものに依りしも、間々私見を以て改訂を加へたるものあり、對校本及び參考本に關しては、校正標異の凡例を參照すべし。

【教三〇】「深キ智慧ヲ發シ、眞妙ノ辯才ヲモテ」

諸本、「深キ智慧、眞妙ノ辯才ヲ發シ、一と點す。今私に點を改む。

【教三〇】解の字、諸本になし。今述文替の文に依りて之を補ふ。

【行三〇】「設シ我レ佛ヲ得タランニ」

諸本、「タトヒ」と讀む。今銘文に従つて之を改む。以下の願文亦之に同じ。

【行三〇】法藏、諸本、寶藏に作る。今大經に従ふ。

【行四〇】「使シ某作佛セン時」

諸本、「某作佛セシメン時」と點じ、寂本は「タトヒ某作佛セン時」と點す。

【行一〇〇】【信末二〇】會ラズ當ニ世尊ト作テ、將テ一切生老死ナ度スベシ。」

諸本、將を欲然の義みなし、「將ニ一切生老死ナ度セントスベシ」と點す。

【行二五〇】「諸ノ功德ヲ得ルカ爲ノ故ニ」

諸本、「得ルコトヲ爲スカ故ニ」又は「得ルヲ爲テノ故ニ」と點す。

【行三〇】「經ニ傍フテ、願生ノ偈ヲ作レリ。」

【證八、四】「大經ニ傍フテ、奉讚シテ曰ク。」

傍の字、諸本「ソエテ」と讀ましむ。傍は倚なり、又影の形に傍ふが如きなり。

【行三〇】彼の字、諸本になし。今論註に従ふ。

【行四〇】【行二、四】【化本二〇】【化本三、〇】直の字、諸本「マナニ」と讀ましむ。終南大師の用例を案するに、「マ」の義なり。依て之を改む。

【行二〇】「タ」信心ヲモテ求念セシムレハ」

諸本、「信心ヲシテ」と點す。今典ヲシテ「ヲモテ」と同義に用ふる例多し。今濫を避けん爲めに、凡て之を改む。

【信末三六】「若シ人但能ク至心ヲモテ」(諸本、至心ヲシテ)

【信末三二】「實ニ雜善ヲモテ比類ト爲ルコトヲ得ルニ非ルコトヲ顯ハス」(諸本、雜善ヲシテ)

【證九〇】「教門ヲモテ曉リ難シ」(諸本、教門ナシテ)  
 【證三〇七】「義ヲモテ分テ四ト爲ス」(諸本、義ヲシテ)  
 【行三〇〇】「十ハ即チ十ナガラ生シ、百ハ即チ百ナガラ生ス。」  
 諸本、直讀す。今化土卷本(五三)所引の文に准して點す。  
 【行三〇七】以の字、諸本「モテ」讀み、下の名號より回る。今五會證の一本に従ふ。  
 【行三〇〇】「細綿ノ手ヲ舉ゲテ」  
 諸本、細を細に、手を手に作りて、「細綿ヲ舉ゲタマヘルチヤ」點じ、高本は「細綿ノ手ヲ舉ゲテ」に作る。五會證の坊本、「舉ニ細綿手」に作るもの、從ひ難し。今姑く光融錄の説に従ふ。  
 【行三〇〇】粵、諸本、爾に作る。今五會證に従ふ。  
 【行三〇〇】「イカンガ道理是レ眞宗ナル」  
 諸本、「若シ道理ニ箇ラハ是レ眞宗ナリ」又は「若箇ノ道理是レ眞宗ナリ」點す。今光融錄の説に従ふ。  
 【行三〇〇】海、諸本、界に作る。今五會證に従ふ。  
 【行三〇〇】信本三〇〇【信本三〇〇】信本元元【信本元元】信本末末【信本末末】藉、諸本、籍に作る。今所引の原文に従ふ。  
 【行三〇〇】管、諸本、官に作る。今樂邦文類に従ふ。  
 【行三〇〇】「壽天保シ難シ」  
 諸本、「壽天ニシテ保チ難シ」點するもの、意通じ難し。  
 【行三〇〇】「佛菩薩、光チ放チ臺チ持シ、天樂異香來迎スルチ見テ往生ス」  
 諸本の點、一樣ならず。今觀經疏の原文に従ふ。  
 【行三〇〇】覺、諸本、覺境に作る。今觀經疏の文に従ふ。  
 【行三〇〇】【行三〇〇】【眞五九〇】熏、諸本、瀋に作る。今所引の原文に従ふ。  
 【行三〇〇】「又眞宗遇ヒ難シト云ヘリ」  
 諸本、「云ヘルチヤ」點す。「チヤ」は單なる延音のみ、故に今之を省く。この例他に在り。  
 【信本三〇〇】「猶掌チ反スコトシ」(諸本、反スカコトクナルチヤ)

【信本三〇〇】「形ト名ト頓ニ絶ユ」(諸本、絶ユルチヤ)  
 【眞七〇】「化ノ如クニアラズト分別スルナリ」(諸本、分別スルチヤ)  
 【行三〇〇】【行三〇〇】【眞三〇〇】【眞三〇〇】【眞六〇〇】化本三〇〇【化本三〇〇】字句の上、便宜の爲に數字を冠す。  
 【行三〇〇】「易行ノ樂シキコトヲ信樂セシメタマフ」  
 諸本「信樂セシム」點す。正信偈の依釋段は各祖の下、初に功勳を嘆じ、後にその教語を擧ぐ。教語には諸本「トイヘリ」の語あるを以て、之を區別せんが爲に、功勳を嘆する句には「シタマフ」の轉聲を附す。  
 【行三〇〇】「報土ノ因果ハ誓願ナリト顯ハシタマフ」  
 【行三〇〇】「光明名號ハ因縁ナリト顯ハシタマフ」  
 二文の意、共に釋顯の功を嘆するに在るを以て、點を改めてその意を明かにす。顯の字は、句の首に置きて讀むべし。  
 【信本三〇〇】「亦イフヘシ……心淳カラス」  
 諸本「亦……心淳カラサルベシ」點す。  
 【信本二五〇】「阿彌陀如來ノ四十八願ハ衆生チ攝受シタマフ、疑ナク慮ナク彼ノ願力ニ乘スレハ……」  
 諸本「衆生チ攝受シテ疑ナク慮ナク」點じ、文意從容なり。今攝受衆生を上句に屬し、無疑無慮を下に屬して點す。  
 【信本二六〇】「決定シテ行ニ依レ」  
 諸本、「行ニ依リテ」點す。この句、他流にば「依行セヨ」讀み、行を能行さすに反し、今之を所行さすもの、別意の存する所なり。  
 【信本三〇〇】「正智ニ障アリテ未ダ除コラズ、果願未タ圓カナラサルニ由リテナリ」  
 諸本、由の字、未除より回讀す。  
 【信本三〇〇】「即日見ツマシ」  
 諸本、「即チ日ニ見ツマシ」點す。即日は觸目と同義なり。  
 【信本三〇〇】撰の下、諸本、也の字あるもの、轉聲の濫入せるものなるべし。今之を削る。  
 【信本三〇〇】「愚鈍ノ衆生チシテ解了シ易カラシメンガ爲ナリ」

諸本、「愚鈍ノ衆生解了易カラシメンカ爲ニ」讀みて、下の句に續く。今之を讀み切りて、三心を一心とみなすの所由に答ふるの語とす。

【信本四〇】「…百千劫ヲ經タリ。内ニ初ヨリ…」

内の字、諸本上の句に屬して、「…百千劫ヲ經ル内ニ」を點す。

【信本六一】「信ハ功德ノ爲ニ不壞ノ種ナリ」

諸本、「信ハ功德ノ爲ニ種ヲ壞ラス」、或は「信ハ功德不壞ノ種ト爲ル」を點す。今華嚴經の意に従ふて點す。

【信本六二】「果トシテ涅槃ヲ得ル者ナリ」

諸本、果の字に轉聲なし。

【信本三〇】「…食シテ厭ハザルコトアルベカラス、…輕ンジテ忻ハサルコトアルベカラス。」

諸本、「食シテ厭ハザルベカラス」「輕ンジテ忻ハザルベカラス」を點す。

【信本三〇】「玄カニ談シテ得處ヲ標ハサ、ルコトハ」

諸本「玄カニ談スルニ得處ヲ標ハサス」を點す。

【信本三三】「信末三三】「化本七〇】關、諸本、關に作る。今涅槃經に従ふ。

【信本七〇】「信末四〇】今有大師名の五字、諸本になし。今乃至せる文の中より取りて、之を補ふ。

【信本七〇】下の乃至の二字、諸本になし。

【信本四六】「名ケテ爲阿闍世ト爲ス」

爲の字、諸本になし。これ上の文に爲阿闍世の四字を分釋せる結語なれば、涅槃經に依りて之を補ふ。

【信本五〇】而供養佛の四字、諸本、乃至中に攝す。今之を補ふて文言を連續せしむ。

【信本五三】「我レ今汝ト極メテ親愛ヲ成ス」

諸本、與汝の二字、「汝カタメニ」を點す。

【信本六〇】「信末八〇】假使、【化本三〇】假令、【化本六〇】縱令、諸本「タトヒ」を訓す。今之を「モシ」に改む。

【信本八〇】「但彼ノ生ノ安樂ナルヲ食シテ」

諸本、「但彼ノ安樂ニ生スルコトヲ食シテ」を點す。生の字、

論註、土に作り、「彼ノ土ノ安樂ナルヲ食シテ」といふもの、今と同意なり。

【信末二〇】「是ノ如クンハ、世間一切ノ」

諸本、「是ノ如キ世間一切ノ」を點す。

【信末四〇】輕重之義の四字、諸本上の句に屬し、「當ニ義ヲ以テ輕重ノ義ヲ校量スベシ」を點す。

【信末八〇】謗法、諸本、誹謗に作る。今散善義に従ふ。

【信末三三】「謗シテ因果ヲ無シ」

諸本、「謗シテ因果ナク」、又は「因果ナシト謗シ」を點す。

【信末二二】欲邪行の下、及次下の虛誑語の下、諸本、也の字あり。今往生十因に従ひ、之を削る。

【證三〇】初の字、諸本、「初メニ」を點す。

【證一五〇】「菩薩但諸地ニ登レハ、漸チ以テ増進シテ」

菩薩の二字、諸本、上の句に屬し、以漸の二字、諸本、「以テ漸ク」を點す。

【證一九〇】「應ニ人天ノ大師ノ爲ニ化ヲ受クルニ堪エタル者ハ

是レ誰ゾト知ルベシ」

諸本、「人天ノ大師トナリテ」を點す。今の文、人天の大師に化せらるゝ者は誰ぞの意なり。

【證二〇】「何等ノ世界ニテモ、佛法功德ノ寶マシマサランニハ」

諸本、「何等ノ世界ニカ、佛法功德ノ寶マシマサラン」を點するもの、文意に應ぜず。

【證三〇】「菩薩ノ法、則チ成就セザルコトヲ」

則の字、諸本、法則と熟して用ふ。

【證四〇】「一心ニ專念シ、彼ニ生シテ奢摩他寂靜三昧ノ行ヲ修セント作願スルヲ以テノ故ニ」

諸本「一心ニ專念シ作願シテ…修スルヲ以テノ故ニ」を點す。この文、彼土に於て奢摩他を修せんを作願して(因)、蓮華藏世界に入る(果)の意なれば、少しく點を改めて義意を明にす。

【眞四〇】「汝寧ンゾ知ランヤ」

寧の字、諸本或は「ムシロ」と讀み、或は讀方を明にせず。今大經の文に従ふ。

【真九〇】「諸ノモノ」

諸本、單に「モノ」ノミ點す。

【真三〇】「清淨ノ身ヲ具足シ莊嚴シテ」

諸本、「莊嚴清淨ノ身ヲ具足シテ」と點す。今終の私釋にこの文を點せるものに従ふ。

【真六〇】「利養ノ爲ニ説クヤ、衆生ノ爲ニ説クヤ」

諸本、「利養ノ爲ニ説キ、衆生ノ爲ニ説カム」と點するもの、意通じ難し。

【真四〇】「夫レ須彌ヲ芥子ニ入り、毛孔ノ大海ヲ納ム。豈山海ノ神ナランヤ、毛芥ノ力ナランヤ、能神ノ者ノ之ヲ神ニスルノミ」

諸本、「夫レ須彌ヲ芥子ニ入り、毛孔ニ大海ヲ納ム、……能神ノ者ノ神ナラクノミ」と點す。

【真三〇】及與ノ二字、諸本「及ビ……ト與ニ」と點す。今二字

熟して、「オヨビ」と訓す。

【化本九〇】持海輪寶の語に、諸本「ノゴトキ」の轉聲なし、今之を加ふ。

【化本九〇】「無量壽佛ニ奉事スルニ因ナシ」

此句、諸本或は「因ナクシテ無量壽佛ニ奉事セン」と讀み、或ハ「因<sup>エテ</sup>テ無量壽佛ニ奉事スルコトナシ」と讀み、或は今の點の如くにして、因の字を音讀するあり。今大經の無由供養於佛の句に従ふて訓す。

【化本三〇】「宜<sup>ク</sup>之ヲ重ク拾ツ」

應の字、諸本重に作り、「宜ク之ヲ重ク拾ツメシ」と點す。今述文贊の文に従ふ。

【化本三〇】藉、諸本、籍に作る。

【化本三〇】「佛此ヲ重罪ニシテ見佛ノ善根ヲ種エザル人ト爲シタマヘリ。」

諸本、「佛此ヲ重罪ト爲シタマヘリ、見佛ノ善根ヲ種エザル人ナリ」と點す。

【化本七〇】「濕ヘル木ヲ鐵リテ以テ火ヲ求ムルガ如シ」

如の字、諸本下の句に流至して、或は「火得ベカラザルガ如シ」といひ或は「智ナキカ如キノ故ニ」といふ。

【化本三〇】無價寶、諸本、寶の字なし。今燈明記によりて之を補ふ。

【化本八〇】而今、諸本、而今に作る。燈明記は、余又は而今に作る。今後者に従ふ。

【化本八〇】「亦復化作須陀洹身」

諸本、亦復如是、又は亦復化作の四字に作りて後を乃至す。今意義を明にせんが爲に、乃至せる文の中より、須陀洹身の四字を出だす。

【化本九〇】又大集云の四字、諸本、又云に作るもの、燈明記の箋述及び圓福寺本の如し。今傳教大師全集によりて、大集の二字を補ふ。

【化本三〇】線<sup>ノ</sup>の字、四本「シヤク」の音を附す。今大集經の音釋に、想里切とあるにより、「シ」の音を附す。

【化本八〇】「師便チ罪ヲ得ン」

諸本、師を即に作り、即便の二字を熟して「スナハチ」と訓す。今十輪經に従ふ。

【化本三〇】檢、諸本撥又は檢に作る。今辯正論に従ふて之を改む。

【化本六〇】推功於佛、諸本、於の字なし、今辯正論に従ふて之を補ふ。

【化本六〇】「興福寺ノ學徒、太上天皇ニ、今上ノ聖曆、承元丁ノ卯ノ歲仲春上旬ノ候ニ奏達ス。」

諸本「ニ」ミ「ノ」の轉聲なく、文意通じ難し。今私に之を附す。

# 引文一覽

## 凡例

- 一 教行信證の引文は、正依の三部經、七祖の論釋を初めとして、廣く諸經論、他師の釋、及び外典に互り、その量最も大なり。今その本據を分類羅列して、その下に引文を列舉し、本據の丁數と本典引用の箇所を示す。
- 一 引文を分ちて、正引と子引の二種とす。正引とは本據より引用し來れるものを指し、子引とは、正引の文の中に存する引文を指す。正引の文は、多くは原文のままを引用せるが故に、本據の丁數を示すを以て足れりとするも、子引の文は、多くは原文の意を取りて文を作れるが故に、繁を厭はずその原文を擧げたり。
- 一 引文の本據は、左の版種に依りて丁數を示す。
  - (一) 三部經は、標註淨土三部經に依る。
  - (二) 七祖聖教は、本山藏版本に依る。
  - (三) 諸餘の經論釋は、主として縮刷藏經に依る。縮刷藏經は、高麗藏を底本として宋元明の三藏を對校せるものなり。縮刷藏經に依るものは、帙號、卷數、丁數、行數を示せ



り。

(四) 縮刷藏經中に存せざるものは、坊刻單行の本に依る。その版種は書目の下に之を挙げたり。時には藏經書院發行續藏經に依ることあり。

一 正引之部に、各引文に番號を附せり。番號を附せずして○を冠するものは、次上の引文の一部にして別の箇所引用せられたるものなり。又一連の文なりと雖も、文義を案じて之を數節に分ち、一々に番號を附せるものあり。

目次

正引之部

|                            |                   |                   |
|----------------------------|-------------------|-------------------|
| 第一三 經                      | 一 大無量壽經……………一     | 二 不空羅索神變真言經……………九 |
|                            | 二 無量壽如來會……………二    | 二二 般舟三昧經……………九    |
|                            | 三 大阿彌陀經……………三     | 二三 大集經……………九      |
|                            | 四 平等覺經……………三      | 二四 首楞嚴經……………〇     |
|                            | 五 觀無量壽經……………四     | 二五 灌頂經……………〇      |
|                            | 六 阿彌陀經……………四      | 二六 地藏十輪經……………〇    |
| 第二 諸經律                     | 一七 集一切福德三昧經……………二 |                   |
| 七 悲華經……………四                | 一八 本願藥師經……………二    |                   |
| 八 <sup>甲</sup> 北本涅槃經……………四 | 一九 佛本行集經……………二    |                   |
| 八 <sup>乙</sup> 南本涅槃經……………六 | 二〇 梵網經……………二      |                   |
| 九 舊譯華嚴經……………八              | 第三 七祖論釋           |                   |
| 一〇 新譯華嚴經……………九             | 二一 十住毘婆沙論……………二   |                   |
|                            | 二二 淨土論……………二      |                   |
|                            | 二三 往生論註……………二     |                   |
|                            | 二四 讚阿彌陀佛偈……………四   |                   |
|                            | 二五 安樂集……………四      |                   |

|              |    |                |    |
|--------------|----|----------------|----|
| 二六 觀經玄義分     | 二五 | 四一 觀經疏正觀記      | 二二 |
| 二七 觀經序分義     | 二五 | 四二 觀無量壽經疏      | 二二 |
| 二八 觀經定善義     | 一六 | 四三 觀經扶新論       | 二二 |
| 二九 觀經散善義     | 一六 | 四四 阿彌陀經義疏      | 二二 |
| 三〇 法事讚       | 一七 | 四五 阿彌陀經義疏開持記   | 二二 |
| 三一 觀念法門      | 一七 | 四六 阿彌陀經疏       | 二二 |
| 三二 往生禮讚      | 一八 | 四七 淨土五會念佛略法事儀讚 | 二二 |
| 三三 般舟讚       | 一九 | 四八 樂邦文類        | 二二 |
| 三四 往生要集      | 一九 | 四九 念佛三昧寶王論     | 二三 |
| 三五 選擇集       | 二〇 | 五〇 龍舒淨土文       | 二三 |
| 第四諸論釋        |    | 五一 往生十因        | 二三 |
| 三六 大智度論      | 二〇 | 五二 摩訶止觀        | 二三 |
| 三七 起信論       | 二〇 | 五三 法界次第初門      | 二三 |
| 三八 無量壽經連義述文贊 | 二〇 | 五四 天台四教儀       | 二三 |
| 三九 無量壽經義疏    | 二一 | 五五 天台四教儀集解     | 二三 |
| 四〇 觀無量壽佛經義疏  | 二一 | 五六 末法燈明記       | 二四 |

|             |    |
|-------------|----|
| 五七 辯正論      | 二四 |
| 五八 貞元新定釋教目錄 | 二四 |
| 第五外典        |    |
| 五九 論語       | 二五 |

|             |    |
|-------------|----|
| 一〇 悲華經      | 三二 |
| 一一 心地觀經     | 三二 |
| 一二 涅槃經      | 三三 |
| 一三 大集經      | 三五 |
| 一四 大悲經      | 三七 |
| 一五 法華經      | 三八 |
| 一六 摩訶般若波羅蜜經 | 三九 |
| 一七 首楞嚴經     | 四一 |
| 一八 薩遮尼乾子經   | 四一 |
| 一九 新譯十輪經    | 四一 |
| 二〇 舊譯十輪經    | 四二 |
| 二一 維摩經      | 四三 |
| 二二 大乘同性經    | 四三 |
| 二三 觀音授記經    | 四三 |
| 二四 菩薩處胎經    | 四四 |
| 二五 大術經      | 四四 |

|            |    |
|------------|----|
| 子引之部       |    |
| 第一經        |    |
| 一 大無量壽經    | 二五 |
| 二 平等覺經     | 二六 |
| 三 觀無量壽經    | 二七 |
| 四 阿彌陀經     | 二八 |
| 五 襄陽石刻阿彌陀經 | 二八 |
| 六 寶月童子所問經  | 二八 |
| 七 觀佛三昧經    | 三〇 |
| 八 華嚴經      | 三〇 |
| 九 文殊般若經    | 三一 |

|           |    |           |    |
|-----------|----|-----------|----|
| 二六 仁王經    | 四六 | 四〇 成實論    | 五二 |
| 二七 賢愚經    | 四六 | 第四釋       |    |
| 二八 正法念經   | 四六 | 四一 讚阿彌陀佛偈 | 五三 |
| 第二律       |    | 四二 最勝王經疏  | 五三 |
| 二九 瓔珞經    | 四七 | 四三 注維摩經   | 五四 |
| 三〇 四分律    | 四八 | 四四 淨土群疑論  | 五四 |
| 第三論       |    | 四五 上生經疏   | 五五 |
| 三一 十住毘婆沙論 | 四八 | 四六 開元釋教錄  | 五五 |
| 三二 菩提資糧論  | 四九 | 四七 高僧傳    | 五五 |
| 三三 十二門論   | 四九 |           |    |
| 三四 中論     | 四九 |           |    |
| 三五 大智度論   | 五〇 |           |    |
| 三六 道地經    | 五一 |           |    |
| 三七 俱舍論    | 五二 |           |    |
| 三八 起信論    | 五二 |           |    |
| 三九 坐禪三昧經  | 五二 |           |    |

正引之部

第一三 經

|                        |    |                            |        |
|------------------------|----|----------------------------|--------|
| 一【上極】今日世尊一問斯義耳(五德瑞相之文) | 教三 | 八【上十三】設我得佛—不取正覺(第十八願文)     | 信壹     |
| 二【上六】佛言善哉—無能過絕(出世本懷之文) | 教三 | 九【上十三】設我得佛—不取正覺(第十九願文)     | 化壹     |
| 三【上十】超發無上殊勝之願(發願段之文)   | 信壹 | 十【上十四】設我得佛—不取正覺(第二十願文)     | 化壹     |
| 四【上十二】設我得佛—不取正覺(第十一願文) | 證三 | 十一【上十六】設我得佛—不取正覺(第二十三願文)   | 信壹     |
| 五【上十二】設我得佛—不取正覺(第十二願文) | 真三 | 十二【上十六】設我得佛—不取正覺(第三十四願文)   | 與次上文連引 |
| 六【上十】設我得佛—不取正覺(第十三願文)  | 真三 | 十三【上十九】我建超世願必至無上道(重誓偈初頌)   | 信壹     |
| 七【上十三】設我得佛—不取正覺(第十七願文) | 行三 | 十四【上十九】我至成佛道—誓不成正覺(重誓偈第三頌) | 行三     |
|                        |    | 十五【上二十】為衆開法藏—說法師子吼(重誓偈第八頌) | 與次上文連引 |
|                        |    | 十六【上二十】不生欲覺—功德成就(修因段之文)    | 信壹     |
|                        |    | 十七【上十三】佛告阿難—尙未能盡(第十二願成就文)  | 真三     |
|                        |    | 十八【上十四】佛告阿難—知其限極(第十三願成就文)  | 與次上文連引 |
|                        |    | 十九【上十七】又無量壽佛—究竟願故(見樹得忍之文)  | 化壹     |

一 大無量壽經

六之三。今依標註淨土三部經。

正名佛說無量壽經。二卷。曹魏天竺三藏康僧鎧譯。縮藏地八。正藏

- 20【上廿八】又講堂精舍一味如甘露(講堂精舍之文)(與次上文連引)……………化查一
- 21【上三十三】彼佛國土—無極之體(成同一類之文)……………證三
- 22【下右】其有衆生—及不定聚(第十一願成就文)……………證三
- 23【下右】十方恒沙—不可思議(第十七願成就文)……………行三
- 24【下右】諸有衆生—誦誦正法(第十八願成就文)……………信查一
- 諸有衆生—住不退轉……………信查一
- 諸有衆生—乃至一念……………信查四
- 至心迴向—誦誦正法……………信查五
- 25【下右】無量壽佛—稱嘆於彼(諸佛稱讚之文)……………行三
- 26【下右】其佛本願力—自致不退轉(往觀偈第十八頌)……………行三
- 其佛本願力聞名欲往生……………信查二
- 27【下右】若人無善本—乃獲聞正法(往觀偈第二十一頌)……………化查四
- 28【下右】聞法能不忘—是故當發意(往觀偈第二十九頌)……………信查七
- 聞法能不忘—則我善親友……………信查四
- 29【下右】會當成佛道(廣度生死流)(往觀偈第三十頌)……………信查一
- 30【下右】必得超絕去—自然之所牽(悲化段之文)……………信查一
- 31【下右】其有至心—功德殊勝(悲化段之文)……………信查四
- 32【下右】其胎生者—爲失大利(胎化段之文)……………化查一
- 於此諸智—生彼宮殿……………化查四
- 33【下右】諸小行菩薩—皆當往生(菩薩往生之文)……………化查一
- 34【下右】佛告彌勒—無上功德(流通之文)……………行八
- 35【下右】如來與世—如法修行(流通之文)……………化查五

二 無量壽如來會

大寶積經卷第十七、十八。大唐三藏菩提流志奉詔譯。縮藏地一。今依坊本。

- 1【上右】阿難白佛言—如是之義(發起序之文)……………教四
- 2【上右】若我成佛—不取菩提(必至滅度願文)……………證三
- 3【上右】若我證得—及諸聖人(至心信樂願文)……………信查
- 4【上右】若我成佛—不取菩提(至心迴向願文)……………化查四
- 5【上右】若我成佛—不取菩提(觸光柔軟願文)……………信查四
- 6【上右】今對如來發弘誓—使安樂(重誓偈初頌)……………行三

- 7【上右】最勝丈夫修行已—師子吼(重誓偈第八頌)(與次上文連引)……………行四
- 8【上右】佛告阿難—大願圓滿(修因段之文)……………信查一
- 9【上右】阿難以是義故—皆得歡悅(光明無量願成就文)……………真查一
- 10【下右】彼國衆生—建立彼因故(必至滅度願成就文)……………證四
- 11【下右】他方佛國—及諸聖者(至心信樂願成就文)……………信查
- 他方佛國—歡喜愛樂……………信查五、信查一
- 歡喜愛樂—及諸聖者……………信查五

三 大阿彌陀經

具名佛說諸佛阿彌陀三耶三佛薩樓居士支謙譯。縮藏地八。卅藏六之三。今依坊本。

- 1【上右】第四願—終不作佛(諸佛香嗟聞名往生願文)……………行四
- 2【上右】佛言阿彌陀佛光明—阿彌陀佛國(光明無量願成就文)……………真查一
- 3【下右】可得超絕去—自然之隨牽(悲化段之文)……………信查二

四 平等覺經

具名佛說無量清淨平等覺經。二卷(明婁迦識譯。縮藏地八。卅藏六之三。今依坊本(四卷本)。

- 1【上右】佛語阿難—善聽諦聽(發起序之文)……………教五
- 2【上右】我作佛時—我不作佛(第十七諸佛香嗟聞名往生願文)……………行一
- 3【上右】我作佛時—我不作佛(第十九聞名往生不更惡趣願文)(與次上文連引)……………行六
- 4【上右】阿闍世王太子—莫不歡喜者(阿闍世王太子聞

法歡喜之文(與次上文連引)……………行六  
5【二十七】如是人開佛名—生老死(往觀偈第七頌以下)  
〔與次上文連引〕……………行七

○連疾超便可到—無數佛(第二十頌)……………真六  
○非有是功德人—精進求(第廿二、廿四、卅  
頌)……………化齊七  
○會當作世尊將—生老死(第卅二頌)……………信末二

五 觀無量壽經

具名佛說觀無量壽經。或名佛說觀  
無量壽佛經。或名佛說無量壽佛觀  
經。一卷。宋元嘉中置良耶舍譯。縮藏地十  
二。卍藏十之四。今依標註淨土三部經。

1【廿八】若念佛者—分陀利華(流通之文)……………信末五  
2【廿八】佛告阿難—無量壽佛名(流通之文)……………化齊七

六 阿彌陀經

具名佛說阿彌陀經。一卷。姚秦三藏法  
師鳩摩羅什奉詔譯。縮藏地十二。卍藏  
十之四。今依標  
註淨土三部經。

1【四】不可以少善根—執持名號(正因段之文)……………化齊七

第二諸經律

七 悲華經

十卷。六品。北凉天竺三藏曇無  
讖譯。縮藏卅三。卍藏九之四。

卷三諸菩薩本授記品第四之一

1【卅三、十五】願我成阿耨—廢壞正法(無淨念王願文)……………行〇  
2【卅三、十五】願我成阿耨—來生我界(無淨念王願文)……………化齊一

八甲 北本涅槃經

具名大般涅槃經。四十卷。十二品。  
北凉天竺三藏曇無讖譯。明本有後  
秦釋道朗序。縮藏卅五、  
六。卍藏八之五、六。

卷五如來性品第四之二

1【卅五、廿五】又解脫者—入大涅槃……………真二  
2【卅五、廿六】又解脫者—即是如來(與次上文連引)……………真三  
3【卅五、廿八】若得成於—即是如來(與次上文連引)……………真三  
4【卅五、廿八】如來者即是涅槃—亦復如是(與次上文連  
引)……………真三

卷六如來性品第四之三

5【卅五、卅三】光明者—名為智慧……………真三

卷八如來性品第四之五

6【卅五、卅九】歸依於佛者—諸天神……………化齊三

卷十、一切大衆所問品第五

7【卅六、五十三】世尊常說—皆趣惡趣……………信末三

卷十一現病品第六

8【卅五、五十七】迦葉世有三人—三菩提心……………信末一

卷十三聖行品第七之三

9【卅五、六十七】善男子實諦者—無有二也……………行六

○實諦者—無有二也……………信末三

10【卅五、六十七】言眞實者—即是眞實(與次上文連引)……………信末二

卷十四聖行品第七之四

11【卅五、六十八】善男子一切—即是常……………真四

12【卅五、七十一】善男子譬如—不可稱計(與次上文連引)……………真四

卷十七梵行品第八之三

13【卅五、八十五】迦葉復言—亦名涅槃……………真三

14【卅五、八十五】善男子道有二種—而亦是有……………真二

卷十九梵行品第八之五

15【卅五、九十三】爾時王舍大城—但增無損……………信末〇

卷二十梵行品第八之六

16【卅五、九十七】善男子如我所言—辭退還宮……………信末七

卷廿三光明遍照高貴德王菩薩品第十之三

17【卅六、十四】善男子有大樂故—名大涅槃……………真二

18【卅六、十四】不可稱量—善女人……………真二

卷廿五光明遍照高貴德王菩薩品第十之五

19【卅六、二十】善男子第一眞實—故名善知識……………化齊〇

20【卅六、廿三】善男子諸佛如來—是名菩薩……………真三

21【卅六、廿四】云何菩薩—信順不逆……………行六

卷廿七師子吼菩薩品第十一之一

22【卅六、卅一】善男子畢竟有二種—不能得見……………行六

23【卅六、卅二】云何爲一—無數法故……………行六

24【卅六、卅三】又涅槃者—名爲洲渚……………信末二

25【卅六、卅四】一切覺者—是名聞見……………真三

|                                          |                                                                                    |
|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 26【左七、五十七】善男子大慈大悲—即是如來……………信本四           | 35【左六、廿三】是人深信—名爲聞不具足〔與第廿三、廿四文連引〕……………化本九、                                          |
| 卷三十三迦葉菩薩品第十二之一                           | ○云何名爲—名爲聞不具足……………信本三                                                               |
| 27【左六、六十二】迦葉菩薩言—亦復如是……………真三              | 卷三十八迦葉菩薩品第十二之六                                                                     |
| 28【左六、六十二】善男子如來具足—爲第一義諦……………真二           | 36【左六、八十五】聞即世間—明即智明……………信本三                                                        |
| 卷三十四迦葉菩薩品第十二之二                           |                                                                                    |
| 29【左六、六十五】善男子羅閱祇王—入於涅槃……………信本九           | <b>八乙南本涅槃經</b> 具名大般涅槃經。二十六卷、二十五品。北凉天竺三藏曇無讖譯。梵宋沙門慧嚴慧觀同謝靈運再治。元本格上有科圖。縮藏盈七、八。中藏八之七、八。 |
| 30【左六、六十六】善男子我於經中說—是無爲法……………真三           | 卷五四相品第七之餘                                                                          |
| 卷三十五迦葉菩薩品第十二之三                           | 1【左六、廿六】又解脫者—入大涅槃……………真二                                                           |
| 31【左六、七十一】如我所說—說無量法……………真三               | 2【左六、廿七】又解脫者—即是如來〔與次上文連引〕……………真三                                                   |
| 32【左六、七十二】如經中說—則已攝盡……………化本六              | 3【左六、廿九】若得成於—即是如來〔與次上文連引〕……………真三                                                   |
| ○或說阿耨—則已攝盡……………信本四                       | 4【左六、廿九】如來者即是涅槃—亦復如是〔與次上文連引〕……………真三                                                |
| 卷三十六迦葉菩薩品第十二之四                           | 卷六四依品第八                                                                            |
| 33【左六、七十三】善男子有四善事—有常樂我淨……………化本六          |                                                                                    |
| 34【左六、七十三】善男子信有二種—成就不具足信〔與次上文連引〕……………化本六 |                                                                                    |

|                                     |                                |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 5【左七、卅四】光明者—名爲智慧……………真二             | 14【左七、八十六】善男子道有二種—而亦是……………真二   |
| 卷八如來性品第十二                           | 卷十七梵行品第二十之四                    |
| 6【左七、四十一】歸依於佛者—諸天神……………化本二          | 15【左七、九十三】爾時王舍大城—但增無損……………信本一  |
| 卷十、一切大眾所問品第十七                       | 卷十八梵行品第二十之五                    |
| 7【左七、五十四】世尊常說—皆趣惡趣……………信本六          | 16【左七、九十八】善男子如我所言—辭退還宮……………信本七 |
| 卷十現病品第十八                            | 卷廿一光明遍照高貴德王菩薩品第廿二之三            |
| 8【左七、五十八】迦葉世有三人—三菩提……………信本九         | 17【左八、十四】善男子有大樂故—名大涅槃……………真二   |
| 卷十二聖行品第十九之一                         | 18【左八、十四】不可稱量—善女人……………真二       |
| 9【左七、六十一】善男子實諦者—無有二也……………行本九        | 卷廿三光明遍照高貴德王菩薩品第廿二之五            |
| ○實諦者—無有二也……………信本三                   | 19【左八、二十】善男子第一真實—故名善知識……………化本一 |
| 10【左七、六十八】言實實者—即是真實〔與次上文連引〕……………信本三 | 20【左八、廿三】善男子諸佛如來—是名菩薩……………真三   |
| 卷十三聖行品第十九之三                         | 21【左八、廿三】云何菩薩—信順不逆……………行本九     |
| 11【左七、六十九】善男子一切—即是常……………真四          | 卷廿五師子吼菩薩品第廿三之一                 |
| 12【左七、七十三】善男子譬如—不可稱計〔與次上文連引〕……………真四 | 22【左八、卅一】善男子畢竟有二種—不能得見……………行本一 |
| 卷十五梵行品第二十之一                         | 23【左八、卅二】云何爲—一無數法故……………行本      |
| 13【左七、八十六】迦葉復言—亦名涅槃……………真三          | 24【左八、卅三】又涅槃者—名爲洲渚……………信本二     |

25a【藏八、六四】一切覺者—悉有佛性……………真表六

卷廿六師子吼菩薩品第廿三之二

25b【藏八、六四】善男子復有眼見—是名開見……………真表六

卷三十師子吼菩薩品第廿三之六

26【藏八、五十七】善男子大慈大悲—即是如來……………信表一

卷三十一迦葉菩薩品第廿四之一

27【藏八、六十二】迦葉菩薩言—亦復如是……………真三

28【藏八、六十二】善男子如來具足—為第一義諦……………真三

29【藏八、六十二】善男子羅閱祇王—入於涅槃……………信表九

30【藏八、六十二】善男子我於經中說—是無為法……………真三

卷三十二迦葉菩薩品第廿四之二

31【藏八、七十一】如我所說—說無量法……………真四

32【藏八、七十一】如經中說—則已攝盡……………化表六

○或說阿耨—則已攝盡……………信表七

33【藏八、七十一】善男子有四善事—有常樂我淨……………化表六

34【藏八、七十一】善男子信有二種—成就不足信(與次上文

連引)……………化表六

○信復有二種—名為信不具足……………信表八

35【藏八、七十三】是人深信—名為聞不具足(與第卅三、卅四

文連引)……………化表六

○云何名為—名為聞不具足……………信表一

卷三十四迦葉菩薩品第廿四之四

36【藏八、八十四】聞即世間—明即智明……………信表三

九 舊譯華嚴經 具名大方廣佛華嚴經。六十卷、三十

縮藏天七、八、九。卅

卷五菩薩明難品第六

1【藏九、廿八】文殊法常爾—力無畏亦然……………行表七

卷二十四、十地品第廿二之一

2【藏九、廿五】離於占相—信罪福因緣……………化表六

卷六十八法界品第三十四之十七

3【藏九、百一】聞此法歡喜—與諸如來等……………信表八

一〇 新譯華嚴經 具名大方廣佛華嚴經。八十卷、三

制譯。有天册金輪聖神皇帝序、明本別有永樂御製

序。縮藏天一、二、三、四。出藏七之六、七、八、九。

卷十四賢首品第十二之一

1【藏九、五十九】信為道元功德母—無疲厭……………信表九

卷六十八法界品第三十九之一

2【藏九、九十一】如來大慈悲—能報大師恩……………化表三

3【藏九、九十一】如來能永斷—尊皆令滿足……………信表九

卷七十五入法界品第三十九之十六

4【藏九、七十】若有見菩薩—菩薩皆攝取……………化表三

卷七十七入法界品第三十九之十八

5【藏九、八十一】汝念善知識—如月轉淨輪……………化表二

一一 不空絹索神變真言經 三十卷、七十八

三藏菩提流志譯。明本有五鹿居士張詮

序。縮藏開十一、十二。出藏十之九。

卷廿一無垢光神通解脫壇三昧耶像品第四十六之一

1【藏十、五】汝當生處是—我常祐護……………真二〇

一二 般舟三昧經 具名佛說般舟三昧經。一卷、八

經宋元明三藏俱缺。四藏有般舟三昧經

三卷。別本也。縮藏支九。出藏六之十。

四輩品第五

1【藏九、廿六】優婆夷聞是三昧—吉良日……………化表一

2【藏九、廿六】優婆夷欲學三昧—祠祀神……………化表二

一三 大集經 具名大方等大集經。六十卷。從卷第三十

藏俱別行而作十卷。題曰大乘大方等日藏經。從卷第四十六至

卷第五十六月藏分十一卷。宋元明三藏俱別行而作十卷。題曰

大方等大集月藏經。此二分隋天竺三藏那連提耶

舍譯。縮藏支一、二、三、四。出藏六之六、七、八。

卷四十二覺王波旬星宿品第八之二

1【藏三、四十二】爾時伽藍風吒—而供養之……………化表一

卷四十三念佛三昧品第十

2【藏三、四十四】爾時波旬—無量無邊……………化表一

卷四十五護塔品第十三

3【藏三、五十四】時覺波旬—心無厭足……………化表一

- 卷五十諸惡鬼神得敬信品第八之一。此卷應藏與他三藏大異，縮藏別附明藏於此卷後。今依之。
- 4【右四、卅一】諸仁者—還生善道……………化表三
- 卷五十一諸惡鬼神得敬信品第八之二
- 5【左四、卅五】佛出世甚難—生惡鬼神……………化表四
- 卷五十一諸天王護持品第九
- 6【左四、卅六】爾時世尊—護持善朋黨……………化表五
- 卷五十二諸覺得敬信品第十
- 7【左四、卅九】爾時復有百億諸覺—及闍諍……………化表四
- 卷五十二提頭賴吒天王護持品第十一
- 8【左四、卅二】佛言日子天子—皆悉增長……………化表四
- 卷五十二毘沙門天王品第十四
- 9【右四、卅四】我今亦與上首—諸佛法〔與次上文連引〕……………化表三
- 卷五十三忍辱品第十六之一
- 10【左四、卅六】佛言如是如是—增長盈滿故……………化表三
- 11【左四、卅七】爾時復有一切天龍—如是擗舒……………化表三

- 1【右六、卅六】三十六部神王—三歸者〔取意之文〕……………化表七
- 1【左六、卅三】彼等諸覺—失如來種〔取意之文〕……………化表六
- 一四 首楞嚴經 具名大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經。十卷。中天竺沙門般刺蜜帝譯。宋本有前雄武軍節度推官許洞序。元本有趙宋泉南沙門釋祖源序。縮藏成一。正藏十二之四。
- 一五 灌頂經 具名佛說灌頂三歸五戒帶佩護身呪經。十卷。東晉天竺三藏帛尸利蜜多譯。縮藏成六。正藏九之九。
- 一六 地藏十輪經 具名大乘大集地藏十輪經。十卷。八品。三藏法師玄奘奉詔譯。縮藏成七。正藏六之九。
- 卷三無依行品第三之一
- 1【右七、卅九】或執種種—師便得罪……………化表七
- 卷六有依行品第四之二
- 2【左七、卅七】具正歸依—邪神外道……………化表七
- 一七 集一切福德三昧經 三卷。姚秦三藏鳩摩羅什譯。縮藏盈十。

正藏九之一。

- 1【中右、十七】不向餘乘—不禮餘天……………化表八
- 一八 本願藥師經 具名藥師琉璃光如來本願功德經。一卷。唐三藏法師玄奘奉詔譯。縮藏四。正藏九之九。
- 1【左四、卅一】若有淨信—不事餘天……………化表八
- 2【右四、卅一】又信世間邪覺—之所中害……………化表八
- 一九 佛本行集經 六十卷。六十品。隋天竺三藏闍那崛多譯。縮藏長八。正藏十四之八。
- 卷四十二優波斯那品第四十五上
- 1【左九、十七】爾時彼三迦葉兄弟—脫於故皮……………化表九
- 二〇 菩薩戒經 具名梵網經盧舍那佛說菩薩心地戒品。第十。二卷。後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯。宋元明三本有沙門僧嚴序。麗本有撰者未詳序。縮藏列一。正藏十七之一。
- 1【下右、二十一】出家人法—鬼神不禮……………化表九

第三 七祖論釋

- 二十 住毘婆沙論 十七卷〔宋元明三藏十五卷〕、三十五品〔明藏三十六品〕。龍宮菩薩造。後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯。縮藏八。正藏廿一之五。今依坊本。易行品依龍谷山藏版七祖聖教本。
- 卷一入初地品第二
- 1【左一】有人言般舟三昧—名為歡喜……………行二
- 卷二地相品第三
- 2【左一】問曰初歡喜地—心不可動〔與次上文連引〕……………行二
- 卷二淨地品第四
- 3【右一】信力增上者—慈有三種……………行二
- 卷五易行品第九
- 4【左一】佛法有無量門—阿惟越致者〔二道章〕……………行三
- 5【左一】若人疾欲至—稱其名號〔諸佛章〕〔與次上文連引〕……………行三
- 6【左一】今當具說無量壽佛—願佛常念我〔彌陀章〕〔與次上文連引〕……………行三
- 二三 淨土論 或名往生論。內題無量壽經優婆塞提會願生偈。一卷。婆薮槃頭菩薩造。後魏菩提流支譯。



提留支譯。縮藏第十一。卍藏廿二之  
一。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

- 1【右一】世尊我一心—願生安樂國(偈初頌)……………頁元
- 2【右一】我依修多羅—與佛教相應(偈第二頌)……………行二四
- 3【右一】觀彼世界相—廣大無邊際(偈第三頌)〔與第一文連引〕……………頁元
- 4【右一】觀佛本願力—功德大寶海(偈第十九頌)〔與第二文連引〕……………行二四
- 5【右一】出第五門者—名出第五門(論之文)……………信六、證二
- 6【左一】菩薩入四種門—三菩提故(論之文)……………行二四

### 三 往生論註

或名淨土論註。內題無其壽經優婆  
提舍願生偈婆數樂頭菩薩造並註。  
二卷。沙門曇鸞註。正續藏七十一之  
一。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

- 1【上右】謹案龍樹菩薩—作願生偈(教與之文)……………行三一
- 2【上左】夫菩薩歸佛—所以仰告(三念門釋)……………行一〇七
- 又所願不經—所以仰告……………行二七
- 3【上右】我一心者—三念門竟(三念門釋)〔與次上文連引〕……………行二七

- 4【上右】我依修多羅—隨蓋相稱也(成上起下釋)〔與次上文連引〕……………行三一
- 有二種功德—故名不實功德……………化本元
- 5【上左】正道大慈悲—故曰出世善根生(性功德釋)……………頁〇〇
- 6【上右】問曰尋法藏—不可思議之至也(大義門功德釋)……………頁四一
- 7【上右】是心作佛者—木即為火也(身業功德釋)……………信六
- 8【上右】海者—不可傾動也(大眾功德釋)……………行九
- 9【上右】問曰無量壽經—不得題之筆點(八番問答)……………信六九
- 10【下左】稱彼如來名—建言我一心(起觀生信章證嘆門釋)信六
- 名如實修行—建言我一心……………信六四
- 11【下右】云何迴向—大悲心故(起觀生信章迴向門釋)……………信六
- 云何迴向—安樂淨土(與第四文連引)……………行三一
- 還相者生彼土已—大悲心故……………證二
- 12【下右】不可思議力者—善住持力所攝(觀行體相章)……………頁四一
- 13【下左】莊嚴清淨功德—為可思議(同章清淨功德釋)證七、頁元

- 14【下右】莊嚴妙聲功德—安可思議(同章妙聲功德釋)……………證四
- 15【下右】莊嚴主功德—善住持故(同章主功德釋)〔與次上文連引〕……………證五
- 16【下右】莊嚴眷屬功德—為可思議(同章眷屬功德釋)〔與次上文連引〕……………證六
- 彼安樂國土—無別道故……………行〇
- 17【下右】願往生者—為可思議(同章大義門功德釋)……………證七
- 18【下左】示現自利—能神者神之耳(同章十七種莊嚴結文釋)……………頁四一
- 19【下左】何者莊嚴不虛作—故曰成就(同章不虛作住持功德釋)……………行六、頁四一
- 20【下右】即見彼佛—觀行體相竟(同章八種莊嚴結文釋及四種莊嚴釋)……………證三
- 21【下右】已下是解發中—得名清淨(淨入願心章)〔與次上文連引〕……………證四
- 淨入願心者—非無因他因有也……………信六
- 22【下右】善巧攝化者—無上方便也(善巧攝化章)〔與第廿一文連引〕……………證三
- 按王舍城所說—共向佛道……………信六
- 願生彼安樂淨土者—菩提心也……………信六
- 23【下右】嚴菩提門者—菩提門和違法(難菩提障章)〔與第廿二文連引〕……………證五
- 24【下右】願菩提門者—滿足應知(願菩提門章)〔與次上文連引〕……………證五
- 25【下右】名義攝對者—不顛倒(名義攝對章)〔與次上文連引〕……………證五
- 26【下右】願事成就者—自在業成就(願事成就章)〔與次上文連引〕……………證四
- 27【下右】利行滿足者—第五功德相(利行滿足章)〔與次上文連引〕……………證四
- 言本願力者—第五功德相……………行〇
- 28【下右】菩薩入四種門—勿自局分也(利行滿足章)〔與

次上文連引).....行八中  
29【下右六】經始稱如是彰信爲能入(結文釋).....信本論

### 二四 讚阿彌陀佛偈

一卷。曇鸞和尚造。卍續藏第二編乙一之一。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

- 1【右一】南無阿彌陀佛—亦曰安養(標宗之文).....真興
- 2【右一】成佛已來歷十劫—稽首無等等(自第二拜至第十四拜) [與次上文連引].....真興一
- 3【右八】諸開阿彌陀德號—頂禮願往生(第廿四拜).....信本二
- 4【左十六】本師觀樹摩訶薩—至心頭面禮(第四十七、四十九、五十拜) [與第二文連引].....真興一

### 二五 安樂集

二卷。釋道綽撰。卍續藏第二編十二之三。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

- 1【上左一】明教典所由—懺悔人也(第一之一教興章).....化本二
- 2【上右三】採集真言—生死海故(同上).....化本三

3【上左三】據諸部大乘明說聽方軌者—常生佛前(第一之一說聽方軌章).....信本二

4【上左五】觀佛三昧經云—三昧中王故也(第一之四宗旨不同章).....行三

5【上右四】大經云—生死有輪(第二之一發菩提心章) [與第十文連引].....信本二

6【上右六】十念相續者—依聖教(第二之三廣施問答章).....行八

7【上右八】我末法時中億億衆生—可通入路(第三之三輪迴無窮章).....化本三、志平

8【上左九】又如自述所問經—依易行道矣(第三之四勸信求生章).....行三

9【下右三】依涅槃經—作受施(第四之二念佛爲宗旨) [與第三文連引].....信本六

10【下右四】依大智度論有三番解釋—顯不離佛(同上) [與次上文連引].....信本六

11【下右七】如摩訶衍中說云—諸障皆除也(第四之三問答).....信本六

### 解釋章)

- 12【下右一】然修造之身—故名難行道(第五之一修造延促章).....行三
- 13【下右一】大經云—至心稽首禮(同上).....化本二
- 14【下右一】大悲經云—此等悉名行大悲人(同上) [與第五文連引].....信本八
- 15【下右六】辨經住滅者—止住百年(第六之三辨經住滅章) 化本三
- 16【下右八】未滿一萬劫—獲報也(第七之二用功獲報章) 化本三
- 17【下右三】然二佛神力—頂禮平等力(第八之二佛比較章) 證八

### 二六 觀經玄義分

觀經疏卷一。沙門善導集記。卍續藏卅二之四。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

- 1【右一】道俗時衆等—果德涅槃者(歸三寶偈).....信本〇
- 2【右三】依心起於勝行—皆蒙解脫(第一序題門).....化本三
- 3【右三】然婆娑化主—如大經說(同上).....化本六

### 二七 觀經序分義

觀經疏卷二。沙門善導集記。卍續藏卅二之四。

- 4【右三】言弘願者—法性之常樂(同上).....證九
- 言弘願者—爲增上緣也.....行四
- 5【右六】今此觀經—頓教攝(第三宗旨門).....化本一
- 6【右八】言南無者—必得往生(第六經論相違門別時意章).....行九
- 7【右九】問曰彌陀淨國—五乘齊入(同上二乘章).....真興一
- 1【右一】又言如是者—故言如是(如是釋).....化本七
- 2【右三】散善顯行緣(發起序分科之文).....化本四
- 3【右三】定善示觀緣(同上).....化本四
- 4【右五】真心徹到—免斯長歎(祈淨緣釋).....信本二
- 5【右七】從我今樂生—夫人別選也(同上).....真興中
- 6【右十】從欲生彼國者—應散動根機(散善顯行緣釋).....化本九
- 7【右五】言心歡喜得忍著—非解行已上忍也(定善示觀緣釋).....信本三

8【左七】此五濁五苦等—非凡數攝也(同上)……………信本三

### 二八 觀經定善義

觀經疏卷三。沙門善導集記。正續藏廿二之四。

1【右八】西方寂靜無爲樂—入彼涅槃城(水觀釋)……………信本八

2【左十一】含華未出—或墮宮胎(地想觀釋)……………化本〇

3【右十六】言金剛者即是無漏之體也(寶池觀釋)……………信本二

4【右一】縱盡千年壽法眼未曾開(華座觀釋)……………化本四

5【右四】是心作佛—是心外無異佛(像觀釋取意)……………信本七

6【左廿四】如來懸知—居空立舍也(像觀釋)……………化本四

7【左廿七】自餘衆行—廣顯念佛三昧竟(眞身觀釋)……………化本七

8【左卅四】言如意者—各益不同也(雜想觀釋)……………信本二

### 二九 觀經散善義

觀經疏卷四。沙門善導集記。正續藏廿二之四。

1【左二】從何等爲三—答前三心之數(三心總釋)……………信本三

2【右一】經云—者至誠心—名至誠心(至誠心釋)〔與次上文連引〕……………信本三

〇欲回此雜毒之行—名至誠心……………信本〇

3【左三】又眞實有二種—自他依正二報(至誠心釋)……………化本九

4【右一】二者深心—就人立信也(深心釋)〔與第二文連引〕信本四

〇又決定深信釋迦佛—使人祈慕〔與第三文連引〕……………化本三

〇又決定深信彌陀經中—決定得生……………化本四

〇諸佛言行不相違失縱令釋迦指勸—就人立信也〔諸佛言行等十字今加引、釋迦讚嘆等十字今乃至〕〔與次上文連引〕……………化本八

5【左五】又深心深信者—退失傾動也(深心釋)〔與第四文之一連引〕……………化本三

6【右八】次就行立信者故名深心(深心釋)〔與次上文連引〕……………化本三

〇又就此正中—故名深心〔與第四文連引〕……………信本〇

7【右九】三者迴向發願心—故名迴向發願心也(迴向心釋)〔與第六文連引〕……………化本三

8【右九】三者迴向發願心—亦名迴向也(迴向心釋)〔與第五文連引〕……………化本三

六文之一連引)……………信本〇

〇又迴向發願願生者—往生之大益也……………信本九

9【左廿五】然望佛願意者—應知(下品上生釋)……………化本一

10【左廿七】問曰如四十八願中—此義就抑止門解竟(下品下生釋)……………信本七

11【右一】從若念佛者—道場之座豈除(流通分釋)……………信本二

12【左一】從佛告阿難—彌陀佛名(同上)……………化本二

13【左二】眞宗難遇(後述之文)……………行八一

14【左二】淨土之要難逢(同上)……………化本四

### 三〇 法事讚

內題轉經行道願往生淨土法事讚。一卷。沙門善導集記。今依龍谷山藏版七祖聖教本。正續藏第二編乙之一。

1【上六】永絕譏嫌—迴心皆往……………信本九

2【下左一】方便假門等無殊……………信本七

3【下左七】從佛道遙歸自然—法性身……………眞本一

4【下右二】九品俱迴得不退……………化本一

5【下廿三】極樂無爲涅槃界—專復專……………眞本九、化本一

6【下廿八】上方諸佛如恒沙—念彌陀……………化本七、三

7【下右二】九十五種皆汙世—獨清閑……………信本六

8【下左二】如來出現於五濁—皆解脫……………化本六

9【下左十】種種法門皆解脫—念即生……………化本三

〇無過念佛往西方—佛來迎……………化本二

〇直爲彌陀弘誓重—念即生……………化本二

10【下廿七】劫欲盡時五濁盛—難得度……………化本三

11【下左七】去來他鄉不可停—自然成……………化本四

12【下廿八】悲喜交流深自慶—實難報〔與次上文連引〕……………化本四

13【下左十】彌陀妙果號曰無上涅槃……………眞本〇

14【下右一】十方六道—今已發……………化本五

### 三一 觀念法門

內題觀念阿彌陀佛相海三昧功德法門。一卷。比丘善導集記。今依龍谷山藏版七祖聖教本。正續藏第二編十二之四。

1【左二】但有專念—護念增上緣(護念緣釋)……………信本〇

○總不論照攝餘雜業者……………信卷六  
 2【右十】言攝生增上緣者—攝生增上緣(攝生緣釋)……………行四九  
 3【中八】欲使善惡凡夫—證生增上緣(證生緣釋)……………行五〇

**三三 往生禮讚偈**

一卷。沙門善導集記。智昇法師集諸經禮讚儀下卷取此偈。祖師依儀儀引之。儀儀取在縮藏調十、卅藏卅之八。禮讚取在卅續藏第二編乙之一。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

1【左】如觀經說—名至誠心(前序至誠心釋)……………化卷四  
 2【右】二者深心—故名深心(同深心釋)……………行三、信卷二  
 3【右】三者迴向發願心—應知(同迴向心釋)〔與第一文連引〕……………化卷五  
 4【左】又菩薩已免生死—應知(前序之文)〔與次上文連引〕……………化卷五  
 5【右】又如文殊般若云—隨順佛語故(同上)……………行四〇  
 6【右】若欲捨專—懺悔有三品(前序之文)……………化卷六

7【左】不相續念報彼佛恩故—往生正行故(同上)〔文字有少異〕……………化卷五  
 8【左】爾比日自見聞—千中無一(同上)……………化卷五  
 9【左】仰願一切往生人等—應知(同上)……………信卷三  
 10【右】唯觀念佛衆生—故名阿彌陀(日沒禮第三拜註解)……………行四三  
 11【右】彌陀智願海—皆悉到彼國(初夜禮初拜偈)……………行四三  
 12【左】其有得聞彼—皆當得生彼(同第十六拜偈)〔與第二文連引〕……………信卷三  
 13【左】設滿大千火—皆當得生彼(同第十七拜偈)〔與第十四文連引〕……………行四四  
 14【右】萬年三寶滅—皆當得生彼(同第十八拜偈)〔與次上文連引〕……………行四四  
 15【右】佛世甚難值—此復最爲難(同第十九拜偈)……………信卷六、化卷四  
 16【左】自信教人信—真成報佛恩(同第二十拜偈)〔與次上文連引〕……………信卷六、化卷四

17【右七】彌陀身色如金山—自然彰(日中禮第十一拜偈)……………信卷六  
 18【左十】上中下上品懺悔者—卽與上同(同懺悔註解)〔與第六文連引〕……………化卷五  
 19【右十三】現是生死凡夫—攝受弟子(後序)……………行四〇  
 20【右十三】問曰稱念禮觀—不勵意去也(同上)……………行四一

**三四 般舟讚**

內題依觀經等明般舟三昧行道往生讚。一卷。比丘善導撰。卅續藏第二編乙之一。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

1【右】敬白一切—無上信心(前序)……………信卷三  
 2【左一】瓔珞經中說漸教—菩提藏……………行四〇  
 3【右三】萬劫修功實難續—內安身……………化卷六  
 4【左一】一切如來設方便—入眞門……………化卷五  
 5【右四】門門不同八萬四—機不同……………信卷七  
 6【右五】微塵故業隨智滅—眞如門(與次上文連引)……………行五〇

7【右九】唯恨衆生疑不疑—迴不迴……………信卷六、化卷三  
 8【左十三】或導從今至佛果—出娑婆(與次上文連引)信卷六、化卷三  
 9【右十三】何期今日至寶國—報慈恩(與次上文連引)……………化卷四  
 10【左十八】得免娑婆長劫難—弘誓門(與第五文連引)……………行四一  
 11【右三】定散俱迴入寶國—凡夫位……………化卷六  
 12【左三】白諸行者—形名頓絕也(後序)……………信卷二

**三五 往生要集**

六卷。天台首楞嚴院沙門源信撰。今依龍谷山藏版七祖聖教本。

1【上末右三】應依心地觀經—一切衆生(正修念佛章禮拜門釋)……………行六  
 2【上末左三】一應念—圓融萬德尊(同上)……………行七  
 3【上末右五】入法界品云—亦無損減(同章作願門釋)……………信卷三  
 4【上末左六】波利質多樹華—所不能及(同上)……………行六  
 5【中本右三】我亦在彼—常照我身(同章觀察門釋)……………信卷三

- 6【中末左<sup>十三</sup>】覺者依煩惱而—壽命根(助念方法章對治覺事釋取意)……………化卷七
- 7【下本廿二】雙卷經三輩之業—得生極樂(念佛證據章)……………行壹一
- 8【下末右<sup>十一</sup>】問菩薩處胎經—不相違也(問答料簡章往生階位釋)……………化卷一
- 9【下末左<sup>二十</sup>】一斤石汁—則出菓實(同章臨終念相釋)……………行六
- 三五 選擇集 具名選擇本願念佛集。二卷。源空集。縮藏霜七。今依龍谷山藏版七祖聖教本。
- 1【上右】南無阿彌陀佛—念佛爲本(標宗之文)……………行七六
- 2【下廿五】夫速欲離生死—依佛本願故(總結之文)……………行七

第四 諸 論 釋

- 三六 大智度論 百卷、九十品。龍樹菩薩造、後秦龜茲國三藏法師鳩摩羅什奉詔譯。宋元明三本有長安釋僧叙序。縮藏往一五。正藏十九之九—廿之四。
- 卷九初品放光釋論之餘

- 1【卷<sup>初</sup>、六<sup>上</sup>】欲入涅槃時—不種見佛善根人……………化卷八
- 三七 起信論 具名大乘起信論。一卷。馬鳴菩薩造、梁西印度三藏法師真諦譯。宋元明三本有揚州僧智愷序。縮藏來十。正藏廿二之五。
- 1【卷<sup>初</sup>、三<sup>上</sup>】或有衆生—名利恭敬……………化卷二
- 三八 無量壽經連義述文贊 三卷。釋瓊與撰。正藏三十二之三。淨土宗全書卷五。今依元祿版單行本。
- 本典引此書、多是取意之文。
- 1【中<sup>十三</sup>】今日世尊—即如來之德(五德瑞相釋)……………教卷一
- 2【中<sup>十七</sup>】如來廣說有二—所攝所益也(文段釋)……………行六〇
- 3【中<sup>四十一</sup>】福智二嚴成就故—令功德成(修因段釋)……………行六一
- 4【中<sup>四十四</sup>】無量光佛—願之所致也(十二光釋)……………真卷〇
- 5【中<sup>四十七</sup>】本願力故—必果遂故(極樂莊嚴段釋)……………行六二
- 6【下<sup>七</sup>】愍而言之—須顯彼土勝(往觀偈前文釋)……………行六三
- 7【下<sup>十一</sup>】既言於此土—寶海亦然(往生果德段釋)……………行六三

- 8【下<sup>十九</sup>】人聖國妙—云著無上下(悲化段釋)……………行六二
- 9【下<sup>二十</sup>】易往而無人—即易往也(同上)……………行六二
- 10【下<sup>廿七</sup>】藉久遠因—可慶喜故(彌勒領解段釋)……………行六二
- 11【下<sup>卅一</sup>】由疑佛智—宜之應捨(胎生段釋)……………化卷〇
- 12【下<sup>卅四</sup>】聞佛威德廣大故—得不退轉也(流通分釋)……………行六二
- 三九 無量壽經義疏 二卷。法位述。此書未傳。六要鈔引前後文。
- 1 諸佛皆德施名—此有何惑……………行壹
- 四〇 觀無量壽佛經義疏 三卷。西湖靈芝崇禪寺釋元照述。正藏三十二之五。淨土宗全書卷五。今依明曆版單行本。
- 1【上<sup>五</sup>】圓頓一乘—純一無雜(攝教分齊文取意)……………行壹
- 2【上<sup>廿</sup>】了義中了義圓頓中圓頓(同上所引慈雲語取意)……………行三
- 3【上<sup>卅三</sup>】今淨土諸經—當生正信(料簡異同中解覺說文)……………行六
- 4【上<sup>卅五</sup>】況我佛大慈—是往生因種(同上指流傳文)……………行六
- 5【上<sup>卅七</sup>】唯安養淨業—達于京邑文帝(同上所引慈雲語)……………行七

- 四一 靈芝觀經義疏正觀記 三卷。四明龍山足菴沙門戒度述。正藏三十三之一。淨土宗全書卷五。今依寶永版單行本。
- 1【下<sup>卅六</sup>】佛名乃是—獲益非淺(下品下生釋)……………行壹
- 四二 觀無量壽經義疏 一卷。胡吉藏撰。正藏三十二之四。淨土宗全書卷五。今依單行本。
- 1【右<sup>五</sup>】而念佛三昧—得滅無量罪(念佛滅罪釋)……………行壹
- 四三 觀經扶新論 一卷。拙庵戒度述。正藏三十三之一。淨土宗全書卷五。今依真享版。
- 四四 彌陀經義疏 一卷。西湖靈芝崇禪寺釋元照述。正藏三十三之二。會入于阿彌陀經義疏開持記。淨土宗全書卷五。亦收疏記會本。今依承應版單行本。
- 1【補】一乘極唱—彰於四字(序文)……………行六

- 2【廿九】 如來欲明—多福德因緣(念佛多善釋)……………化書三一
- 3【卅二】 況我彌陀—是多功德也(執持名號釋)……………行七
- 4【卅三】 正念中凡人臨終—其利在此(心不顛倒釋)……………行七
- 5【卅九】 他不能為故—希有(甚難希有釋)……………信書六
- 6【卅九】 於此惡世—為二難也(二難釋)……………信書七
- 7【卅九】 念佛法門—甚難信也(同上)……………信書六
- 8【卅十】 承前二難—開而信受(同上)(與第六文連引)……………信書七
- 四五 彌陀經義疏聞持記 三卷。四明龍山足庵沙門戒度述。卍續藏三十三之二。淨土宗全書卷五。取疏記會本。今依延寶版單行會本。
- 四六 阿彌陀經疏 一卷。孤山沙門釋智圓述。卍續藏三十三之二。淨土宗全書卷五。今依正德版單行本。
- 四七 淨土五會念佛略法事儀讚 二卷。南岳沙門法岳撰。卍續藏三十三之二。淨土宗全書卷五。

- 1【本初】 夫如來設教—願力度衆生(序文)(已下八文連引)……………行三
- 2【本五】 粵大哉—其佛名號也(莊嚴文)……………行三
- 3【本八】 如來常於—求乎解脫(五會念佛文)……………行三
- 4【本十三】 如來尊號甚分明—離無常(淨土樂讚)……………行四
- 5【本廿一】 何者名之為正法—不相應(正法樂讚)……………行五
- 6【本廿三】 西方進道勝婆娑—此間迎(西方樂讚)……………行五
- 7【本廿七】 今日道場諸衆等—自親迎(般舟三昧樂讚)……………行五
- 8【末廿九】 十惡五逆至愚人—法性身(新觀經讚)……………行五
- 四八 樂邦文類 五卷。四明石芝沙門宗曉編次。卍續藏第二編十二之五。淨土宗全書卷六。今依單行本。
- 1【二一】 然祭祀之法—誘俗權方(慈雲往生西方略傳序)化書三
- 2【二四】 佛號甚易持—張倫勸緣(張倫結蓮社普勸文) 行六
- 3【三十七】 嗚呼明教觀—願生彼土矣(元照無量院造彌陀)

像記

- 4【五五】 奇哉佛力難思—古今未有(智覺神棲安養賦) 信書六
- 5【五五十一】 修淨土者常多—必然之理也(後序、南湖相庭善月作)……………信書九
- 四九 念佛三昧寶王論 三卷。唐蒙山草堂寺沙門飛錫撰。卍續藏第二編十三之四。淨土宗全書卷六。今依單行本。
- 1【上十二】 念佛三昧—曰三昧王焉(觀空無我擇善而從門)……………行五
- 2【下四】 起信論曰—入於無念(無心念佛理事雙修門)……………真六
- 五〇 龍舒增廣淨土文 十二卷。國學進士王日休撰。卍續藏第二編十二之四。淨土宗全書卷六。今依單行本。
- 1【十九】 我聞無量壽經—應皆信受(周參政跋文)……………信書三
- 五一 往生十因 一卷。念佛宗永觀集。淨土宗全書卷十五。今依貞享版單行本。
- 1【科八】 若依淄州—是唐証語(衆罪消滅章)……………信書六

- 五二 摩訶止觀 十卷。各卷分上下。縮藏陽四、五。止觀輔行會本四十卷。縮藏陽五、六、七、六、七、八。
- 1【一上四、卅七】 菩提者天竺語—即盧知也……………信書六
- 2【八下、卅三】 二明覺發相者—各各不同……………化書七
- 五三 法界次第初門 三卷。各卷分上下。隋智者大師撰。縮藏陽九。卍續藏三十三之六。今依單行本。
- 1【上之下一】 一歸依佛—其餘諸外道(三歸戒文)……………化書四
- 五四 天台四教儀 十卷。高麗沙門諦觀錄。縮藏陽本。版科。卍續藏三十三之一。今依貞享版科本。
- 1【五十一】 俄鬼道梵語闍黎多—感此道身……………化書一
- 五五 天台四教儀集解 三卷。永嘉沙門釋從義撰。卍續藏第二編七之一。今依元祿版科本。
- 1【中一】 俄鬼道常飢日餓—名為誑誑……………化書一

五六 末法燈明記

一卷。本朝沙門最澄撰。

1【右一】夫範範一如—又仁王經云……………化表六

五七 辯正論

八卷十二篇。唐沙門釋法琳撰。有顯川陳子良序。縮藏露八。卍藏三十五五六。

唐西明寺道宣撰廣弘明集第十三卷(縮藏露五、卍藏廿八之二)。取辯正論十喻篇九箴篇及氣爲道本篇。

卷五、十喻篇第五

1【左八、四十六】外—異曰—順天之常也(一異一喻)(以下十

二文連引)……………化表六

2【右八、四十七】外四異曰—爲闡淨教主(四異四喻)……………化表六

3【左八、四十七】外六異曰—史文不載(六異六喻)……………化表六

4【左八、四十七】外七異曰—非我友(七異七喻)……………化表六

5【左八、四十八】內喻曰左袒—語其迹也(從生勝劣一)……………化表六

6【左八、四十九】夫釋氏者—卓爾推其妙(德位高卑三)……………化表六

7【右八、五十一】外論曰老君—爾道之劣十也(法門頓漸十)化表六

卷五、九箴篇第六

8【左八、五十一】二皇統化—其首之一也(周世無機一)……………化表六

9【右八、五十二】自漢明已下—往往可驗(建造像塔二)……………化表六

10【右八、五十四】正法念經云—疾疫不行也(教爲治本五)……………化表六

卷五氣爲道本篇第七

11【右八、五十七】君子曰道士—以樂道君……………化表六

卷八出道偽謬篇第十

12【左八、六十七】案道士所上—僞中之僞矣(諸子爲道書謬

八)……………化表六

卷八歸心有地篇第十二

13【右八、七十一】大經中說—不得稱清信也(梁武帝捨道勅

文)(以下二文連引)……………化表六

14【左八、七十四】捨老子—法流之真教(荆陵王捨老子受菩薩

戒文)……………化表六

五八 貞元新定釋教目錄

三十卷。西京最明寺沙門圓照撰。縮藏結

1【廿三、四十九】集諸經禮懺儀—編云云(取意之文)……………信表三

第五 外 典

五九 論語 十卷。

1【六】季路問—人焉能事鬼神(先進篇)……………化表七

本據未考

1 台教山陰云—何必生疑乎……………行六

2 律宗用欽云—無不具是……………行三

3 又云—亦須收於彌陀也……………行三

4 律宗用欽云—故知難信矣……………信表七

5 律宗用欽師云—功德之利也……………信表五

6 大智律師云—天修鬼獄……………化表六

子引之部

第一 經

一 大無量壽經 已出

【行三三】阿彌陀佛本願如是—三藐三菩提(易行品)

【行四六】又如無量壽經云—不取正覺(禮讚)

【行四八】【證九】言弘願者如大經說—爲增上緣也(玄義分)

【行四九】如無量壽經四十八願中說—不取正覺(觀念法門)

已上四文、經卷上三十八願文取意。

【行七五】雙卷經三輩之業—一向專念無量壽佛(往生要集)

經卷下—左三輩文。

【行七五】四十八願中於念佛門別發一願云—不取正覺(往生要集)

經卷上三十八願文。

【行九〇】願言設我得佛——誦誦正法(論註)

經卷上左三十八願文。

【行九一】願言設我得佛——不取正覺(論註)

經卷上左二十一願文。

【行九二】願言設我得佛——不取正覺(論註)

經卷上右廿二願文。

【信本六五】【證三】案王舍城所說無量壽經三輩生中——無上菩提

心(論註)

經卷下左三輩文指示。

【信本六七】故大本云易往而無人(用欽)

經卷下左悲化段文。

【信末一八】大經云凡欲往生淨土要須發菩提心為源(安樂集)

經卷下左三輩文取意。

【信末二三】我聞無量壽經衆生聞是佛名——住不退轉(樂邦文類)

經卷下右十八願成就文取意。

【信末七九】無量壽經言願往生者——誦誦正法(論註)

經卷下右十八願成就文取意。

【證一】復次無量壽經中阿彌陀如來本願言設我得佛——不取正覺

(論註)

經卷上右二十二願文。

【真四二】尋法藏菩薩本願(論註)

經卷上右十四願文指示。

【真五一】又無量壽經云法藏比丘——不取正覺(支義分)

經卷上左四十八願文取意。

【化本四八】如無量壽經四十八願中唯明專念彌陀名號得生(定善

義)

經卷上右十八願文取意。

### 二 無量清淨平等覺經 已出

【證四】經言若人但聞——即入正定聚(論註)

經卷一右七十八二願合說文取意。「十七我作」佛時、

令我名聞八方上下無數佛國、諸佛各於弟子衆中、

嘆「我功德國土之善、諸天人民蠕動之類、聞我名字、皆悉踴躍來生我國、不爾者我不作佛。」

六要鈔引此文。

### 三 觀無量壽經 已出

【行四一】又如觀經云行觀坐觀——向西方者最勝(禮讚)

經六日想觀文取意。「當起」想念、正坐西向諦觀於日。」

【行四五】又如觀經云若稱禮念——常不離行者(禮讚)

經左「普觀」文取意。「無量壽佛、化身無數、與觀世音

大勢至、常來至此行人之所。」

【行六八】經云阿彌陀佛相好光明——攝取不捨(元照觀經義疏)

經右「真身觀文」。「無量壽佛、有八萬四千相。一一相、

各有八萬四千隨形好。一一好、復有八萬四千光明。」

一一光明、徧照十方世界、念佛衆生、攝取不捨。」

【行七六】四觀經極重惡人——得生極樂(往生要集)

經左下品下生文取意。

【信本一五】【化本二二】說此觀經三福九品——使人折墓(散善義)

經正宗分取意。

【信本六八】即觀經下品中生地獄衆火——一時俱至等(小經疏開持記)

經左下品中生文。

【信末七九】觀無量壽經言五逆十惡具諸不善——亦得往生(論註)

經左下品下生文取意。

【信末八二】如觀無量壽經言有人造五逆十惡——與三塗諸苦永隔

(論註)

經左下品下生文取意。

【真五一】又觀經中上輩三人——來迎此人(支義分)

經左三輩三品文取意。

【化本二四】如觀經說先具三心必得往生(禮讚)

經左上品上生文取意。

【化本四八】又此經定散文中唯標專念名號得生(定善義)

經正宗分取意。



### 四 阿彌陀經 已出

【行四六】又如彌陀經云若有衆生一願生彼國(禮讚)

經四左正因段取意。

【行四七】次下說云東方如恒河沙等一切諸佛所護念經(禮讚)

經四右六方證誠段取意。

【行四八】次下文云若稱佛往生者一名護念經(禮讚)

經右現當利益段取意。「若有善男子善女人、聞是諸佛所說名及經名者、是諸善男子善女人、皆爲一切諸佛共所護念。」

【信本一五】彌陀經中十方恒沙諸佛一決定得生(散善義)

經一右六方證誠段取意。

【信本一八】化本四九 即彌陀經中說釋迦讚嘆一決定得往生(散善義)

經一右莊嚴段及左正因段之文取意。

【信本一八】化本四九 次下文云十方各有一必得往生(散善義)

經一右互相讚嘆文取意。

【化本四八】又如彌陀經中一日七日一證誠不虛也(定善義)

經四左正因段及六方證誠段取意。

### 五 襄陽石刻阿彌陀經 前宗像神社所藏。佛教大字彙第二卷

載所

【化本五五】彼云善男子善女人一多福德因緣(元照彌陀經疏)

經碑本文第二段。舍利弗、若有善男子善女人、聞說阿彌陀佛、執持名號、若一日、若二日、若三日、若四日、若五日、若六日、若七日、一心不亂、專持名號、以稱名一故、諸罪消滅。即是多善根福德因緣。其人臨命終時、阿彌陀佛、與諸聖衆、現在其前、是人終時、心不顛倒、即得往生。」

### 六 大乘寶月童子問法經 一卷。西天譯經

鴻臚少卿傳法大師臣施護奉詔譯。三藏朝散大夫試

【行三】如寶月童子所問經阿惟越地品中說一聞名定作佛(十住

### 論易行品)

樹心錄云、寶月童子所問經者、廣本未度。今有一卷、名寶月童子問法經、宋施護譯。

經一、七十六。說十方十佛易行、如易行品所引。然十佛名、彼此不同。今對比、示其異。易行品所引、示以括弧。

|    |          |              |
|----|----------|--------------|
| 方位 | 世界       | 佛            |
| 東  | 無憂(無憂)   | 賢吉 祥(善德)     |
| 南  | 寂靜(歡喜)   | 無邊 光(栴檀德)    |
| 西  | 歡喜(善解)   | 喜吉 祥(無量明)    |
| 北  | 不動(不可動)  | 寶 續(相德)      |
| 東南 | 正行(月明)   | 無憂吉 祥(無憂德)   |
| 西南 | 寶幢吉祥(衆相) | 寶 幢(寶施)      |
| 西北 | 妙聲(衆音)   | 吉 祥 華(華德)    |
| 東北 | 安樂(安穩)   | 蓮華光嬉(妙智(三乘行) |
| 下  | 廣 大(廣大)  | 光明吉 祥(明德)    |
| 上  | 月 光(衆月)  | 財 吉 祥(廣衆德)   |

舉十佛已、有次文。

「童子、如是一切世界佛刹、皆有清淨栴檀樓閣。所有如來名號、若人聞已、恭敬受持、書寫讀誦、廣爲人說、所有五逆等、一切罪業悉皆消除。亦不墮地獄旁生福覺羅界。於無上正覺、速得不退。於意云何、童子。於過去大無數及廣大無邊無數劫、時有世界、名曰寶生。彼有如來、名精進吉祥。應供正覺之時、彼十如來、於精進吉祥佛所、爲菩薩位、於其佛前、供養發願。我等各於佛刹、成無上正覺之時、若有衆生、經剎那間、至須臾之間、聞我十佛名號。聞已恭敬、受持書寫讀誦、廣爲人說。所有五逆等一切罪業、悉皆消除、亦不墮地獄旁生福覺羅界、於無上正覺、速得不退。」

右文中、精進吉祥、易行品所謂海德是。善德等十佛本緣、出觀佛三昧經卷九本行品。如安樂集下略引。

### 七 觀佛三昧海經

十卷。東晉天竺三藏佛陀跋陀羅譯。縮藏黃五。卍藏十

十之一

【行三四】觀佛三昧經云令勸父王行念佛三昧。如彼香樹改伊闍林(安樂集)

第一問答、經卷九、本行品第八卷五、三十四取意。如來亦有無量法身十力無畏三昧解脫諸神通事。如此妙處、非汝凡夫所學境界。但當深心起隨喜想、起是想已、當復修念佛功德。

第二問答、經卷一、六譬品第一卷五、一五取意。「復次父王、譬如伊闍、俱與梅檀、生末利山。牛頭梅檀生伊闍叢中、未及長大、在地下時、芽莖枝葉、如闕浮提竹筍。衆人不見、言此山中純是伊闍無有梅檀。而伊闍臭、臭若腫屍、薰四十由旬。其華紅色、甚可愛樂。若有食者、發狂而死。牛頭梅檀雖生此林、未成就故、不能發香。仲秋月滿、卒從地

出、成梅檀樹。衆人皆聞牛頭梅檀上妙之香、永無伊闍臭惡之氣。佛告父王、念佛之心、亦復如是。以是心故、能得三種菩提之根。」  
六要鈔、指示經卷一觀地品文。

### 八 舊譯華嚴經 已出

【行三六】如華嚴經云譬如有人用獅子筋一切惡覺諸障直過無難(安樂集)

經卷五十九、入法界品第卅四之十六卷九、九十四「譬如有人、用獅子筋以爲琴絃、音聲既奏、餘絃斷絕。一切如來波羅蜜身、出菩提心功德音聲、若樂五欲二乘法者、聞悉斷滅。譬如牛馬羊乳合在一器、以師子乳、投彼器中、餘乳消盡、直過無礙。如來師子菩提心乳、著無量劫所積諸業煩惱乳中、皆悉消盡、不住聲聞緣覺法中……譬如有人、用騎身藥以塗其目、自在遊行、無能見者。菩薩摩訶薩亦復如是、

得菩提心滿足大願、自在遊行入覺境界、一切衆魔所不能見。」

【行八九】經言十方無礙人一道出生死(論註)

經卷五、菩薩明難品第六卷七、廿八一切無礙人、一道出生死。

行卷九七引此文。

【信本三】入法界品言譬如有人亦無損滅(往生要集)

經卷五十九、入法界品第三十四之十六卷九、九十二同卷十三、同九十三右三處之文。

初文、不可壞法藥五字、經作不壞法藥四字。第二文不沒漏下、經有菩薩摩訶薩亦復如是九字。

【真目〇】事同華嚴經寶王如來性起義(論註)

經卷卅三、卅六寶王如來性起品第卅二之一卷四、六十三、卷七、卅七爾時普賢菩薩摩訶薩、告如來性起妙德菩薩等諸大衆言。佛子、如來應供正覺、性起正法不可思議。所以者何、非少因緣成正覺。出興于世。佛子、以十

種無量無數百千阿僧祇因緣、成等正覺、出興于世。……名如來性起、諸功德寶、以爲莊嚴。譬如大千界國土初成時、非是少因緣能成於世界、無量方便力一切因緣、起三千大千界、安置諸群生。如是諸最勝如來性起法、無量功德藏、一切莫能知。」  
六要鈔引此文。

### 九 文殊師利所說般若波羅蜜經

二卷。梁扶

南國三藏曼陀羅仙譯。縮藏月九。卍藏五之六。大寶積經卷第百五十六(縮藏地六。卍藏六之二)收此經。

【行四〇】又如文殊般若云欲明一行三昧及一切佛等(禮讚)

經卷下初九、五取意。「善男子善女人、欲入一行三昧、應處空閑、捨諸亂意、不取相貌、繫心一佛、專稱名字、隨佛方所、端身正向、能於一佛念念相續。即是念中、能見過去未來現在諸佛。何以故、念一佛功德無量無邊、亦與無量諸佛功德無二。不思議佛法、等無分別、皆乘一如成最正覺、悉具無量功

德、無量辯才。」

六要鈔引此文前半。

### 一〇 悲華經 已出

【行六〇】悲華經諸菩薩本授記品云爾時寶藏如來—爲無量清淨  
(述文贊所指)

經卷三、諸菩薩本授記品第四之一一〇三、一〇六取意、「爾時  
寶藏如來、語轉輪王言、善哉善哉、大王、今者所願  
甚深。已取淨土、是中衆生、其心亦淨。大王、汝見  
西方、過百千萬億佛土、有世界、名尊善無垢。彼界  
有佛、名尊音王如來應供正遍知明行足善逝世間解無  
上正調御丈夫天人師佛世尊。今現在爲諸菩薩說於  
正法。彼界無有聲聞辟支佛名、亦無有說小乘法  
者。純一大乘清淨無雜。其中衆生等一化生、亦無女  
人及其名字。彼佛世界所有功德清淨莊嚴、悉如大王  
所願、無量種種莊嚴佛之世界、等無差別。悉已攝取

無量無邊、調伏衆生。今改汝字爲無量清淨。」

第二行語字、宋元明三本作讚。第四行界上、三本有  
世字、第十行已字、三本作以。

【信末八八】經云猶如比丘入三禪之樂也(散善議)

經卷二、大施品第三之一一〇三、一〇六取意、「爾時轉輪王、頂戴一  
燈、兩足趺上、亦各一燈、如是竟夜供養如來。佛  
神力故、身心快樂、無有疲極。譬如比丘入第三禪。  
轉輪聖王所受快樂、亦復如是。」

### 一一 大乘本生心地觀經

八卷。大隋闍梨  
國三藏般若奉詔

【行七六】應依心地觀經六種功德—利益一切衆生(往生要集)

經卷二、報恩品二之上五三、五十三取意、「善男子、一佛寶中、  
具足六種微妙功德。一者無上大功德田、二者無上有  
大恩德、三者無足二足及以多足衆生中尊、四者極難

值遇一如優曇華、五者獨一出現三千大千世界、六者

世出世間功德圓滿一切義依。具如是等六種功德、常  
能利益一切衆生。是名佛寶不思議恩。」

第五行四字、宋元明三本無。

### 一二 大般涅槃經 已出

【信末一六】涅槃經云佛告迦葉菩薩—恒與此人而作受施(安樂集)

北本卷十八、梵行品第八之四八七、八十四南本卷十六、梵行  
品第廿之三九七、五十一取意。「善男子、若男若女、能如是  
念佛者、若行若住、若坐若臥、若晝若夜、若明若闇、  
常得不離見佛世尊。」

【信末八九】經云猶如比丘入三禪之樂也(散善議)

北本卷二十一、高貴德王菩薩品第十之一一〇六、一〇九南本  
卷十九、高貴德王菩薩品第二十二之一一〇六、一〇九取意、「文殊  
師利言、世尊、於此東方、過二十恒河沙等世界、有  
佛世界、名曰不動。……若有衆生、聞其華香、身

心安樂、譬如比丘入第三禪。……若有衆生、在中  
浴者、所得喜樂、譬如比丘入第二禪。」

【化本七六】又涅槃經於末法中有十二萬大菩薩衆持法不滅(末法  
燈明記)

北本卷十八、梵行品第八之四八七、八十四南本卷十六梵  
行品第廿之三九七、五十一取意、「爾時凡夫各共說言、哀哉、佛  
法於是滅盡。而我正法、實不滅也。爾時其國、有  
十二萬諸大菩薩善持我法、云何當言我法滅耶。」

【化本八五】涅槃第三云如來今以無上正法—得福無量(末法燈明  
記)

北本卷三、壽命品第一之三三三、三十三南本卷三、長壽品第  
四三七、三十七取意。「我涅槃已、隨其方面、有持  
戒比丘、威儀具足、護持正法。見壞法者、即能驅遣、  
呵責懲治。當知、是人得福無量、不可稱計。……持  
法比丘、亦復如是。見有破戒壞正法者、即應驅  
遣呵責舉處。若善比丘、見壞法者、置不呵遣舉處、

當知是人佛法中怨。若能驅遣、訶責舉處、是我弟子、眞聲聞也。」

「如來今以無上正法、付囑諸王大臣宰相比丘比丘尼優婆塞優婆夷。是諸國王及四部衆、應當勸勵諸學人等、令得增上戒定智慧。若有不學、是三品法、憒忘破戒毀正法者、王者大臣四部之衆、應當苦治。善男子、是諸國王及四部衆、當有罪不。不也世尊。善男子、是諸國王及四部衆、尙無有罪。」

【化本八七】故涅槃七云迦葉菩薩白佛言—如是經律悉是覺說（末法燈明記）

北本卷七、如來性品第四之四五五、三十三南本卷七、邪正品第九、七七、三十五取意。

「迦葉菩薩白佛言。世尊如佛所說有四種覺。若覺所說及佛所說、我當云何而得分別。有諸衆生隨逐覺行、復有隨順佛所教者、如是等輩、復云何知。佛告迦葉。我般涅槃七百歲後、是覺波旬漸當沮壞

我之正法。譬如獵師身服法衣。魔王波旬亦復如是。作比丘像比丘尼像、優婆塞像優婆夷像、亦復化作須陀洹身、乃至化作阿羅漢身及佛色身。魔王以此有漏之形作無漏身、壞我正法。是覺波旬壞正法時當作是言。……佛在舍衛祇陀精舍、聽諸比丘受畜奴婢僕使、牛羊象馬、騾驢雞猪狗、金銀琉璃、眞球頗梨、車渠馬瑙、珊瑚琥珀、珂貝璧玉、銅鐵釜鏡、大小銅盤、所須之物、耕田種植、販賣市易、儲積穀米。如是衆事、佛大慈故憐愍衆生、皆聽畜之。如是經律、悉是覺說。」

第十一行鑽字、宋明二本作纏。

【化本七二】大經中說道有九十六種—皆是外道（辯正論）

北本第十、一切大衆所問品第五五九、五十三南本第十、一切大衆所問品第十七七五、七十四取意。「世尊常說、一切外學九十五種、皆趣惡趣。」

信卷末二引此文。

【化末七四】經云歸依於佛者—諸外天神也（天台法界次第）

北本第八、如來性品第四之五五五、卅九南本第八、如來性品第十三七五、四十一取意。「歸依於佛者、眞名優婆塞、終不更歸依其餘諸天神。」

化卷末一引此文。

【化末七五】經云永不復更歸依其餘諸外道（天台法界次第）

北本第八、如來性品第四之五五五、卅九南本第八、如來性品第十二七五、四十一取意。「歸依法者、則離於殺害。歸依聖僧者、不求於外道。」

### 一三 大方等大集經 已出

【信末一五】大集經云於說法者作醫王想—常生佛前（安樂集）

經卷十一、海慧菩薩品第五之四五五、六十四取意。「善男子、若有法師、受持讀誦如是等呪、昇師子座、專念諸佛慈及衆生、自於己身生醫師想、於所說法生良藥想、於聽法者生疾苦想、於如來所生善友想、

於正法中—生常恒想。若能如是說正法時、其處四邊各一由旬、覺不能到。」

【化本三〇、七三】引大集月藏分言我末法時中—未有一人得者（安樂集）

【化本七二】大集月藏經云佛滅度後五百年—微有善法得堅固（安樂集）

【化本七八】故大集經五十一言我滅度後—白法隱沒云云（末法燈明記）

已上三文、經卷五十五、月藏分第十二、分布闍浮提品第十七四七、五十一取意。「爾時世尊、告月藏菩薩摩訶薩。言。了知清淨土、若我住在諸聲聞衆、戒具足、捨具足、聞具足、定具足、慧具足、解脫具足、解脫知見具足、我之正法、熾然在世、乃至一切諸天人等、亦能顯現平等正法。於我滅後五百年中、諸比丘等、猶於我法解脫堅固。次五百年、我之正法禪定三昧、得住堅固。次五百年、讀誦多聞、得住堅固。次五百年、於

我法中。多造塔寺。得住堅固。次五百年。於我法中。關譯言頌、白法隱沒、損滅堅固。」

【化本八二】大集第九云譬如真金為無價寶。不久得忍地（末法燈明記）

【化本九〇】又大集五十二云若後末世於我法中。得無量福（末法燈明記）

已上二文、同品有、五十四取意。「了知清淨土、從是以後、於我法中、雖復剃鬚髮、身著袈裟、毀破禁戒、行不如法、假名比丘、如是破戒名字比丘、若有檀越、捨施供養、護持養育、我說、是人猶得無量阿僧祇大福德聚。何以故、猶能饒益多眾生故。何況我今現在於世。譬如真金為無價寶。若無真金、銀為無價。若無銀者、鍍石無價。若無鍍石、偽寶無價。若無偽寶、赤白銅鐵、白鐵鉛錫、為無價寶。如是一切諸世間中、佛寶無上。若無佛寶、緣覺無上。若無緣覺、羅漢無上。若無羅漢、諸餘賢聖眾、以為無上。」

若無聖眾、得定凡夫、以為無上。若無得定、淨持戒者、以為無上。若無淨戒、淨戒比丘、以為無上。若無淨戒、剃除鬚髮、身著袈裟、名字比丘、為無上寶。比餘九十五種異道、最尊第一、應受世供、為物福田。何以故、能示眾生可怖畏故。若有護持養育安、置是人、不久得住忍地。」

【化本八二】故大集云佛涅槃後無戒諸州云云（末法燈明記）

經卷五十五、月藏分第十二、分布圖淨提品第十七、五十四、五十五、上來世尊、命六欲天、四天王、乾闥婆、龍王、鳩槃荼、夜叉等、護持養育正法。最後夜叉受教勅作此言。「唯然受教、大德婆伽婆、我等護持養育安、置世尊正法。住法比丘、供給所須。乃至剃髮不持戒者、亦復供給一切所須。」

【化本八四】何故涅槃大集等經國王大臣供破戒僧國起三災遂生地獄（末法燈明記）

經卷廿四、虛空目分中護法品第九、三十八取意。「大王

若有國主、於無量世、修施戒慧、見我法滅、捨不擁護、如是所種無量善根、悉皆滅失。其國當有三不祥事。一者穀貴、二者兵革、三者疫癘。一切善神、悉捨離之。其王教令、人不隨從。常為隣國之所侵讎。暴火橫起、多惡風雨、暴水增上、吹漂人民。內外親信、咸共謀叛。其王不久、當遇重病。壽終之後、生地獄中。」

【化本九二】又大集云若打罵破戒。為涅槃印之所印也（末法燈明記）

經卷五十三、月藏分第十二、忍辱品第十六之一、四十六取意。「若有眾生、為我出家、剃除鬚髮、被服袈裟、設不持戒、彼等悉已為涅槃印之所印也。若復出家不持戒者、有以非法而作惱亂、罵辱毀謗、以手刀杖、打縛斫截、若奪衣鉢、及奪種種資生具者、是人則壞三世諸佛真實報身、則挑一切天人眼目。」

經卷五十四、月藏分第十二、忍辱品第十六之二、五十五取意。「佛言。大梵、我今為汝且略說之。若有其人、於萬億佛所、出其身血、於意云何、是人得罪寧為多不。大梵王言。若人但出一佛身血、得無間罪、尚多無量不可算數。墮於阿鼻大地獄中。何況具出萬億諸佛身血者也。終無有能廣說彼人罪業果報、唯除如來。佛言。大梵、若有惱亂罵辱打縛為我剃髮著袈裟片、不受戒禁、受而犯者、得罪多彼。何以故、如是為我出家、剃髮著袈裟片、雖不受戒或受毀犯、是人猶能為諸天人示涅槃道。是人便已於三寶、中心得敬信、勝於一切九十五道。其人必速能入涅槃、勝於一切在家俗人。唯除在家得忍辱者。是故天人應當供養。」

化卷末四引前文。

### 一四 大悲經

五卷、十四品。高齊天竺三藏那連提耶會譯。縮藏盈九。卅藏八之九。

【信末一八】大悲經云云何名為大悲——此等悉名行大悲人(安樂集)

經卷二、舍利品第七右、八十九取意。若復有人、但心念佛、一生三敬心、我說、是人亦當得涅槃果。盡涅槃際。」

【化本九一】大悲經云佛告阿難於將來世——測知法界故云云(末法燈明記)

卷第三、禮拜品第八左、九十九取意。「於當來世法欲滅時、當有比丘比丘尼。於我法中得出家已、手牽兒臂而共遊行、從酒家至酒家、於我法中作非梵行。彼等雖為以酒因緣、於此賢劫、一切皆當得般涅槃。阿難、何故名為賢劫。阿難、此三千大千世界、劫欲成時、盡為一水。時淨居天、以天眼觀見此世界唯一大水、見有千枚諸妙蓮華。一蓮華各有千葉、金色金光大明普照、香氣芬蕙甚可愛樂。彼淨居天、因見此已、心生歡喜踊躍無量、而讚歎言。奇哉奇哉、希有希有、如此劫中、當有千佛一出、與於世。以是因緣、遂名此劫、號之為賢。」

阿難、我滅度後、此賢劫中、當有九百九十六佛出。與於世。拘留孫如來為首、我為第四。次後彌勒、當補我處。乃至最後盧遮如來、如是次第、汝應當知。阿難於我法中、但使性是沙門、汗沙門行、自稱沙門、形似沙門、當有被著袈裟衣者。於此賢劫、彌勒為首、乃至盧遮如來、彼諸沙門、如是佛所、於無餘涅槃界、次第當得入般涅槃、無有遺餘。何以故、阿難、如是一切諸沙門中、乃至一稱佛名、一生信者、所作功德終不虛設。阿難、我以佛智測知法界、非不測知。」

一五 妙法蓮華經

七卷、廿八品。後秦龜茲國三藏法師鳩摩羅什奉詔譯。有明太宗文皇帝序、唐沙門道宣弘傳序、並後秦沙門僧叡後序。縮藏盈一。卍藏九之二。

【信末二三】法華經謂彌勒菩薩報地也(龍舒淨土文)

經卷五、如來壽量品第十六左、卅八「彌勒菩薩等、俱白佛言。世尊、是諸世界、無量無邊非算數所知、

亦非心力所及、一切聲聞辟支佛、以無漏智不能思惟知其限數。我等住阿惟越致地、於是事中亦所不達。世尊、如是諸世界無量無邊。」

我等住以下十六字、六要鈔所引。但言涌出品者誤。

【證四六】如法華經普門示現之類也(論註)

經卷七、觀世音菩薩普門品第二十五右、三十一「無盡意菩薩白佛言。世尊、觀世音菩薩、云何遊此娑婆世界、云何而為眾生說法、方便之力、其事云何。佛告無盡意菩薩。善男子、若有國土眾生、應以佛身得度者、觀世音菩薩、即現佛身而為說法……應以執金剛身得度者、即現執金剛身而為說法。無盡意、此觀世音菩薩、成就如是功德、以種種形、遊諸國土、度脫眾生。」

一六 摩訶般若波羅蜜經

二十七卷、後秦龜茲國三藏鳩摩

羅什譯。縮藏月三、四。卍藏五之二、三。

【信末一〇】經云五逆罪人——如是展轉運百千阿鼻大地獄(論註)

經卷十一、信毀品第四十一左、七十一「是人種愚癡因緣業種。是愚癡因緣罪故、聞說深般若波羅蜜、皆毀。皆毀般若波羅蜜故、則為皆毀過去未來現在諸佛一切智一切種智。是人毀三世諸佛一切智故、起破法業。破法業因緣集故、無量百千萬億歲、墮大地獄中。是破法人輩、從一大地獄、至一大地獄。若火劫起時、至他方大地獄中、生在他間、從一大地獄、至一大地獄。彼間若火劫起時、復至他方大地獄中、生在他間、從一大地獄、至一大地獄。如是遍十方。彼間若火劫起故、從彼彼死。破法業因緣未盡故、還來此間大地獄中生。此間、亦從一大地獄、至一大地獄、受無量苦。」

此文、大智度論卷六十二右、七十二標出。

【真五三】如大品經涅槃非化品中說云——不生不滅者不如化耶(玄義分)

經卷廿六、如化品第八十七、七十六「須菩提、於汝意云何、若有化人、作化人、是化頗有實事不空者不。須菩提言、不也、世尊、是化人無有實事而不空。是空及化人、二事不<sub>レ</sub>合不散、以<sub>レ</sub>空故。空不應分。別是空是化。何以故、是二事等空中不可得、所謂是空是化。何以故、須菩提、色即是化、受想行識即是化、乃至一切種智即是化。須菩提白佛言、世尊、若世間法是化、出世間法亦復是化不。所謂四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺分、八聖道分、三解脱門、佛十力、四無所畏、四無礙智、十八不共法、並諸法果、及賢聖人、所謂須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、菩薩摩訶薩、諸佛世尊、是法亦是化不。佛告須菩提、一切法皆是化。於是法中、有聲聞法變化、有辟支佛法變化、有菩薩摩訶薩法變化、有諸佛法變化、有煩惱法變化、有業因緣法變化。以是因緣故、須菩提、一切法皆是變化。須菩提白佛言、世尊、是諸

煩惱斷、所謂須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道、斷諸煩惱習、皆是變化不。佛告須菩提、若有法生滅相者、皆是變化。須菩提言、世尊、何等法非變化。佛言、若法無生無滅、是非變化。須菩提言、何等是不生不滅非變化。佛言、無誰相涅槃、是法非變化。世尊、如佛自說、諸法平等、非聲聞作、非辟支佛作、非菩薩摩訶薩作、非諸佛作、有佛無佛、諸法性常空、性空即是涅槃、云何言涅槃一法非如化。佛告須菩提、如是如是、諸法平等、非聲聞所作、乃至性空即是涅槃。若新發意菩薩、聞是一切法畢竟性空、乃至涅槃亦皆如化、心則驚怖。為是新發意菩薩故、分別生滅者如化、不生滅者不如化。須菩提白佛言、世尊、云何教新發意菩薩令知是性空。佛告須菩提、諸法本有今無耶。」

此文、大智度論卷九十六、八十三標出。第十八行習下、竊本有斷字。

一七 佛說首楞嚴三昧經

二卷。後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯。縮藏黃七。正藏十一之四。

【信末八】首楞嚴經言譬如藥名曰滅除。毒之箭自然拔出。論

註)

經卷上黃七、四「如大藥王名曰滅除、若鬪戰時、用以塗鼓、諸被箭射刀矛所傷、得聞鼓聲、箭出毒除。如是堅意、菩薩住首楞嚴三昧、有聞名者、貪患疑箭、自然拔出、諸邪見毒、皆悉除滅、一切煩惱不復動發。」

一八 大薩遮尼乾子所說經

十卷、十二品。元魏天竺三藏菩提留支譯。縮藏四。正藏十一之一。

【信末九】如薩遮尼乾子經說一者破壞塔寺。常行十不善業。往

生十因) 經卷四、王論品第五之二十三、十六左 取意。「王言。大

一九 新譯十輪經

具名大乘大集地持十輪經。十卷、八品。三藏法師玄奘奉詔譯。縮藏玄七。正藏六之九。

師、何者根本罪。答曰。大王、有五種罪、名為根本。何等為五。一者破壞塔寺、焚燒經像、或取佛物法物僧物、若教人作見作助喜、是名第一根本重罪。若謗聲聞辟支佛法、及大乘法、毀譽留難、隱蔽覆藏、是名第二根本重罪。若有沙門、信心出家、剃除鬚髮、身著染衣、或有持戒、或不持戒、繫閉牢獄、枷鎖打縛、策役驅使、責諸發調、或脫製袈、逼令還俗、或斷其命、是名第三根本重罪。於五逆中、若作一業、是名第四根本重罪。謗無一切善惡業報、長夜常行十不善業、不畏後世、自作教人、堅住不捨、是名第五根本重罪。大王當知、若犯如是根本重罪、而不自悔、決定燒滅一切善根、趣大地獄、受無間苦。」

【信末九三】彼經云一起不善心殺害獨覺——是虛誑語（往生十因）  
 經卷三、無依行品第三之一七、八、十取意。「復有四種、近五無間大罪惡業根本之罪。何等爲四。一者起不善心、殺害獨覺、是殺生命大罪惡業根本之罪。二者婬、阿羅漢苾芻尼僧、是欲邪行大罪惡業根本之罪。三者侵損所施三寶財物、是不與取大罪惡業根本之罪。四者倒見破壞和合僧衆、是虛誑語大罪惡業根本之罪。若人於此四近無間大罪惡業根本罪中、隨犯一種、不令出家及受具戒、若令出家或受具戒、師便得罪。」

### 二〇 舊譯十輪經

具名大方廣十輪經。八卷、十五品。失譯人名。縮藏玄

七。卍藏  
六之九。

【化本八九】又十輪言若依法出家 亦如麝香死後有用云云（末法燈明記）  
 經卷三、相輪品第五七、五十七取意。此品、宋元明三

本、名曰證相品。「天賊大梵、若依我法出家、造作惡行、如是比丘、盲無所觀。此非沙門、自稱沙門、非梵行、自稱梵行、退沒墮落、爲諸煩惱之所敗壞。如此比丘、修惡法、猶能開示一切天龍夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等、一切善法功德伏藏、爲善知識。雖不少欲知足、剃除鬚髮、披著袈裟服。以是緣故、能爲衆生、增長善根、於諸天人、開示善道。是以依我出家比丘、若持戒若破戒、我悉不聽轉輪聖王大臣宰相、不得譴毀繫閉、加諸鞭杖、截其手足、乃至斷命。況復餘輕犯小威儀破戒比丘、雖是死人、是戒餘力、猶如牛黃、是牛雖死、人故取之。亦如麝香死後有用、能大利益一切衆生。惡行比丘、雖犯禁戒、其戒勢力、猶能利益無量天人。」  
 第七行披著袈裟服五字、宋元明三本、作披著法服四字。

### 二一 維摩詰所說經

三卷、十四品。姚秦三藏鳩摩羅什譯。縮藏黃

七。卍藏  
九之五。

【證三】經言高原陸地不生蓮華卑濕淤泥乃生蓮華（論註）  
 經卷中、佛道品第八七、三十一「六十二見、及一切煩惱、皆是佛種。曰、何謂也。答曰、若見無爲入正位者、不能復發阿耨多羅三藐三菩提心。譬如高原陸地不生蓮華、卑濕淤泥乃生此華。如是見無爲法入正位者、終不能復能生於佛法。煩惱泥中、乃有衆生起佛法耳。」

【化本六五】淨名云是盲者過非日月答（辯正論）

經卷上、佛國品第一七、十五「佛知其念、即告之言。於意云何、日月豈不淨耶、而盲者不見。對曰、不也、世尊、是盲者過、非日月咎、舍利弗、衆生罪故、不見如來佛土嚴淨、非如來咎。舍利弗、我此土淨、而汝不見。」

### 二二 大乘同性經

亦名一切佛行入智毘盧遮那藏說經。二卷。周宇文氏天

竺三藏闍那耶舍譯。縮藏字二。卍藏十之四。

【真五一】如大乘同性經說西方安樂阿彌陀佛是報佛報土（玄義分）  
 經卷下七、十取意。「海妙深持自在智通菩薩、復問佛言。世尊、佛身幾種。佛言。善丈夫、略說有三。何等爲三。一者報、二者應、三者眞身。海妙深持自在智通菩薩、復問佛言。世尊、何者名爲如來報身。佛言。善丈夫、若欲見彼佛報者、汝今當知。如汝今日見我現諸如來清淨佛刹、現得道者、當得道者、如是一切即是報身。」  
 六要鈔引此文。

### 二三 觀世音菩薩授記經

一卷。宋黃龍國沙門曇無竭

譯。縮藏地十二。卍藏十一之四。

【真五三】何故觀音授記說阿彌陀佛亦有入涅槃時（玄義分）



經卷三、八種身品第八(卷十、七十三)「西方去此闍浮提十  
二億那由他、有憍慢界。國土快樂、作倡伎樂。衣被  
服飾、香花莊嚴、七寶轉關牀。舉目東視、寶牀隨轉。  
北視西視南視、亦如是轉。前後發意衆生、欲生  
阿彌陀佛國者、皆染著憍慢國土、不能前進生阿  
彌陀佛國。億千萬衆、時有一人、能生阿彌陀佛國。  
何以故、皆由憍慢執心不牢固。」  
第三行闍字、要集作開、第五行染字、同作深。

### 二五 大術經

門釋曇景譯。縮藏盈  
十。正藏十一之三。

本名摩訶摩耶經。一名佛界切  
利天爲母說法。二卷。蕭齊沙

【化本<sup>七七</sup>】依大術經佛涅槃後一仍教法藏於龍宮也(末法燈明記)  
經卷下<sup>五十一、五十三</sup>取意。「時摩訶摩耶、聞此語已、又  
增感惡、即問阿彌陀、汝於往昔侍佛以來、聞世尊  
說、如來正法幾時當滅。阿彌陀垂淚而便答曰、我於  
往昔、曾聞世尊說於當來法滅之後事云、佛涅槃後、

### 二四 菩薩處胎經

縮藏盈十。  
藏十二之一。

具名菩薩從兜術天降神母胎  
說廣普經。七卷、三十八品。

【化本<sup>一〇</sup>】菩薩處胎經第二說西方去此闍浮提一能生阿彌陀佛國  
(往生要集)

六要鈔引此文。

摩訶迦葉、共阿難結集法藏。事悉畢已、摩訶迦葉、  
於狼跡山中入滅盡定。我亦當得證果、次第隨後、  
入般涅槃、當以正法付優婆塞多。善說法要、如  
富樓那、廣說度人。又復勸化阿輪迦王、令於佛法  
得堅固正信。以佛舍利、廣起八萬四千諸塔。二百  
歲已、尸羅羅陀比丘、善說法要、於闍浮提、度十  
二億人。三百歲已、青蓮花眼比丘、善說法要、度半  
億人。四百歲已、牛口比丘、善說法要、度一萬人。  
五百歲已、寶天比丘、善說法要、度二萬人。八部衆  
生、發阿耨多羅三藐三菩提心、正法於此便就滅盡。  
六百歲已、九十六種諸外道等、邪見競興、破滅佛法。  
有比丘、名曰馬鳴、善說法要、降伏一切諸外道  
輩。七百歲已、有比丘、名曰龍樹、善說法要、  
滅邪見幢、然正法炬。八百歲後、諸比丘等、樂好  
衣服、縱逸嬉戲、百千人中、或有一兩得道果者。  
九百歲已、奴爲比丘、婢爲比丘尼。一千歲已、諸比

丘等、聞不淨觀阿那波那、瞋恚不欲。無量比丘、若  
若兩、思惟正受。千一百歲已、諸比丘等、如世俗人、  
嫁娶行媒、於大衆中毀謗毘尼。千二百歲已、是諸  
比丘、及比丘尼、作非梵行。若有子息、男爲比丘、  
女爲比丘尼。千三百歲已、袈裟變白不受染色。千  
四百歲已、時諸四衆、猶如獵師、好樂殺生、賣三  
寶物。千五百歲、俱談彌國、有三藏比丘、善說法要、  
徒衆五百。又一羅漢比丘、善持戒行、徒衆五百。於  
十五日布薩之時、羅漢比丘、昇於高座、說清淨法云、  
此所應作、此不應作。彼三藏比丘弟子、答羅漢言、  
汝今身口自不清淨、云何而反說。是處言。羅漢答言、  
我久清淨身口意業、無諸過惡。三藏弟子、聞此語已、  
倍更恚忿、即於座上殺彼羅漢。時羅漢弟子、而作  
是言、我師所說、合於法理、云何汝等害我和上。即  
以利刀殺彼三藏。天龍八部、莫不憂惱。惡覺波  
旬、及外道衆、踊躍歡喜、競破塔寺、殺害比丘。一

切經藏皆悉流移、至鳩尸那竭國、阿耨達龍王、悉持入海。於是佛法而滅盡也。」

第十二行一萬、宋元明三本、作十萬。

### 二六 仁王經

具名仁王護國般若波羅蜜多經。二卷、八品。大興善寺三藏沙門不空奉詔譯。有大唐代宗皇帝序。縮藏四七。出藏十五之九。

【化本七八】仁王等又有此文(末法燈明記)

經卷下、囑累品第八十五、九卷。「佛告波斯匿王。今誠汝等。吾滅度後、正法欲滅。後五十年、後五百年、後五千年、無佛法僧。此經三寶、付諸國王、建立守護。令我四部諸弟子等、受持讀誦、解其義理、廣為衆生宣說法要。令其修習出離生死。」

### 二七 賢愚經

十三卷、六十二品(宋元明三本六十九品)。元魏涼州沙門慧覺等在高昌郡譯。縮藏四九。出藏廿六之三、四。

【化本九〇】又賢愚經言若有檀越一如舍利弗大目連等(末法燈明

記)

經卷十二、波婆離品第五十九、七十五取意。「佛又言曰。若有檀越、於十六種具足別請、雖獲福報、亦未爲多。何謂十六、比丘比丘尼、各有八輩。不如僧中禮請四人、所得功德福、多於彼、十六分中、未及其一。將來末世、法垂欲盡、正使比丘、畜妻俠子、四人以上名字僧衆、應當敬視、如舍利弗目連等。」

第五行俠字、宋元明三本作挾。

### 二八 正法念經

具名正法念處經。七十卷。元魏婆羅門瞿曇般若流支譯。縮藏四十四之四、十七。

【化本六八】正法念經云人不持戒諸天減少一疾疫不行也(辯正論)經卷十八、畜生品第五之一、二、三、取意。若人順法、孝養父母、供養沙門及婆羅門、修行正法、令法行龍王、增長大力。以法勝故、降雷雨、五穀熟成、

色香味具、無諸災害。果實繁茂、衆花妙色、日月晶

光、威德明淨、福德龍王、不放毒風。閻浮提人、有四因緣。則多喪命。何等爲四、一者飢饉、二者刀兵、三者毒風、四者惡雨。若諸世間、隨順法行、修諸福德、法行龍王、增長大力、不出惡雲、不降惡雨、無惡風氣、衆水調善、稻穀豐熟、果味肥美、色香味具。食之無病、離諸飢饉、色力具足、四大安隱、修行善業。以行善業、助其果報、田稼豐熟。法行龍王、如是次第、擁護順法修善衆生。」

同品七、三、取意。「云何此等非法惡龍、增長勢力。彼以聞慧、知諸衆生行不善法、不孝父母、不敬沙門及婆羅門。如是惡龍增長勢力、於閻浮提作大惡身。以惡心故、起惡雲雨、所雨之處、生惡毒樹、惡風吹樹、毒氣入水、令水雜毒、一切五穀皆悉繁惡。若有食者、則得病苦。穀力薄故、令人短命。是繁龍王、惡心災毒、迭互相害。以是惡故、閻

浮提人、悉皆毀壞。以非法龍作諸惡故。」

同品九、取意。「若閻浮提人、不行正法、不孝養父母、不敬沙門、婆羅門及諸尊長、不依法行、不奉三寶、不觀善法及不善法。諸天勢力、悉爲減少、四天王天展轉相告、悉避逃逝、恐師子兒羅睺、阿修羅王來殺我等。若閻浮提人、修行正法、孝養父母、敬事師長、供養沙門耆舊長宿。一切諸天、勢力增長。時四天王、以衆寶衣莊嚴其身。塗香末香、即時當於師子兒羅睺、阿修羅、上虛空中、雨諸刀劍。」

### 第二 律

### 二九 菩薩瓔珞本業經

二卷。姚秦涼州沙門竺佛念譯。縮藏列一。出藏十七。

【行一〇〇】瓔珞經中說漸教萬劫修功證不退(般舟證)

經卷下、佛母品第五<sup>列</sup>、十九<sup>若</sup>取意。「佛子、劫數者、所謂一里二里乃至十里石盡、名一里劫二里劫。五十里石盡、名五十里劫。百里石盡、名百里劫。千里石盡、名爲千里劫。萬里石盡、名爲萬里劫。佛子、一切賢聖入是數量、修一切法門、時節久近得佛果。其數百劫、乃得等覺。若一切衆生入是數者、得佛不久。若不入者、不名菩薩。」

【化本七】據菩薩瓔珞經具辨入道行位法爾故名難行道(安樂集)經卷上、賢聖名字品第二<sup>列</sup>、十<sup>若</sup>、十住、十行、十回向、十地、無垢地、妙覺地、四十二賢聖名字。賢聖學觀品第三<sup>列</sup>、四<sup>若</sup>、四十四、賢聖觀法。卷下釋義品第四<sup>列</sup>、釋四十二賢聖義相。釋義品第五<sup>列</sup>「佛子、從不識始凡夫地、值佛菩薩、教法中起一念信、便發菩提心。是人爾時住前、名信想菩薩、亦名假名菩薩、亦名名字菩薩。其人略行十心。……若值善知識、學佛法、若一劫二劫、方入住位。若不爾者、常沒不出、住退分善根、如

上說。」

### 三〇 四分律

出藏十七之八  
一十八之一。

六十卷。姚秦罽賓三藏佛隨耶舍共竺佛念等譯。縮藏列三六。

【化本九三】律云制非制者則斷三明所記說是有罪(末法燈明記)

律卷五十七、毘尼增之一<sup>列</sup>、六<sup>若</sup>、六十八取意。「佛告諸比丘。若比丘、非制而制、是制便斷。如是漸漸令戒毀壞、令多人不得利益、作衆苦業、以滅正法。若比丘、非制不制、是制不斷。如是漸漸令戒成就、利益多人、不作苦業、令正法久住。是故汝等、非制不應制、是制不應斷、當隨所制戒而學。諸比丘聞歡喜、信樂受持。」

### 第三論

### 三十一 十住毘婆沙論

已出

【行二五】羅案龍樹菩薩十住毘婆沙云菩薩求阿毘跋致有二種道一者難行道二者易行道(論註)

易行品取意。「佛法有無量門。如世間道有難有易、陸道步行則苦、水道乘船則樂。菩薩道亦如是。或有勤行精進、或有以信方便易行、疾至阿惟越致者。」

行卷二。引此文。

【真四三】龍樹菩薩所讚(論註)

易行品九「聲聞衆無量、是故稽首禮。」

### 三二 菩提資糧論

五卷。聖者龍樹本、比丘自釋。大隋南印度三藏達磨

笈多譯。縮藏來十。  
出藏二十一之五。

【行二】如助菩提中說般舟三昧父—從是二法生(十住論)

論卷三<sup>列</sup>、八<sup>若</sup>、八十五「諸佛現前住、牢固三摩提、此爲菩薩父、大悲忍爲母。」

十住論呼此論、或曰助菩提、或曰助道經。十住論與

菩提資糧論、譯者不同故、傷頌文言亦異。唯是同文別釋。

### 三三 十二門論

出藏二十  
一之七。

一卷。龍樹菩薩造。姚秦三藏鳩摩羅什譯。有序。縮藏來十。

【行三】是義觀一異門論中委曲(論註)

一說曰、觀一異門論者、指十二門論觀一異門章。觀一異門第六<sup>列</sup>、七<sup>若</sup>「是相可相、若一不可得、異亦不可得、若一異不可得、是二則不成。是故相可相皆空、相可相空故、一切法皆空。……復次若相即是可相者、因果即一。何以故、相是因、可相是果。是二則一、而實不一。是故相即是可相、是事不然。……如是種種因緣、相可相、一不可得、異不可得、更無第三法成。相可相。是故相可相俱空、是二空故、一切法皆空。」

### 三四 中論

釋僧叡序。縮藏卷一。  
出藏二十一之四。

四卷。龍樹菩薩造。梵志青目釋。姚秦三藏鳩摩羅什譯。

【行三】是護觀一異門、論中委曲(論註)

一說曰、論者指中論。

論卷三、觀因果品第二十左、四十六「因果是一者、是事終不然、因果若異者、是事亦不然、若因果是一、生及所生一、若因果是異、因則同非因」。

六要鈔引中論觀因果品偈曰。「不常亦不斷、不一亦不異、不來亦不去、不生亦不滅。」

### 三五 大智度論

一百卷。龍樹菩薩造。後秦龜茲國三藏法師鳩摩羅什奉

詔譯。縮藏往一五。卅藏十九之九一二十四。

【行八】如摩訶衍中說云諸餘三昧一切諸障皆除也(安樂集)

大智度論、釋摩訶般若波羅蜜多經故、以所釋名能釋、曰摩訶衍。論卷七、初品中佛土願釋論第十三左、四十七取意。「復次念佛三昧、能除種種煩惱及先世罪。餘諸三昧、有能除疑、不能除疑。有能除瞋、不能除瞋、不能除疑、有能除疑、不能除疑。有能除三毒、

不能除三先世罪。是念佛三昧、能除種種煩惱、種種罪。」

【信末一六】依大智度論有三番解釋第一佛是無上法王一是故應當常念佛也(安樂集)

論卷七、初品中佛土願釋論第十三左、四十八「復次佛爲法王、菩薩爲法將。所尊所重、唯佛世尊。是故應常念佛。」

【信末一七】第二有菩薩自云我從曠劫以來一常念其王(安樂集)

論卷七(連接上文)「復次常念佛、得種種功德利。譬如大臣特蒙恩寵、常念其主。菩薩亦如是、知種種功德無量智慧皆從佛得。知恩重故、常念佛。」

【信末一七】第三有諸菩薩復作是言我於因地一願不離佛(安樂集)

論卷六十二、釋信誦品第四十一左、七十三取意。「是人於過去世、聞深般若波羅蜜、不信不受、從座起去。今佛爲說、不信不受、破般若波羅蜜罪業果報故、說是人不能信不受業因緣故、即起愚痴業因緣。得」

愚痴業因緣故、疑悔惡邪著心轉增。著心轉增故、於

大眾中毀譽、破壞般若波羅蜜。破壞般若波羅蜜故、破三世十方諸佛一切智。破三世十方諸佛一切智罪故、轉身墮大地獄。大地獄者、阿鼻地獄。無量百千萬億阿僧祇歲、受憂愁苦惱……」

論卷六十三、釋信誦品第四十一之餘左、十四「經」佛告須菩提、有四因緣、是愚痴人、毀譽破是深般若波羅蜜……是愚痴人與惡知識相隨、心沒懈怠、堅著五

受樂。是第三因緣故、是愚痴人、欲毀般若深般若波羅蜜……」(論)十四左「有人利根堪信、覺又不來。但隨惡師教故、破般若。有人雖屬惡知識、諸結使薄故、勤精進、能信般若波羅蜜。是故二事和合爲一。亦屬惡知識、亦深著五業結使、厚生懈怠心。是故不信般若。」

論卷六十三、釋信誦品第四十一之餘左、十六「或有遇善知識、先世精進福德、利智第一、信般若波羅蜜清

淨因緣、能得如所說果報。如阿闍世王、殺父之罪、蒙佛文殊師利善知識故、除其重罪、得如所說般若果報、受無上道記。」

【真四】諸經說言有五種不可思議一五者佛法力不可思議(論註)論卷三十、初品中諸佛稱讚其名釋論第四十七左、八十五取意。「經說五事不可思議。所謂衆生多少、業果報、坐禪人力、諸龍力、諸佛力、於五不可思議中、佛力最不可思議。」

### 三六 道地經

一卷、七章。天竺須賴摩國三藏僧伽羅利漢言衆護造。

後漢安息國三藏安世高譯。縮藏卷六。卅藏廿六之五。

【信末八二】業道經言業道如秤重者先牽(論註)

五種成敗章第五左、八十三取意。「譬如秤一上一下、如是捨死受生種。」

稱字、宋元明三本作秤。行卷三九稱字註參照。

### 三七 俱舍論

具名阿毘達摩俱舍論。三十卷。九品。尊者世親造。三藏法師玄奘奉詔譯。縮藏收九、十。卍藏廿四之二、三。

【信末九】俱舍論中有五無間同類業彼頌云「破壞卒都婆（往生十因）」

論卷十八、分別業品第四之六收十、五十六偈頌。「汗母無學尼、殺住定菩薩、及有學聖者、奪僧和合緣、破壞卒堵波、是無間同類」

### 三八 大乘起信論

一卷。馬鳴菩薩造。梁西印度三藏法師真諦譯。縮藏來

十。卍藏廿二之五。

【真六】起信論曰若知雖說無有能說可說一名爲得入（念佛三昧寶王論）

解釋分卷十、三十六「當知、一切法不可說不可說念故、名爲眞如。問曰、若如是義者、諸衆生等、云何隨順而能得入。答曰、若知一切法雖說無有能說可說、

雖念亦無能念可念、是名隨順。若離於念一名爲得入。」

### 三九 坐禪三昧經

二卷、姚秦三藏鳩摩羅什譯。縮藏卷六。卍藏廿六之七。

【化本七】正法念經云行者一心求道時一水不可得無智故（安樂集）

正法念經、無此文、恐安樂集主暗記之失歟。經卷下、卍藏廿六、偈頌取意。「行者定心求道時、常常觀察時方便。若不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>時無<sub>レ</sub>方便、是應<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>失<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>利。如<sub>レ</sub>犢未<sub>レ</sub>生殺<sub>レ</sub>牛乳、乳不可<sub>レ</sub>得非時故。若犢生已殺<sub>レ</sub>牛角、乳不可<sub>レ</sub>得無<sub>レ</sub>智故。如<sub>レ</sub>鐵<sub>レ</sub>濕木<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>出火、火不可<sub>レ</sub>得、非<sub>レ</sub>時故。若折<sub>レ</sub>乾木<sub>レ</sub>以求<sub>レ</sub>火、火不可<sub>レ</sub>得無<sub>レ</sub>智故。」

### 四〇 成實論

二十卷、二百二品。訶梨跋摩造。姚秦三藏鳩摩羅什譯。縮藏卷二。卍藏廿四之八、九。

【化末七】經教成實論說云若事外道心重佛法心輕即是邪見（辯

### 正論

論卷十、邪見品第一百三十二卷二十、六十七取意。「非勝勝想者、是人於<sub>レ</sub>富蘭那等外道師中、而生<sub>レ</sub>勝想。又梵王自說、我是大梵天王造<sub>レ</sub>萬物<sub>レ</sub>者。如是等有人言、若人具足受<sub>レ</sub>五欲樂、是名<sub>レ</sub>勝法。又言、若人離<sub>レ</sub>欲入<sub>レ</sub>初禪乃至四禪、是最勝法。又說、世間現見衆生中、婆羅門爲<sub>レ</sub>尊、非現見衆生中、天爲<sub>レ</sub>最尊、是非勝勝想。勝非勝想者、一切衆生中佛爲<sub>レ</sub>最勝。有<sub>レ</sub>人於<sub>レ</sub>中不生<sub>レ</sub>勝想、作<sub>レ</sub>如是言、是利利種、又學道日淺、又謂、佛法言不<sub>レ</sub>巧妙、文辭煩重、不如<sub>レ</sub>章陀、此不<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>勝。衆僧中有<sub>レ</sub>四品人、是故不<sub>レ</sub>勝。如是等勝中生<sub>レ</sub>非勝想……如是等因緣、生<sub>レ</sub>顛倒心、皆名<sub>レ</sub>邪見。」

### 第四 釋

### 四一 讚阿彌陀佛偈 已出

【行三九】大經證云若聞阿彌陀德號——是故至心稽首禮（安樂集）

偈九左第二十九拜偈。

【證八】傍大經奉讚曰安樂聲聞菩薩衆——是故頂禮平等力（安樂集）

偈七左第二十二拜偈。

### 四二 金光明最勝王經疏

十卷。翻經沙門慧沼撰。卍藏藏

第一輯第三十一之五—第三十二之二。今依卍藏本。

【信末九〇】若依淄州五逆有二一者三乘五逆——常行十不善業（往生十因）

疏卷五卍藏二取意。「無知謗<sub>レ</sub>正法、不<sub>レ</sub>孝<sub>レ</sub>於父母、作<sub>レ</sub>如是衆罪、我今悉懺悔。贊曰。第十一、懺<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>五逆、所<sub>レ</sub>造惡業。依<sub>レ</sub>大乘經所說五逆、非<sub>レ</sub>三乘通說。言<sub>レ</sub>五逆者、準<sub>レ</sub>薩遮尼乾子經、一不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>破<sub>レ</sub>塔壞<sub>レ</sub>寺、焚<sub>レ</sub>燒<sub>レ</sub>經像、及用<sub>レ</sub>盜<sub>レ</sub>三寶財物。二謗<sub>レ</sub>三乘法、言<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>聖教、障礙留難、隱弊覆蔽。三於<sub>レ</sub>一切出家人所、若有戒無

戒、持戒破戒、打罵呵嘖、說過禁閉、還俗驅使、責調斷命。四無得殺、父害、母、出、佛身血、破、和合僧、殺、阿羅漢。五不得誘、無因果、長夜常行、十不善業。今此誘法即第二逆、不孝、父母、即第四逆。」

### 四三 注維摩經

十卷。後秦釋僧肇撰。正續藏廿七之三。

【證三】摩公言法身無像而殊形並應——冥權無謀而動與事會（論註）

注維摩經序「夫聖智無知、而萬品俱照。法身無象而殊形並應。至韻無言、而玄籍彌布。冥權無謀、而動與事會。故能統濟群方、開物成務、利見天下、於我無爲。」

### 四四 釋淨土群疑論

七卷、十二科百十六章。西都千福寺大德懷感撰。

正續藏第二編十二之三。淨土宗全書卷六。今依寶永版單行本。

【化本二】群疑論引善導和尚前文而釋此難又自助成云此經下文

言「實不相違也（往生要集）」

論卷四「安專雜二修章。」釋曰、只由「此經有新言教、故、善導禪師、勸諸四衆、專修西方淨土業、者、四修難、三業無雜、廢除一切諸願諸行、唯願唯行西方一行。雜修之者、萬不一生、專修之人、十無一失。即此經下文言、何以故、皆由懈慢執心不牢固。是知、雜修之者、爲執心不牢之人、故生懈慢國也。正與處胎經文相當。若不雜修、專行此業、此即執心牢固、定生極樂國也。妙符隨願往生經旨。經言、娑婆世界、人多貪濁、信正者少、習邪者多。不信正法、不能專一、心亂無志。十方淨土、實無差別、令諸衆生專心有在。是故讚嘆彼國土耳。諸往生者、悉隨彼願、無不獲果。故知、雜其行、墮於懈慢之邦、專其業、生於安樂之國。斯乃更顯淨門專行而得往生。豈是彼國難往而無生。愚哉學徒、不可不專其道也。又雜淨土生者極少、化淨土中生者不

少。故經別說、實不相違也。」

### 四五 上生經疏

具名觀彌勒上生兜率天經贊。二卷。大慈恩寺窺撰。

正續藏三十五之四。今依坊本。

【化本七六】大乘基引賢劫經言「此千五百年後釋迦法滅盡（末法燈明記）」

疏卷上「賢劫經云、人壽一千二百歲、釋迦始生。都史、人壽一百歲、出世作佛。都史天壽四千歲、人間當五十六億七千萬歲。正法五百年、像法一千年、不說末法。仍云、過二千五百年後、釋迦法盡、獨覺行化、與諸經不同。」

賢劫經所說、與今所引異。經卷三、開持品第九四、十一「正法得立至五百歲、像法亦爾。」經卷七、千佛興立品廿一、廿二「正法存立至五百歲、像法存立亦五百歲。」

### 四六 開元釋教錄

二十卷。唐西崇福寺沙門智昇撰。縮藏結四、五。正藏

二十九之二十四。

【行七三】按開元藏錄此經凡有兩譯前本已亡今本乃蓋良耶舍譯（元照觀經疏）

錄卷五右、十六蓋良耶舍下、「觀無量壽佛經一卷亦無量壽觀經。其本見在。」

同卷十一、右曇摩蜜多下、「觀無量壽佛經一卷第二出。與者同本。」觀經疏文、當作後本已亡。

### 四七 高僧傳

十三卷。梁會稽嘉祥寺沙門釋慧皎撰。縮藏致二。正藏

二十九之十九。

【行七二】僧傳云蓋良耶舍此云時稱宋元嘉初達于京邑文帝（元照觀經疏）

傳卷三致、十七取意。「蓋良耶舍、此云時稱、西域人。性剛直寡嗜欲、善誦阿毘曇、博涉律部、其餘諸經、多所該綜。雖三藏兼明、而以禪門專業、

每二遊觀、或七日不起。常以三昧正受傳化諸國。以元嘉之初、遠昌沙河奉于京邑。太祖文皇、深加歎異。」

補遺

八 舊譯華嚴經

【證一五】案十地經菩薩進超階級漸有無量功勳運多劫數然後乃得此(論註)

經卷二十三—二十七、十地品第二十二、六、十說初地乃至十地漸進次第之相。

未檢

寶月童子所問經 廣本未度。略本現存。

【行三】如寶月童子所問經阿惟越致品中說(易行品)目連所問經 一名定行三昧經。一卷。失傳。

【行三九】又如目連所問經—名無耳人(安樂集)

十往生經 具名十往生阿彌陀佛國經。一卷。失傳。

【行四五】十往生經云—得其便也(證證)

淨土文 山陰慶文造

【行六六】山陰慶文法師正信法門辯之甚詳—當生正信(元觀經疏)

金剛般若會釋 三卷。窺基撰。

【化七九】基般若會釋云—正法滅盡(末法燈明記)

須彌四域經 安樂集下十五左引之。

【化末六三】須彌四域經云—爲女媧(辯正論)

空寂所問經

【化末六三】空寂所問經云—爲顛回(辯正論)

本據未考

【化末六三】佛經言識體輪回—孰辨愚親(辯正論)

【化末六二】又言無明覆慧眼—知識數爲愚親(辯正論)

索引

凡例

- 一 この索引は、語句索引 (Concordance) と項目索引 (Subject Index) とを合したるものにして、本典一部に亘り、能ふ限り多くの語句と項目とを拾ひて之を排列せり。
- 一 排列の方法は、字音順と字畫順とを並用し、先づ字音に依りて五十音順に配し、各音に於ける順序は字畫に依れり。但しヤ行のイエはア行のイエに、ワ行の井ウエヲはア行のイウエオに、タ行の濁音ヂヅはサ行のジズに收めて出せり。又字畫順は、便宜上同類の語句項目を排列する爲に、第二字以下に於て間々順序を顛倒せることあり。
- 一 檢索に便せん爲に、索むる所の箇所を種々の語句項目によりて檢出することを得しめたり。例へば「悲哉愚禿慧沈沒於愛欲廣海、迷惑於名利大山、不喜入定聚之數、不快近眞證之證、可耻可傷矣」の一節は、「悲歎迷懷」の項目、又は「愛欲の廣海」「名利の大山」「定聚之數」「眞證」等の語句にて檢出し得るが如し。項目の重出せるものも亦少からず。例へば「佛性」の下に「悉有佛性」「闡提有佛性」「五逆有佛性」「少見佛性」「眼見佛性」「聞見佛性」「不見佛性」「必顯佛性」「四無量心佛性」「信心佛性」「一子地佛性」「一乘佛性」等の項目を列ね、また

之等の項目を別にそれらの位置に掲げたるが如し。

一 固有名詞の類出するものは、單にその所在を示すことは煩に堪わざるのみならず、甚だ無意義に近きを以て、各その下に數箇條の項目を擧げて檢索に便せり。例へば「阿闍世」の下に、「父王を幽閉す」「母后を害せん」と「逆害の惡報」「六臣の問病」「耆婆の問病」「父王の勸導」「佛光の照益を蒙る」「說法を開きて發心す」「佛を供養讚嘆す」「過去世の發心」等の數項を分ちて、その所在を示せるが如し。

一 引用の書目及び引文中に存する書目は、引文一覽に譲りて茲に掲げず。

ア

|                                              |                                     |                       |
|----------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------|
| 安心起行……………信三三                                 | 阿樂多國(十六大國の一)……………化三三                | 耆婆の問病……………信三三         |
| 安清淨心……………證三七                                 | 阿鼻地獄……………信三七、三、四、六、七、八、八、八、九        | 父王の勸導……………信三三         |
| 安處(涅槃の異名)……………眞元                             | 阿摩勒葉の譬……………眞元                       | 佛光の照益を蒙る……………信三三      |
| 安養。安養國。安養界……………眞元                            | 阿耨多羅三藐三菩提……………行一〇、四、三、三八、九、四、信三三、眞三 | 說法を開きて發心す……………信三三     |
| …序一。行九、二四、二五、信三三、眞四、六、一                      | 阿耨多羅三藐三菩提心……………行六、六                 | 佛を供養讚嘆す……………信三三       |
| 安樂。安樂國。安樂佛國。安樂淨土……………行八、三、四、二、三、四、三、眞四、眞五、五〇 | 阿彌陀の名義……………行三、六                     | 過去世の發心……………信三三        |
| 阿那含……………眞四                                   | 阿彌陀の稱呼……………行三、六                     | 阿闍世の語義……………信三三        |
| 阿那含果……………眞四                                  | 成佛の因果……………行三、六                      | 阿闍世王子……………行六、七        |
| 阿伽陀藥の譬……………信三三                               | 因位の行相……………信三三、元                     | 阿濕婆國(十六大國の一)……………化三三  |
| 阿毘跋致(阿惟越致)……………行三三                           | 修行の心相……………信三三、四、四、五                 | 阿羅漢……………信三三           |
| 阿毘跋致(八部衆の一)……………化三三、六                        | 別途の願行……………行三三                       | 出家修道……………眞三           |
| 阿修羅城……………化三三、六                               | 果上の十一力……………行三三                      | 佛の瑞相を見て發問す……………眞三     |
| 阿修羅の譬……………行八、證四七                             | 阿彌陀經の稱呼……………行三三                     | 阿羅漢(羅漢)……………信三三、眞三    |
| 阿耨多羅含欽婆羅(六師外道の一)……………信三三、四                   | 彌陀經……………行三三、眞三、元                    | 惡人正機……………化三三          |
| 阿惟越致。阿惟越致地。(阿毘跋致)                            | 小本……………化三三、三、元                      | 惡世成佛の難……………信三三、七      |
| …同上……………行三三、信三三                              | 阿闍世(頻婆娑羅の太子)                        | 惡世說法の難……………化三三        |
| 阿逸多(彌勒の別名)……………化三三                           | 父王を幽閉す……………信三三                      | 惡行の衆生冥衆に遮止せらる……………信三三 |
|                                              | 母后を害せん……………信三三                      | 惡性王……………信三三           |
|                                              | 逆害の惡報……………信三三                       | 惡知識……………信三三、七、七、化三三   |
|                                              | 六臣の問病……………信三三、三                     | 愛王……………信三三            |
|                                              |                                     | 愛光(十五光佛の一)……………眞三     |



|             |     |                |                      |                        |                     |
|-------------|-----|----------------|----------------------|------------------------|---------------------|
| 愛流……………     | 信六九 | 眞實の一心……………     | 信六三                  | 一行三昧……………              | 行四〇                 |
| 愛欲の廣海……………  | 信六八 | 一心の釋……………      | 行七〇、化三三、四三           | 一佛即一切佛……………            | 行六〇、眞五〇             |
| 闇中明燈の譬…………… | 行五九 | 一心の淺深……………     | 化三三                  | 一佛專勤問答……………            | 行四三                 |
|             |     | 一心正念直來……………    | 信六三                  | 一法句……………               | 證六、二九               |
|             |     | 一心專念……………      | 信六三                  | 一念大和……………              | 行五八、八三              |
|             |     | 一心專念彌陀名號……………  | 信六三                  | 一念往生……………              | 行四九、信六三             |
|             |     | 一心華文……………      | 信六八、一九〇、化三三、四九、五〇    | 一念淨信……………              | 信六〇、信六三             |
|             |     | 一心歸命……………      | 眞五九、五〇               | 一念福至(菩薩四行の一)……………      | 證三三、三三              |
|             |     | 一切法如化……………     | 眞五四                  | 一念滅罪……………              | 行六、五〇               |
|             |     | 一切衆生悉有佛性……………  | 眞五四                  | 一念轉釋(行)……………           | 行八四                 |
|             |     | 一切種智……………      | 行六〇、信六八、四七、眞三三、五三、五七 | 一念轉釋(信)……………           | 信六三                 |
|             |     | 一切覺……………       | 眞六                   | 行一念釋……………              | 行六三                 |
|             |     | 一代教判……………      | 化三三                  | 信一念釋……………              | 信六三                 |
|             |     | 一生補處……………      | 行九〇、證二六              | 一乘……………                | 行六、三三、八四、九六、信四〇、化三三 |
|             |     | 一生補處之願……………    | 證二二                  | 一乘佛性……………              | 行六                  |
|             |     | 一名無量名……………     | 眞二九                  | 一乘究竟之極說(眞實教六嘆釋の一)…………… | 教七                  |
|             |     | 一如……………        | 行三三、證三三〇、眞三〇〇、化三三    | 一乘海……………               | 行二〇〇、〇一、〇一〇、化三三     |
|             |     | 一向專念……………      | 行三                   | 一乘海德……………              | 行一〇三                |
|             |     | 一行……………        | 行八〇、信六四              | 一乘海釋……………              | 行六四                 |
|             |     | 一行(涅槃の異名)…………… | 眞三九                  | 一義無量名……………             | 眞三〇、三二              |

イ井

|                        |                     |                   |          |                 |             |
|------------------------|---------------------|-------------------|----------|-----------------|-------------|
| 一道……………                | 行八六、八七、九七、信六六       | 阿闍世を生む……………       | 信六三      | 有漏心……………        | 行三三         |
| 一實……………                | 行三                  | 阿闍世の迫害を受く……………    | 信六三      | 有漏業繋の難……………     | 信六三         |
| 一實真如海……………             | 行一〇八                | 阿闍世の病を癒る……………     | 信六三      | 有曇(四曇の一)……………   | 信六一         |
| 一聲……………                | 行八、八四               | 章提の別選……………        | 眞五八、化三三  | 有學……………         | 信六一         |
| 一闍提(闍提と同じ)……………        | 信六元、眞三三、三三、三三、三三、三三 | 章提……………           | 化三三      | 兩行……………         | 信七四、七五      |
| 已造業攝取……………             | 信六八                 | 章陀……………           | 化三三      | 海の徳……………        |             |
| 因人不了説……………             | 信六六                 | 胃(二十八宿の一)……………    | 化三三      | 一味無差……………       | 行九七、二〇〇、眞四一 |
| 因行修相……………              | 信六六                 | 威神力(十一力の一)……………   | 行七六、六六   | 不宿死屍……………       | 行九八、一〇〇     |
| 因果(陰の異名)……………          | 眞三三                 | 威德智(六智の一)……………    | 化六       | 深廣無涯……………       | 行九八、九八      |
| 因果相續不一不異……………          | 行三三                 | 異の方便……………         | 化三三、二四、元 | 無量寶藏……………       | 行三、九        |
| 因果清淨……………              | 證三                  | 爲の字註……………         | 信六三      | 雲下明朗の譬……………     | 行二二         |
| 因清淨(涅槃四淨の一)……………       | 眞三〇                 | 爲失大利……………         | 化六       | 優鉢羅華(青蓮華)……………  | 信六三         |
| 因緣假名生……………             | 行三〇                 | 爲物身……………          | 信六〇      | 優曇華(優曇鉢の華)…………… | 教五、行七、七、七   |
| 因願酬報之身……………            | 眞五一                 | 爲得大利……………         | 行三三      | 優曇鉢樹……………       | 教五          |
| 伊闍子栴檀を生ずる譬……………        | 信六三                 | 意業(五業の一)……………     | 眞三三      | 優陀耶王……………       | 信六九         |
| 伊闍林の譬……………             | 行三三                 | 意業功德證嘆……………       | 信六六      | 優婆夷……………        | 化六七、化六二、二   |
| 印度……………                | 行二二                 | 醫王の想(聽者心想の一)…………… | 信六二      | 優婆斯那……………       | 化六〇         |
| 易行道……………               | 行三、四、化三三            |                   |          | 優婆塞……………        | 化六七         |
| 易往無人……………              | 行三、六三               |                   |          |                 |             |
| 易往無人之淨信(大信十二嘆釋の一)…………… | 信三                  |                   |          |                 |             |
| 易修易證の教……………            | 行三                  |                   |          |                 |             |
| 章提 章提希(毘提と同じ)……………     | 行三                  |                   |          |                 |             |

ウ

エ

索引 イ井 一已因伊印易章胃威異爲意醫 ウ有爾海雲優 エ工 炎

|                  |            |                |               |
|------------------|------------|----------------|---------------|
| 迴心               | 行天         | 往還河向は他力        | 行二四           |
| 迴心皆往             | 信天〇        | 屋門(五果門の一)      | 證三            |
| 迴心起行             | 行〇         | 音響忍(三法忍の一)     | 化六            |
| 迴向の心相            | 信天〇        | 怨敵の譬           | 信天九           |
| 迴向の名義            | 信天六、證三     | 恩田             | 信天九           |
| 迴向心              | 信天五        | 恩德             | 信天九           |
| 迴向門釋             | 證三         | 恩德感荷           | 化六            |
| 迴向發願心釋           | 證三         | 淤泥華            | 證三、三          |
| 弘願に約する釋          | 信天〇        | 陰の異名           | 眞三            |
| 要門に約する釋          | 化六三、二      | 陰覽             | 行七            |
| 迴施至心             | 信天六        | 雄健夫            | 行七            |
| 迴施信樂             | 信天五        | 橫出(二雙四重の一)     | 信天四、化六        |
| 迴施欲生             | 信天五        | 橫超(二雙四重の一)     | 行二、信天四        |
| 迴施衆行             | 行六、信天九     | 橫超の大益          | 信天五           |
| 掩奪日月光(十五光佛の一)    | 眞三         | 橫超の金剛心         | 信天四、信天五       |
| 映蔽日月光(十五光佛の一)    | 眞三         | 橫超釋            | 信天六、化六        |
| 映蔽月光(十五光佛の一)     | 眞三         | 橫截五惡趣          | 行二、信天〇        |
| 圓照(兼實の法諱)        | 化六二        | 蘭林遊戯地門(五果門の一)  | 證三            |
| 圓融眞妙之正法(大行四嘆釋の一) | 行八         | 喬伽摩伽陀國(十六大國の一) | 化六三           |
| 圓融萬德尊            | 行六         | 憶念(信心の異名)      | 信天            |
| 鉛錫(八無價寶の一)       | 化六三        | 應化身            | 行三、信天八、證二、三、四 |
| 厭忻の利益            | 信天三        | 應化道            | 證二七           |
| 厭忻難成             | 信天一        | 往還河向は他力        | 行二四           |
| 厭離眞實             | 化六九        | 屋門(五果門の一)      | 證三            |
| 關浮提              | 證一七、眞四、化六二 | 音響忍(三法忍の一)     | 化六            |
| 關浮最勝             | 化六三        | 怨敵の譬           | 信天九           |
| 關浮檀金の譬           | 行一〇        | 恩田             | 信天九           |
| 騎身藥の譬            | 行七         | 恩德             | 信天九           |
| 懷惑               | 化六〇        | 恩德感荷           | 化六            |

オヲ

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 王法     | 信天四                   |
| 王舍城    | 行天、信天〇、信天〇、三、五、七、七、證三 |
| 抑止方便   | 信天八                   |
| 往生問答   | 行三〇                   |
| 往生之徑術  | 信天四                   |
| 往生の一心  | 信天〇                   |
| 往生の因果  | 證一                    |
| 往相迴向   | 行一、八、信天、信天六、證一        |
| 往相迴向之願 | 行三                    |
| 往相迴向釋  | 行三、信天                 |
| 往相信心之願 | 信天四                   |
| 往還二相   | 行六                    |

カ

|              |        |                 |            |
|--------------|--------|-----------------|------------|
| 應正等覺         | 教四     | 迦尸國(十六大國の一)     | 化六三        |
| 應時現身         | 行三     | 迦吒富單那           | 化六三、三〇     |
| 應病與藥         | 化六二    | 迦若(十二天童女の一)     | 化六〇        |
| 應聲菩薩         | 化六三    | 迦毘羅城            | 信天五        |
| 可觀光(十五光佛の一)  | 眞五     | 迦帝迦王            | 信天八        |
| 加威力          | 信天     | 迦葉              | 化六九        |
| 甘露閣國(十六大國の一) | 化六三    | 捨邪歸正緣           | 化六九        |
| 甘露・甘露味       | 信天、化六三 | 漢土の化身           | 化六三        |
| 甘露(法)        | 眞八     | 迦葉佛             | 行七、化六七、九   |
| 甘露(涅槃の異名)    | 眞三〇    | 迦葉菩薩            | 眞三、三、三、六、三 |
| 甘露の想(總者心想の一) | 信天五    | 迦樓羅(八部衆の一)      | 化六〇        |
| 合三爲一         | 信天四    | 迦羅時             | 化六         |
| 伽藍吒緣         | 化六     | 迦羅鳩駄迦旃延(六師外道の一) | 信天二、四      |
| 伽羅城山         | 化六     | 迦羅羅蟲            | 信天五        |
| 伽力伽緣         | 化六     | 合華未出            | 化六         |
| 角(二十八宿の一)    | 化六     | 合識              | 化六         |
| 戒不具足         | 化六九    | 海德佛             | 行三         |
| 戒定慧          | 眞六     | 阿梨勒果の譬          | 眞三         |
| 戒度           | 行五、化六六 | 嘉祥(吉藏)          | 行三         |
| 皆乘願力         | 證九     | 嘉號              | 序一、行三、化六六  |
|              |        | 羯迦吒(十二天童女の一)    | 化六九        |
|              |        | 學解學行            | 信天三        |
|              |        | 餓鬼              | 化六         |
|              |        | 名義              | 化六         |
|              |        | 相狀              | 化六         |
|              |        | 國土護持            | 化六三、三〇     |
|              |        | 覈求其本釋           | 行八         |
|              |        | 覺知樂(涅槃四樂の一)     | 眞九         |
|              |        | 覺悟              | 行七、信天四     |

キ

|            |              |
|------------|--------------|
| 木を撥て火を求むる譬 | 化六七          |
| 牛(二十八宿の一)  | 化六〇          |
| 危(二十八宿の一)  | 化六七          |
| 吉凶妄執の罪     | 化六七          |
| 吉凶を辨はす     | 化六、三、四、七     |
| 吉祥(涅槃の異名)  | 眞三〇          |
| 吉祥菩薩       | 化六三          |
| 吉徳(邪見六臣の一) | 信天〇、四七       |
| 行一念釋       | 行八           |
| 行法衆生の護持    | 化六四、四、四      |
| 行信         | 行信           |
| 眞實の行信      | 序一、行八、八、二、〇七 |
| 方便の行信      | 行一〇七、化六三、四〇  |

|                   |        |            |                     |             |             |
|-------------------|--------|------------|---------------------|-------------|-------------|
| 金言                | 教七、信卷四 | 教化地        | 證一、四                | 橋戸迦(帝釋の別名)  | 化卷六、三       |
| 奇特法               | 教二、六   | 教行信證       | 教一、證一〇              | 器世間清淨       | 證六          |
| 奇特最勝之妙典(眞實教六嘆釋の一) | 教七     | 教行證        | 序三                  | 機の十一對       | 行〇三         |
| 記別                | 行六、信卷五 | 教證         | 行二、六                | 機の深信        | 行六、信卷五、三    |
| 逆訪除取問答            | 信卷七    | 教益多門       | 信卷三                 | 機の實相        | 行六、信卷五、三    |
| 逆訪具不              | 信卷九    | 教顯機漸       | 化卷四                 | 内外不調        | 信卷三         |
| 逆訪本末              | 信卷八    | 喜光(十五光佛の一) | 眞實                  | 眞實の至心なし     | 信卷七         |
| 逆訪攝取釋             | 信卷六    | 喜忍(三忍の一)   | 信卷三、六               | 眞實の信樂なし     | 信卷三         |
| 者婆                | 信卷九    | 經の住滅       | 化卷五                 | 眞實の欲生心なし    | 信卷五         |
| 阿闍世の逆害を諫止す        | 信卷五    | 眞良耶舍       | 行三                  | 機受の三心       | 信卷八         |
| 阿闍世の病を問ふ          | 信卷三    | 箕(二十八宿の一)  | 化卷六                 | 至心          | 信卷八         |
| 阿闍世に光照の利益を説く      | 化卷八    | 緊那羅(八部衆の一) | 化卷四                 | 信樂          | 信卷五         |
| 起屍鬼               | 化卷九    | 偽の釋        | 信卷六                 | 欲生          | 信卷六         |
| 鬼神を祠らす            | 化卷一    | 境現一多問答     | 行四一                 | 機教相應        | 化卷七         |
| 鬼神に事へす            | 化卷七    | 銀(八無價寶の一)  | 化卷二                 | 樹の曲れる方に倒る、譬 | 行四三         |
| 鬼神を禮せず            | 化卷九    | 輕罪重罪       | 信卷四                 | 薑湯          | 化卷一         |
| 鬼神の分布安置           | 化卷三    | 疑城胎宮       | 化卷一、四〇              | 歸の字訓        | 行五一         |
| 鬼神の所屬             | 化卷五    | 疑惑心        | 化卷                  | 歸佛者に覺害なし    | 化卷六         |
| 鬼衆護持誓約            | 化卷五    | 疑惑の失       | 序、化卷、四              | 歸依(涅槃の異名)   | 眞元          |
| 教は治國の本            | 化卷六    | 疑蓋無雜       | 信卷三、六、八、四、四、五、五、化卷三 | 歸命          | 行七、六、二、元、眞四 |
| 教の四十八對            | 行〇一    | 疑網         | 序、信卷九               | 歸命禮拜輕重      | 行二          |
|                   |        | 懽興         | 教、行、眞、化、〇           | 歸命釋         | 行二          |

|          |                |                |       |              |                    |
|----------|----------------|----------------|-------|--------------|--------------------|
| 鏡像の譬     | 信卷九            | 月稱(邪見六臣の一)     | 信卷三、七 | 果遂之願         | 化卷四                |
| 九十五種(外道) | 信卷六、七、八、化卷三    | 五磔變金の譬         | 行六    | 果號           | 行六                 |
| 九地       | 眞三             | 弘誓の鏡           | 證二、六  | 空中立舎の譬       | 化卷四                |
| 九品       | 行五、化卷二、三、四     | 弘誓強緣多生雜值       | 序二    | 苦受(三受の一)     | 眞八                 |
| 九清淨法     | 行二             | 弘願難信           | 化卷五   | 宮胎           | 化卷一〇               |
| 口業       | 證九、四一          | 弘願釋            | 行四、證九 | 遇光滅罪         | 眞三、四               |
| 口業功德讚嘆   | 信卷五            | 功德迴施           | 行三、六  | 愚禿           | 序、信卷一、信卷六、化卷六、化卷九  |
| 久行(始行の對) | 行八             | 功德藏(三藏の一)      | 化卷四   | 過去現在未來(陰の異名) | 眞三                 |
| 火中聞法     | 行九、元、四         | 共報(別報の對)       | 證九    | 鳩留孫佛(賢劫四佛の一) | 化卷五、六              |
| 火宅       | 行五             | 君王の譬           | 行二、六  | 鳩槃荼          | 化卷八                |
| 火橋の譬     | 行五             | 究竟法身           | 行四    | 鳩槃荼國(十六大國の一) | 化卷一、七、三、五          |
| 元照       | 行五、六、七、信卷六、化卷三 | 究竟畢竟           | 行六    | 窟宅(涅槃の異名)    | 眞元                 |
| 月(八大星の一) | 化卷三、四、八        | 究竟願            | 行六、化卷 | 還丹           | 行〇〇                |
| 月支       | 序二             | 具足八智(如來の異名)    | 行六、化卷 | 羅伽離比丘        | 信卷三                |
| 月天子      | 化卷三            | 拘那含牟尼佛(賢劫四佛の一) | 眞三    | 羅漢           | 信卷五、七、尙、化卷五、六      |
| 月光明王     | 化卷六            | 拘舍自在(菩薩四行の一)   | 化卷六   | 願の釋          | 行三                 |
| 月光摩尼     | 化卷             | 供養恭敬自身心        | 證三、三  | 願力之道         | 信卷六                |
| 月愛三昧     | 信卷〇、五三         | 果清淨(涅槃四淨の一)    | 眞二    | 願力互成         | 行九、眞四              |
|          |                | 果報(華報の對)       | 信卷一、三 | 願力往生         | 行四、五、〇、五、一、五、二、信卷〇 |
|          |                | 果遂の益           | 化卷六   | 願力迴向         | 證四、七               |
|          |                | 果遂之誓           | 化卷七   | 願力迴向の行信      | 信卷四                |

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 願力廻向の因果          | 證二〇           |
| 願心莊嚴             | 信本八、證三        |
| 願行成就             | 信本三〇          |
| 願作佛心             | 信本四、空、信本、證三   |
| 願往生心             | 信本六、五九        |
| 願事成就             | 證四一           |
| 願海眞假             | 信本三           |
| 願船               | 行八            |
| 願樂覺知之心           | 信本六           |
| 灌頂王子の譬           | 證三            |
| 歡喜の釋             | 信本            |
| 歡喜地              | 行三〇、三三、眞九     |
| 歡喜の相狀            | 行三            |
| 歡喜の所由            | 行五            |
| 歡喜の差異            | 行七            |
| 歡喜光(十二光の一)       | 行〇九           |
| 歡喜光。歡喜光佛(十二光佛の一) | 眞三、四八、〇       |
| 歡喜得忍             | 信本二           |
| 歡喜賀慶之心           | 信本六           |
| 觀行體相             | 證四            |
| 觀佛三昧             | 化本六           |
| 觀佛國土清淨味          | 證四            |
| 觀法難成             | 化本四           |
| 觀音勢至             | 行四六、信本三       |
| 常隨影護             | 行四            |
| 臨終來迎             | 行五            |
| 觀經(三經の一)         | 行六、化本、三       |
| 興起の因縁            | 序一、化本三        |
| 兩譯               | 行三            |
| 宗體               | 化本六           |
| 教誨               | 化本七           |
| 隱顯               | 化本三           |
| 方便義              | 化本二           |
| 眞實義              | 化本三           |
| 觀經深信             | 信本九、化本二       |
| 觀稱難易問答           | 行四一           |
| 觀察正行(五正行の一)      | 化本三           |
| 觀察門(五念門の一)       | 證四、四          |
| 下至一念             | 行五、八          |
| 下至一聲             | 行四            |
| 下至十聲             | 行四、九          |
| 下至十聲聞等           | 行八、信本三        |
| 下業               | 信本三           |
| 幻化の譬             | 信本八           |
| 化土               | 信本            |
| 化土の相狀            | 化本            |
| 化主               | 化本六           |
| 化生(胎生の對)         | 行六、證、化本、七、八、三 |
| 化生(四生の一)         | 證、化本三         |
| 化他報恩             | 信本〇、化本四       |
| 化佛               | 行四            |
| 化身化土             | 化本、四〇         |
| 化迹先後(釋老優劣の一)     | 化本六           |
| 化緣廣狹(釋老優劣の一)     | 化本六           |
| 化樂天王             | 化本六、四         |
| 巧方便釋             | 證三            |
| 外の凡夫             | 化本七           |
| 外道               | 行三、五、化本七      |
| 外樂(三樂の一)         | 證四            |
| 外覺               | 行七            |
| 決定心(信心の異名)       | 信本            |
| 希有人(五種嘉譽の一)      | 信本三           |

ケ

|                   |              |
|-------------------|--------------|
| 希有大法王             | 行七           |
| 希有最勝之大信(大信十二嘆釋の一) | 信本           |
| 見光歡喜              | 眞九           |
| 見光解脫              | 眞九           |
| 見佛                | 行四           |
| 見佛超證              | 證三           |
| 見暴(四暴の一)          | 信本二          |
| 見樹得忍              | 化本           |
| 見諦                | 行三           |
| 芥子に須彌を入る譬         | 眞四           |
| 建言我一心             | 信本二、天、四、六    |
| 係念定生之願(二十願名)      | 化本五          |
| 奎(二十八宿の一)         | 化本七          |
| 咸同一類              | 證三、八         |
| 堅固深信(信心の異名)       | 信本           |
| 堅固願               | 行三、化本五       |
| 假令之誓願(十九願)        | 化本九          |
| 假の報佛土             | 眞六           |
| 假の釋               | 信本七          |
| 假名                | 化本二          |
| 假名の菩薩             | 信本七          |
| 假門                | 行八           |
| 袈裟變白              | 化本七          |
| 偈論の異              | 行六           |
| 現生十益              | 信本           |
| 現生不退              | 行三、三、三、三、三   |
| 現生正定聚             | 證四、六         |
| 現前導生之願(十九願名)      | 化本           |
| 眼見心相              | 眞七、三         |
| 眼見佛性              | 眞三、七         |
| 乾闥婆(八部衆の一)        | 行四、化本、一七、三、三 |
| 乾闥婆城の譬            | 信本〇          |
| 華内の三障             | 信本九          |
| 華開見佛              | 行三           |
| 華報(果報の對)          | 信本二          |
| 源空                | 行一五          |
| 行化                | 化本八          |
| 受刑                | 化本九          |
| 勅免歸洛              | 化本九          |
| 入寂                | 化本九          |
| 教語                | 行二六          |
| 源信                | 行二五          |
| 行化                | 行二五          |
| 教語                | 行二五          |
| 解脫(涅槃の異名)         | 眞九           |
| 解脫(陰の異名)          | 眞三           |
| 解脫                | 行四、五、信本三     |
| 解脫の異名             | 眞一           |
| 解脫智慧門             | 信本三          |
| 熒惑星(八大星の一)        | 化本、七、〇       |
| 賢劫出佛              | 化本二          |
| 賢劫の四佛             | 化本五、六、四      |
| 慶文                | 行四、六         |
| 懈慢。懈慢界            | 信本九、化本、二     |
| 還來度生の相            | 證二           |
| 還相                | 教一           |
| 還相の名義             | 證三           |
| 還相廻向の相狀           | 信本九          |
| 還相廻向の釋            | 信本七、證二       |
| 還相廻向之願(二十二願名)     | 信本三          |
| 鳩咕の譬              | 信本八          |
| 殿父の譬              | 行〇六          |
| 顯影隱密義             | 化本三、四〇       |
| 生黃の譬              | 化本六          |

コ

|                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| 牛頭梅檀                 | 行三                       |
| 五力                   | 眞四                       |
| 五正行                  | 化本三、三                    |
| 五念門                  | 行八、三                     |
| 五念門五果門對配             | 證四                       |
| 五念門五業對配              | 證四                       |
| 五果門                  | 證四                       |
| 五味相生の譬               | 眞四                       |
| 五苦                   | 信本三                      |
| 五時教次第                | 眞五                       |
| 五乘齊入                 | 眞五                       |
| 五根                   | 眞五                       |
| 五逆。五逆罪               | 行五、七。信本、六、二、五。信本九、三、九。眞六 |
| 大乘の五逆                | 信本九                      |
| 五逆の罪相                | 信本九                      |
| 五逆同類罪                | 信本九                      |
| 五逆有佛性                | 眞六                       |
| 五逆得生                 | 信本九                      |
| 五黑十惡                 | 證四                       |
| 五通                   | 信本六、九                    |
| 五欲                   | 行六。信本二                   |
| 五眼                   | 教六。信本二                   |
| 五專修                  | 化本七                      |
| 五陰                   | 信本三                      |
| 五無間(五逆に同じ)           | 信本、五                     |
| 五無間同類業               | 信本一                      |
| 五惡趣                  | 行二。信本、〇                  |
| 五智                   | 化本                       |
| 五業                   | 證四                       |
| 五業五念對配               | 證四                       |
| 五箇の五百年說              | 化本三、六                    |
| 五種不可思議               | 眞四                       |
| 五種嘉譽                 | 信本三                      |
| 五德瑞相                 | 教三                       |
| 五德瑞相釋                | 教六                       |
| 五趣八難                 | 信本                       |
| 五濁                   | 行六、二。信本三、九。化本六、九、三       |
| 五雜行                  | 化本六                      |
| 尤(二十八宿の一)            | 化本九                      |
| 孔子 孔丘                | 化本六、三、三、三                |
| 好人(五種嘉譽の一)           | 信本三                      |
| 好堅樹の譬                | 證二七                      |
| 好蜜の譬                 | 行二                       |
| 光明(涅槃の異名)            | 眞九                       |
| 光明の力用                | 眞九                       |
| 見光歡喜                 | 眞九                       |
| 見光解脫                 | 眞九                       |
| 遇光滅罪                 | 眞四                       |
| 無明照破                 | 序一。行八、二。信本九、眞四           |
| 光明の廣海                | 行八                       |
| 光明智相                 | 行八                       |
| 光明遍照十方世界             | 行九。信本、眞四                 |
| 光明遍照攝取衆生力(佛十一力の一)    | 行六                       |
| 光明無量之願(十二願名)         | 行六、六                     |
| 光明攝化                 | 行一                       |
| 光炎王(十二光の一)           | 行一〇                      |
| 光炎王。光炎王佛(十二光佛の一)眞七、六 | 行一〇                      |
| 光味仙人                 | 化本                       |
| 光味菩薩                 | 化本二〇                     |
| 光淨                   | 化本三                      |
| 光照王(十五光佛の一)          | 眞四                       |
| 光照遠近                 | 眞七                       |
| 光號因緣                 | 行八、二                     |

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 光號攝化                | 行四、八                |
| 光德普聞                | 眞三、〇                |
| 谷響の譬                | 信本九                 |
| 忻求真實                | 化本三                 |
| 忻淨厭穢                | 信本三                 |
| 忻淨厭穢之妙術(大信十二嘆釋の一)   | 信本三                 |
| 忻慕淨土の善根             | 化本三                 |
| 近門(五果門の一)           | 證四                  |
| 近無間業。近無間罪           | 信本九。化本七             |
| 金口                  | 行六                  |
| 金剛の志                | 信本一                 |
| 金剛の信心               | 行三                  |
| 金剛の眞心               | 信本六、二。信本八、四。化本四、三、四 |
| 金剛の釋                | 信本一                 |
| 金剛の譬                | 信本三、三、五             |
| 金剛心                 | 行二五。信本、信本、二         |
| 金剛心の行人              | 信本三                 |
| 金剛不壞之眞心(大信十二嘆釋の一)   | 信本、信本八              |
| 金剛智                 | 信本                  |
| 孤山(智圓)              | 化本五                 |
| 降魔力(佛十一力の一)         | 行七、六                |
| 後彌川院                | 化本七                 |
| 後鳥羽院                | 化本八                 |
| 悟忍(三忍の一)            | 信本三、六               |
| 骨相觀                 | 化本三                 |
| 高玉                  | 信本六                 |
| 黑業                  | 信本六。信本三             |
| 黑白業                 | 信本三                 |
| 虛(二十八宿の一)           | 化本七                 |
| 虛空                  | 信本四。眞三、二、三          |
| 虛空の譬                | 信本四。眞三、二、三          |
| 虛假之行                | 信本三                 |
| 虛無(解脫の異名)           | 眞二、三                |
| 虛誑語                 | 信本二                 |
| 業力不思議(五種不思議の一)      | 眞四                  |
| 業道成辦。業事成辦           | 行六、八。信本七            |
| 業道經                 | 信本六                 |
| 業識                  | 行八                  |
| 業繁不牽                | 眞九                  |
| 極大慈悲母               | 行七                  |
| 極成用重之心              | 信本五                 |
| 極速圓融之白道(大信十二嘆釋の一)信本 | 眞八、九                |
| 極樂                  | 行八                  |
| 極樂家郷                | 行七                  |
| 極難值遇者               | 眞三                  |
| 廣大(涅槃の異名)           | 眞三                  |
| 廣大佛法異門。廣大異門         | 信本七。信本五             |
| 廣大勝解者               | 行二。信本五              |
| 廣大無礙の一心             | 證四                  |
| 廣大智(六智の一)           | 化本九                 |
| 廣大難思の慶心             | 信本                  |
| 廣略互攝                | 眞三                  |
| 廣略相入                | 證五                  |
| 廣開選施                | 教一                  |
| 廣說衆譬                | 化本四                 |
| 廣慧力                 | 信本四。化本              |
| 興福寺講堂               | 化本六                 |
| 講堂の相                | 化本                  |
| 鵲樹                  | 化本六                 |
| 護念經                 | 行八                  |
| 護念増上緣               | 信本三                 |
| 護念緣                 | 行四                  |
| 證誠護念                | 行四                  |

|           |    |                  |             |                     |        |
|-----------|----|------------------|-------------|---------------------|--------|
| 擁護護念…………… | 行四 | 三昧力(佛十一力の一)…………… | 行七、六        | 三種の精氣……………          | 化六、三、四 |
| 權化……………   | 序一 | 三昧海……………         | 行五          | 三種の覺……………           | 化六七    |
| 權實二教…………… | 化六 | 三乘(法)……………       | 行四、六、信六、信六  | 三障……………             | 行六     |
| 權實二智…………… | 證六 | 三乘(人)……………       | 真四          | 三輩(大經)……………         | 化六     |
|           |    | 三乘の五逆……………       | 信六          | 三輩九品……………           | 化六     |
|           |    | 三時分際……………        | 化六、七        | 三選の文……………           | 行九     |
|           |    | 三時開遮……………        | 化六          | 三點四德……………           | 化六七    |
|           |    | 三惡道……………         | 行六、三        | 三歸……………             | 化六、七   |
|           |    | 三善道……………         | 化六、一、二、三    | 三藏……………             | 行三     |
|           |    | 三塗……………          | 行九、真三、四、四   | 三顯の證……………           | 行六     |
|           |    | 三朝淨土宗師……………      | 化六          | 三顯轉入……………           | 化六七    |
|           |    | 三經……………          | 化六          | 三寶……………             | 行四、證三  |
|           |    | 大綱……………          | 化六          | 三寶物……………            | 化六     |
|           |    | 宗體……………          | 行六          | 三寶一體……………           | 行六     |
|           |    | 眞假……………          | 化六          | 三寶一體の德(涅槃果德の一)…………… | 真三     |
|           |    | 眞實義……………         | 化六          | 三寶同一性相……………         | 化六     |
|           |    | 三福……………          | 信五、化六、三、二、三 | 三寶第一……………           | 化六     |
|           |    | 三福開說……………        | 化六          | 三寶種熾然……………          | 化六、三、四 |
|           |    | 三種の三心……………       | 化六          | 三寶則隆(菩薩四行の一)……………   | 證三、二、四 |
|           |    | 三種の病相……………       | 化六          | 左右勝劣(釋老優劣の一)……………   | 化六、九   |
|           |    | 三種の善語……………       | 化六          | 西天……………             | 行二     |
|           |    | 三種の煩惱……………       | 化六          | 西方生蓮……………           | 行六     |

|                      |        |            |      |                 |          |
|----------------------|--------|------------|------|-----------------|----------|
| 西向最勝……………            | 行四     | 西蕃……………    | 序二   | 西羅陀尼(四洲の一)…………… | 化六、二     |
| 佐渡院……………             | 化六     | 坐禪……………    | 行三、五 | 作願門釋……………       | 行六       |
| 刪闍耶毘羅胝子(六師外道の一)…………… | 信六、七、四 | 祭祀權方……………  | 化六   | 最勝の法門……………      | 行五、化六    |
| 最勝の法門……………           | 行五     | 最勝丈夫……………  | 行四   | 最勝道……………        | 教二、六     |
| 罪障除滅……………            | 化六     | 罪障……………    | 化六   | 歲星(八大星の一)……………  | 化六、一、二、三 |
| 摧邪力(佛十一力の一)……………     | 行六、六   | 蔡華……………    | 信六   | 雜心釋……………        | 化六、七、八   |
| 要門の雜心……………           | 化六、七、八 | 眞門の雜心…………… | 化六   | 雜修……………         | 化六、七、八   |
| 雜修不照……………            | 化六     |            |      |                 |          |

  

|                 |        |                    |    |             |        |
|-----------------|--------|--------------------|----|-------------|--------|
| 雜修雜心(雜修中の)…………… | 化六     | 薩婆若智……………          | 行七 | 懺悔滅罪……………   | 化六     |
| 懺悔滅罪……………       | 化六     | 讚嘆供養正行(五正行の一)…………… | 化六 | 讚嘆門釋……………   | 行六     |
| 七祖……………         | 行三、化六  | 功德……………            | 行二 | 恩德……………     | 行二     |
| 七寶牢獄の譬……………     | 化六     | 十一光德……………          | 真六 | 十一願文……………   | 行九、證二  |
| 十一願文……………       | 行九     | 十一願名……………          | 證一 | 十一願成就文…………… | 證一     |
| 正依……………         | 證二     | 唐譯……………            | 證三 | 十二天童女……………  | 化六、一、二 |
| 十二天童女……………      | 化六、一、二 | 十二因緣觀……………         | 化六 |             |        |

  

|                  |    |                  |       |                  |    |
|------------------|----|------------------|-------|------------------|----|
| 十二辰……………         | 化六 | 十二部經……………        | 行三、化六 | 十二願文……………        | 真三 |
| 十二願文……………        | 真三 | 正依……………          | 真三    | 唐譯……………          | 真三 |
| 吳譯……………          | 真六 | 十三願文……………        | 真二    | 十三願成就文……………      | 真四 |
| 十三願成就文……………      | 真四 | 正依……………          | 行三    | 吳譯(七十八兩願合說)…………… | 行四 |
| 漢譯(七十八兩願合說)…………… | 行五 | 十七願名……………        | 行一    | 十七願成就文……………      | 行三 |
| 十七願成就文……………      | 行三 | 正依……………          | 行六、信六 | 唐譯……………          | 信六 |
| 吳譯(七十八兩願合說)…………… | 行四 | 漢譯(七十八兩願合說)…………… | 行五    | 十八願名……………        | 信六 |
| 十八願成就文……………      | 信六 |                  |       |                  |    |

|                   |                  |                   |                   |         |             |
|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|---------|-------------|
| 正依                | 信六、四、五、信六        | 止觀論               | 行六                | 四依弘經大士  | 化六三         |
| 唐譯                | 信六、四、五、信六        | 水路乘船の譬            | 行二、六、二、三          | 四依釋     | 化六八         |
| 十九願文              | 化六               | 心(二十八宿の一)         | 化六〇               | 四阿含     | 行三          |
| 十九願成就文            | 化六               | 心光常護              | 行二〇、二五、信六〇        | 四姓      | 化六三         |
| 十力無等尊             | 化六               | 心光常護の益(現生十益の一)    | 信六〇               | 四洲      | 化六三         |
| 十方稱讚之誠言(眞實教六嘆釋の一) | 行三               | 心光攝護之一心(大信十二嘆釋の一) | 信六                | 四智      | 教六          |
| 十平等處              | 化六五              | 心多歡喜              | 行三、九、八、信六二        | 四無量心佛性  | 信六五         |
| 十即十生              | 行四、化六三           | 心多歡喜の益(現生十益の一)    | 信六                | 石蜜      | 化六一         |
| 十惡                | 行五、七、信六九、〇、三、九、〇 | 日域(日本の稱)          | 序、行二二             | 出世      | 信六三、四       |
| 十念の相狀             | 信六六              | 四十八願              | 行四、五、七、九、〇、九、〇、眞八 | 出世の大事   | 教二          |
| 十念往生              | 行六〇、信六三          | 四十八不共法            | 行六                | 出世本懷    | 教一、三、五、行二〇  |
| 十念相續釋             | 行六               | 四天王(四洲に同じ)        | 化六四               | 出世間道    | 行三          |
| 十念業成              | 信六七              | 四天王(地居の)          | 化六四               | 出世畢竟    | 行六          |
| 十念罪業輕重            | 信六三              | 四洲に安置せらる          | 化六六               | 出家迫害の惡報 | 化六四         |
| 小本(阿彌陀經の稱)        | 化六三、三、元          | 四洲を護持す            | 化六七               | 出離の一道   | 行六、七        |
| 小行菩薩の往生           | 化六               | 護持の誓約             | 化六三               | 生死の有輪   | 信六八         |
| 小經隱顯              | 化六〇              | 四天王(空居の)護持四洲      | 化六六               | 生死の流    | 化六五         |
| 尸利沙の譬             | 行六               | 四不十四非             | 信六二               | 生死の稠林   | 信六一、化六      |
| 支提國(十六大國の一)       | 化六三              | 四功德處              | 行二、四              | 生死の蘭    | 行三、信六八、證二、眞 |
| 支謙                | 信六〇、眞六           | 四生                | 證六、化六三            | 生死不沒    | 信六三         |
| 少見佛性              | 眞四               | 四自在               | 行二六               | 生死即涅槃   | 行六、二四       |

|           |                |              |             |                  |            |
|-----------|----------------|--------------|-------------|------------------|------------|
| 生死流轉の因果   | 行二六            | 彼土正定聚        | 證五          | 至心迴向             | 信六、五、信六    |
| 生老死       | 行〇、信六一         | 正念(稱名の異名)    | 行二、八        | 至心迴向之願(二十願名)     | 化六一、四      |
| 生老病死      | 行四〇、信六一        | 正信           | 行六          | 至心發願之願(十九願名)     | 化六一、三      |
| 生諸佛家      | 信六三            | 正信念佛         | 行〇九         | 至極無礙之大行(大行四嘆釋の一) | 行六         |
| 正行(六正の一)  | 信六七、信七〇        | 正値十事         | 行五七         | 至誠心釋             | 信六三        |
| 正行(雜行の對)  | 行六、化六一         | 正數(六正の一)     | 信六七、信七〇     | 弘願に約する釋          | 信六三        |
| 正行(稱名の異名) | 行八             | 正智(六正の一)     | 信六七、信七〇     | 要門に約する釋          | 化六九、二四     |
| 正見隨順難     | 化六四            | 正業(稱名の異名)    | 行〇、八        | 至德               | 信六八        |
| 正助二業      | 化六三            | 正業(六正の一)     | 信六七、信七〇     | 至德の尊號            | 信六八        |
| 正助の釋      | 化六七            | 正道の譬(二十八譬の一) | 行〇五         | 至德具足             | 行六、五、八、二   |
| 正助雜三行     | 化六三            | 正道大慈悲        | 眞四〇、四三      | 至德具足の益(現生十益の一)   | 信六         |
| 正助雜の釋     | 化六三            | 正義(六正の一)     | 信六七、信七〇     | 地神               | 化六八        |
| 正法        | 序、行五、八、化六七     | 正解(六正の一)     | 信六七、信七〇     | 地獄餓鬼畜生人天(陰の異名)   | 眞三         |
| 正法(三時の一)  | 化六七、六          | 正雜二行         | 化六二         | 自力               | 行六、三、四、化六五 |
| 年數        | 化六五、六、九        | 正雜の得失        | 化六三         | 自力の金剛心           | 信六四        |
| 正法時の制法    | 化六五            | 正覺華化生        | 行八、證六       | 自力不攝             | 行六、二〇      |
| 正法護持の福報   | 化六五            | 至心(三信の一)     | 信六          | 自力他力の相           | 行六         |
| 正受        | 化六四            | 至心の字訓        | 信六          | 自力他力の辯           | 行六         |
| 正定業       | 行六、二〇、化六三      | 至心釋          | 信六七         | 自力念佛の失           | 化六六        |
| 正定聚       | 行六、八、九、信六、證三、五 | 法體成就の至心      | 信六七         | 自心建立の信           | 化六三        |
| 此土正定聚     | 證四、六           | 機受の至心        | 信六八         | 自在人              | 行六         |
|           |                | 至心信樂の願(十八願名) | 行一〇七、一〇〇、信六 | 自利の一心            | 化六〇        |

|            |             |
|------------|-------------|
| 自利の三心      | 化本三         |
| 自利眞實       | 化本九         |
| 自信教人信      | 信本〇。化本四     |
| 自然         | 行三。信本〇      |
| 自然虛無之身     | 眞四          |
| 此土入聖       | 行三。化本四      |
| 辰星(八大星の一)  | 化本九         |
| 赤銅(八無價寶の一) | 化本八         |
| 住持樂        | 信本六。證三      |
| 初地に入る相     | 行二          |
| 初果         | 行三。化本       |
| 助業         | 行九。信本〇。化本三  |
| 邪見は悪行の因    | 化本六         |
| 邪見遠離十種の益   | 化本三         |
| 邪定聚。邪聚     | 證三。化本       |
| 邪信の惡報      | 化本五         |
| 邪信の禍害      | 化本八。四       |
| 身心柔軟       | 信本三。四       |
| 所聞不忘智      | 化本六         |
| 周世無機       | 化本三         |
| 咒狂(四狂の一)   | 信本七         |
| 宗曉         | 行〇〇         |
| 舍利弗        | 行四。化本一      |
| 舍衛國        | 行三          |
| 招喚の勅命      | 行五。信本四      |
| 定心釋        | 行九          |
| 定散二善       | 化本六         |
| 定散二機       | 化本九。三       |
| 定散九品       | 化本          |
| 定散三福       | 化本五         |
| 定散の三心      | 化本三         |
| 定散の法益      | 化本七         |
| 定散方便       | 化本四。五。四     |
| 定散契法       | 化本八         |
| 定散契機       | 化本七         |
| 定散難成       | 化本四         |
| 定聚之數       | 信本八         |
| 定觀難成       | 化本五         |
| 直心         | 信本          |
| 直道         | 序二          |
| 始行(久行の對)   | 行八          |
| 室(二十八宿の一)  | 化本七         |
| 信一念釋       | 化本七         |
| 時尅に約する釋    | 信本一         |
| 心相に約する釋    | 信本          |
| 信力増上釋      | 行九          |
| 信不具足       | 信本四。化本七     |
| 信求對        | 化本六         |
| 開思對        | 信本四。化本七     |
| 入法對        | 信本四。化本七     |
| 正邪對        | 化本七         |
| 信不具足の過失    | 化本八         |
| 信心の利益      | 化本八         |
| 華開見佛       | 行三          |
| 入正定聚       | 行六。三。信本三    |
| 不斷煩惱得涅槃    | 行二〇         |
| 煩惱不障       | 信本三         |
| 同一證果       | 行二〇         |
| 心光照護       | 行一〇。信本三。信本〇 |
| 信智明朗       | 行二。信本四      |
| 橫截五趣       | 行二。信本〇      |
| 生死不沒       | 信本三         |
| 釋迦親善       | 信本七         |
| 釋迦稱讚       | 信本七         |
| 諸佛稱讚       | 行二。信本四。五。三  |
| 諸佛生喜       | 信本          |

|                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 諸佛護念                    | 信本八                  |
| 聖尊重愛                    | 信本八                  |
| 身心柔軟                    | 信本三。四                |
| 至德具足                    | 信本三                  |
| 知恩報德                    | 行〇八。信本七。九。化本八。七      |
| 諸障除遣                    | 信本八                  |
| 諸冤不障                    | 信本三                  |
| 常行大悲                    | 信本八。〇                |
| 心多歡喜                    | 信本二                  |
| 冥衆護持                    | 信本三                  |
| 信心正固                    | 行六。二。四。二六。信本四        |
| 信心佛性                    | 信本六                  |
| 信心最要                    | 化本三                  |
| 信心は菩提の因                 | 信本七。化本六              |
| 信心難得                    | 行九。信本。化本七。五          |
| 信方便の易行                  | 行二〇                  |
| 信佛因緣                    | 行天                   |
| 信海                      | 信本                   |
| 信智明朗                    | 行二。信本四               |
| 信想輕毛                    | 化本七                  |
| 信疑決判                    | 行二六                  |
| 信疑得失                    | 行三                   |
| 信樂                      | 信本                   |
| 序一。信本一。三。四。五。信本。化本三。化本三 | 信本                   |
| 信樂の字訓                   | 信本五                  |
| 法體成就の信樂                 | 信本四                  |
| 機受の信樂                   | 信本四                  |
| 星(二十八宿の一)               | 化本九                  |
| 星宿布置                    | 化本                   |
| 星宿護持四洲                  | 化本七                  |
| 重誓の文                    | 化本七                  |
| 正依                      | 行三                   |
| 唐譯                      | 行三                   |
| 指月の譬                    | 化本九                  |
| 持戒の福報                   | 化本九                  |
| 持海輪寶                    | 化本四                  |
| 思惟                      | 化本四                  |
| 首陀(四姓の一)                | 化本四                  |
| 首楞嚴院                    | 化本〇                  |
| 首楞嚴經                    | 行六                   |
| 眞心                      | 信本                   |
| 眞心徹到                    | 化本六                  |
| 眞如                      | 眞如                   |
| 眞如一實の功德寶海               | 行一                   |
| 眞如一實之信海(大信十二嘆釋の一)       | 信本                   |
| 眞如三昧                    | 眞如                   |
| 眞如法性身                   | 行二                   |
| 眞如門                     | 行三                   |
| 眞如實相第一義空                | 行四                   |
| 眞言                      | 序三。行二。信本。證四          |
| 眞身                      | 行八                   |
| 眞身觀                     | 化本                   |
| 眞宗                      | 序三。行五。八。一〇。一六。證三。化本六 |
| 眞宗大綱                    | 教一。行〇七               |
| 眞門                      | 化本三。六。七              |
| 名の典據                    | 化本三                  |
| 興起の緣由                   | 化本四                  |
| 四法                      | 化本〇                  |
| 行信                      | 化本三                  |
| 行者の四失                   | 化本五                  |
| 眞金(八無價寶の一)              | 化本三                  |
| 眞俗二諦                    | 化本五                  |
| 眞珠                      | 化本                   |
| 眞理                      | 序一。行一〇               |



|                   |             |                        |                  |                  |            |
|-------------------|-------------|------------------------|------------------|------------------|------------|
| 眞教……………           | 序。教七。信卷九    | 神方……………                | 信卷。信卷四           | 宿善聞名……………        | 行八。化卷六     |
| 眞假……………           | 眞卷五         | 神明……………                | 化卷九。古            | 宿縁……………          | 序三         |
| 聖淨眞假……………         | 化卷六         | 神通……………                | 行三。古。六。七。三。證二。四七 | 捨邪歸正……………        | 化卷九        |
| 三經眞假……………         | 化卷三         | 神通輪……………               | 教五               | 迦葉の事跡……………       | 化卷九        |
| 願海眞假……………         | 眞卷三         | 時娼鬼……………               | 化卷七              | 梁の武帝の事跡……………     | 化卷三        |
| 佛土眞假……………         | 眞卷三         | 時稱(置良耶舍の譯名)……………       | 行七               | 捨難歸正(宗祖の事蹟)…………… | 化卷九        |
| 眞實の行眞……………        | 序。行八。八。二。〇七 | 時魅……………                | 行六               | 淨土有縁……………        | 行三         |
| 所得の益……………         | 行八          | 時機相應の教……………            | 化卷三              | 淨土易往……………        | 行四。三。四。化卷九 |
| 勝徳……………           | 序一          | 時機純熟之眞教(眞實教六嘆釋の一)…………… | 教七               | 淨土殊勝……………        | 行三。三       |
| 眞實之利……………         | 教二三         | 修行難……………               | 化卷三              | 淨土門(聖道門の對)……………  | 行九。二。四。化卷三 |
| 眞實功德相……………        | 行三。三        | 修多羅……………               | 行三               | 時機相應の教……………      | 化卷三        |
| 眞實功德……………         | 行三          | 修多羅釋……………              | 行三。三。三           | 諸經徧說……………        | 行三         |
| 眞實教……………          | 教一          | 修伽陀……………               | 化卷三              | 淨土門の二利……………      | 化卷三        |
| 眞實教六嘆釋……………       | 教七          | 修道の寛釋……………             | 化卷一              | 淨土眞宗……………        | 教一。化卷八。化卷七 |
| 眞偽勸誡……………         | 化卷          | 修諸功德之願(十九願名)……………      | 化卷三              | 淨土眞實之行……………      | 行一         |
| 眞影思許……………         | 化卷六         | 師子吼……………               | 行二。四             | 淨信……………          | 序。信卷       |
| 眞影の銘……………         | 化卷六         | 師資受刑……………              | 化卷八              | 淨飯……………          | 信卷五。化卷六。七  |
| 眞應身……………          | 行四          | 乘の字訓……………              | 行四               | 淨業……………          | 序。行七       |
| 眞證……………           | 信卷七。信卷八     | 乘船度海の譬……………            | 行三               | 淨業成者……………        | 化卷四        |
| 准知隱顯……………         | 化卷六         | 持戒の縁……………              | 行九               | 淨樂居士(張捨)……………    | 行四         |
| 疾風の譬(二十八譬の一)…………… | 行二。四        | 見佛の縁……………              | 行九               | 深心(三心の一)……………    | 化卷三        |
| 神力……………           | 行七。九。〇八     |                        |                  | 深心釋……………         | 化卷三        |

|                       |                |                   |             |                  |            |
|-----------------------|----------------|-------------------|-------------|------------------|------------|
| 弘願に約する釋……………          | 行五             | 須陀洹道……………         | 行三          | 聖淨通塞……………        | 化卷七。五      |
| 要門に約する釋……………          | 化卷三            | 須菩提……………          | 眞卷三。六       | 聖淨漸頓……………        | 化卷六        |
| 眞門に約する釋……………          | 化卷六            | 就人立信……………         | 化卷六         | 聖淨與廢……………        | 化卷七        |
| 深行大悲釋……………            | 行三             | 就立立信……………         | 化卷三         | 聖淨難易……………        | 行二。四。化卷三   |
| 悉有佛性……………             | 行六。信卷六。眞卷三。五。七 | 衆生往生の因果……………      | 行六。六。二。〇    | 聖衆來迎……………        | 行四。七       |
| 悉知識(邪見六臣の一)……………      | 信卷六。四七         | 衆苦輪……………          | 化卷三         | 聖衆護念……………        | 行四         |
| 常行大悲……………             | 信卷八。三          | 軫(二十八宿の一)……………    | 化卷九         | 聖尊重愛……………        | 信卷八        |
| 常行大悲の益(現生十益の一)……………   | 信卷             | 斯陀舍……………          | 眞卷四         | 聖道門(淨土門の對)……………  | 行九。化卷四     |
| 常住說法……………             | 行三。四           | 斯陀舍果……………         | 眞卷四         | 隨宜方便……………        | 化卷六        |
| 清信の佛弟子……………           | 化卷三            | 奢摩地(止。翻す)……………    | 證三。三。四。化卷六  | 時機不相應……………       | 化卷二        |
| 清淨人……………              | 行三             | 順逆攝取……………         | 化卷六。八。三     | 難證……………          | 行二。四。化卷三。七 |
| 清淨光(十二光の一)……………       | 行二             | 勝行……………           | 行八。眞卷八      | 聖道門の二利……………      | 化卷三        |
| 清淨光。清淨光佛(十二光佛の一)…………… | 行二。九           | 犄(二十八宿の一)……………    | 化卷九         | 盡十方無礙光如來……………    | 眞卷九。古。化卷四  |
| 清淨業處……………             | 眞二。四。七。六       | 植諸徳本之願(二十願名)…………… | 化卷九         | 練空……………          | 化卷三        |
| 執持名號……………             | 行二。四。化卷七       | 堅出(二雙四重の一)……………   | 信卷三。信卷六。化卷三 | 精氣增長……………        | 化卷六。三。四    |
| 執持釋……………              | 化卷一。五          | 堅超(二雙四重の一)……………   | 信卷三。信卷六。化卷三 | 稱の字訓……………        | 行九         |
| 參(二十八宿の一)……………        | 化卷八            | 獅子鹿を搏つ譬……………      | 證四七         | 稱名正行(五正行の一)…………… | 化卷三        |
| 莊嚴畢竟……………             | 行六             | 獅乳の譬……………         | 行七          | 稱名の利益……………       | 化卷三        |
| 須彌山……………              | 化卷八。元          | 獅筋の譬……………         | 行七          | 破闇滿願……………        | 行一〇        |
| 須陀洹……………              | 眞卷四            | 聖心偏知……………         | 行九          | 現生不退……………        | 行三。三       |
| 須陀洹果……………             | 眞卷五            | 聖淨二門……………         | 行九。二。四。化卷四  | 見佛……………          | 行四         |
|                       |                | 聖淨眞假……………         | 化卷七         | 攝取不捨……………        | 行三。三       |

|                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 罪障除滅……………           | 行四、五、五九、七、七〇、化查四、七      |
| 聖衆護念……………           | 行四                      |
| 諸佛護念……………           | 信四八                     |
| 一念滅罪……………           | 行五〇                     |
| 聖衆來迎……………           | 行四、七                    |
| 生善……………             | 行七、七                    |
| 多善多功德……………          | 行七、化查四                  |
| 至德具足……………           | 行三、六                    |
| 稱名易行……………           | 行三                      |
| 諸佛の易行……………          | 行三                      |
| 彌陀の易行……………          | 行三                      |
| 稱名往生……………           | 行四、四四、四八、五五、五七、五九、六〇、六二 |
| 稱名要益……………           | 化查一                     |
| 稱名報恩……………           | 行二、信本七、化查七              |
| 稱名轉釋……………           | 行〇                      |
| 慈氏菩薩……………           | 化查                      |
| 慈光……………             | 行七、真四八                  |
| 慈悲力(佛十一力の一)……………    | 行六、六八                   |
| 慈悲海……………            | 行六                      |
| 慈悲觀……………            | 化查一                     |
| 慈雲……………             | 行七、七                    |
| 慈愍……………             | 行七                      |
| 實相……………             | 行四、五、七                  |
| 實德(邪見六臣の一)……………     | 信本六、四七                  |
| 實諦……………             | 行五                      |
| 磁石の譬(廿八譬の一)……………    | 行〇五                     |
| 綵阿(十二天童女の一)……………    | 化查二                     |
| 調御……………             | 化查七                     |
| 調達(提婆達多と同じ)……………    | 序一、化查二                  |
| 諸有海……………            | 信查一、五、化查一               |
| 諸有輪……………            | 化查四                     |
| 諸行(雜行の異名)……………      | 化查六                     |
| 諸行少善……………           | 化查七、五                   |
| 諸行念佛貶勸……………         | 行二四                     |
| 諸行念佛比較對論……………       | 行二四                     |
| 教に就て四十八對……………       | 行〇二                     |
| 機に就て十一對……………        | 行〇三                     |
| 諸佛……………             | 無量壽佛を讚嘆す……………行三、四、三、四   |
| 行者を稱讚す……………         | 行二、信本四、五、三              |
| 行者を護念す……………         | 行四、信本六                  |
| 念佛往生を勸讚す……………       | 信本五、八、化查八               |
| 釋迦の所説を證誠す……………      | 行四七、五六、信本九、化查〇、化查三      |
| 諸佛の稱名易行……………        | 行三                      |
| 諸佛所證平等是一……………       | 行四三                     |
| 諸佛吞嗟之願(十七願名)……………   | 行一                      |
| 諸佛稱名之願(十七願名)……………   | 行一、〇七                   |
| 諸佛稱揚之願(十七願名)……………   | 行一                      |
| 諸佛稱讚之益(現生十益の一)…………… | 信查                      |
| 諸佛護念の益(現生十益の一)…………… | 信查                      |
| 諸障除遣……………           | 行六、信本八                  |
| 諸覺除遣……………           | 行六                      |
| 備童……………             | 化查三                     |
| 遊式……………             | 行七、七                    |
| 親鸞……………             | 化查九                     |
| 捨難歸正……………           | 化查九                     |
| 選擇集付囑……………          | 化查九                     |
| 眞影恩許……………           | 化查〇                     |
| 改名……………             | 化查八                     |
| 受刑……………             | 化查八                     |
| 勅免……………             | 化查九                     |
| 教行信證著述……………         | 序、化查七、化查二               |
| 聲聞……………             | 行四、五、九、證三八、眞三           |

|                        |                |
|------------------------|----------------|
| 聲聞得生……………              | 眞四             |
| 濕生(四生の一)……………          | 證六、化查三         |
| 襄陽石經……………              | 化查四            |
| 闍那彌多……………              | 化查九            |
| 闍黎多(餓鬼の梵語)……………        | 化查五            |
| 證大涅槃之眞因(大信十二嘆釋の一)…………… | 信查             |
| 證生緣……………               | 行四七            |
| 釋迦證誠……………              | 行四七            |
| 諸佛證誠……………              | 行四七、五八         |
| 證生増上緣釋……………            | 行五〇            |
| 釋老優劣……………              | 化查三、七          |
| 釋迦の                    |                |
| 濁世出現……………              | 行五、化查六         |
| 出世の年時……………             | 化查七            |
| 俗姓……………                | 信查五            |
| 出誕の相……………              | 化查四            |
| 王舍城及舍衛國の説法……………        | 行三             |
| 彌陀三昧に入りて大經を説く……………     | 教三             |
| 父王に念佛三昧を勸む……………        | 行四、五           |
| 楞伽の懸記……………             | 行二三            |
| 阿闍世の身心を治す……………         | 信查〇、六          |
| 提婆達多の請を却く……………         | 信本一            |
| 善星の出家を許す……………          | 眞六             |
| 入滅……………                | 化查七、五八         |
| 入滅の年時……………             | 化查四、九、〇        |
| 釋迦の恩徳……………             | 行五、信本九、化查三、六、六 |
| 釋迦の發遣……………             | 序、信本九、證九       |
| 釋迦の稱讚……………             | 信本七            |
| 釋迦の親善……………             | 行九、信本七、信本四     |
| 釋迦の證誠……………             | 行四七            |
| 釋迦は慈悲の父母……………          | 信本一            |
| 麝香の譬……………              | 化查九            |
| 隨他意説……………              | 眞四             |
| 隨自他意説……………             | 眞四、五           |
| 隨自意説……………              | 眞四、五           |
| 隨宜方便の教……………            | 化查六            |
| 隨機説法……………              | 行五、化查三         |
| 千中無一……………              | 化查三            |
| 井(二十八宿の一)……………         | 化查八            |
| 石汁の譬……………              | 行六             |
| 世自在王佛……………             | 行三、二〇九         |
| 世英……………                | 教二、六           |
| 世眼……………                | 教二、六           |
| 世尊……………                | 教二、六、行二〇、信本二、六 |
| 世雄……………                | 序、教二、六         |
| 世間……………                | 信本二、四          |
| 世間畢竟……………              | 行六             |
| 世間道……………               | 行三             |
| 世間難信之捷徑(大信十二嘆釋の一)…………… | 信查             |
| 世諦……………                | 眞三             |
| 仙經……………                | 行二五            |
| 全徳施名……………              | 行七、七、七         |
| 刹利(四姓の一)……………          | 化查四            |
| 施主の五利増長……………           | 化查六            |
| 梅檀の譬……………              | 行四             |
| 船師の譬……………              | 化查三            |
| 專心……………                |                |
| 弘願の專心……………             | 行四、信查          |
| 要門の專心……………             | 化查七            |
| 眞門の專心……………             | 化查四            |
| 專行……………                | 化查六            |

索引 子 聲濕襄闍證釋 入隨セ 千井石世全刹施梅船專 111 (三三三)

|                     |              |               |                    |                   |                 |
|---------------------|--------------|---------------|--------------------|-------------------|-----------------|
| 專行雜心(雜行中の)          | 化查八          | 善知識の譬(二十八譬の一) | 行二四                | 選擇迴向之直心(大信十二嘆釋の一) | 信查              |
| 專念                  | 行四、信查        | 善神護念          | 化查七                | 選擇集               |                 |
| 弘願の專修(非定非散)         | 化查七          | 善逝            | 化查三                | 付囑                | 化查九             |
| 要門の專修(定散)           | 化查七          | 善惡一味          | 行九、二〇              | 讚嘆                | 化查八             |
| 專修の四徳               | 行四           | 善親友           | 信查、信查四             | 選擇稱名之願(十七願名)      | 行三              |
| 專修專心(雜修中の)          | 化查九          | 善導            | 行二四                | 選擇攝取之白業           | 信查九             |
| 專修雜心(雜修中の)          | 化查九          | 行化            | 行二四                | 選擇攝取之本願(大行四嘆釋の一)  | 行六              |
| 專稱佛名                | 化查一          | 教誨            | 行二五                | 選擇顯晦(釋老優劣の一)      | 化查七             |
| 專雜二修                | 化查三          | 絕對不二之教        | 行二五                | 禪定                | 行六、九、三          |
| 專雜の得失               | 化查三          | 絕對不二之機        | 行二五                | 禪定の覺障             | 行七              |
| 專雜執心の淺深             | 行二五、化查二      | 漸教            | 行二〇、化查元、五          | 瞻蔔華               | 行八              |
| 善本の釋                | 行二〇、化查七、四〇   | 製作の由致         | 總じて本典に就き、序、化查七、化查二 | 開提(一開提は同し)        | 行七、信查六          |
| 善本の釋                | 化查四          | 別して正信偈に就き     | 行二八                | 開提無善              | 行四              |
| 善因惡果                | 化查八          | 製作の年時         | 化查四                | 開提有佛性             | 行六              |
| 善見。善見太子。善見王(阿闍世の別名) | 信查九、九        | 説人の差別         | 化查六                | 攝生増上緣釋            | 行四              |
| 善見藥王の譬(二十八譬の一)      | 行二四          | 警願一佛乘         | 行四                 | 攝生縁               | 行四              |
| 善知識                 | 行四、化查九、六、化查八 | 警願力(佛十一力の一)   | 行七                 | 攝取心光              | 行一〇             |
| 恩徳                  | 化查二          | 警願海           | 行五                 | 攝取不捨              | 序、行四、九、六、二五、化查三 |
| 徳相                  | 化查二          | 選擇本願          | 行五、二六、化查三          | 卽人必定              | 行三、八、二二         |
| 善知識は梵行の因            | 化查六          | 選擇本願之行        | 行一                 |                   |                 |
|                     |              | 選擇本願之信        | 行二七                |                   |                 |

|                |              |              |          |                       |             |
|----------------|--------------|--------------|----------|-----------------------|-------------|
| 卽往生(便往生の對)     | 化查三          | 雜行           | 行九、化查三、七 | 大水の譬(二十八譬の一)          | 行二八         |
| 卽是其行釋          | 行五           | 出體           | 化查六      | 大本(無量壽經の稱)            |             |
| 卽得往生住不退轉       | 信查、五、信查、三    | 修相           | 化查六      | 行二、九、信查七、信查、三、化查三、三、元 |             |
| 卽の釋            | 行五三          | 異名           | 化查八      | 大地の譬(二十八譬の一)          | 行二〇、二八      |
| 相好             | 行五三          | 雜行の釋         | 化查六      | 大行                    | 行一、六        |
| 相應の釋           | 行三           | 雜行專心(雜行中の)   | 化查八      | 出體                    | 行一          |
| 草木水に流る。譬       | 行元           | 雜行雜心(雜行中の)   | 化查八      | 具徳                    | 行一          |
| 息慮凝心           | 化查、五、四       | 雙樹林下往生       | 化查、三、六、七 | 大行四嘆釋                 | 行六          |
| 速滿寶海           | 行四、六         | 藏徳(邪見六臣の一)   | 信查三、四七   | 大安慰                   | 信查九、真四八     |
| 疎那國            | 化查三          | 蘇油           | 化查一      | 大車の譬(二十八譬の一)          | 行二四         |
| 尊音王如來          | 行六           | 蘇摩國(十六大國の一)  | 化查三      | 大信無上釋                 | 行四          |
| 尊善無垢           | 行六           | 蘇羅吒國(十六大國の一) | 化查三      | 大信                    | 行一、信查       |
| 總持の釋           | 行六           |              |          | 大信十二嘆釋                | 信查          |
| 僧祇物            | 行三           |              |          | 大信嘆徳                  | 信查三         |
| 僧衆             | 信查           |              |          | 大迦葉                   | 化查七         |
| 像法(三時の一)       | 化查七、七、六、八、八七 |              |          | 大風の譬(二十八譬の一)          | 行二八         |
| 初期の行相          | 化查六          |              |          | 大威徳者                  | 信查七、信查三     |
| 末期の行相          | 化查九          |              |          | 大涅槃                   | 行二〇、信查六、信查三 |
| 戒りて證なし         | 化查七          |              |          | 大涅槃(五時教の一)            | 真二五         |
| 像塔建造           | 化查五          |              |          | 大師                    |             |
| 増上縁            | 行九、九、九二      |              |          | 淨土の主佛の稱               | 證九          |
| 増上勝解の想(説者心想の一) | 信查五          |              |          | 釋迦の稱                  | 化查三         |

索引 ソ 卽相草息速疏尊總僧像増雜藏蘇 タ 大

|                |                     |
|----------------|---------------------|
| 學者の稱           | 信表五、七、四〇、四二、七〇      |
| 大師子王(如來の異名)    | 行五、化表六              |
| 大般涅槃           | 行八、信表〇              |
| 大乘(教)          | 行四、九、信表六            |
| 大乘(經)          | 行三、六、信表五、七          |
| 大乘の五逆          | 信表二                 |
| 大乘正定聚          | 行六、信表三、證一、三、四、五     |
| 大乘門            | 信表七                 |
| 大乘根            | 行一〇                 |
| 大乘無上法          | 行一三                 |
| 大乘廣智(五智の一)     | 化表                  |
| 大梵天王           | 四天王等四洲を護持する狀を説く。化表六 |
| 四洲の護持を付屬せらる    | 化表五、七、三、三、四、一       |
| 行法者の護持を付屬せらる   | 化表四、三、三、三           |
| 惡行の遮止を付屬せらる    | 化表四                 |
| 施主の増福を付屬せらる    | 化表六                 |
| 大捨(四無量心の一)     | 信表六                 |
| 大無畏(如來の異名)     | 眞三                  |
| 大無量壽經(無量壽經の異稱) | 教一、二、化表一            |
| 大菩提心(信心の異名)    | 信表                  |
| 大象王(如來の異名)     | 眞三〇                 |
| 大智(元照)         | 行五、化表六              |
| 大智海(如來の異名)     | 眞三一                 |
| 大智海            | 行二五                 |
| 大智願海           | 信表一                 |
| 大喜(四無量心の一)     | 信表六                 |
| 大悲(如來を生ずる所の法)  | 行二                  |
| 大悲(如來の德)       | 教二、五                |
| 大悲(四無量心の一)     | 信表五                 |
| 大悲の願           | 行一                  |
| 大悲心            | 行三、信表四、五、五、七        |
| 大悲回向之心         | 信表六                 |
| 大悲回向之利益        | 證〇                  |
| 大經(無量壽經の異稱)    | 行三、元、四、八等           |
| 大意             | 教一                  |
| 宗體             | 教二                  |
| 結構             | 行六                  |
| 大會衆            | 行二、證三、四             |
| 大會衆門(五果門の一)    | 證三                  |
| 大會衆海           | 證三                  |
| 大道小路           | 信表〇                 |
| 大道君            | 化表九                 |
| 大福田(涅槃の異名)     | 眞三一                 |
| 大慈(四無量心の一)     | 信表四                 |
| 大慈悲心(信心の異名)    | 信表                  |
| 大慈悲身           | 信表七                 |
| 大慶喜心(信心の異名)    | 信表、信表               |
| 大龍王(如來の異名)     | 眞三二                 |
| 大應供            | 信表九、眞四七             |
| 大醫王(如來の異名)     | 眞三〇                 |
| 大願清淨の報土        | 信表                  |
| 大願業力           | 行四、證九、眞四四           |
| 大觀三心一異問答       | 化表三                 |
| 大觀三心小經一心一異問答   | 化表元                 |
| 太白星(八大星の一)     | 化表、一、八、九            |
| 太虛空の譬(二十八譬の一)  | 行〇四                 |
| 他力             | 行六、八、九、化表六          |
| 他力の相           | 行九                  |
| 他力釋            | 行八                  |
| 他力中之自力         | 信表四                 |
| 他力回向           | 信表、二、五、信表一          |
| 他力眞宗           | 行〇八                 |
| 他心智            | 眞三、化表三              |
| 他心證盡力(佛十一力の一)  | 行六                  |

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 他化自在天王(空居四天王の一)     | 化表六、四一            |
| 他利他他                | 行九                |
| 他利他の深義              | 證四七               |
| 宅門(五果門の一)           | 證四三               |
| 多善多功德の稱名            | 行七、化表四            |
| 胎生(四生の一)            | 證六、化表三            |
| 胎生(化生の對)            | 化表、三              |
| 相狀                  | 化表                |
| 因相                  | 化表                |
| 果相                  | 化表                |
| 胎化分別                | 化表                |
| 胎化勝劣                | 化表                |
| 胎宮                  | 化表六、元             |
| 陀羅尼                 | 化表一               |
| 待對之法                | 信表三               |
| 帝釋                  | 眞三、化表六、三、三、元      |
| 四洲護持                | 化表三               |
| 脫苦之神方               | 信表四               |
| 第一義(陰の異名)           | 眞三                |
| 第一義                 | 信表六               |
| 第一義諦                | 眞三、三              |
| 第一諦                 | 信表六               |
| 第一義乘                | 行四                |
| 第一義天                | 教六                |
| 提河                  | 化表七               |
| 提婆達。提婆達多(調達に同じ)     | 信表九               |
| 佛を害せんとす五通を修す        | 信表九               |
| 阿闍世。親みて尊信を得         | 信表九               |
| 上天して曼陀羅華を索む         | 信表七               |
| 佛所に至りて大衆を求む         | 信表二               |
| 阿闍世に未生怨の因縁を説く       | 信表三               |
| 阿闍世をして逆害を興さしむ。序。信表四 | 信表四               |
| 三逆罪を造る              | 信表五               |
| 出家修道                | 眞三                |
| 提謂                  | 化表元               |
| 端嚴光(十五光佛の一)         | 眞五                |
| 嘆歸西方                | 證八                |
| 頰の字註                | 眞四九               |
| 諦(陰の異名)             | 眞三一               |
| 醍醐(五味の一)            | 行九、眞二四            |
| 醍醐の想(聽者心想の一)        | 信表五               |
| 醍醐の譬                | 信表六               |
| 薪を折て火を求むる譬          | 化表七               |
| 檀波羅蜜(六度の一)          | 信表六、化表五           |
| 檀婆婆(十二童女の一)         | 化表二               |
| 斷四流釋                | 信表〇               |
| 斷受樂(涅槃四樂の一)         | 眞一七               |
| 斷證超勝                | 信表                |
| 題頭隸吒天王(地居四天王の一)     | 化表一七、三、四二         |
| 中夏(支那の稱)            | 行二二               |
| 長生不死之神方(大信十二嘆釋の一)   | 信表                |
| 長命                  | 信表五               |
| 知恩報德                | 行二〇、信表七、九、化表三、六、七 |
| 知恩報德の益(現生十益の一)      | 信表四               |
| 知識                  | 行六、信表九            |
| 張(二十八宿の一)           | 化表九               |
| 張論                  | 行三                |
| 超日月光(十二光の一)         | 行二〇               |
| 超日月光。超日月光佛(十二光佛の一)  | 眞三、四九、六一          |

索引 大太他 他宅多胎陀待帝脫第提端嘆頰諦醍薪檀斷題 中長知張超 二七 (三五七)